SONY

4-655-255-**01** (1)

はじめにお読みください 17

コンピュータの基本操作を練習する 57

カスタマー登録する／インターネットに接続する 109

本機の使いかたがわからないときに 189

困ったときは 207

接続／拡張するときは 253

その他 291

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。

パーソナルコンピューター

PCV-RX52

© 2001 Sony Corporation

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故につながることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

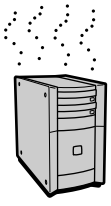
8〜16ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

故障したら使わない

すぐにVAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に修理をご依頼ください。

万一異常が起きたら

- **煙が出たら**
- **異常な音、においがしたら**
- **内部に水、異物が入ったら**
- **製品を落としたり、キャビネットを破損したとき**



➡

❶ **電源を切る**

❷ **電源コードや接続ケーブルを抜く**

❸ VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に修理を依頼する

データはバックアップをとる

ハードディスク内の記録内容は、バックアップをとって保存してください。ハードディスクにトラブルが生じて、記録内容の修復が不可能になった場合、当社は一切その責任を負いません。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

行為を禁止する記号

行為を指示する記号

アース線の接続について

アース接続は必ず電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、アース接続をはずす場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。

（社団法人電子情報技術産業協会（旧JEIDA）のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

レーザー安全基準について

この装置には、レーザーに関する安全基準（JIS・C-6802）クラス1適合のDVD-ROMドライブ／CD-RWドライブが搭載されています。

eco info 緩衝材に段ボールを使用

著作権について

あなたが本機で録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用することはできません。また、著作者の許可なく、取り込んだ映像・画像・音声に変更・切除その他の改変を加え、著作物の同一性を損うことは禁じられています。コピーガード信号の入った映像は録画することができません。

本機の内蔵モデムについて

本機の内蔵モデムは、諸外国で使用できる機能を有していますが、日本国内で使用する際は、他国のモードを使用すると電気通信事業法（技術標準）に違反する行為となります。工場出荷時の設定は「日本モード」となっておりますので、そのままご使用ください。

高調波電流規制について

この装置は、高調波ガイドライン適合品です。

本書で使われている画面のイラストについて

本書で使われている画面のイラストは実際のものと異なる場合があります。

□ 権利者の許諾を得ることなく、本機に付属のソフトウェアおよび取扱説明書の内容の全部または一部を複製すること、およびソフトウェアを賃貸することは、著作権法上禁止されております。
□ 本機、および本機に付属のソフトウェアを使用したことによって生じた損害、逸失利益、および第三者からのいかなる請求等につきましても、当社は、一切その責任を負いかねます。
□ 本機の保証条件は、同梱の当社所定の保証書の規定をご参照ください。
□ 本機に付属のソフトウェアは、本機以外には使用できません。
□ 本機、および本機に付属のソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご容赦ください。
□ CD-ROMや音楽CDからのコピーの作成およびその利用は、使用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。コピーの作成およびその利用にあたっては、オリジナルCDの使用許諾条件および著作権法を遵守してください。

「取扱説明書（本書）」について

本書では、以下のことについて説明しています。

- 本機を使う前に必要な準備
- 電源の入れかた／切りかた
- コンピュータの基本的な使いかた
- インターネットへの接続のしかた
- 困ったときの対処のしかた
- 周辺機器の接続や本機の拡張のしかた
- 使用上のご注意

コンピュータを初めてお使いになる方はもちろん、よくご存知の方も、必ず本書からお読みください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

画面で見る電子マニュアル「サイバーサポート」について

VAIOマニュアル「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」（以降、「サイバーサポート」と略します。）は、VAIOの使いかたや楽しみかたをディスプレイ画面上で説明する電子マニュアルです。本書に載っていない情報も、「サイバーサポート」で調べることができます。

使いかたについて詳しくは、「「サイバーサポート」の使いかた」（192ページ）をご覧ください。

電子マニュアルとは

本機の使いかたやソフトウェアの操作説明などをディスプレイ画面上で読めるようにしたマニュアルのことです。

「サイバーサポート」では、以下の情報を見ることができます。

できるWindows：Windowsの基本的な使いかたの説明を見ることができます。

インターネット：インターネットに接続してホームページを見るための手順や、電子メールをやりとりするための説明を見ることができます。

VAIOの使いかた：CD-RW／CD-Rの使いかたをはじめ、コンピュータの設定のしかたなど、本機の基本的な使いかたの説明を見ることができます。

VAIOの楽しみかた：DVDビデオの再生方法や動画編集のしかたをはじめ、ソニー製のソフトウェアを使った本機の楽しみかたや、付属のソフトウェアの紹介などの説明を見ることができます。

困ったときは：本機を操作していて困ったときの対処方法や、トラブルが発生したときの対処方法の説明を見ることができます。

サービス/サポート：サービス／サポートを受けるための説明を見ることができます。

目次

安全のために 2
「取扱説明書（本書）」について 5
⚠ 警告・⚠ 注意 8

はじめにお読みください

こんなことができます 18
操作の流れ 20
付属品を確かめる 22
各部のなまえ 25
設置する 28
接続する／準備する 30
電源を入れる 44
Windows Meを準備する 46
テレビを見る準備をする 54
電源を切る 56

コンピュータの基本操作を練習する

デスクトップ画面の各部のなまえとはたらき 58
マウスの使いかたを練習する 60
ウィンドウの基本操作を練習する 70
文字の入力を練習する（キーボードの使いかた） 81
ファイルの操作を練習する 96

カスタマー登録する／インターネットに接続する

カスタマー登録する 110
インターネットを始める 124
インターネットに接続するまでの流れ 129
1 *プロバイダと契約する* 131
2 *チェックシートを作成する* 146
3 *接続のための設定をする* 153
4 *電子メールソフトウェアの設定をする* 163
5 *インターネットに接続する* 170

6 ホームページを見る 174
7 電子メールをやりとりする 182

本機の使いかたがわからないときに

どのマニュアルを読む？ 190
「サイバーサポート」の使いかた 192
ヘルプの使いかた 203

困ったときは

わからないことやトラブルを解決する 208
主なトラブルとその解決方法 210

接続／拡張するときは

AV機器をつなぐ 254
i.LINK対応機器をつなぐ 259
プリンタをつなぐ 264
USB機器をつなぐ 265
ネットワーク（LAN）を作る 266
PCカードを使う 267
拡張ボードを増設する 272
メモリを増設する 280
ハードディスクドライブを増設する 287

その他

動画系ソフトウェアの操作の流れ 292
コンピュータウイルスについて 294
リカバリ CDで本機を再セットアップする 299
パーティションサイズを変更する 307
使用上のご注意 312
お手入れ 316
保証書とアフターサービス 318
索引 320

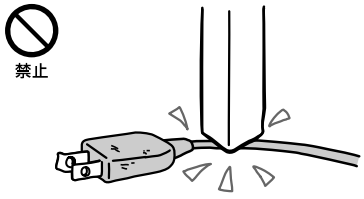
警告 火災 感電 **下記の注意事項を守らないと火災・感電などにより死亡や大けがの原因となります。**

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。

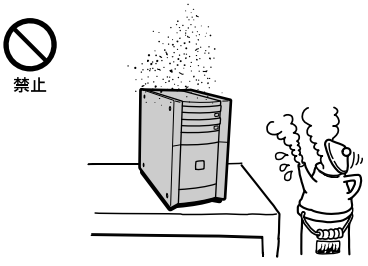
- 設置時に、製品と壁やラック(棚)などの間に、はさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に交換をご依頼ください。



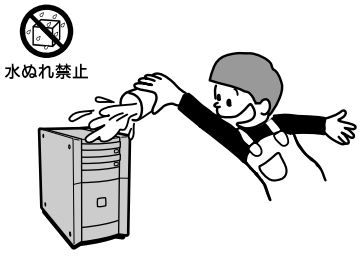
油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には設置しない

上記のような場所に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。取扱説明書に記されている使用条件以外の環境での使用は、火災や感電の原因となることがあります。



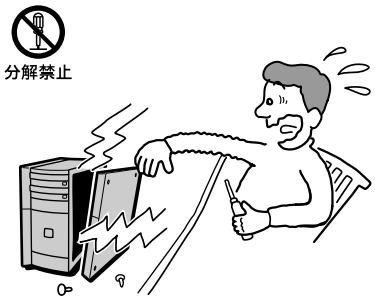
内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に点検・修理をご依頼ください。



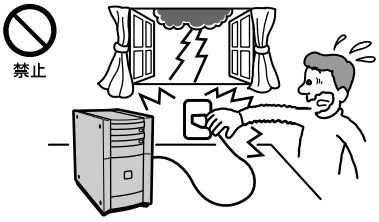
むやみに内部を開けない

- 内部には電圧の高い部分があり、ケースやフロントカバーをむやみに開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となることがあります。内部の点検、修理はVAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店にご依頼ください。
- 各種の拡張ボード(基板)を取り付けたりメモリを増設する場合など、コンピュータの内部を開ける必要があるときは、本機の電源コードを抜き、取扱説明書の周辺機器の拡張のページで指定された方法に従い、部品や基板などの角で手や指にけがをしないように注意深く作業してください。また、指定されている部分以外には触れないでください。指定以外の部分にむやみに触れると、火災や感電の原因となることがあります。



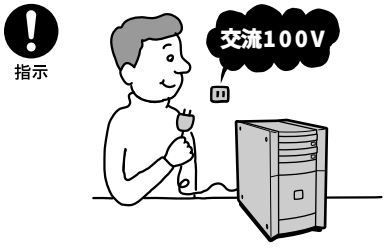
雷が鳴り出したらテレホンコードや電源プラグに触らない

感電の原因になります。



本機は日本国内専用です

交流100Vでお使いください。
海外などで、異なる電圧で使うと、火災や感電、故障の原因となることがあります。



内蔵モデムを一般回線以外の電話回線に接続しない

本機の内蔵モデムをISDN(デジタル)対応公衆電話のデジタル側のジャックや、構内交換機(PBX)へ接続すると、モデムに必要以上の電流が流れ、故障や発熱、火災の原因となります。特に、ホームテレホンやビジネスホン用の回線などには、絶対に接続しないでください。

⚠警告 火災 感電 **下記の注意事項を守らないと火災・感電などにより死亡や大けがの原因となります。**

NETWORK（ネットワーク）コネクタに指定以外のネットワークや電話回線を接続しない

禁止

本機のNETWORK（ネットワーク）コネクタに下記のネットワークや回線を接続すると、コネクタに必要以上の電流が流れ、故障や発熱、火災の原因となります。特に、ホームテレホンやビジネスホンの回線には、絶対に接続しないでください。

- 10BASE-Tと100BASE-TXタイプ以外のネットワーク
- 一般電話回線
- PBX（デジタル式構内交換機）回線
- ホームテレホンやビジネスホンの回線
- 上記以外の電話回線など

⚠警告

下記の注意事項を守らないと、
健康を害するおそれがあります。

ディスプレイを長時間継続して見ない

ディスプレイなどの画面を長時間継続して見続けると、目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。
ディスプレイ画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

禁止

キーボードを使いすぎない

キーボードやマウスなどを長時間継続して使用すると、腕や手首が痛くなったりすることがあります。
キーボードやマウスなどを使用中、体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

禁止

大音量で長時間つづけて聞きすぎない

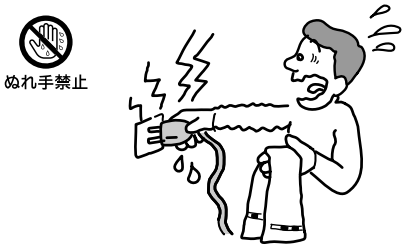
耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときはご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

禁止

⚠注意　**下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。**

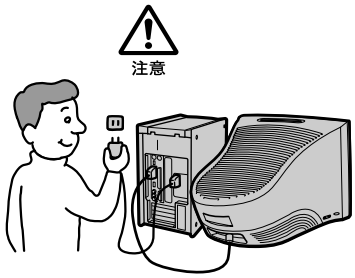
ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差しすると、感電の原因となることがあります。



接続の際は電源を切る

電源コードや接続コードを接続するときは、本機や接続する機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。感電や故障の原因となることがあります。



指定された電源コードや接続コードを使う

取扱説明書に記されている電源コードや接続コードを使わないと、感電や故障の原因となることがあります。

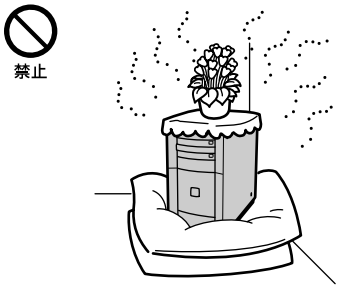
アース線を接続する

アース線を接続しないと感電の原因となることがあります。アース線を取り付けることができない場合は、販売店にご相談ください。

通風孔をふさがない

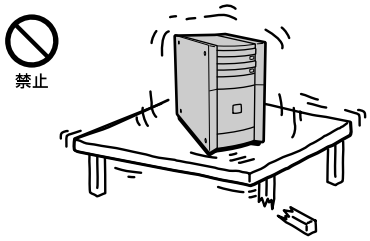
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しを良くするために次の項目をお守りください。

- 壁から10cm以上離して設置する。
- 密閉されたせまい場所に押し込めない。
- 毛足の長い敷物（じゅうたんや布団など）の上に設置しない。
- 布などで包まない。
- あお向けや横倒し、逆さまにしない。



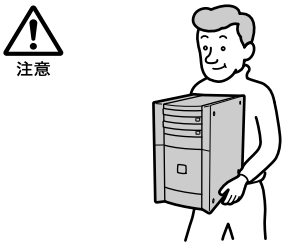
不安定な場所に設置しない

ぐらついた台の上や傾いたところに設置すると、倒れたり落ちたりしてけがの原因となることがあります。また、設置・取り付け場所の強度も十分にお確かめください。



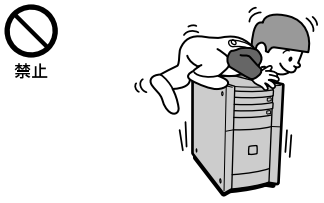
運搬時は慎重に

コンピュータを運搬するときは、底面全体を保持し、安定した姿勢で運んでください。前面および後面パネル部分に手をかけて持たないでください。運搬中にバランスを崩すと落下によりけがの原因となることがあります。また、本体と設置面との間に指を挟まないようにご注意ください。



製品の上に乗らない、重い物を乗せない

倒れたり、落ちたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。



お手入れの際は電源を切ってプラグを抜く

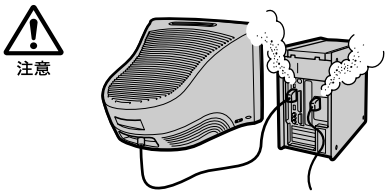
電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

移動させる時は電源コードや接続コードを抜く

接続したまま移動させると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

⚠注意　**下記の注意事項を守らないと<u>けが</u>をしたり周辺の<u>物品</u>に<u>損害</u>を与えたりすることがあります。**

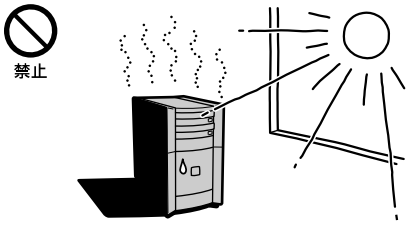
コネクタはきちんと接続する



- コネクタ（接続端子）の内部に金属片を入れないでください。ピンとピンがショート（短絡）して、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクタはまっすぐに差し込んで接続してください。斜めに差し込むとピンとピンがショートして、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクタに固定用のスプリングやネジがある場合は、それらで確実に固定してください。接続不良が防げます。
- アース線のあるコネクタには必ずアースを接続してください。

直射日光の当たる場所や熱器具近くに設置・保管しない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となります。



電池についての安全上のご注意

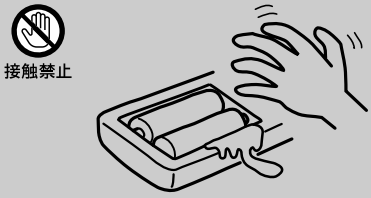
漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠警告

アルカリ電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

アルカリ電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。そのときに異常がなくても、液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることがあります。

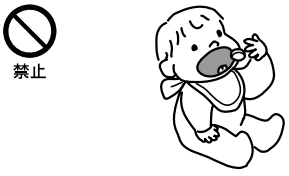


必ず次の処理をする

- 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で十分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で十分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

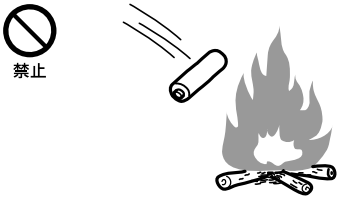
電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。
万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。



電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水で濡らさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



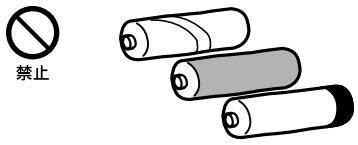
電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠注意

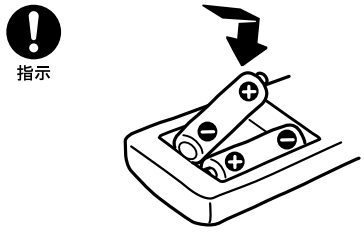
市販のアルカリまたはマンガン電池(単三型)以外の電池を リモコンに使わない、新しい電池と使用した電池 または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



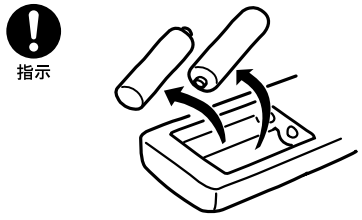
+と–の向きを正しく入れる

+と–を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。
機器の表示に合わせて、正しく入れてください。



使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。



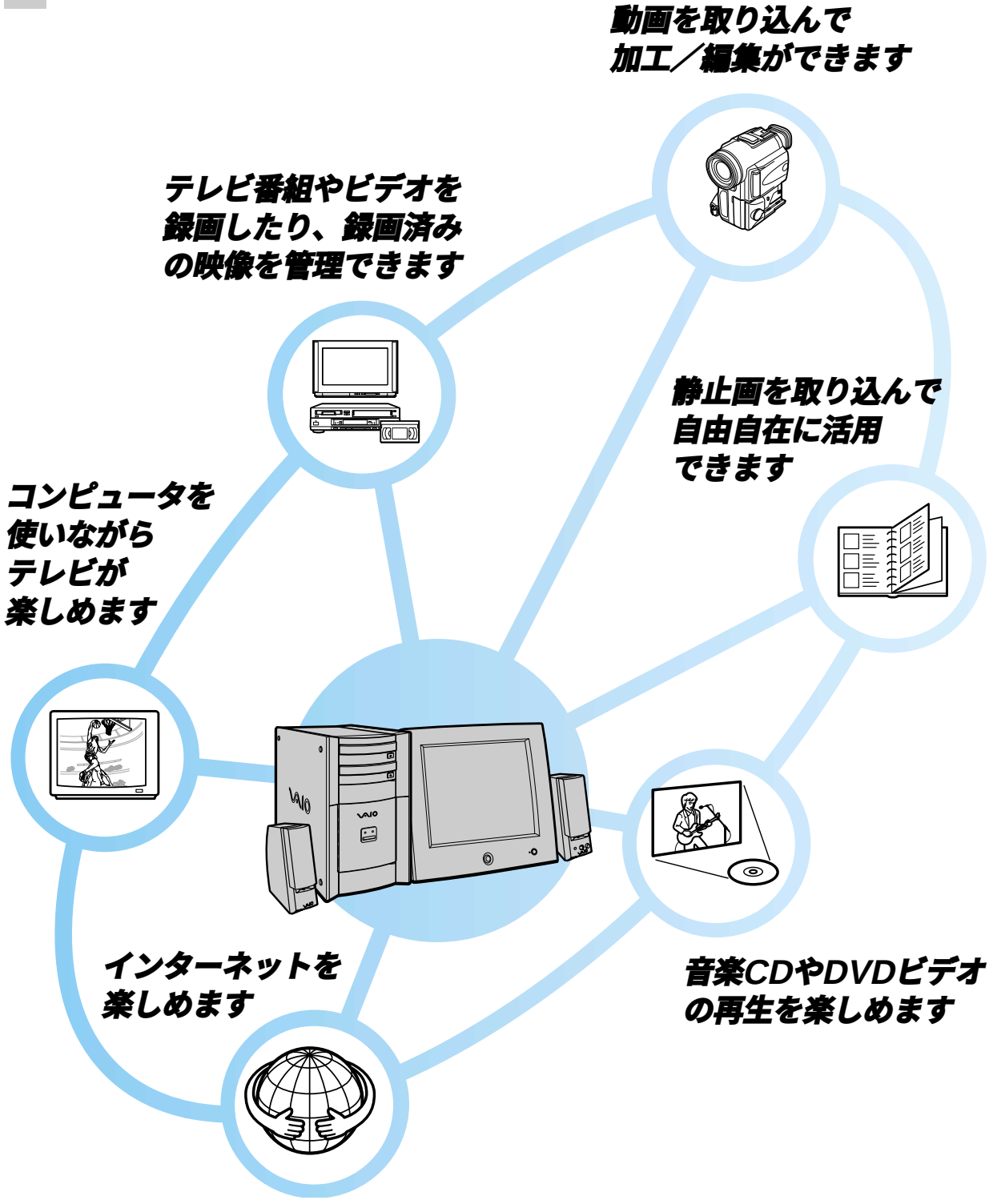
1

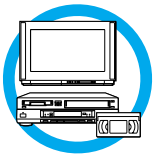
はじめにお読みください

この章では、本機を使う際に最初に行う準備について説明します。準備が整うと、本機のいろいろな機能が使えるようになります。

こんなことができます

本機は、デジタルビデオカメラレコーダーやビデオデッキ、テレビなどと組み合わせて使うことを想定して設計された、ソニーならではのコンピュータです。
ここでは、本機を使ってできることの例をあげてみましょう。





テレビ番組やビデオを録画したり、録画済みの映像を管理できます

付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使って、テレビ番組や、ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどから映像を録画することができます。また、録画しながら録画中の映像を再生したり、別の録画済みの映像を再生したりできます。付属のCyberCodeシールを使ってビデオテープを管理することもできます。

詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの楽しみかた］をクリックして、［VAIOを楽しむ］→［テレビ番組を録画しよう］の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

コンピュータを使いながらテレビが楽しめます

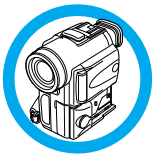
本機にアンテナをつなぎ、付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使うと、コンピュータを使いながらテレビ番組を楽しむことができます。また、本機に接続したテレビを付属のリモコンで操作できます。

詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの楽しみかた］をクリックして、［VAIOを楽しむ］→［テレビを見よう］の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

インターネットを楽しめます

インターネットに接続してホームページを見たり、電子メールをやりとりできます。

詳しくは、「インターネットを始める」（124ページ）および、「サイバーサポート」画面上部の［インターネット］をクリックして表示される情報をご覧ください。



動画を取り込んで加工／編集ができます

本機にi.LINK（IEEE1394）インターフェイスを持つデジタルビデオカメラレコーダーなどをつなぎ、付属の「DVgate」ソフトウェアを使って、デジタル信号のままで動画を取り込めます。取り込んだ動画は不要なシーンを切り取ったり、複数の動画をつなげたりできます。

付属の「MovieShaker」ソフトウェアを使って、映像と映像をつなぐオーバーラップ効果やタイトルの挿入など、さまざまなビデオ編集も楽しめます。加工／編集した動画は、CD-RWドライブを使ってCD-RW／CD-Rに記録したり、ビデオテープに録画したりできます。

詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの楽しみかた］をクリックして、［VAIOを楽しむ］→［動画を編集しよう］の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

静止画を取り込んで自由自在に活用できます

本機にデジタルスチルカメラなどをつなぎ、付属の「DVgate」ソフトウェアを使って静止画を取り込めます。取り込んだ静止画は、付属の「PictureGear」ソフトウェアを使って加工して楽しむことができます。

詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの楽しみかた］をクリックして、［VAIOを楽しむ］→［静止画を管理しよう］の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

音楽CDやDVDビデオの再生を楽しめます

音楽CDやDVDビデオ*を再生して楽しむことができます。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの楽しみかた］をクリックして、［VAIOを楽しむ］→［音楽CDを再生しよう］または［DVDビデオを再生しよう］の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

*Manufactured under license from Dolby Laboratories.

これらの機能をお使いいただくには、最初に、本書に沿ってひと通りの接続や準備を完了しておく必要があります。次ページからの説明に従って、本機の接続と準備を行ってください。

また、それぞれの操作について詳しくは、「サイバーサポート」または各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

GO!

操作の流れ

本機をお使いになる前に必要な準備や操作の大まかな流れを以下に示します。

1 **付属品を確かめる（22ページ）**
箱を開け、この説明書を読みながら本機の付属品がすべてそろっているか確かめます。

2 **各部のなまえ（25ページ）**
本機の各部のなまえを紹介します。

3 **設置する（28ページ）**
本機を設置する場所を決めます。

4 **接続する／準備する（30ページ）**
ディスプレイ、アクティブスピーカー、アンテナ、AV機器、キーボード、マウス、テレホンコード、電源コードを接続し、リモコンを準備します。

電話回線にISDN回線をお使いになる場合は
NTT（局番なしの116番）にご相談ください。

5 **電源を入れる（44ページ）**
本機の電源を入れます。

6 **Windows Meを準備する（46ページ）**
Windows Meを使うために、名前などを登録します。

7 **テレビを見る準備をする（54ページ）**
テレビを見るために、「Giga Pocket」ソフトウェアの設定をします。

8 **電源を切る（56ページ）**
本機の電源を切ります。

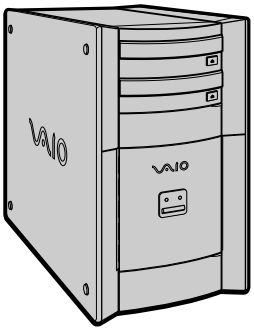
必要に応じて下記もご覧ください。

- **コンピュータの基本操作を練習する（57ページ）**
  コンピュータを初めてお使いになる方は、このページをお読みになり、マウスやキーボードの使いかたを練習してください。
- **カスタマー登録する／インターネットに接続する（109ページ）**
  登録カスタマー専用のいろいろなサービスを受けられるように本機をカスタマー登録してください。
  インターネットを始めたい方は、このページをお読みになり、インターネット接続のための準備を行います。ホームページを見たり、電子メールをやりとりしたりする方法も練習してください。
- **本機の使いかたがわからないときに（189ページ）**
  本機の使いかたがわからなくなったときに読むマニュアルやヘルプの使いかたを説明しています。
- **困ったときは（207ページ）**
  本機を操作していてトラブルが発生したときにご覧ください。
- **接続／拡張するときは（253ページ）**
  本機と周辺機器を接続したり、本機を拡張をするときにご覧ください。
- **その他（291ページ）**
  本機をお使いになる際のご注意やお手入れのしかたなどについて説明しています。

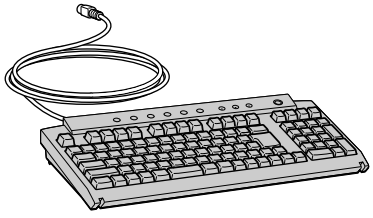
付属品を確かめる

本機を初めて使うにあたって、以下のものがすべてそろっているかご確認ください。
❑マークにチェックしながら確認すると便利です。
付属品が足りないときや破損しているときは、VAIO(バイオ)カスタマーリンクまたは販売店にご連絡ください。
本書で使用するものについては、本書がついています。

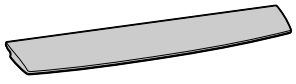
❑ コンピュータ本体（1）本書



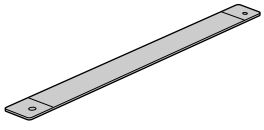
❑ キーボード（1）本書



❑ パームレスト（1）本書



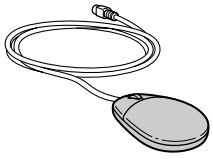
❑ テンプレート（1）



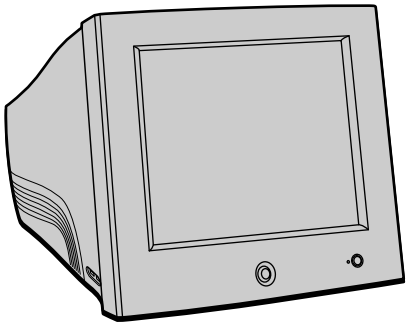
ちょっと一言

パームレストとテンプレートはキーボードの箱の中に入っています。

❑ マウス（1）本書

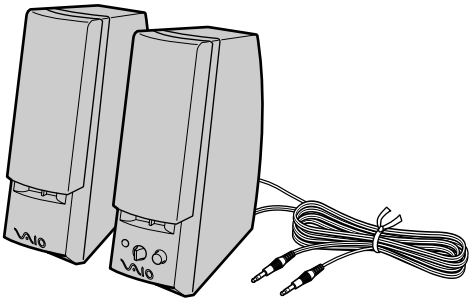


❑ ディスプレイおよびその付属品（1）本書

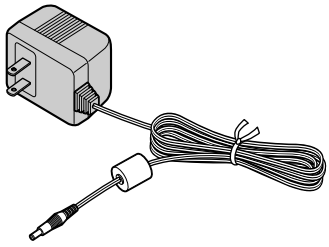


上のイラストはソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-A200です。
お買い求めのコンピュータによって、ディスプレイは付属されていないことがあります。
また省スペース型のTFT(ティーエフティ)液晶デジタルディスプレイPCVA-15XDなど、その他のディスプレイを使うこともできます。ディスプレイによっては別売りのディスプレイケーブルが必要になることがあります。

❑ アクティブスピーカー（1）本書



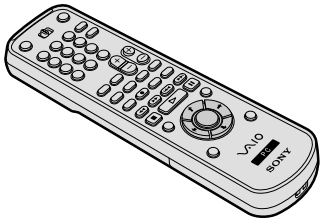
❑ スピーカー用ACアダプタ（1）本書



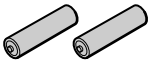
ご注意

スピーカー用ACアダプタは、付属のアクティブスピーカー以外には使用しないでください。

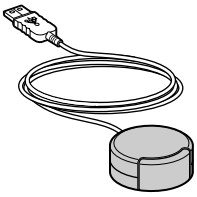
❑ リモコン（1）本書



❑ 単3乾電池（2）本書

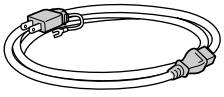


❑ リモコン用
受光ユニット（1）本書

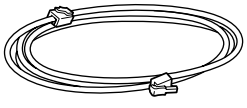


ケーブル

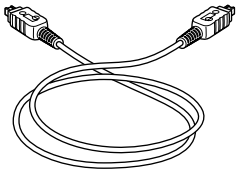
❑ 電源コード（1）本書



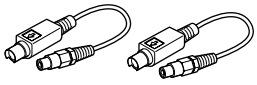
❑ テレホンコード（1）本書



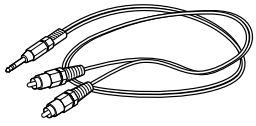
❑ i.LINKケーブル
（4ピン⟷4ピン）（1）



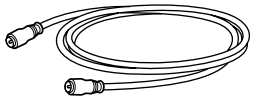
❑ ビデオ接続用
変換コネクタ（2）本書



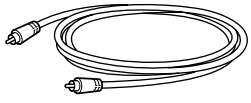
❑ オーディオ接続ケーブル（1）本書



❑ アンテナ接続ケーブル（1）本書



❑ ビデオ接続ケーブル（1）本書



次のページへつづく

説明書およびCD-ROM

- ❑ **取扱説明書** 本書 **（本書、1）**
- ❑ **「Giga Pocket（ギガ ポケット）」取扱説明書（1）**
- ❑ **「Microsoft®（マイクロソフト） Windows®（ウィンドウズ） Millennium（ミレニアム） Edition（エディション）*」クイックスタートガイドパッケージ（1）**

  *以降、Windows Meと略します。
- ❑ **リカバリ CD-ROM（シーディーロム）パッケージ（1）**

ご注意

「Microsoft® Windows® Millennium Edition」クイックスタートガイドおよびリカバリ CD-ROMは再発行できませんので、大切に保管してください。

ちょっと一言

- 本機の使いかたについて詳しくは、「サイバーサポート」をご覧ください。使いかたについて詳しくは、「「サイバーサポート」の使いかた」（192ページ）をご覧ください。
- 各ソフトウェアの操作について詳しくは、ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
  ソフトウェアの中には、電子マニュアルが付属されているものがあります。電子マニュアルを見るには、デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、［VAIOソフトウェアはこちら］、［VAIOソフトウェアマニュアル］の順にクリックして、見たいソフトウェアの電子マニュアルを選んでください。

電子マニュアルとは

本機の使いかたやソフトウェアの操作説明などをディスプレイ画面上で読めるようにしたマニュアルのことです。

その他

- ❑ **CyberCode（サイバーコード）シール（1）**
- ❑ **VAIOサービス・サポートのご案内（1）**
- ❑ **VAIOカルテ（1）**
- ❑ **ソフトウェア使用許諾契約書（1）**
- ❑ **VAIOカスタマー登録、保証書お申込書（1）**
- ❑ **その他パンフレット類**

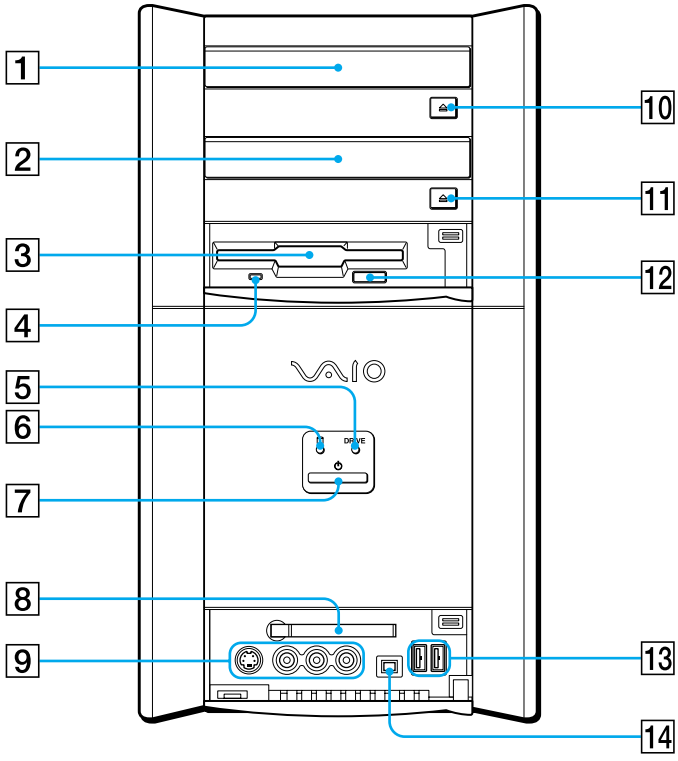
CyberCodeとは

CyberCodeは、ソニー独自の2次元バーコードで、約1,677万通り（24ビット）存在します。このうち、約100万通り（20ビット）のCyberCodeを登録することができます。残りのCyberCodeは、将来のサービス拡張用です。CyberCodeはそれが貼られたものから、対応するコンピュータ上の情報を引き出すためのインデックスの役割をします。

各部のなまえ

ここでは、本機の各部のなまえについて紹介します。各部のなまえと働きについて詳しくは、（　）内のページおよび「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの使いかた］をクリックして、［各部の説明］をクリックして表示される情報をご覧ください。
「サイバーサポート」の見かたについて詳しくは、「「サイバーサポート」の使いかた」（192ページ）をご覧ください。

前面



1 DVD-ROMドライブ（301ページ）

2 CD-RWドライブ

3 フロッピーディスクドライブ

4 フロッピーディスクドライブアクセスランプ

5 DVD-ROM／CD-RWドライブアクセスランプ

6 ランプ（ハードディスクアクセスランプ）

7 （電源）ボタンと電源ランプ（44ページ）

8 PC CARD（PCカード）スロット（269ページ）

9 VIDEO 2 INPUT（映像入力2）コネクタ（256ページ）
- S VIDEO（S映像入力）
- VIDEO（映像入力）
- L/R（音声入力）

10 DVD-ROMイジェクトボタン（301ページ）

11 CD-RWイジェクトボタン

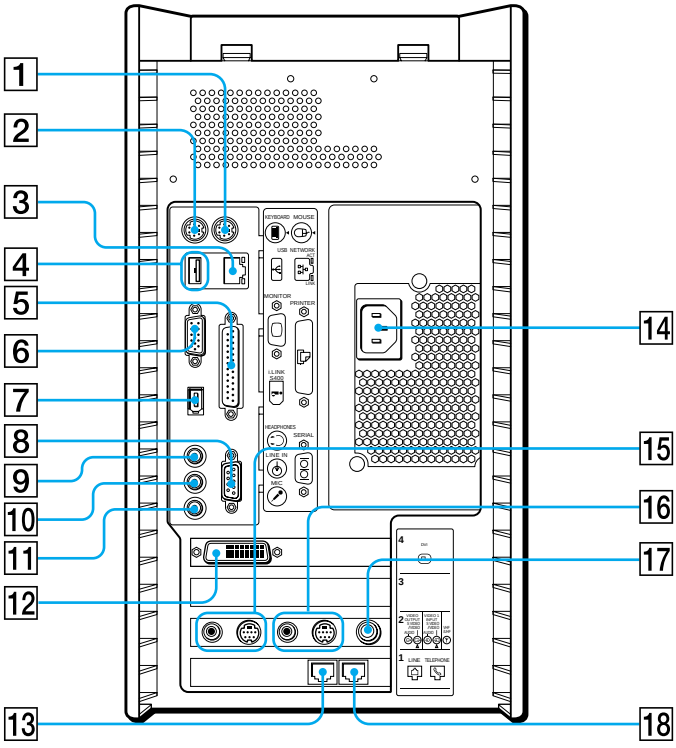
12 フロッピーディスクイジェクトボタン

13 USBコネクタ（265ページ）

14 i.LINK S400コネクタ（4ピン）（259ページ）

次のページへつづく

後面



1 MOUSE（マウス）コネクタ（36ページ）

2 KEYBOARD（キーボード）コネクタ（36ページ）

3 NETWORK（ネットワーク）コネクタ（266ページ）

4 USBコネクタ（37、41ページ）

5 PRINTER（プリンタ）コネクタ（264ページ）

6 MONITOR（モニタ）コネクタ（30ページ）

7 i.LINK S400コネクタ（6ピン）（260ページ）

8 SERIAL（シリアル）コネクタ

9 HEADPHONES（ヘッドホン）コネクタ（30ページ）

10 LINE IN（ライン入力）コネクタ

11 MIC（マイクロホン）コネクタ（30ページ）

12 DVIコネクタ（31ページ）

13 LINE（電話回線）ジャック（39ページ）

14 AC INPUT（AC電源入力）プラグ（43ページ）

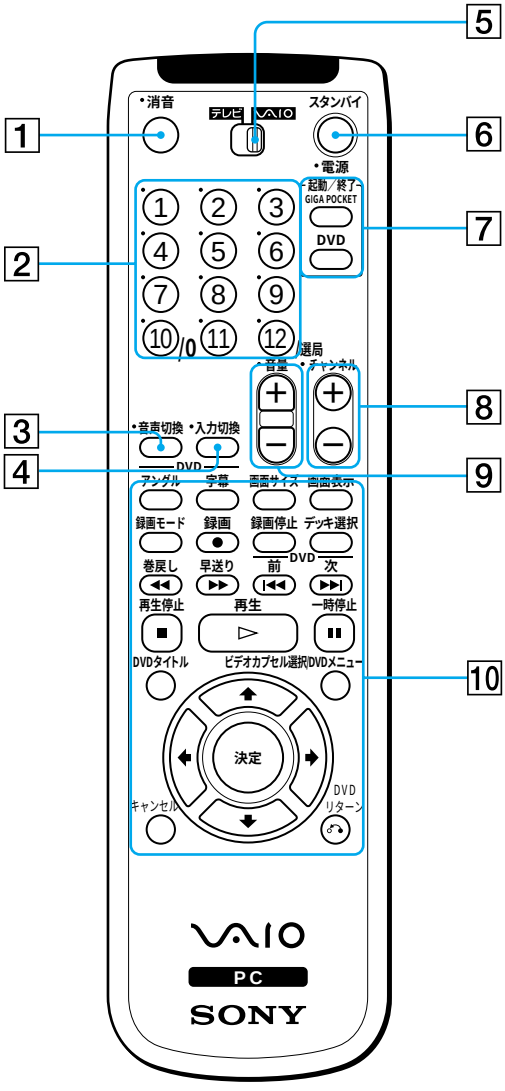
15 VIDEO OUTPUT（映像出力）コネクタ（35、255ページ）
- S VIDEO／VIDEO（S映像／映像出力）
- AUDIO（音声出力）

16 VIDEO 1 INPUT（映像入力）コネクタ（35、255ページ）
- S VIDEO／VIDEO（S映像／映像入力）
- AUDIO（音声入力）

17 VHF／UHF（アンテナ）コネクタ（32ページ）

18 TELEPHONE（電話機）ジャック（38ページ）

リモコン



1 消音ボタン

2 チャンネル数字ボタン

3 音声切換ボタン

4 入力切換ボタン

5 テレビ／VAIO切り換えスイッチ

6 電源／スタンバイボタン

7 「Giga Pocket」ソフトウェア／「Media Bar DVD Player」ソフトウェア起動／終了ボタン

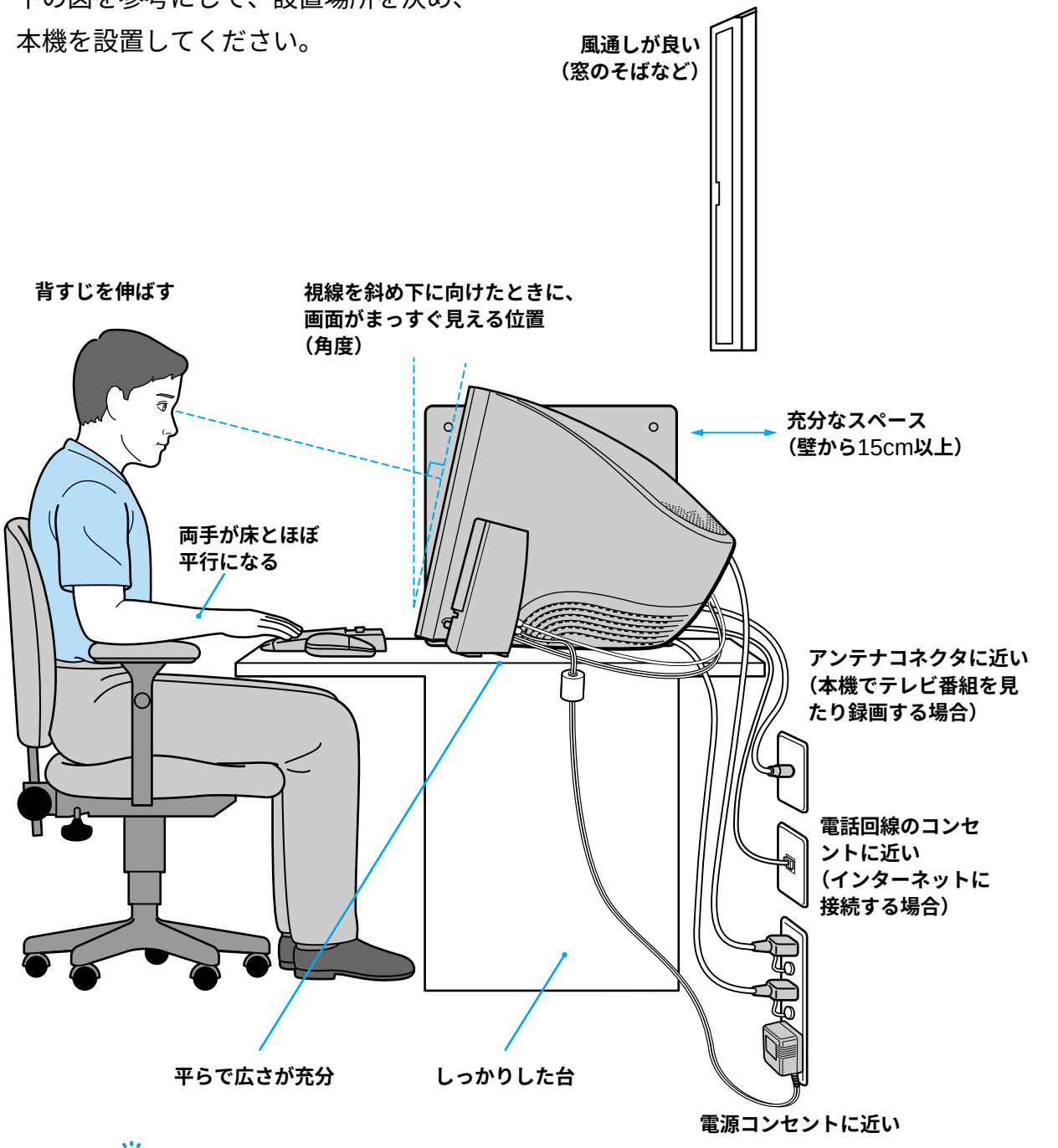
8 チャンネルボタン

9 音量ボタン

10 「Giga Pocket」ソフトウェア／「Media Bar DVD Player」ソフトウェアボタン

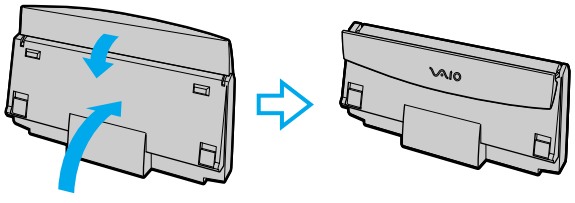
設置する

下の図を参考にして、設置場所を決め、
本機を設置してください。



ちょっと一言

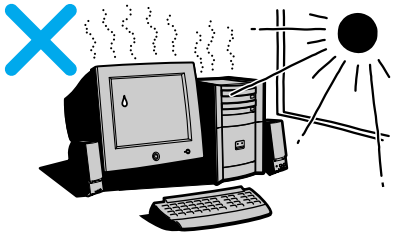
キーボードは立てて置くことができます。
キーボードを立てたときは、パームレストを
キーボードの裏側に折り畳むことができます。
本機を使わないときに場所を取りません。
キーボードにパームレストを取り付けるときは、
「キーボードにパームレストを取り付けるに
は」（36ページ）をご覧ください。



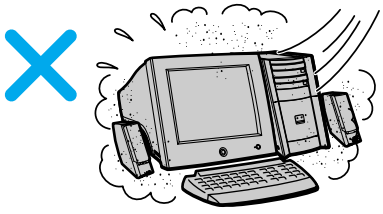
設置に適さない場所

次のような場所には設置しないでください。本機の故障や破損の原因となります。

❑ 直射日光が当たる場所

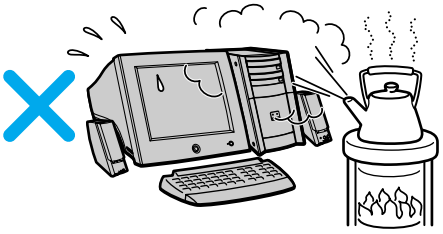


❑ ほこりが多い場所



❑ 磁気を発生するものや磁気を帯びているものの近く

❑ 湿気が多い場所

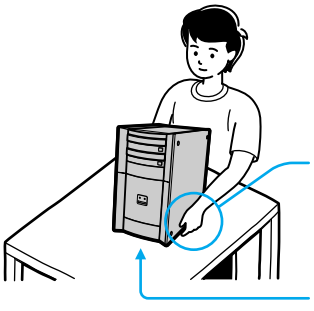


❑ 暖房器具の近くなど、温度が高い場所

❑ 風通しが悪い場所

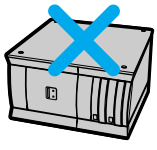
設置時のご注意

次のことをお守りください。



本機を持ち上げるときは、
左右から手を入れて底面を持つ。

本機を置くときは、
衝撃が加わらないように静かに置く。



本機を横置き
にしない。

このほかにも、設置の際の安全上の注意事項が8～14ページに記載されています。
そちらもあわせてご覧ください。

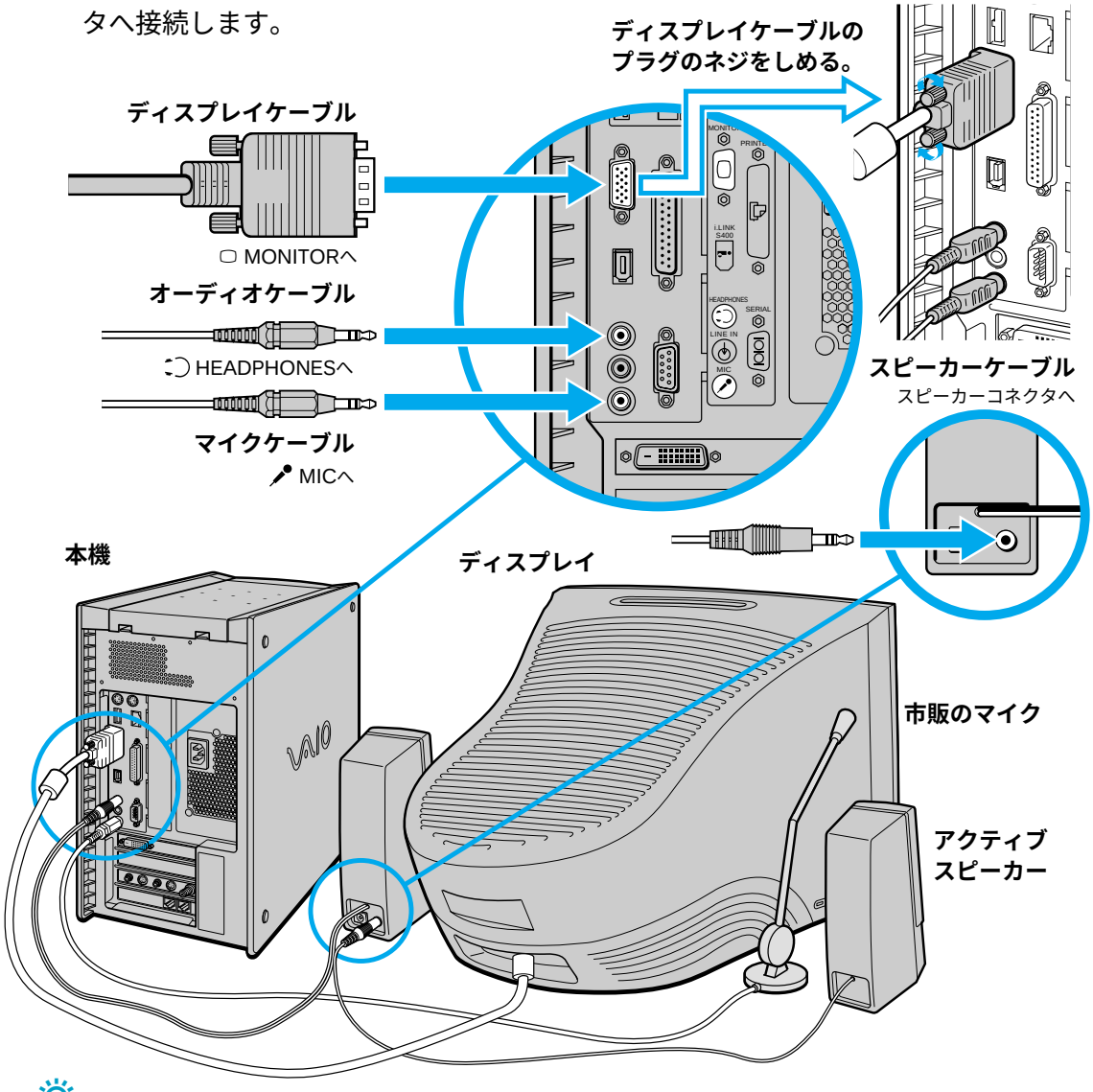
接続する／準備する

以下の手順に従って、ディスプレイ、アクティブスピーカー、アンテナ、AV機器、キーボード、マウス、テレホンコード、電源コードを接続し、リモコンを使えるように準備します。

1 ディスプレイとアクティブスピーカーを接続する。

ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイ HMD-A200を接続する場合

ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-A200をお使いになるときは、ディスプレイケーブルのプラグをMONITOR（モニタ）コネクタへ接続します。



ちょっと一言

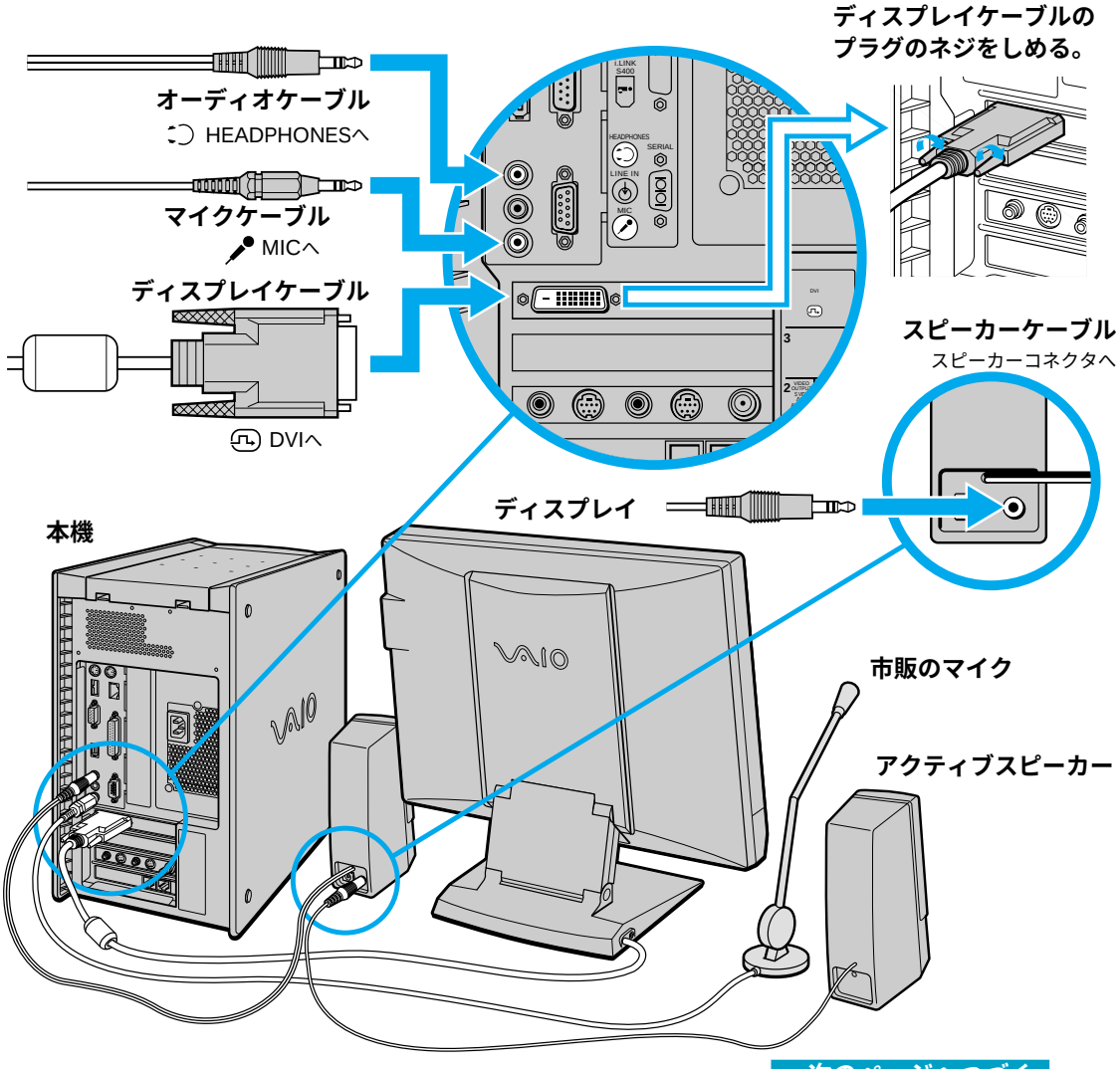
- ディスプレイとアクティブスピーカーは必ず接続してください。この段階では、マイクは必ずしも接続する必要はありません。
- ヘッドホンを接続する場合は、アクティブスピーカーのヘッドホン端子に接続してください。ヘッドホンをアクティブスピーカーに接続すると、アクティブスピーカーからは音は出なくなります。

PCVA-15XD2など、その他のディスプレイを接続する場合

接続ケーブルを使って、ディスプレイ、アクティブスピーカー、マイクを本機に接続します。接続のしかたはディスプレイによって違います。
ディスプレイやマイクに付属の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

- 付属のアクティブスピーカー用のACアダプタは、アクティブスピーカー以外には使用できません。また、PCVA-15XD2などのディスプレイに付属のACアダプタもディスプレイ以外には使用できません。
  アクティブスピーカーやディスプレイを接続するときはご注意ください。
- 本機には、MONITOR（モニタ）コネクタとDVI（ディーブイアイ）コネクタの2つのコネクタがあります。接続するコネクタはディスプレイによって違います。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。
- MONITOR（モニタ）コネクタまたはDVI（ディーブイアイ）コネクタのいずれかにディスプレイを接続してください。
  両方のコネクタにディスプレイを接続しないでください。



次のページへつづく

2 アンテナを接続する。

本機に付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使ってテレビを見たり、テレビ番組を録画するときは、付属のアンテナ接続ケーブルを使って壁のアンテナコネクタにつなぎます。テレビを見たり、テレビ番組を録画／再生する方法については、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの楽しみかた］をクリックして、［VAIOを楽しむ］→［テレビを見よう］→［「GigaPocket」ソフトウェアを使ってテレビを見よう］、または［VAIOを楽しむ］→［テレビ番組を録画しよう］→［見ているテレビ番組を録画しよう］の順にクリックして表示される情報、または別冊の「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書およびヘルプをご覧ください。

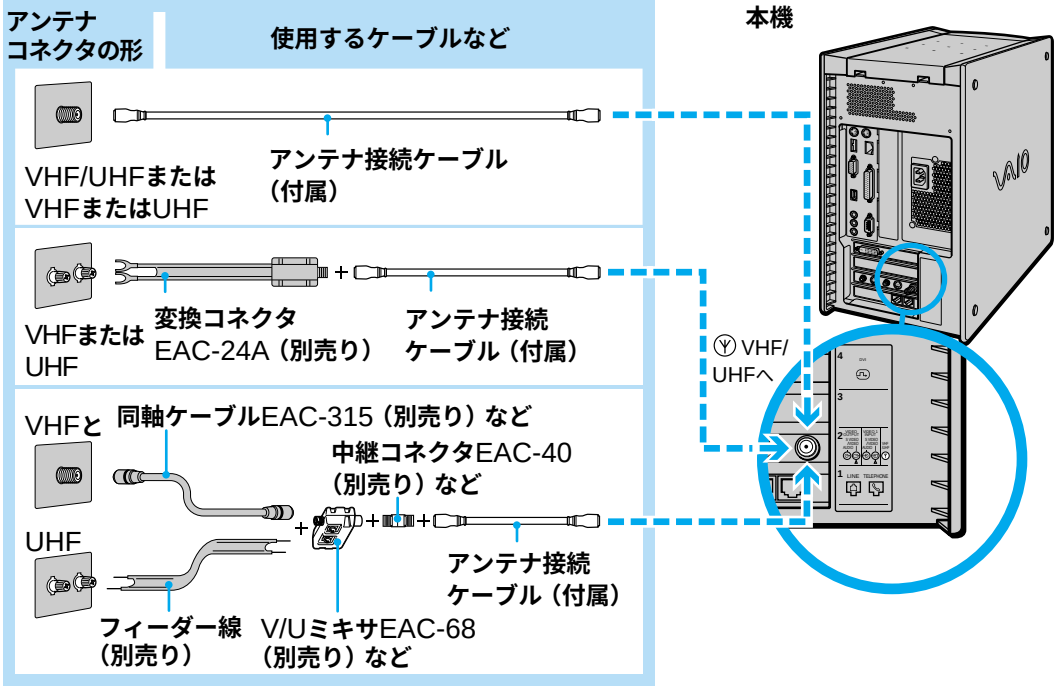
接続のしかたは、以下の場合で異なりますので、ご自分の使用環境に合わせて接続してください。

- 本機とディスプレイのみを壁のアンテナコネクタに接続する場合。
- すでにビデオデッキやテレビが壁のアンテナコネクタに接続されており、本機とディスプレイを新たに接続する場合（34ページをご覧ください）。

本機とディスプレイのみを壁のアンテナコネクタに接続する場合

以下のようにアンテナを接続します。

アンテナのつなぎかたは、壁のアンテナコネクタの形や使用するケーブルによって異なります。下の例から最も近いものを選び、接続してください。なお、いずれにも当てはまらない場合は、販売店にご相談ください。

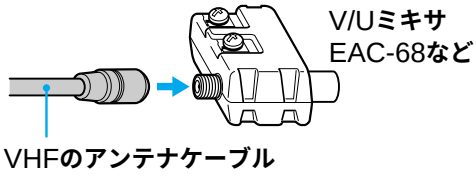


ご注意

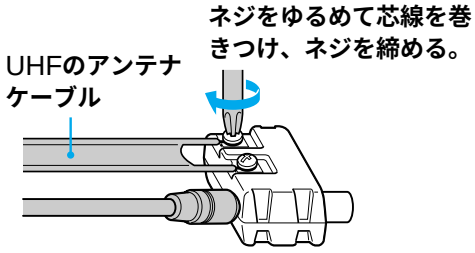
- フィーダー線は同軸ケーブルにくらべ雑音電波などの影響を受けやすく、信号が劣化します。できるだけ同軸ケーブルをご使用ください。
- フィーダー線をご使用になる場合は本機からできるだけ離してください。
- フィーダー線をご使用になる場合は、長くなりすぎないようにご注意ください。

V/Uミキサをつなぐには

(1) VHFのアンテナケーブルをV/Uミキサにつなぐ。



(2) UHFのアンテナケーブルをV/Uミキサにつなぐ。

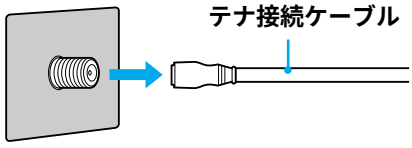


次のページへつづく

すでにビデオデッキやテレビが壁のアンテナコネクタに接続されており、本機とディスプレイを新たに接続する場合

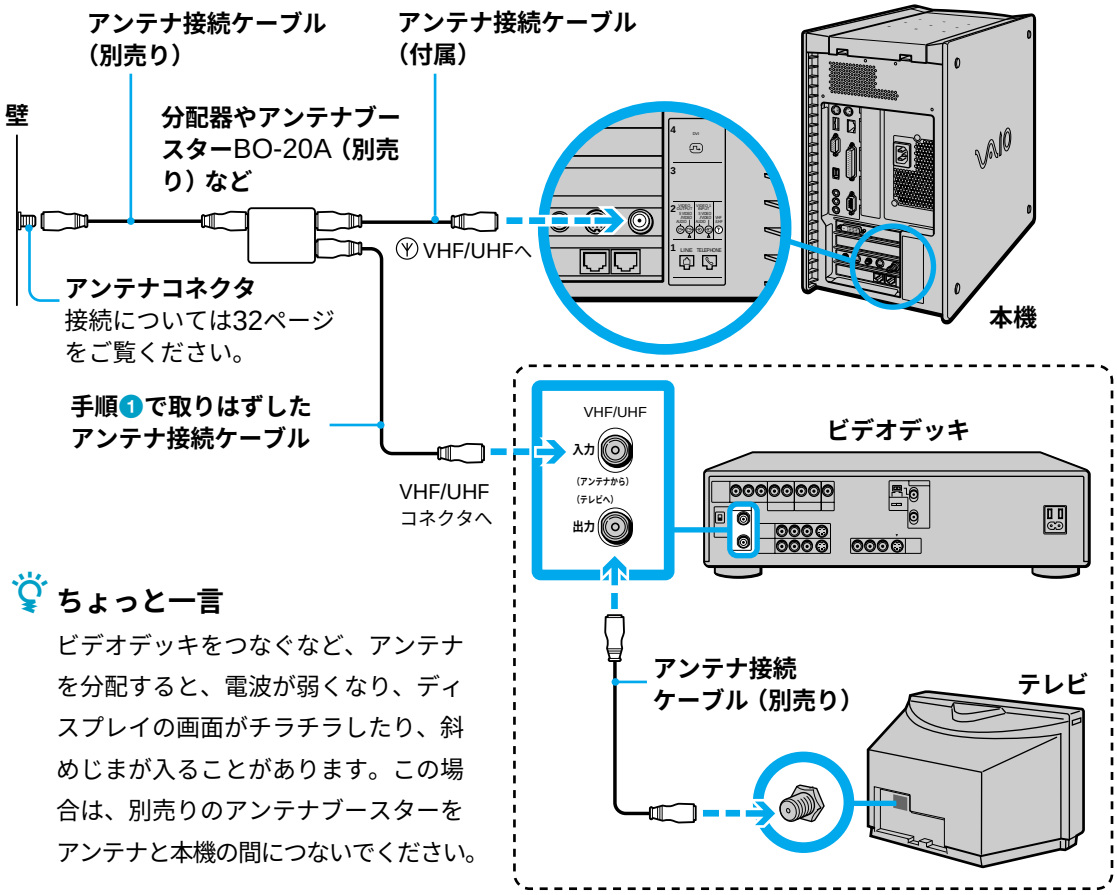
以下のようにアンテナを接続します。

❶ 壁のアンテナコネクタに接続されているビデオデッキやテレビのアンテナ接続ケーブルを取りはずす。



❷ アンテナを接続する。

別売りの分配器やアンテナブースターBO-20Aなどを使ってアンテナを接続します。壁のアンテナコネクタと分配器やアンテナブースターのつなぎかたは、壁のアンテナコネクタの形や使用するケーブルによって異なります。32ページの例から、最も近いものを選び接続してください。



点線内の接続について詳しくは、ビデオデッキまたはテレビの取扱説明書をご覧ください。

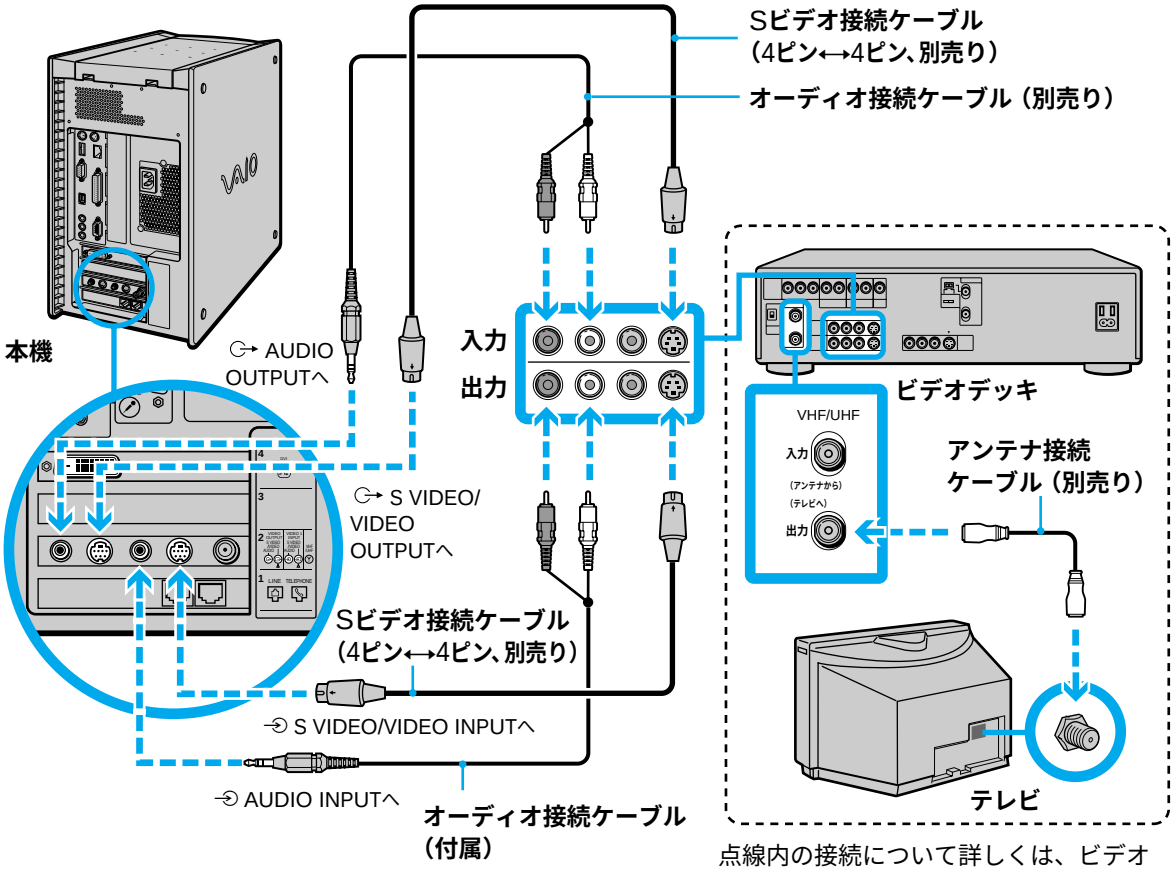
ちょっと一言

ビデオデッキをつなぐなど、アンテナを分配すると、電波が弱くなり、ディスプレイの画面がチラチラしたり、斜めじまが入ることがあります。この場合は、別売りのアンテナブースターをアンテナと本機の間につないでください。

3 本機とビデオデッキを接続する。

本機とビデオデッキの映像／音声の入出力コネクタどうしをつなぐと、以下のことができるようになります。

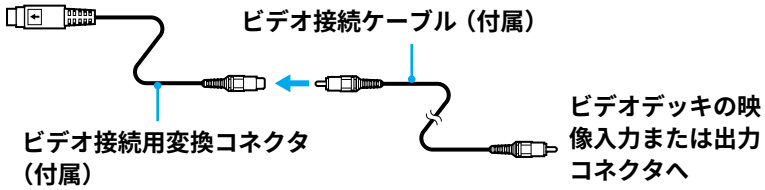
- ビデオデッキで再生する映像を本機につないだディスプレイで見る。
- ビデオデッキで再生する映像を本機に録画する。
- 本機に付属の「Giga Pocket」ソフトウェアで再生する映像を、ビデオデッキに録画したり、テレビで見る。



点線内の接続について詳しくは、ビデオデッキまたはテレビの取扱説明書をご覧ください。

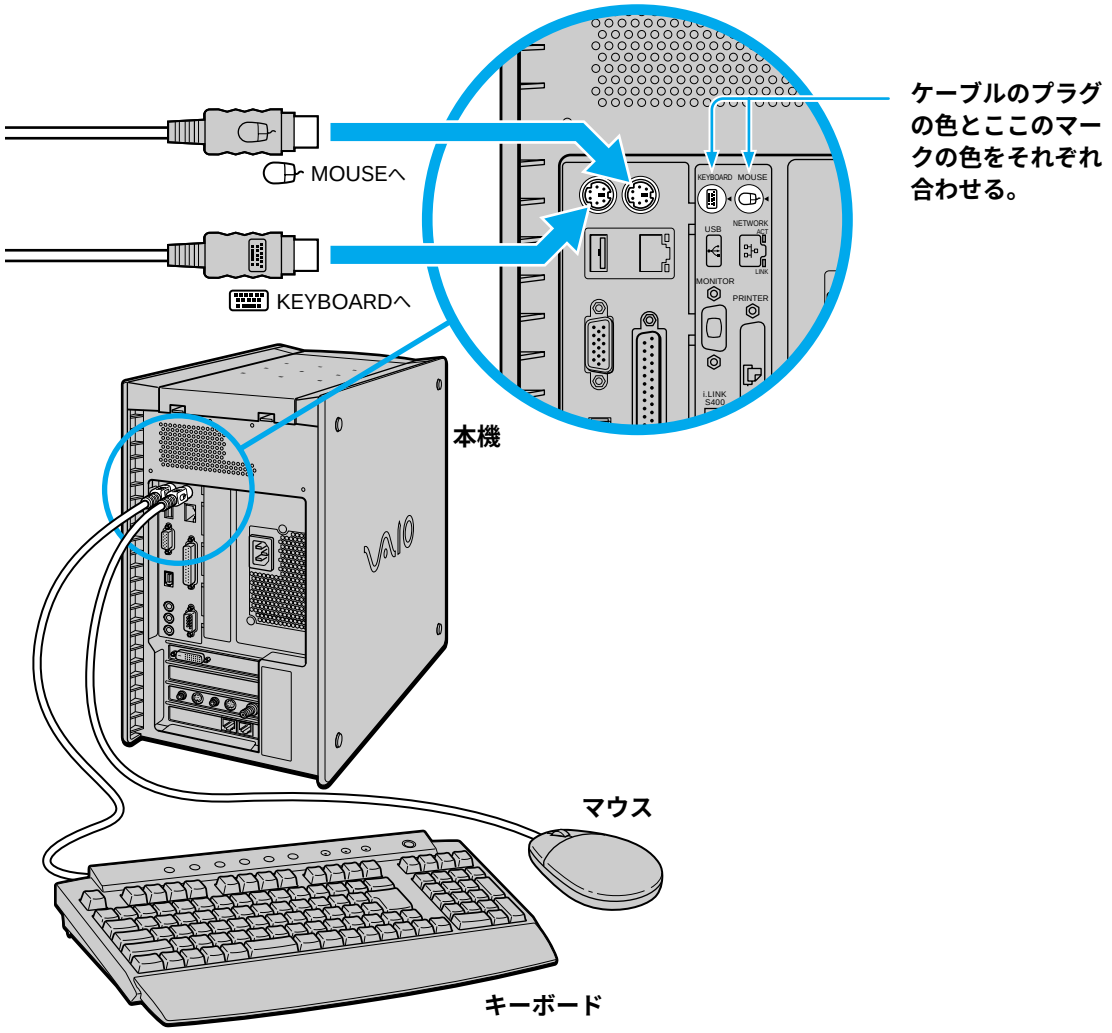
ちょっと一言

S映像入力／出力コネクタのないビデオデッキをつなぐときは、Sビデオ接続ケーブルのかわりにビデオ接続用変換コネクタ（付属）とビデオ接続ケーブル（付属）をつないで使うことができます。



次のページへつづく

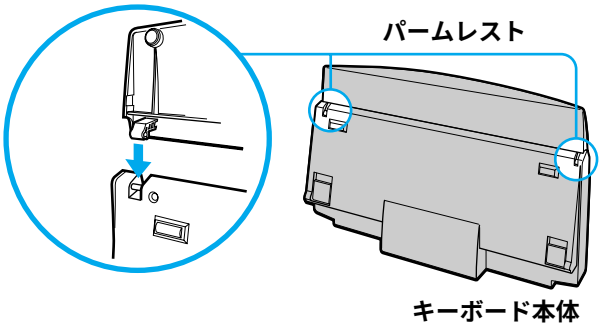
4 キーボードとマウスを接続する。



キーボードにパームレストを取り付けるには

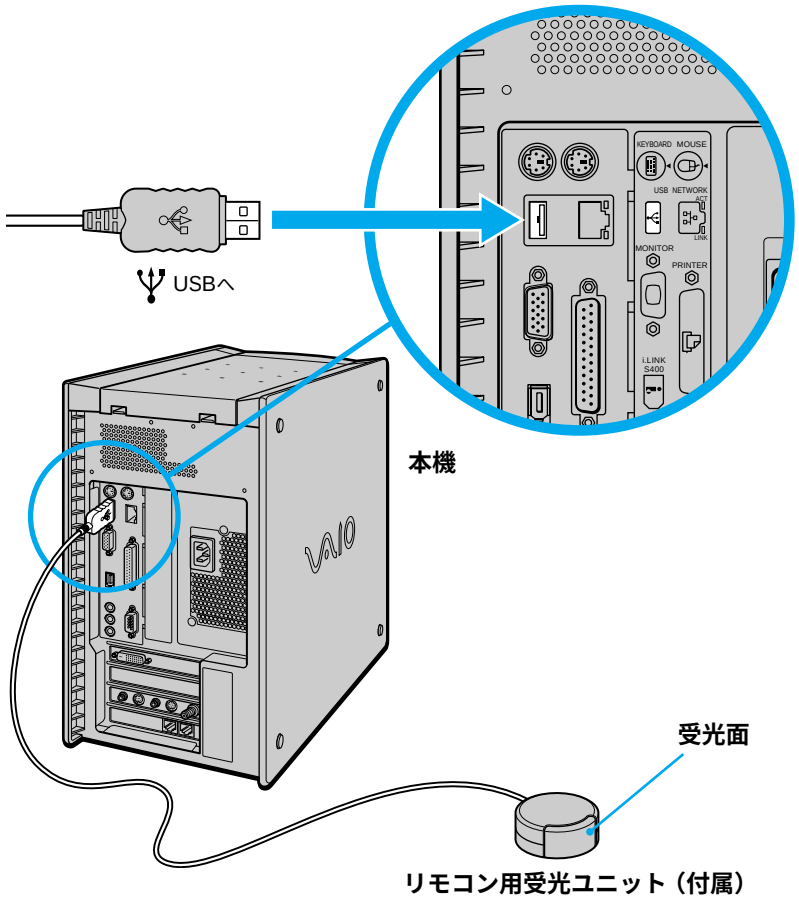
パームレストをキーボードに取り付けると、キーボードを使うとき、手首に負担がかからなくなります。

キーボードを立て、パームレストの左右にあるツメをキーボードの左右にある切り込みにカチッと音がするまで差し込みます。



5 リモコン用受光ユニットを接続する。

付属のリモコン用受光ユニットを本機のUSB（ユーエスビー）コネクタに接続します。



ご注意

- リモコン用受光ユニットは、本機および付属のリモコン専用です。他の機器ではお使いになれません。
- リモコン用受光ユニットを設置するときは、以下の点にご注意ください。
  - 受光面をリモコンの信号が受けやすい方向に向けてください。
  - 受光ユニットの受光面とリモコンの発光部の間に障害物がない場所に設置してください。

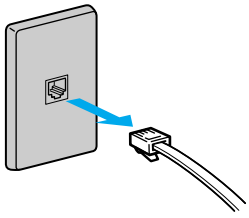
ちょっと一言

- リモコン用受光ユニットをつなぐと、付属のリモコンを使って、付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを操作できるようになります。
- リモコン用受光ユニットを本機やディスプレイの上など安定しない場所に設置するときは、付属のマジックテープを貼ると受光ユニットの滑り落ちを防げます。マジックテープを受光ユニットの底面と受光ユニットを設置する場所に貼ります。

次のページへつづく

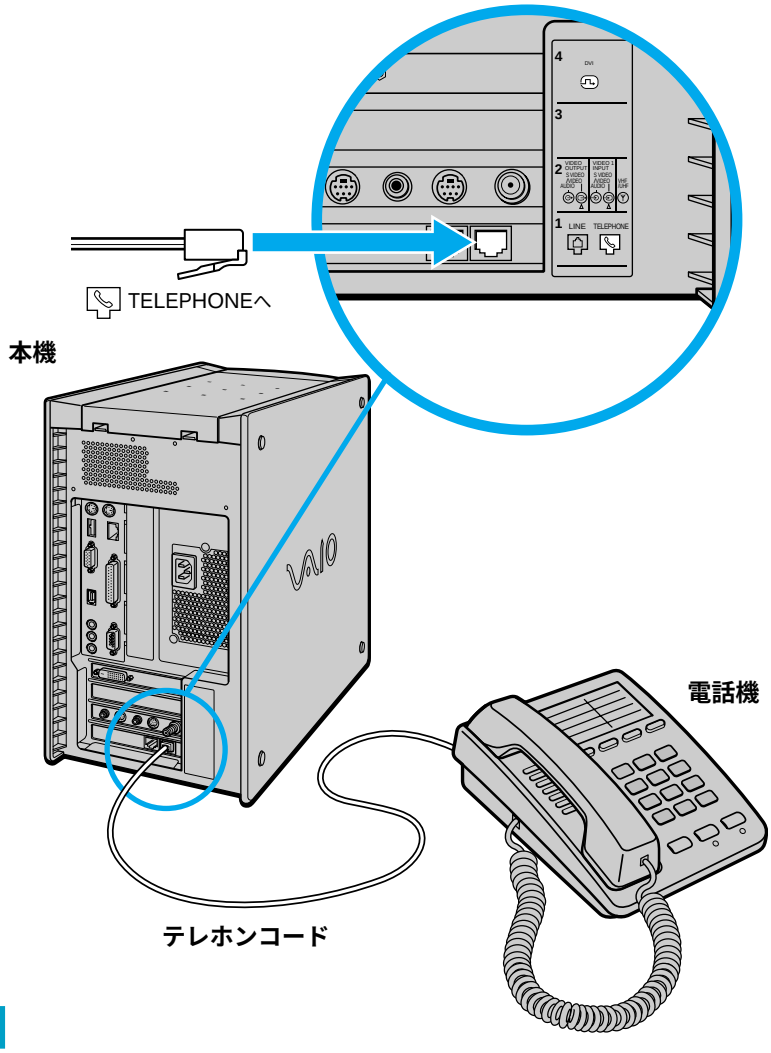
6 電話回線に接続する。

インターネットに接続するなどデータ通信をするときは、付属のテレホンコードを使って本機を電話回線につなぎます。
インターネットへの接続について詳しくは、「インターネットを始める」（124ページ）をご覧ください。



1 お使いの電話機のテレホンコードを電話回線のモジュラジャックからはずす。

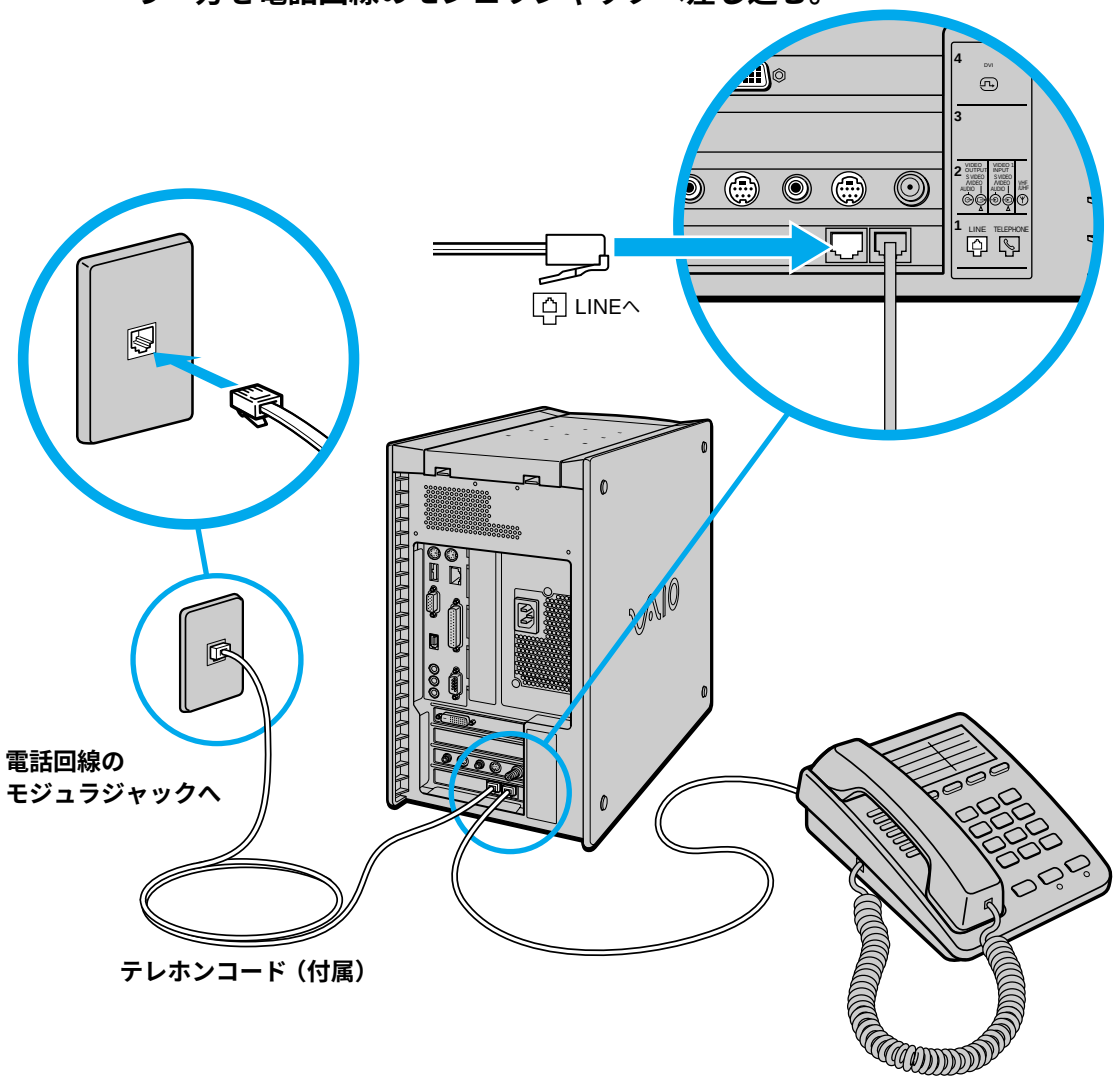
2 1ではずしたテレホンコードを本機のTELEPHONE（電話機）ジャックにカチッと音がするまで差し込む。



ご注意

テレホンコードは本機後面のNETWORK（ネットワーク）コネクタに接続しないでください。

3 付属のテレホンコードの一方を本機のLINE（電話回線）ジャックへ、もう一方を電話回線のモジュラジャックへ差し込む。



ちょっと一言

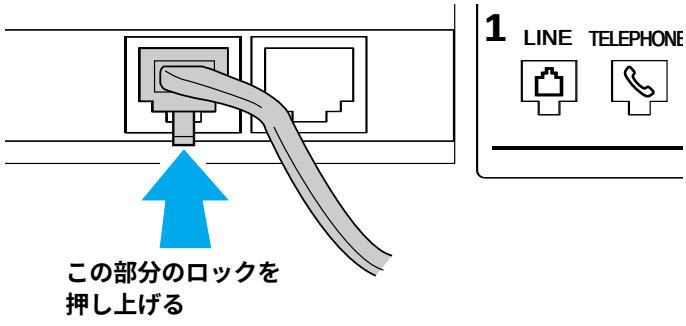
電話回線のコンセントの形状が付属のテレホンコードに合わないときは交換工事や取り付け工事が必要な場合があります。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの使いかた］をクリックして、［VAIOインフォメーション］→［知っ得情報］→［電話回線のコンセントの種類］の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

次のページへつづく

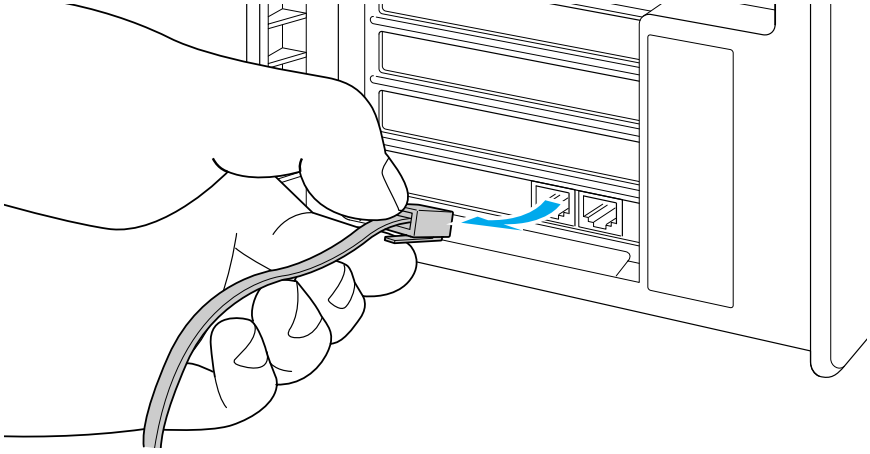
本機からテレホンコードを取りはずすには

1. TELEPHONE（電話機）ジャックまたはLINE（電話回線）ジャックにつながっているテレホンコードのモジュラアダプタ部分をいったん本機の奥に押し込む。

2. モジュラアダプタのロックを押し上げ、テレホンコード部分といっしょにつかむ。



3. ロックを押しながら、上方向に引き抜く。



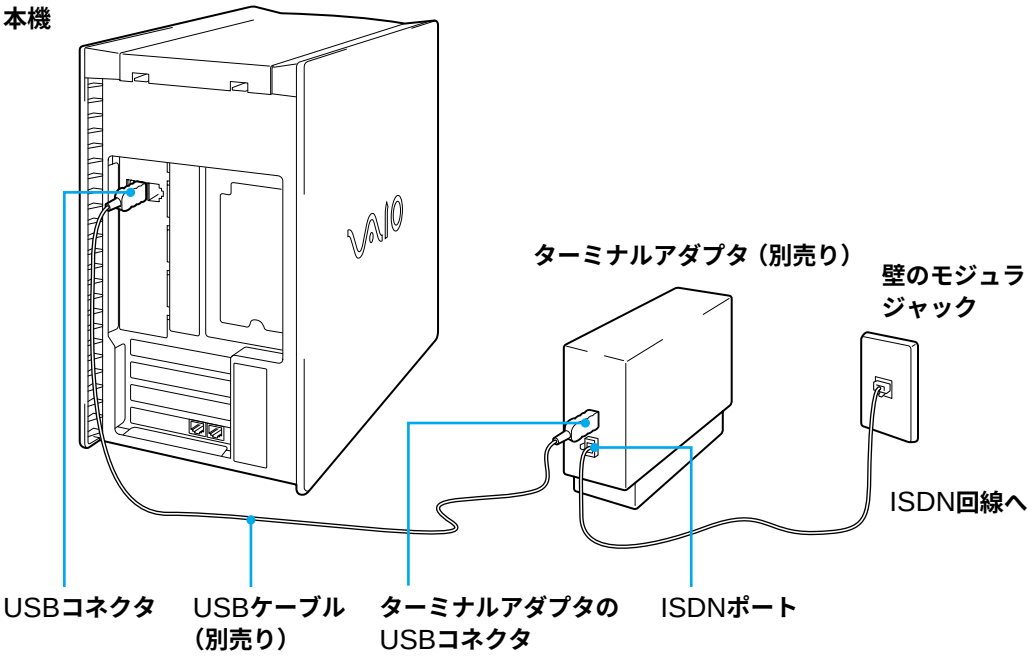
ISDN回線につなぐときは

「ISDN回線」とはNTTのデジタル通信網を使った電話回線で、通信速度も速く、1回線で従来の2回線が使えます。ISDN回線を使って本機を使用するためには、本機の他に「ターミナルアダプタ」というコンピュータや従来の一般電話回線対応の通信機器、電話機をつなぐためのISDN回線用の機器が必要です。

ADSLについて

ADSLとは「Asymmetric Digital Subscriber Line」の略で、一般電話回線を利用してインターネットへ高速に常時接続できるサービスのことです。このサービスを利用するには、ADSL接続サービスを提供している接続業者と契約し、申し込むことが必要です。ADSL接続サービスの申し込み方法、料金、必要な機器とその接続方法について詳しくは、契約するADSL接続サービスを提供している接続業者にお問い合わせください。

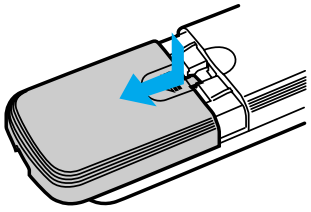
ISDN回線を通じてオンラインカスタマー登録したり（110ページ）、インターネットの接続会社と契約して（131ページ）インターネット経由でホームページを見たり、電子メールをやりとりするときは、下図のように本機のUSBコネクタとターミナルアダプタのUSBコネクタをつないでください。接続について詳しくは、ターミナルアダプタの取扱説明書をご覧ください。



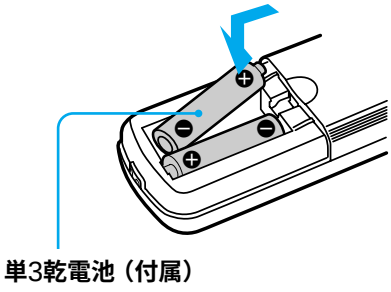
次のページへつづく

7 リモコンを準備する。

1. リモコンを裏返す。
2. リモコン裏面の乾電池入れのふたを開ける。



3. ⊕と⊖の方向を確かめて、付属の単3乾電池を2本入れる。



ご注意

乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破損のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。

- ⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
- 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
- 乾電池は充電しないでください。
- 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
- 乾電池が液もれしたときは、電池入れについた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。

4. 乾電池入れのふたを閉める。

ちょっと一言

電池の交換時期は約6か月です。リモコン操作できる距離が短くなったら、2本とも新しい乾電池に交換してください。

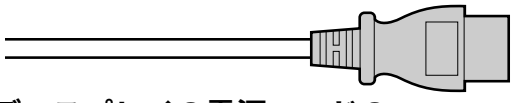
8 電源コードを接続する。

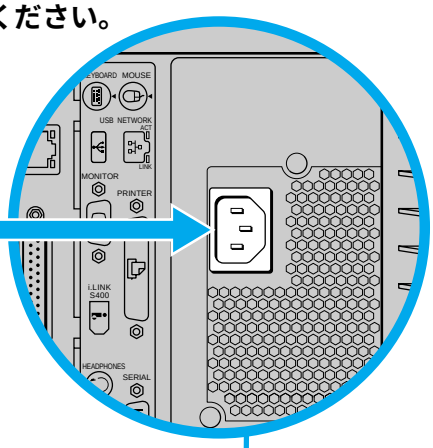
本機、ディスプレイ、アクティブスピーカーを電源コンセントに接続します。

ご注意

- **同じコンセントに複数の機器を同時につながないでください。**
- **本機は日本国内専用です。交流100Vでお使いください。**

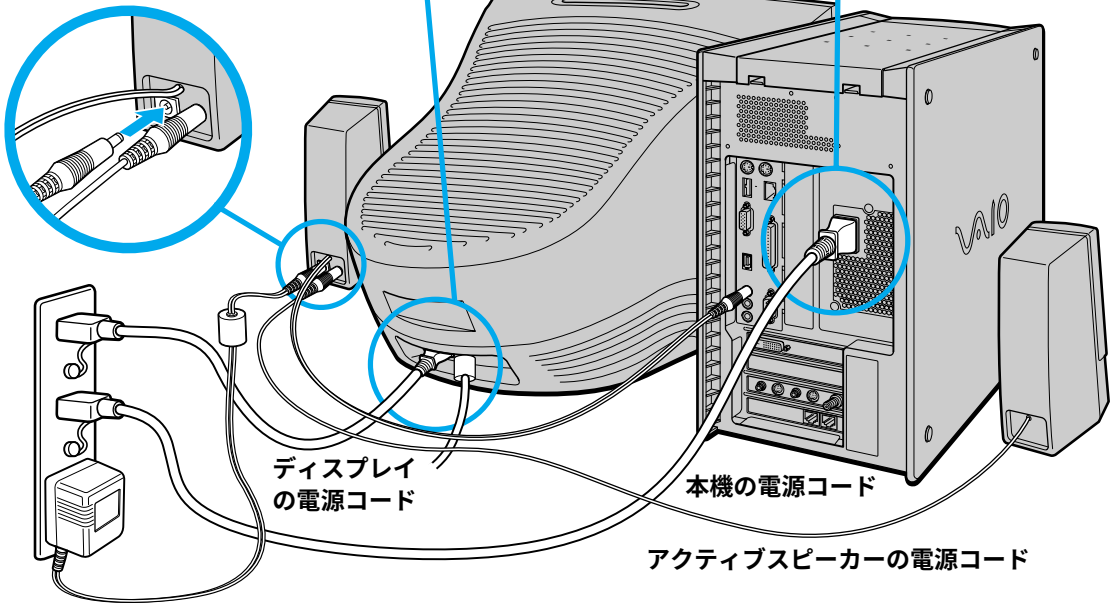
1 付属の電源コードのプラグ（3ピン）を差し込む。





2 ディスプレイの電源コードのプラグ（3ピン）を差し込む。

3 付属のスピーカー用ACアダプタのプラグをアクティブスピーカーに差し込む。



4 本機およびディスプレイの電源コードのアースを接続し、電源プラグを壁の電源コンセントに差し込む。

ご注意

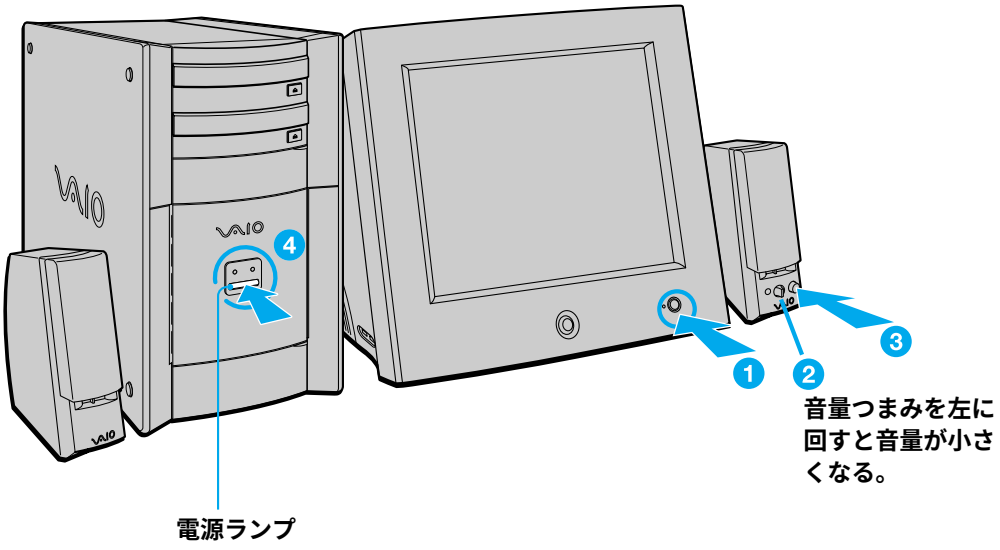
付属のアクティブスピーカー用のACアダプタは、アクティブスピーカー以外には使用できません。また、PCVA-15XD2などのディスプレイに付属のACアダプタもディスプレイ以外には使用できません。

アクティブスピーカーやディスプレイを接続するときはご注意ください。

電源を入れる

ディスプレイ、アクティブスピーカー、本機の順に電源を入れる。

1. **ディスプレイの電源ボタンを押す。**
2. **アクティブスピーカーの音量つまみで音量を小さくする。**
3. **アクティブスピーカーの電源ボタンを押す。**
4. **本機の ⏻（電源）ボタンを押す。**
   電源が入ると、電源ランプが青色に点灯します。



ちょっと一言

アクティブスピーカーが適切な音量になっているか確認してください。Windows Meを準備する（46ページ）ときに、音声での解説が聞けるようになっています。
アクティブスピーカーを接続している場合は、スピーカーの音量つまみで調整します。

本機の電源を初めて入れる場合は、Windows Meのロゴの画面が表示されたあと、「新しいハードウェアの設定を完了するには、コンピュータを再起動してください。今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されます。このメッセージが表示されたら、そのまま放置せずに、[はい(Y)] をクリック（46ページ）して本機を再起動してください。再起動後に、Windows Meのロゴ画面が表示され、しばらくすると、「Microsoft Windowsへようこそ」の画面が表示されます。次ページからの「Windows Meを準備する」の手順に従ってWindows Meの準備を行ってください。

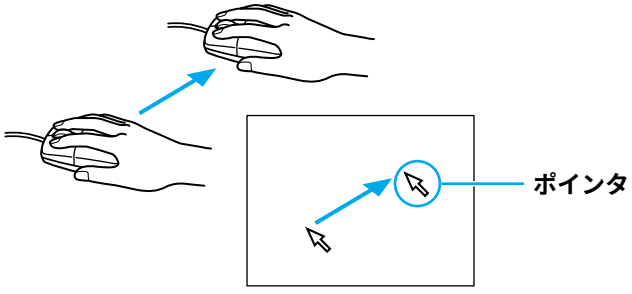
Windows Meを準備する

本機をお使いいただくために、最初のステップとしてWindows Meの準備が必要です。Windows Meが使える状態になると、本機に付属のソフトウェアやいろいろな機能も使えるようになります。
以下の手順に従って、Windows Meを使う準備をします。

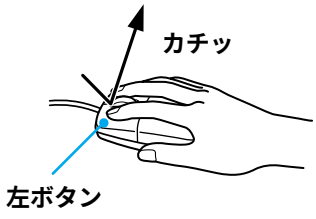
1 「Microsoft Windowsへようこそ」画面が表示されたら、画面右下にある 次へ(N) をクリックする。

マウスを動かして「Microsoft Windowsへようこそ」画面右下の 次へ(N) の上まで（ポインタ）を移動し、マウスの左ボタンをカチッと1回押し、すぐ離します。
これを「クリックする」と言います。
「日本語の入力を練習しましょう」画面が表示されます。

マウスを動かして...

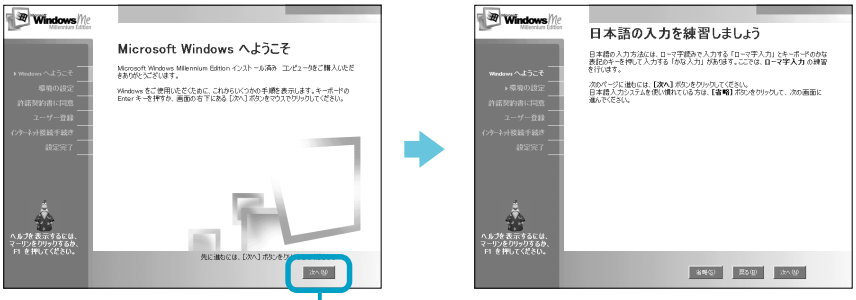


マウスの左ボタンをカチッと1回押し、すぐ離す。



ちょっと一言

- マウスは机の上など平らな場所に置き、滑らせるように動かします。マウスの動きに合わせて画面上の（ポインタ）が同じように動きます。マウスを動かしていて机の端まで行ってしまったら、マウスを持ち上げて元の位置に戻して動かします。
- マウスの使いかたについて詳しくは、「マウスの使いかた」（60ページ）をご覧ください。



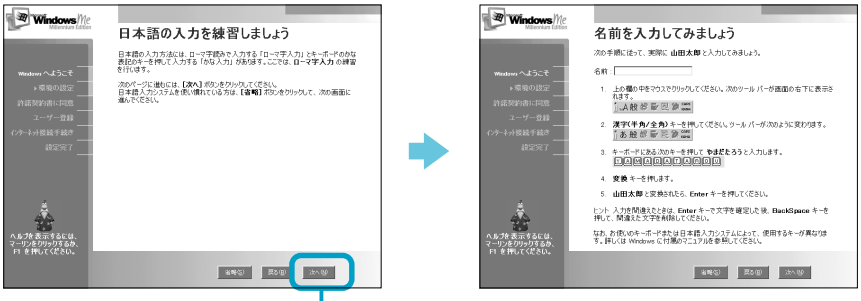
ここをクリックする。

ちょっと一言

操作が途中でわからなくなったときは、画面左下の「マーリン」をクリックするとアニメーションと音声による説明を聞くことができます。

2 次へ(N) をクリックする。

「名前を入力してみましょう」画面が表示されます。



ここをクリックする。

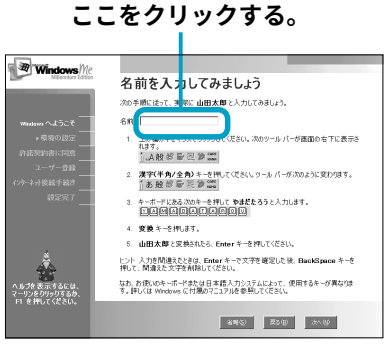
入力方法をすでにご存知の方は、省略(S) をクリックして手順5へ進むこともできます。

次のページへつづく

3 名前の入力の練習をする。

画面の指示に従って名前を入力する練習をしてみましょう。
「山田太郎」という名前を入力してみます。

❶ 名前の入力欄をクリックする。

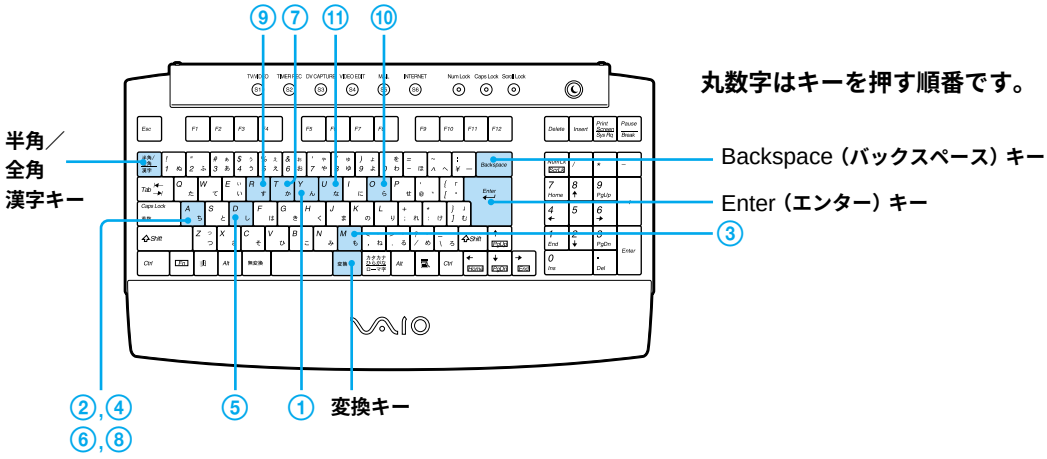


❷ 全角文字を入力するため、半角／全角 漢字（半角／全角 漢字）キーを押す。

❸ ①Y ん、②A ち、③M も、④A ち、⑤D し、⑥A ち、⑦T か、⑧A ち、⑨R す、⑩O ら、⑪U な の順にキーを押す。

❹ 変換（変換）キーを押す。

❺ Enter（エンター）キーを押す。

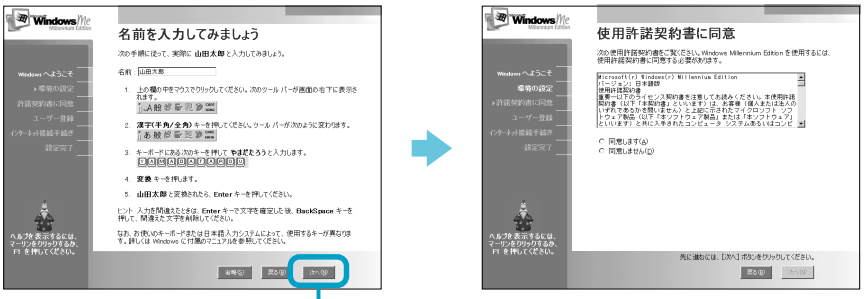


ちょっと一言

文字の入力について詳しくは、「文字の入力を練習する（キーボードの使いかた）」（81ページ）をご覧ください。

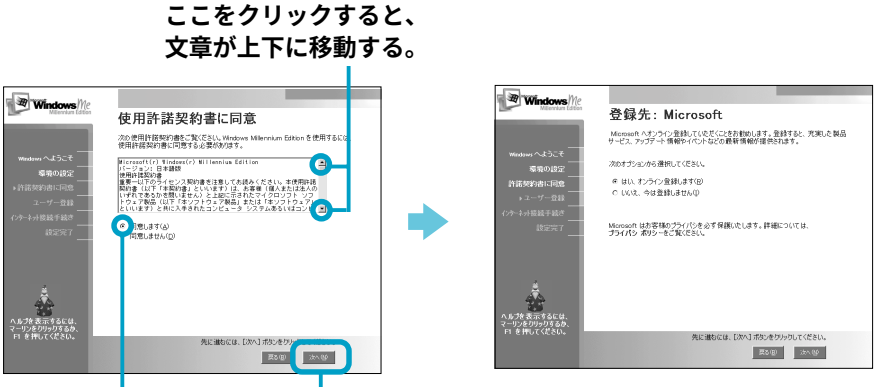
4 名前の入力の練習を終えたら、次へ(N) をクリックする。

「使用許諾契約書に同意」画面が表示されます。



5 画面に現れた内容を読み、内容に同意するときは［同意します］の ○ をクリックして ◉ にし、次へ(N) をクリックする。

「登録先：Microsoft」画面が表示されます。



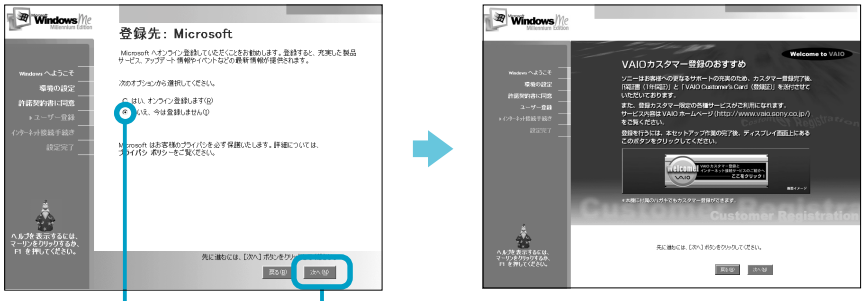
ご注意

［同意しません］の ○ をクリックすると、Windows Meの準備作業は中止され、本機に入っているソフトウェアはお使いになれません。

次のページへつづく

6 「いいえ、今は登録しません」の ○ をクリックして ◉ にし、次へ(N) をクリックする。

「VAIOカスタマー登録のおすすめ」画面が表示されます。
VAIOカスタマー登録について詳しくは、「カスタマー登録する／インターネットに接続する」（109ページ）をご覧ください。



❶ ここをクリックする。
○ が ◉ になる。

❷ ここをクリックする。

ちょっと一言

「はい、オンライン登録します」を選んで 次へ(N) をクリックすると、マイクロソフトへのオンライン登録ができます。ただし、ダイヤルするには本機を電話回線に接続しておく必要があります。
接続のしかたについて詳しくは、「接続する／準備する」（30ページ）をご覧ください。

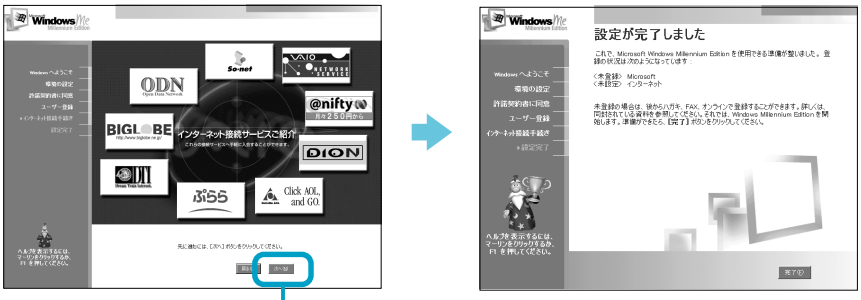
7 次へ(N) をクリックする。

「インターネット接続サービスご紹介」画面が表示されます。
インターネット接続サービスについて詳しくは、「カスタマー登録する／インターネットに接続する」（109ページ）をご覧ください。

ここをクリックする。

8 次へ(N) をクリックする。

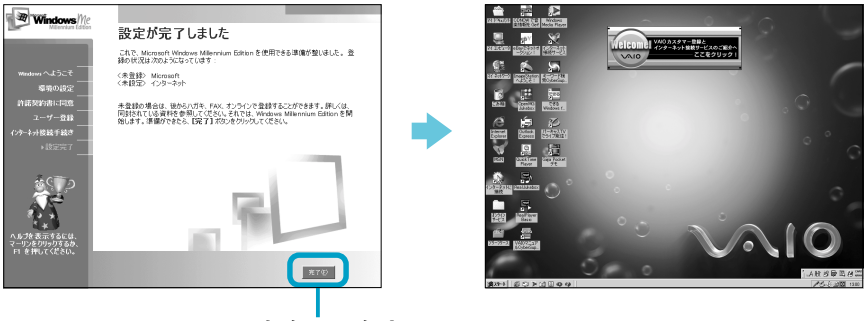
「設定が完了しました」画面が表示されます。



ここをクリックする。

9 完了(F) をクリックする。

Windows Meが起動します。



ここをクリックする。

10 デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、[プログラム] にポインタを合わせ、[アクセサリ]、[エンターテイメント]、[Windows Millennium Editionプレビュー] の順にクリックする。

Windows Meの紹介の映像が始まります。

次のページへつづく

ちょっと一言

Windows Me**の紹介の映像は必ず見てください。**Windows Meの紹介の映像の長さは約2～3分間です。

ご注意

Windows Meの紹介の映像を見ないで、付属の「DVgate」や「Giga Pocket」ソフトウェアなどを使うと、操作中などにWindows Meの紹介の映像を見ることを促す画面が表示され、本機が正しく動作しないことがあります。

11 映像が終わったら、画面右上の 終了 をクリックする。

Windows Meの紹介の映像を見終わったら、「電源を切る」（56ページ）の手順に従っていったん電源を切ってから、本機の ⏻（電源）ボタンを押し、再度電源を入れてください。

これで、「こんなことができます」（18ページ）で紹介した機能が使えるようになりました。

ご注意

ホームページを見たり、電子メールをやりとりするには、さらにインターネットに接続する準備が必要です。詳しくは、「インターネットを始める」（124ページ）をご覧ください。

ご注意

本機に付属のリカバリ CD-ROMに入っている OS（Operating System（オペレーティング システム））以外をインストールした場合の動作保証はいたしかねます。

OS（Operating System）とは

コンピュータを動かすために必要な基本ソフトウェアのことです。画面表示や操作方法などもOSによって決められています。OSがないと他のソフトウェアも使えません。本機のOSはWindows Millennium Edition（Me）です。

コンピュータウイルスについて

コンピュータウイルスは、コンピュータの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。コンピュータウイルスに侵入されると、意味不明なメッセージがディスプレイ画面上に表示されたり、ファイルが勝手に消去されたりしてしまいます。コンピュータウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピュータにも悪影響を及ぼしていきます。このコンピュータウイルスを検査／除去するソフトウェアとして、本機には「Norton AntiVirus」ソフトウェアがインストールされています。本機をコンピュータウイルスから守るため、定期的なウイルスチェックをおすすめします。詳しくは、「コンピュータウイルスについて」（294ページ）をご覧ください。

54ページからは、お好みに合わせて操作してください。

- ❑ **テレビを見たい**（54ページ）
- ❑ **電源を切りたい**（56ページ）
- ❑ **コンピュータの基本操作を練習したい**（57ページ）
- ❑ **カスタマー登録したい**（110ページ）
- ❑ **インターネットに接続したい**（129ページ）
- ❑ **プリンタなどの機器をつなぎたい**（253ページ）

以下のことがしたいときは

「サイバーサポート」をご覧ください。使いかたについて詳しくは、「「サイバーサポート」の使いかた」（192ページ）をご覧ください。

- ❑ CD-ROMを使いたい
- ❑ CD-RW／CD-Rにデータを記録したい
- ❑ フロッピーディスクを使いたい
- ❑ テレビ番組やビデオを録画／再生したい
- ❑ 動画を取り込んで加工したい
- ❑ 静止画を取り込んで活用したい
- ❑ 音楽CDを再生したい
- ❑ DVDビデオを再生したい

困ったときの解決方法を知りたいときは

「困ったときは」（207ページ）をご覧いただくか、本機に付属の「サイバーサポート」をご覧ください。「サイバーサポート」の使いかたについて詳しくは、「「サイバーサポート」の使いかた」（192ページ）をご覧ください。

テレビを見る準備をする

本機では、付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使ってテレビを見ることができます。
初めて「Giga Pocket」ソフトウェアを使ってテレビを見るときには以下の手順に従って、チャンネルの地域設定を行います。

ご注意

チャンネルの地域設定を行う前に、アンテナが本機に接続されていることをご確認ください。アンテナが本機に接続されていないと、「Giga Pocket」ソフトウェアでテレビ番組を見ることができません。アンテナの接続方法について詳しくは、「接続する／準備する」の手順3（35ページ）をご覧ください。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［VAIOソフトウェアはこちら］にポインタを合わせ、［テレビを録画・再生：Giga Pocket］を選び、［「見る・録る」Giga ビデオレコーダー］をクリックする。

「地域の設定」画面が表示されます。

ここをクリックする。

2 「都道府県を指定」と「地域を指定」の をそれぞれクリックして、本機を使用する都道府県および最も近い地域を選ぶ。

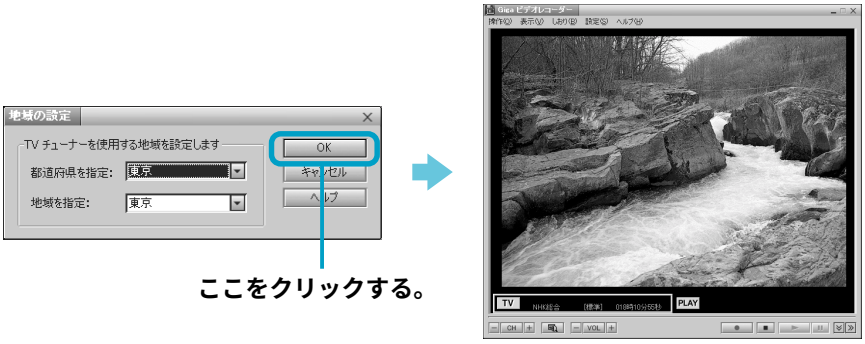
ここを選んでクリックする。

ご注意

県境でお使いの場合などは、お使いになる都道府県や地域を設定してもテレビが映らないことがあります。その場合は、隣接する都道府県や地域を設定してください。

3 OK をクリックする。

選んだ地域の標準チャンネルが設定され、「Giga ビデオレコーダー」ソフトウェアが起動します。



4 TV をクリックする。

「Giga ビデオレコーダー」ソフトウェアのモニタに、TV／録画デッキの映像が表示されます。

5 CH をクリックして、一覧の中から見たいチャンネルを選ぶ。

「Giga ビデオレコーダー」ソフトウェアのモニタに選択したチャンネルの番組が表示されます。

ちょっと一言

「Giga Pocket」ソフトウェアについて詳しくは、別冊の「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書およびヘルプをご覧ください。

電源を切る

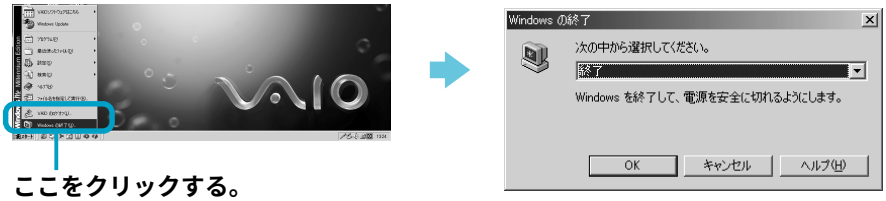
本機を使う準備が終わったところで、いったん電源を切ってみます。

ご注意

⏻（電源）ボタンを押して電源を切らないでください。必ず次の手順に従って電源を切ってください。手順に従って電源を切らないと、故障の原因になることがあります。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、表示されるメニューの［Windows の終了］をクリックする。

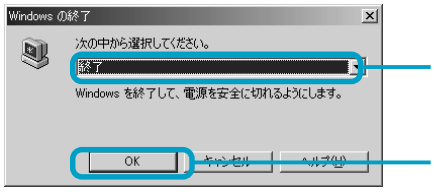
「Windows の終了」の画面が表示されます。



ここをクリックする。

2 をクリックして、一覧の中から「終了」を選び、 OK をクリックする。

しばらくすると、自動的に本機の電源が切れて、本機の電源ランプが消えます。



ここを確認する。

ここをクリックする。

ちょっと一言

ソニー製のコンピュータディスプレイをお使いのときは、手順2で本機の電源が切れたあと、自動的にディスプレイが節電モードに入ります。

3 ディスプレイの電源ボタンを押す。

ディスプレイの電源が切れます。

4 アクティブスピーカーの電源ボタンを押す。

アクティブスピーカーの電源が切れます。

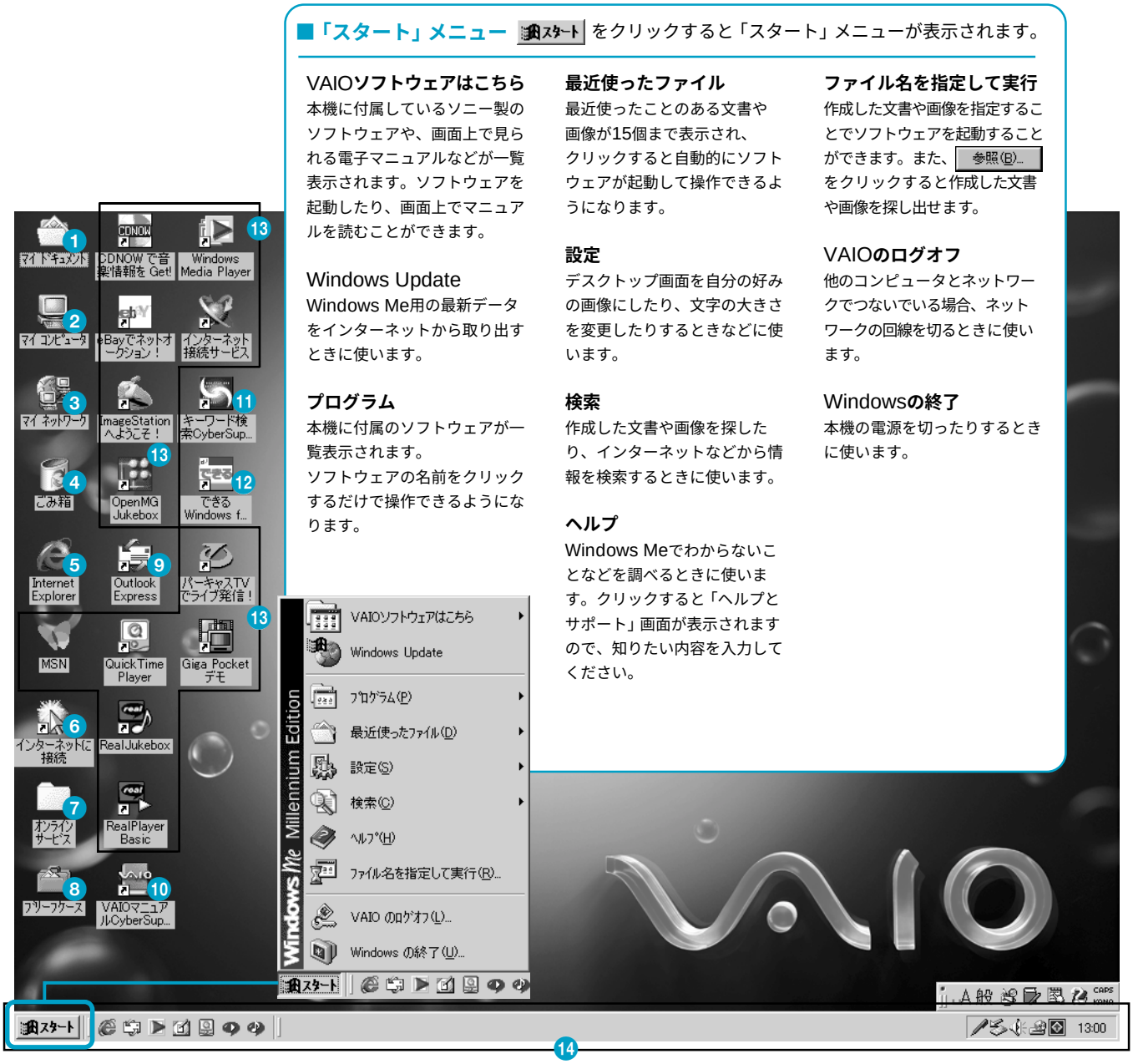
これで、本機を使う上で必要な準備と操作はひと通り終わりました。
さらにいろいろな操作をするためには、引き続きこのあとのページおよび「サイバーサポート」をご覧ください。

コンピュータの基本操作を練習する

この章では、本機を使うための基本的な操作を説明します。

デスクトップ画面の各部のなまえとはたらき

本機の電源を入れた後、ディスプレイ画面全体に表示されるのが「デスクトップ画面」です。
「デスクトップ画面」は、本機のさまざまな機能を使いこなしていただくときの出発点となります。



■「スタート」メニュー

スタート をクリックすると「スタート」メニューが表示されます。

VAIOソフトウェアはこちら
本機に付属しているソニー製のソフトウェアや、画面上で見られる電子マニュアルなどが一覧表示されます。ソフトウェアを起動したり、画面上でマニュアルを読むことができます。

Windows Update
Windows Me用の最新データをインターネットから取り出すときに使います。

プログラム
本機に付属のソフトウェアが一覧表示されます。
ソフトウェアの名前をクリックするだけで操作できるようになります。

最近使ったファイル
最近使ったことのある文書や画像が15個まで表示され、クリックすると自動的にソフトウェアが起動して操作できるようになります。

設定
デスクトップ画面を自分の好みの画像にしたり、文字の大きさを変更したりするときなどに使います。

検索
作成した文書や画像を探したり、インターネットなどから情報を検索するときに使います。

ヘルプ
Windows Meでわからないことなどを調べるときに使います。クリックすると「ヘルプとサポート」画面が表示されますので、知りたい内容を入力してください。

ファイル名を指定して実行
作成した文書や画像を指定することでソフトウェアを起動することができます。また、参照(B)... をクリックすると作成した文書や画像を探し出せます。

VAIOのログオフ
他のコンピュータとネットワークでつないでいる場合、ネットワークの回線を切るときに使います。

Windowsの終了
本機の電源を切ったりするときに使います。

■デスクトップアイコン

❶ マイ ドキュメント

本機に付属のさまざまなソフトウェアで作成した文書や画像などを保存しておく場所です。マイドキュメントは、マイコンピュータの中にあるC:ドライブの中のものと同じです。

❷ マイ コンピュータ

本機に接続されている各種の記憶装置やシステムの設定のための機能が入っている場所です。ここからソフトウェアを起動したり、作成した文書や画像をコピーしたりできます。

❸ マイ ネットワーク

コンピュータどうしをつなぐネットワークを利用している場合、他のコンピュータと通信するときに使います。

❹ ごみ箱

いらなくなった文書や画像などを捨てる場所です。ごみ箱に捨てた文書や画像などは、ごみ箱の中に残っています。ごみ箱について詳しくは、「ファイルを削除する」(105ページ)をご覧ください。

❺ Internet Explorer

インターネットのホームページなどを見るときに使うソフトウェアです。詳しくは、「インターネットを始める」(124ページ)をご覧ください。

❻ インターネットに接続

インターネット接続に必要な設定を行います。詳しくは、「インターネットを始める」(124ページ)をご覧ください。

❼ オンラインサービス

インターネットに接続するための手続きを画面上で行うときに使います。

❽ ブリーフケース

他のコンピュータに文書や画像などを移動させるときに使います。

❾ Outlook Express

電子メールをやりとりするときに使うソフトウェアです。詳しくは、「インターネットを始める」(124ページ)をご覧ください。

❿ VAIOマニュアル CyberSupport

VAIOの使いかたや楽しみかたをディスプレイ画面上で説明する電子マニュアルです。使いかたについて詳しくは「「サイバーサポート」の使いかた」(192ページ)をご覧ください。

⓫ キーワード検索 CyberSupport

VAIOの使いかたや楽しみかた、困ったときの解決方法を調べられます。

⓬ できるWindows for VAIO

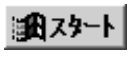
Windowsの使いかたを説明しています。

⓭ 各ソフトウェアのショートカット類

左隅に が付いたアイコンが各種あります。これらは簡単にソフトウェアを起動するためにデスクトップ画面上に置かれたものです。

⓮タスクバー

本機に付属のソフトウェアやコンピュータの設定をすばやく確認し、操作できるための機能をまとめた場所です。大きく4領域があり、それぞれ［スタート］ボタン、クイック起動バー、使用中のソフトウェアや文書などを表示しておく機能をもつ領域、Windows Meに関連する機能を表示しておくタスクトレイに分かれます。



［スタート］ボタン

ここをマウスでクリックすると、本機に付属のソフトウェアを起動したり、本機のさまざまな機能を使うためのメニューが表示されます。まずはここをクリックして始めてください。

クイック起動バー

ここに表示されているアイコンをクリックすると、登録されているソフトウェアが起動します。

ウィンドウのボタン表示

使用中のソフトウェアや文書などがここにボタンとして表示されます。
デスクトップ画面上にソフトウェアや文書などが表示されていなくても、このボタンをクリックすると画面にそのソフトウェアや文書などが表示されます。

タスクトレイ

本機を起動したときに自動的に使えるようになったWindows Meの機能がここに表示されます。日本語入力システム（MS-IMEツールバー）や時計表示などがあります。

ちょっと一言

アイコンとは

画面上に表示されるソフトウェア、文書、画像などを表す絵記号のことです。それぞれの固有のデザインにより、ソフトウェア、文書、画像などの種類がわかりやすくなっています。

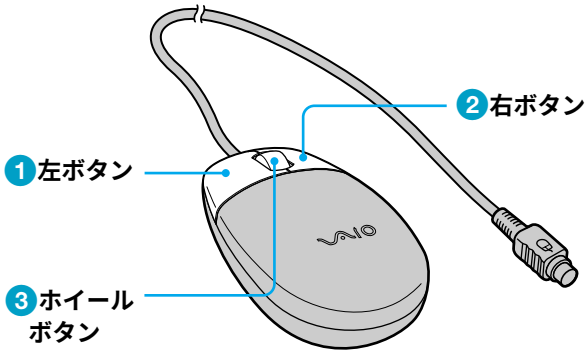
ウィンドウとは

デスクトップ画面上にある「マイコンピュータ」や「マイドキュメント」のアイコンをマウスで2回クリック（「ダブルクリック」と言います）したとき、デスクトップ画面に表示される枠で囲まれた領域を「ウィンドウ」と言います。文書や画像を作成するときもウィンドウで作業します。

マウスの使いかたを練習する

本機を操作するときは、キーボードのほかにマウスを使います。マウスのはたらきを理解して、その使いかたをマスターすることが、本機を使いこなす第一歩になります。

マウスの各部のなまえとはたらき



1 左ボタン

文書や画像、ソフトウェアなどを選んだりするときに押します。
マウスを使うときは、主にこのボタンを使います。

2 右ボタン

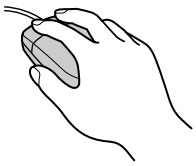
文書や画像をコピーするなど、さまざまな操作や設定をすぐに行うためのメニューを表示するときに押します。

3 ホイールボタン

ウィンドウを移動するときなどに、このボタンを使うと、左ボタンを使うよりも楽に操作できます。
ホイールボタンについて詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの使いかた］をクリックして、［基本的な使いかた］→［マウスの使いかたを練習する］→［ホイールボタンの使いかた］の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

マウスの持ちかた

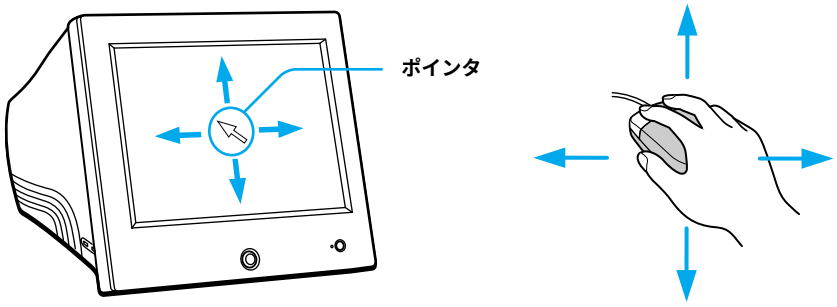
マウスは強く握ったり、押しつけたりせず、手のひらを軽く乗せるようにします。また、ボタンをクリックしやすいように、指先をボタンに乗せてください。



ここからは1〜7の手順に従ってマウスの使いかたを練習してみましょう。

1 マウスを動かす

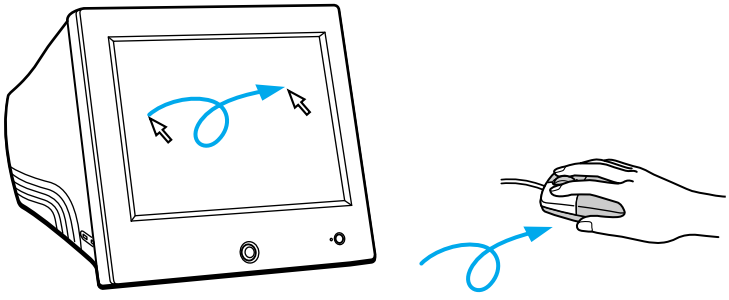
マウスを動かすと、その動きに合わせてデスクトップ画面上の↖(ポインタ)も同じ方向に移動します。



ポインタとは

マウスを動かすと、画面上に表示されている ↖ が動きます。この矢印を「ポインタ」と言います。ポインタを目的の位置まで動かして左ボタン、右ボタン、またはホイールボタンを押すことで、さまざまな命令をコンピュータに伝えることができます。

机の上など平らな場所に置き、滑らせるように動かします。マウスを動かすときは、腕全体を使うようにします。



大きく動かすときは

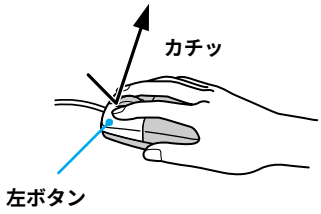
マウスを動かしていると、机の端まで行ってしまうことがあります。このようなときは、マウスを持ち上げて元の位置に戻し、また同じ方向に動かします。マウスを持ち上げている間は、ポインタは動きません。

次のページへつづく

2 クリックする

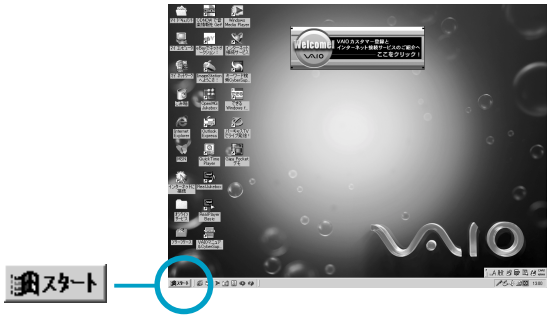
左ボタンをカチッと1回押してすぐ離すことです。

スタート などのボタンを押したり、メニューを選ぶときなどに使います。



ためしに、スタート をクリックしてみましょう。

1 マウスを動かして、↖（ポインタ）をデスクトップ画面左下の スタート の上に合わせる。



2 マウスの左ボタンを押す（クリックする）。

「スタート」メニューが表示されます。

3 ポイントする

ポイントを希望の位置に合わせることです。メニューの項目を選ぶときなどに使います。ためしに スタート からWindows Meのヘルプをポイントしてみましょう。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックする。

「スタート」メニューが表示されます。

2 マウスを上に動かして、（ポインタ）をヘルプの上に動かす。

3 「 ヘルプ」の上でマウスの左ボタンを押す（クリックする）。

Windows Meの「ヘルプとサポート」が表示されます。

次のページへつづく

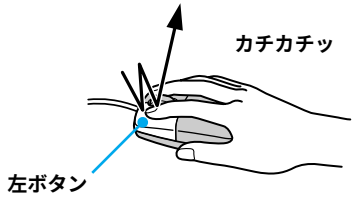
ちょっと一言

「ヘルプとサポート」の画面を閉じるには、画面右上の [閉じる] ボタン）をクリックします。

4 ダブルクリックする

左ボタンをカチカチッと2回すばやく押してすぐ離すことです。

ソフトウェアを実行したり、作成した文書を開くときなどに使います。



ためしに（マイコンピュータ）をダブルクリックしてみましょう。

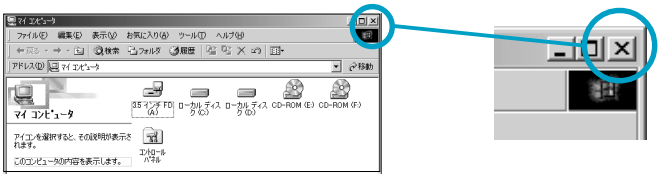
1 マウスを動かして（ポインタ）を（マイコンピュータ）の上に合わせる。

2 マウスの左ボタンを2回すばやく押す（ダブルクリックする）。

「マイコンピュータ」の内容が表示されます。

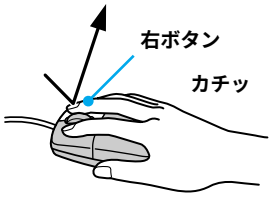
ちょっと一言

「マイコンピュータ」のウィンドウを閉じるには、画面右上の［閉じる］ボタンをクリックします。



5 右クリックする

右ボタンを1回押してすぐ離すことです。押したときのポインタの位置によって、さまざまな内容のショートカットメニューが表示されます。



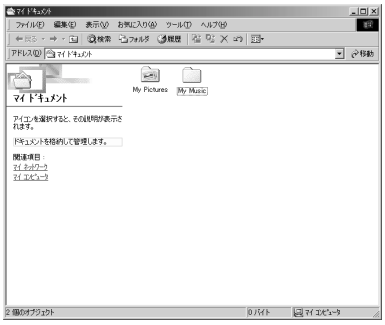
ためしに（マイドキュメント）のウィンドウを右クリックしてみましょう。

1 マウスを動かして、（ポインタ）を（マイドキュメント）の上に合わせる。

次のページへつづく

2 マウスの左ボタンを2回すばやく押す（ダブルクリックする）。

「マイドキュメント」ウィンドウが表示されます。



3 マウスを動かして、（ポインタ）を （マイドキュメント）のウィンドウのどこかに合わせる。

4 マウスの右ボタンを押す（右クリックする）。

ショートカットメニューが表示されます。

ちょっと一言

表示されたメニューのことを「ショートカットメニュー」と言います。
ショートカットメニューは、メニュー以外のデスクトップ画面上をクリックすると消えます。

5 ショートカットメニューから［新規作成］に（ポインタ）を合わせる。

さらにメニューが横にならびます。このメニューを「サブメニュー」と言います。

6 サブメニューの［フォルダ］に（ポインタ）を合わせてマウスの左ボタンを押す（クリックする）。

新しいフォルダができます。

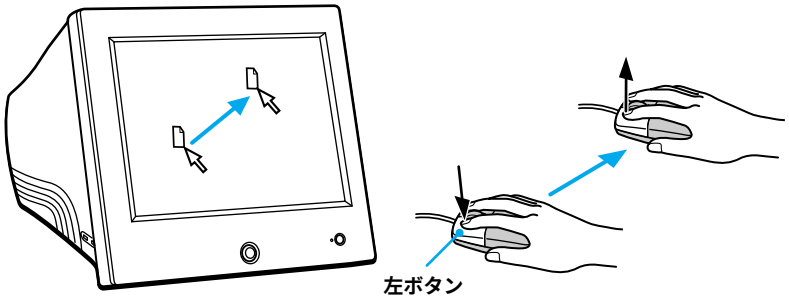
ちょっと一言

自分で作成した文書や画像を保存する場所を「フォルダ」と言います。目的に合わせて、フォルダには名前を付けることができます。ここではそのまま「新しいフォルダ」にしておきます。

次のページへつづく

6 ドラッグする

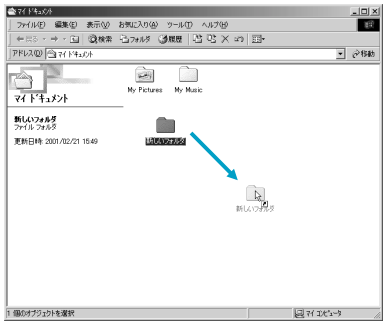
マウスの左ボタンを押したまま、マウスを動かしてからボタンを離すことです。
文書や画像を移動するときなどに使います。



ためしに手順5で作った「新しいフォルダ」をドラッグしてみましょう。

1 （新しいフォルダ）に（ポインタ）を合わせて、マウスの左ボタンを押したまま、マウスを移動する（ドラッグする）。

「新しいフォルダ」が移動します。



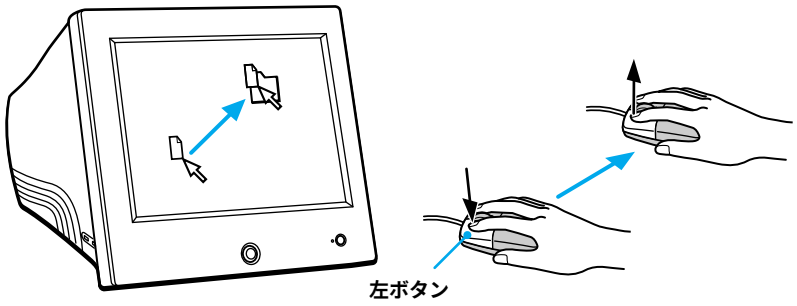
2 移動したい位置まできたら、マウスのボタンを離す。

ちょっと一言

を元の位置に戻すには の上にポインタを合わせ、元の位置までドラッグします。

7 ドラッグアンドドロップする

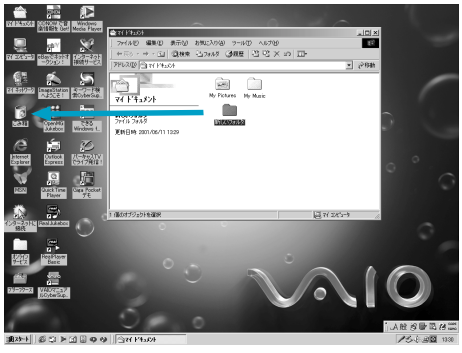
文書や画像などをドラッグして、フォルダやソフトウェアのアイコンやウィンドウなどの上でマウスのボタンを離すことです。
マウスで選んだ文字や画像を他の文書に追加したり、文書などをその文書などを作成したソフトウェアのアイコンに重ね合わせてソフトウェアを起動し、内容を見たりします。



ためしに手順6で使った「新しいフォルダ」をドラッグアンドドロップしてみましょう。

（新しいフォルダ）を（ごみ箱）に移動する（ドラッグアンドドロップする）。

「新しいフォルダ」がごみ箱に移動し、アイコンが から に変わります。
（ごみ箱の中に紙くずが入ります。）



ちょっと一言

「マイドキュメント」のウィンドウを閉じるには、ウィンドウ右上の（[閉じる] ボタン）をクリックします。

これでマウスの使いかたの練習は終わりです。使えるようになるまで何度も練習し、マウスに慣れましょう。

ウィンドウの基本操作を練習する

「ウィンドウ」とは、Windows Meでさまざまな操作をするときの画面のことです。
ここでは、ウィンドウの基本操作を練習しましょう。

ちょっと一言

「ウィンドウ」は日本語で「窓」の意味です。画面の形が窓に似ています。

ここからは1～7の手順に従って、ウィンドウの基本操作を練習してみましょう。

1 ウィンドウを開く

ためしに（マイコンピュータ）のウィンドウを開いてみましょう。

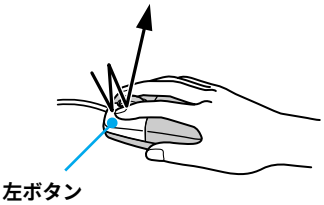
1

マウスを動かして、ポインタを（マイコンピュータ）の上に合わせる。

2

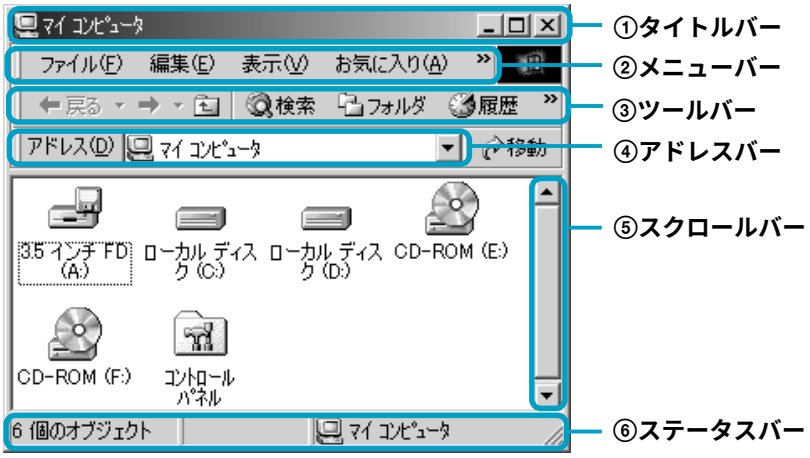
マウスの左ボタンをダブルクリックする。

「マイコンピュータ」ウィンドウが開きます。



ウィンドウの各部のなまえとはたらき

（マイコンピュータ）をダブルクリックするとウィンドウが開きます。中央にはマイコンピュータの中にある各種の装置などのフォルダがあります。
ここでは、ウィンドウの各部のなまえとはたらきを覚えましょう。



① タイトルバー

ウィンドウのなまえを表示します。ここでは（マイコンピュータ）を選択したので「マイコンピュータ」と表示されます。

② メニューバー

ウィンドウの中にある各装置を利用したり、内容を変更したりするときに使う機能が一列になって配置されます。

③ ツールバー

メニューバーと同様のはたらきをしますが、特によく使う機能がアイコン表示されます。

④ アドレスバー

各種のフォルダや文書などは、どこにあるかによって住所に相当する位置づけがされています。現在開いているウィンドウがコンピュータのどこにあるかを示します。

⑤ スクロールバー

ウィンドウの中にたくさんのフォルダなどがあって一度に表示できない場合に表示されます。このバーにポインタを合わせて上下に動かすか、上下の をクリックすると、隠れているフォルダなどを表示できます。

⑥ ステータスバー

タイトルバーの機能に加え、ウィンドウの中にあるフォルダや文書などがいくつあるかなど、ウィンドウ内の状況を示します。

次のページへつづく

複数のウィンドウを開くには

ウィンドウは2つ以上同時に開くこともできます。ウィンドウを複数開くと、このあとに練習する、ファイルを移動したり、コピーするといった操作をするときに便利です。

ここでは「マイコンピュータ」ウィンドウのほかに「ごみ箱」ウィンドウを開いてみましょう。

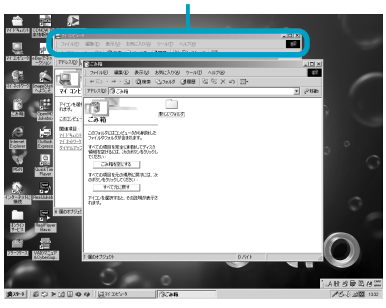
（ごみ箱）をダブルクリックする。

「ごみ箱」ウィンドウが表示されます。

複数のウィンドウを切り替えるときは

使いたいウィンドウを最前面に表示させます。マウスを動かし、タイトルバーなど、切り替えたいウィンドウのいずれかの部分をクリックします。

この部分のどこかをクリックする。



「ごみ箱」ウィンドウが使える状態

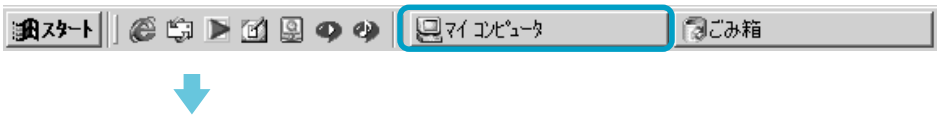
「マイコンピュータ」ウィンドウが使える状態

ちょっと一言

最前面に表示されているウィンドウは、タイトルバーが青い色になります。この最前面に表示されているウィンドウのことを「アクティブなウィンドウ」と言います。

タスクバーを使って複数のウィンドウを切り替えるときは

マウスを動かし、タスクバーに表示されているウィンドウのボタンの中から、切り替えたいウィンドウのボタンにポインタを合わせ、クリックします。



上の「マイコンピュータ」ウィンドウが使える状態になります。

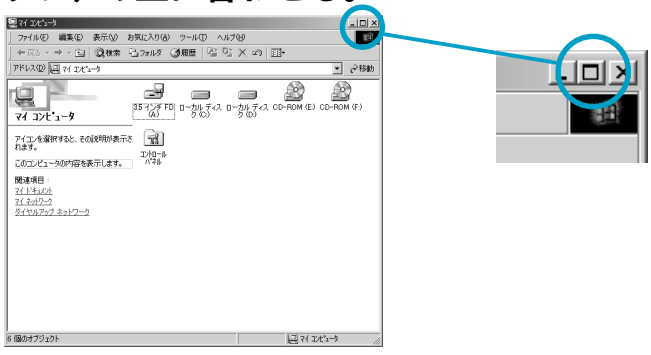
ちょっと一言

タスクバーに表示されているボタンをクリックすることは、デスクトップ画面上で完全に隠れて見えないウィンドウを最前面に出すときに便利です。

2 ウィンドウを最大化する

ウィンドウをデスクトップ画面いっぱいに広げて表示させることです。
ためしに手順1で開いた「マイコンピュータ」ウィンドウを最大化してみましょう。

1 マウスを動かして、ポインタをウィンドウ右上の □（[最大化] ボタン）の上に合わせる。



次のページへつづく

2 （[最大化] ボタン）をクリックする。

「マイコンピュータ」ウィンドウがデスクトップ画面いっぱいに広がって表示されます。

このとき、（[最大化] ボタン）が （[元のサイズに戻す] ボタン）になります。

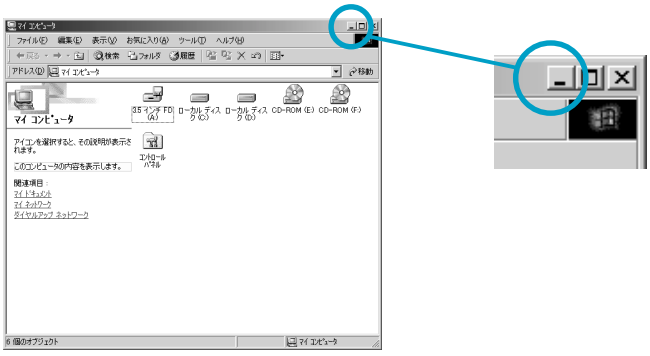
最大化したウィンドウを元のサイズに戻すには

1. **マウスを動かして、ポインタをウィンドウ右上の （[元のサイズに戻す] ボタン）の上に合わせる。**
2. **（[元のサイズに戻す] ボタン）をクリックする。**
   「マイコンピュータ」ウィンドウが、最大化する前のサイズに戻ります。

3 ウィンドウを最小化する

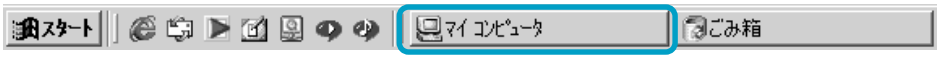
ウィンドウをデスクトップ画面下のタスクバーに収納することです。
ためしに手順1で開いた「マイコンピュータ」ウィンドウを最小化してみましょう。

1 マウスを動かして、ポインタをウィンドウ右上の（[最小化] ボタン）の上に合わせる。



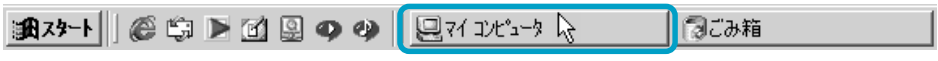
2 （[最小化] ボタン）をクリックする。

「マイコンピュータ」ウィンドウが最小化され、タスクバーにボタンとして表示されます。



最小化したウィンドウを元に戻すには

❶ マウスを動かして、タスクバーの中にあるボタンの上に合わせる。



❷ ボタンをクリックする。

「マイコンピュータ」ウィンドウが開いて、最小化する前のサイズに戻ります。

次のページへつづく

「閉じる」と「最小化」の違い

ウィンドウを閉じる（80ページ）と、そのウィンドウはデスクトップ画面から消えます。ウィンドウを最小化すると、そのウィンドウはデスクトップ画面からは見えなくなりますが、タスクバーにボタンとして残ります。ウィンドウを一時的に見えなくするときは、「最小化」の方が便利です。

ちょっと一言

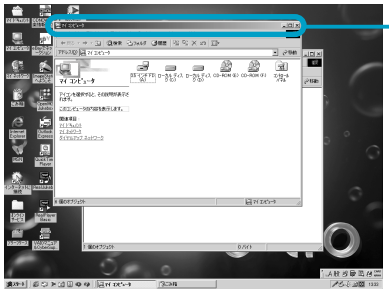
デスクトップ画面左下の（デスクトップの表示）をクリックすると、すべてのウィンドウを最小化できます。さらにもう一度（デスクトップの表示）をクリックすると、最小化したウィンドウが元のサイズに戻ります。

4 ウィンドウを動かす

ウィンドウをデスクトップ画面上で自由に移動できます。ウィンドウを開いたときに、ウィンドウの下に隠れてしまったアイコンをクリックしたいときなどにはウィンドウを動かします。

ためしに手順1で開いた「マイコンピュータ」ウィンドウを動かしてみましょう。

1 マウスを動かして、ポインタをタイトルバーの上に合わせる。



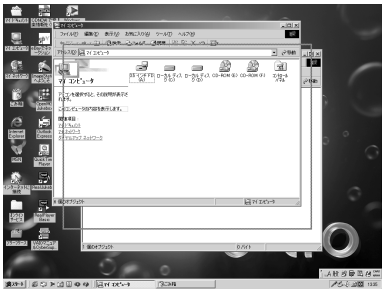
このいずれかの場所にポインタを合わせる。

ちょっと一言

タイトルバーの中央付近の、文字や絵のない部分にポインタを合わせてください。タイトルバーの右端や左端をクリックすると、ウィンドウが移動しないことがあります。

2 マウスの左ボタンを押したまま、マウスを移動する（ドラッグする）。

「マイコンピュータ」ウィンドウが移動します。



3 移動したい位置まで来たら、マウスのボタンを離す。

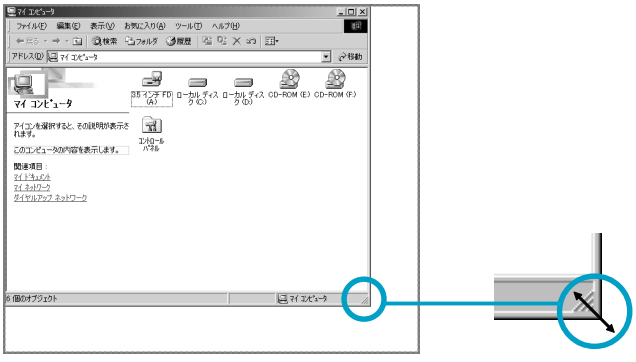
5 ウィンドウのサイズを変える

ウィンドウのサイズが小さかったり、大きかったりするときは、ウィンドウのサイズを変えられます。

ためしに手順1で開いた「マイコンピュータ」ウィンドウのサイズを変えてみましょう。

1 マウスを動かして、ポインタをウィンドウの角に合わせる。

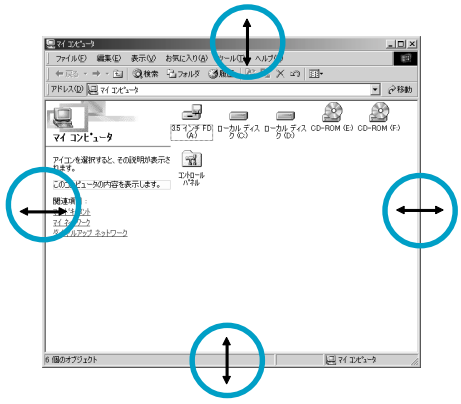
ポインタの形が ↘ に変わります。



次のページへつづく

ちょっと一言

ウィンドウの大きさは角以外にも、4辺をドラッグすることで変えられます。

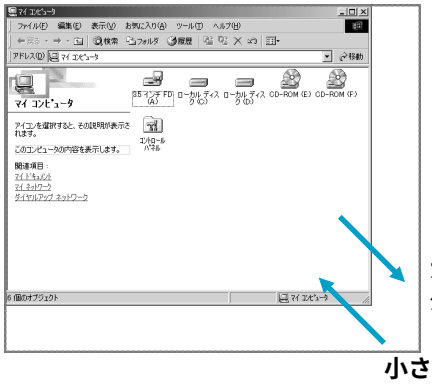


ご注意

ウィンドウが最大化されて表示されているときは、ウィンドウのサイズを変更することはできません。

2 マウスの左ボタンを押したまま、マウスを移動する（ドラッグする）。

ウィンドウのサイズが変わります。
サイズを大きくしたいときにはウィンドウの外側に、小さくしたいときにはウィンドウの内側にドラッグします。



3 希望の大きさになったらマウスのボタンを離す。

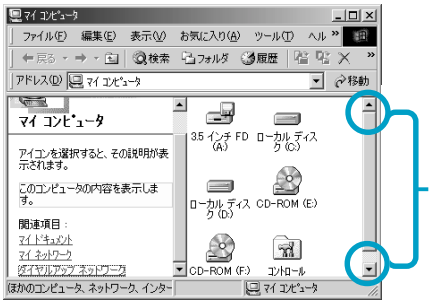
6 見えない部分を表示する（スクロールする）

ウィンドウのサイズが小さいとき、見えない部分をマウスを使って表示できます。
これを「スクロールする」と言います。
ためしに手順1で開いた「マイコンピュータ」ウィンドウの見えない部分をスクロールして表示してみましょう。

1 ウィンドウの右側にスクロールバーが表示されていないときは、表示されるまで、ウィンドウを小さくする。

ウィンドウの右側にスクロールバーが表示されます。

2 マウスを動かして、ポインタをスクロールバーの ▲ または ▼ の上に合わせる。



いずれかにポインタを合わせる。

ちょっと一言

ウィンドウの内容がすべて表示されているときは、スクロールバーは表示されません。また、ウィンドウの下側にスクロールバーが表示されることもあります。

3 マウスの左ボタンを押したままにする。

▲ を押すとウィンドウの上の方に隠れている部分が表示されます。
▼ を押すとウィンドウの下の方に隠れている部分が表示されます。

4 マウスのボタンを離す。

スクロールが止まります。

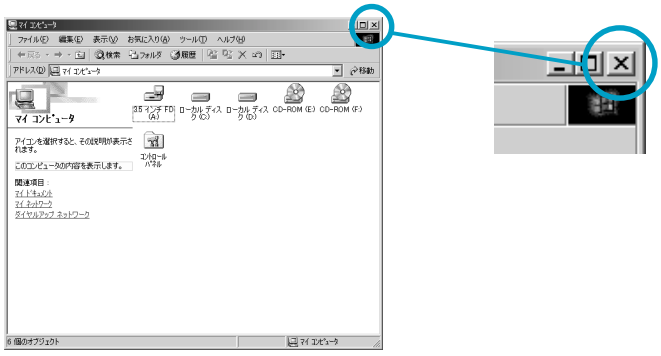
ちょっと一言

マウスのホイールボタンを使ってスクロールすることもできます。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの使いかた］をクリックして、［基本的な使いかた］→［マウスの使いかたを練習する］→［ホイールボタンの使いかた］の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

7 ウィンドウを閉じる

最後に「マイコンピュータ」と「ごみ箱」ウィンドウを閉じてみましょう。

1 **マウスを動かして、ポインタを「マイコンピュータ」ウィンドウの［閉じる］ボタンの上に合わせる。**



2 **［閉じる］ボタンをクリックする。**

「マイコンピュータ」ウィンドウが閉じます。
「ごみ箱」ウィンドウも同じ操作を行い、ウィンドウを閉じます。

これでウィンドウの基本操作の練習は終わりです。ウィンドウは本機に付属のソフトウェアなどにもたくさん使われています。何度も練習してソフトウェアを楽に使いこなせるようになりましょう。

文字の入力を練習する（キーボードの使いかた）

ここでは、文字の入力のしかたについて説明します。文字を入力するにはキーボードを使います。本機に付属している「ワードパッド」ソフトウェアを使って、文字入力を練習してみましょう。

ちょっと一言

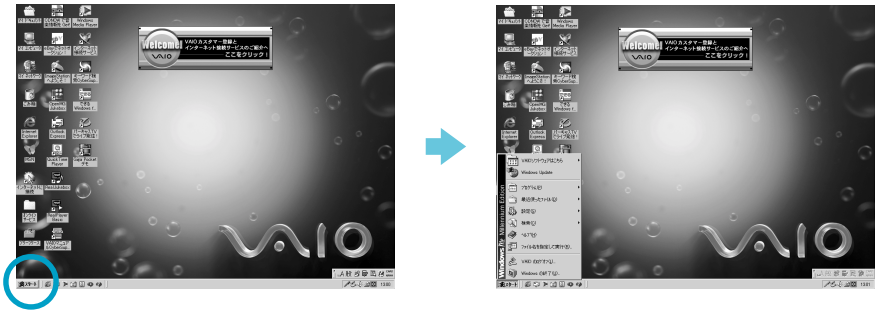
キーボード上の特殊なキーのなまえとはたらきについて詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの使いかた］をクリックして、［各部の説明］→［各部の説明：キーボード］の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

1 「ワードパッド」ソフトウェアを起動する

まず、「ワードパッド」ソフトウェアを起動します。

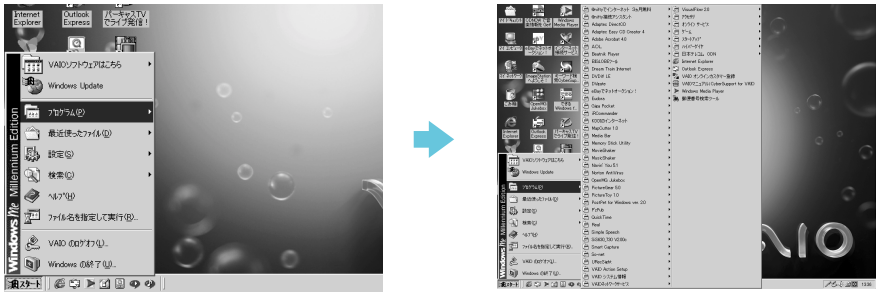
1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックする。

「スタート」メニューが表示されます。



2 表示された「スタート」メニューの中の［プログラム］にポインタを合わせる。

「スタート」メニューの右側に新しいメニューが表示されます。



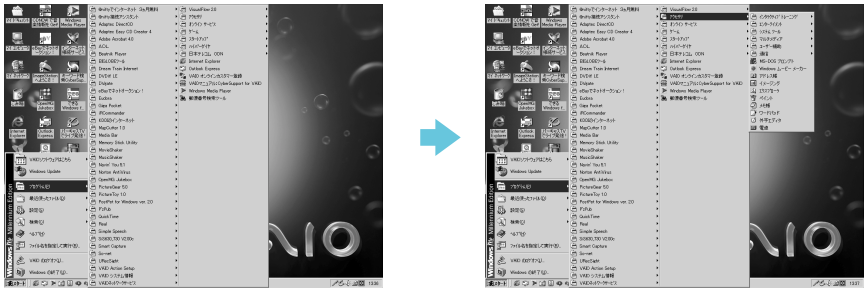
ちょっと一言

「スタート」メニューに表示される項目で［プログラム］のように右端に▶の付いたものは、ポインタを合わせると右側に新しいメニューが表示されます。

次のページへつづく

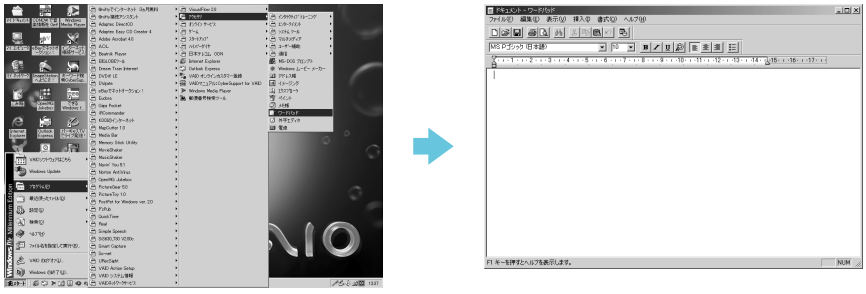
3 ［プログラム］の右側に表示されたメニューの中の［アクセサリ］にポインタを合わせる。

［アクセサリ］の右側にも新しいメニューが表示されます。



4 ［アクセサリ］の右側に表示されたメニューの中にある［ワードパッド］にポインタを合わせ、クリックする。

「ワードパッド」ソフトウェアが起動し、デスクトップ画面に「ワードパッド」ソフトウェアの画面が表示されます。



これで文字を入力する準備が整いました。

ちょっと一言

「ワードパッド」ソフトウェアの画面は使いやすいサイズに調節してください。（77ページ）

2 入力のしかたを選ぶ

キーボード上の各キーにはアルファベットやひらがなが印刷されていますが、ただキーを押しても、漢字やカタカナは入力できません。
入力したい文字に応じて、デスクトップ画面右下に表示されている「MS-IME ツールバー」を使って、入力文字を切り替える必要があります。

MS-IMEツールバーが表示されていないときは

デスクトップ画面右下のタスクトレイにある をクリックします。表示されたMS-IMEメニューの中の［ツールバーを表示］をクリックします。
MS-IMEツールバーについて詳しくは、付属の「Microsoft® Windows® Millennium Edition」クイックスタートガイドをご覧ください。

MS-IMEツールバー

ここでは例として、カタカナでの入力に切り替えてみましょう。

1 デスクトップ画面右下のMS-IMEツールバーの［␣A］にポインタを合わせ、クリックする。

文字入力選択メニューが表示されます。

2 文字入力選択メニューの中の［全角カタカナ］にポインタを合わせ、クリックする。

ツールバーの表示が［␣A］から［カ］に変わり、カタカナを入力できるようになります。

［␣A］から［カ］に変わる。

次のページへつづく

文字の入力を練習する（つづき）

日本語を入力する方法として、ローマ字入力方式とかな入力方式があります。
お好みに合わせて、入力方法を選んでください。
なお、お買い上げ時は、ローマ字入力に設定されています。

❑ ローマ字入力

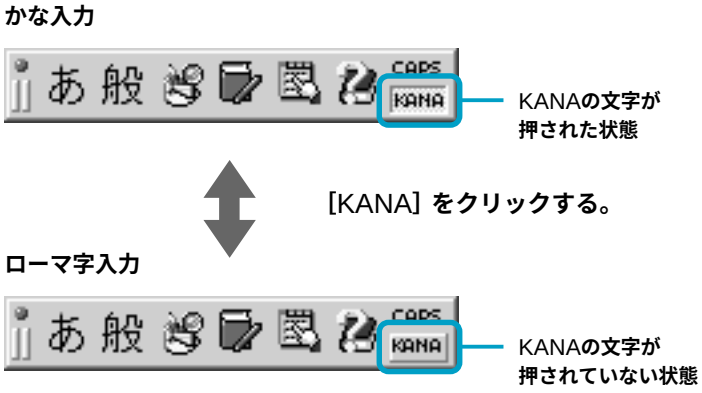
キーボード上のアルファベットを組み合わせて、ローマ字で日本語を入力する方法です。1文字を入力するために2つまたは3つのキーを組み合わせるので、操作が多少めんどうですが、英文タイプライターに慣れている方はこちらが便利です。

❑ かな入力

キーボード上の各キーに印刷されているひらがなを使って、日本語を入力する方法です。1文字につき1つのキーを押せばよいので操作は楽ですが、50音それぞれのキーの配置を覚える必要があります。

かな入力とローマ字入力を切り替えるには

MS-IMEツールバーの［KANA］をクリックするか Ctrl （コントロール）キーを押しながら Caps Lock 英数 （キャプスロック／英数）キーを押すと、ローマ字入力とかな入力とが切り替わります。



ちょっと一言

MS-IMEのツールバーは、状態により縮小したり、デスクトップ画面右下のタスクトレイに収納されたりします。

3 文字を入力する

次に、具体的に文字の入力のしかたを練習します。
「世界中にひろがったソニーVAIO PCV-RX52」という言葉を例に漢字、ひらがな、カタカナ、アルファベット、数字の順に入力していきます。

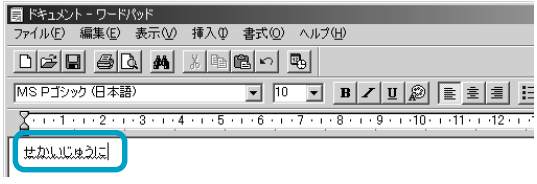
1

「世界中に」と入力する。（漢字入力）

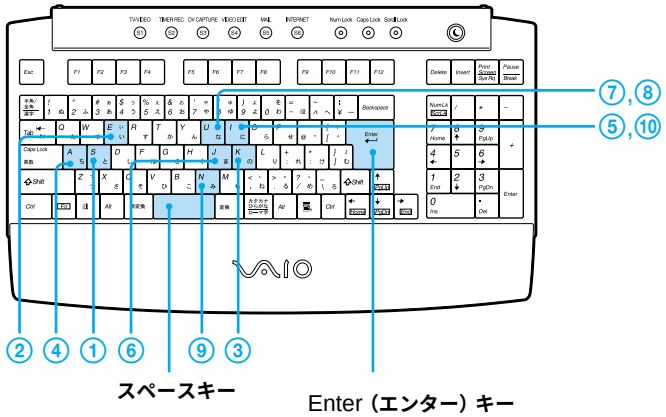
❶ MS-IMEのツールバーの［あ］をクリックして、［ひらがな］をクリックする。

ツールバーの表示が［あ］になり、ひらがなが入力できる状態になります。

❷ 「世界中に」の読みを入力する。



ローマ字入力の場合



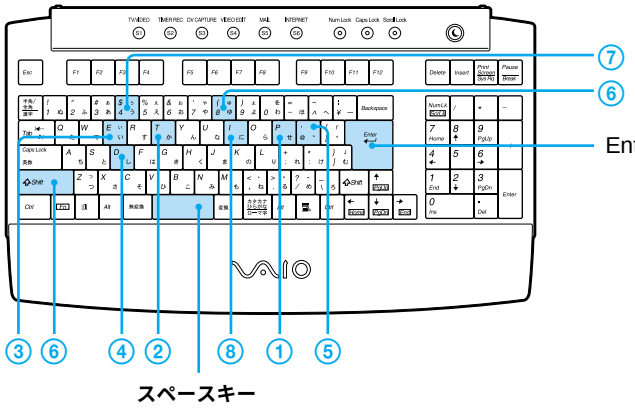
丸数字はキーを押す順番です。

① S（と）、② E（い）、③ K（の）、④ A（ち）、⑤ I（に）、⑥ J（ま）、⑦ U（な）、⑧ U（な）、⑨ N（み）、⑩ I（に）の順にキーを押します。

次のページへつづく

かな入力の場合

丸数字はキーを押す順番です。

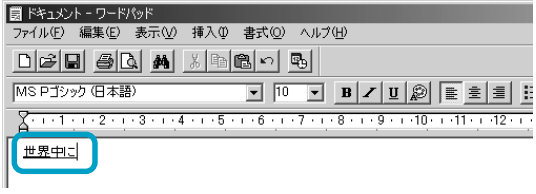


① P せ、② T か、③ E い い、④ D し、⑤ ' @ ゛（濁点）、⑥ (ゆ 8 ゆ Shift（シフトキーを押しながら (ゆ 8 ゆ を押します）、⑦ $ 4 う、⑧ ! に の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソル（画面上で点滅している「｜」のこと）がローマ字入力、かな入力とも入力位置に動きます。

❸ 　（スペース）キーを押す。

入力した読みに当てはまる漢字が表示されます。間違った漢字が表示されたときは、正しい漢字が表示されるまで 　（スペース）キーを押します。



ちょっと一言

「き」など同音異義の漢字がたくさんある場合は、変換候補が表示されるまで 　（スペース）キーを押し続けます。

❹ Enter（エンター）キーを押す。

変換が確定します。

間違って入力したときは

次のキーを使って修正します。

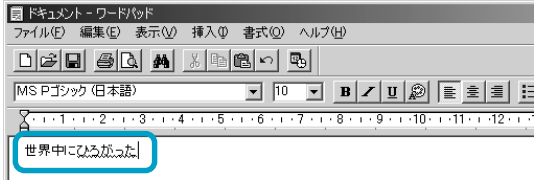
Backspace **（バックスペース）キー：** カーソルの直前の1字を消し、カーソルの位置が戻ります。

Delete **（デリート）キー：**カーソルのある位置の1字を消します。

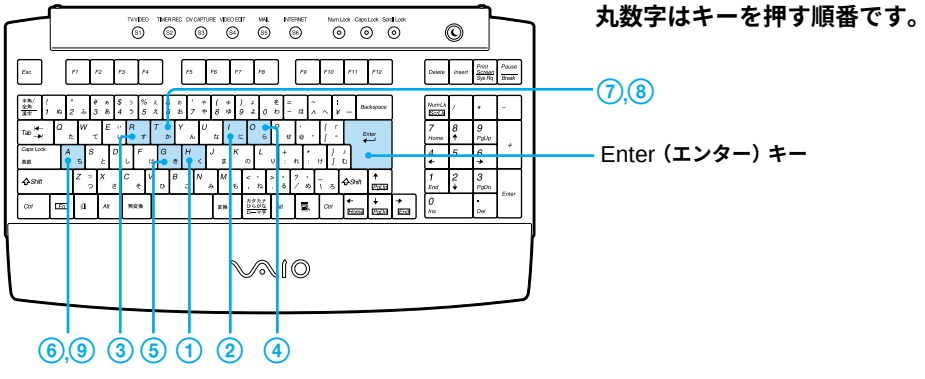
Esc **（エスケープ）キー：**確定していない文字をすべて消します。

2 「ひろがった」と入力する。（ひらがな入力）

❶ 「ひろがった」の読みを入力する。



ローマ字入力の場合



①H く、②I に、③R す、④O ら、⑤G き、⑥A ち、⑦T か、⑧T か、⑨A ち

の順にキーを押します。

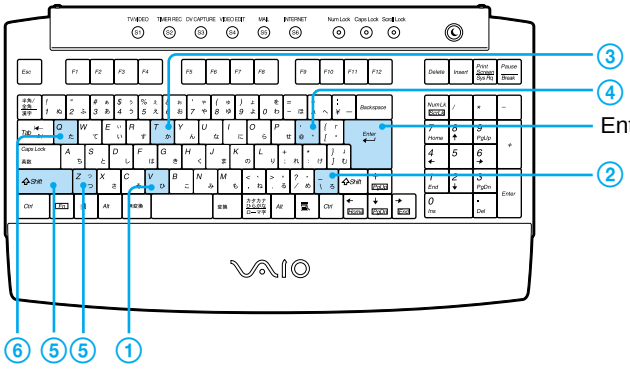
次のページへつづく

ちょっと一言

小さい「っ」を入力するときは、「かった」のように次の文字が「た」であれば T か キーを2回押します。

かな字入力の場合

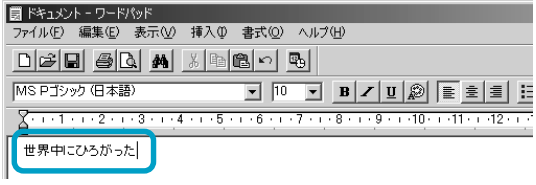
丸数字はキーを押す順番です。



①V ひ、②ー ろ、③T か、④' @ 〝（濁点）、⑤Z っ Shift（シフトキーを押しながらZ っを押します）、⑥Q た の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

2 Enter（エンター）キーを押す。



変換する必要がないので、 （スペース）キーを押す必要はありません。

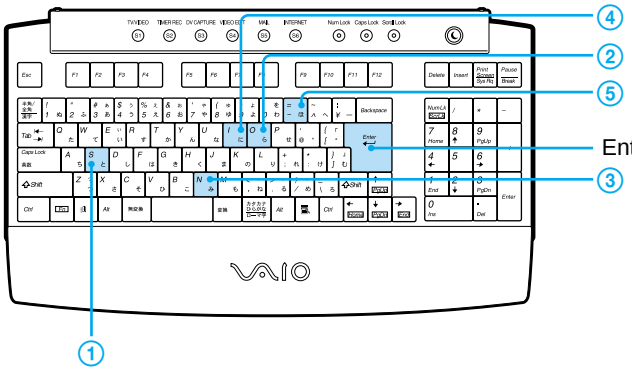
3 「ソニー」と入力する。（カタカナ入力）

1 MS-IMEのツールバーの［あ］をクリックして、［全角カタカナ］をクリックする。

ツールバーの表示が［カ］になり、カタカナが入力できる状態になります。

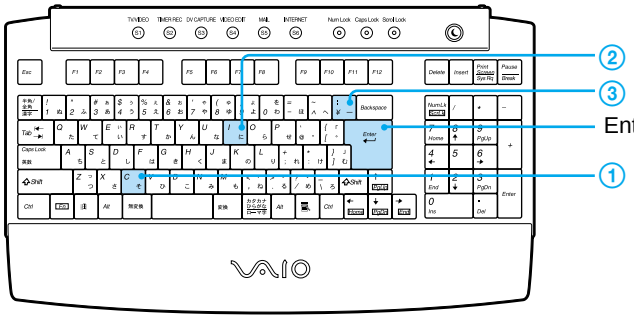
❷「ソニー」の読みを入力する。

ローマ字入力の場合



①S（と）、②O（ら）、③N（み）、④I（に）、⑤=（－ ほ）（ハイフン）の順にキーを押します。

かな入力の場合



①C（そ）、②I（に）、③ ¥ （ー）の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

次のページへつづく

3 Enter **（エンター）キーを押す。**

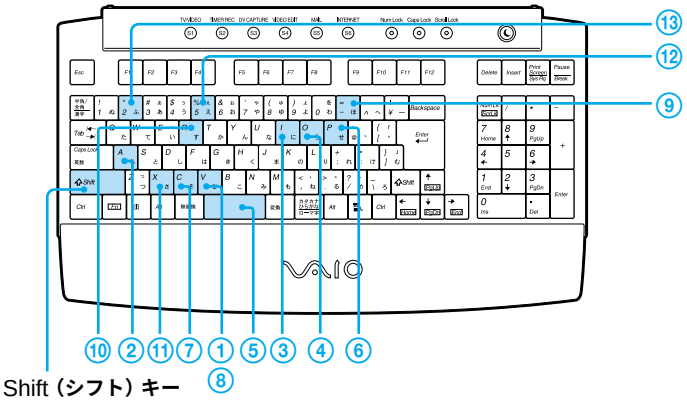
変換する必要がないので、［　　］（スペース）キーを押す必要はありません。

4 「VAIO PCV-RX52」と入力する。（アルファベットと数字の入力）

1 MS-IMEのツールバーの［カ］をクリックして、［直接入力］をクリックする。

ツールバーの表示が［␣A］になり、アルファベットが入力できる状態になります。

2 Shift （シフト）キーを押しながら①V ひ、②A ち、③I に、④O ら の順にキーを押し、次に⑤［　　］（スペース）のみを押す。再び Shift （シフト）キーを押しながら⑥P せ、⑦C そ、⑧V ひ の順にキーを押し、⑨= ほ キーを押す。もう一度 Shift （シフト）キーを押しながら⑩R す、⑪X さ を押し、最後に⑫% 5 え、⑬" 2 ふ の順にキーを押す。



丸数字はキーを押す順番です。

変換する必要がないので、[　　]（スペース）キーを押す必要はありません。

ちょっと一言

アルファベットの小文字や数字を入力するときは、[Shift]（シフト）キーを押す必要はありません。

これで「世界中にひろがったソニーVAIO PCV-RX52」と入力できました。

キーボード上にない文字や記号の入力のしかたや、漢字に変換する文節の位置の調節のしかたなどについて詳しくは、付属の「Microsoft® Windows® Millennium Edition」クイックスタートガイドまたはMS-IMEのヘルプをご覧ください。

MS-IMEのヘルプを見るには

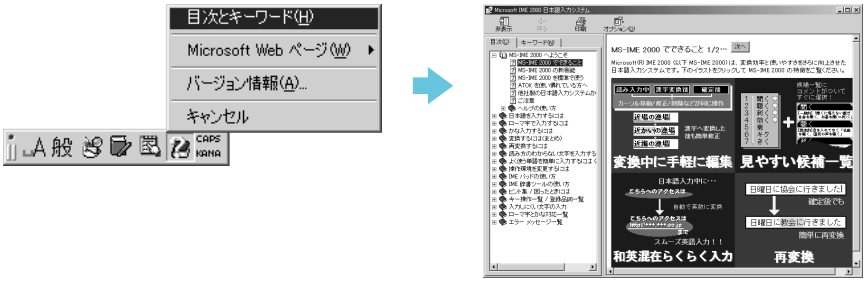
1 MS-IMEツールバーの右にある をクリックする。

メニューが表示されます。

MS-IMEツールバー

2 [目次とキーワード]をクリックする。

「Microsoft IME 2000 日本語入力システム」画面が表示されます。

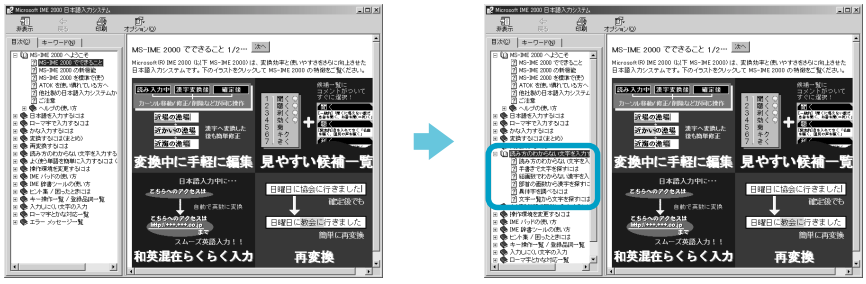


次のページへつづく

文字の入力を練習する（つづき）

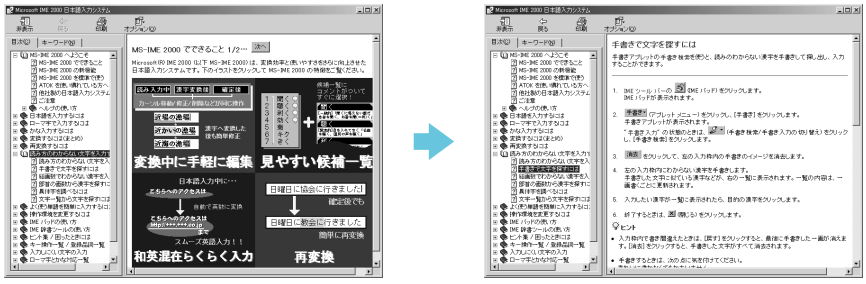
3 左側の「目次」の一覧から見たい項目をダブルクリックする。

さらに詳しい項目が表示されます。



4 見たい項目をクリックする。

参照したい項目が右側に表示されます。



ちょっと一言

「Microsoft IME 2000 日本語入力システム」画面を閉じるには、画面右上の ✕（[閉じる] ボタン）をクリックします。

「～」や「~」を入力するには

- 全角の「～」を入力するには、MS-IMEツールバーで「ひらがな」を選んで（87ページ）、ひらがなで「から」と入力し、「～」が選ばれるまで スペースキーを押すか、Shift（シフト）キーを押しながら ~ キーを押します。
- インターネットのホームページのアドレスなどによく使われる半角の「~」（チルダ）を入力するには、MS-IMEツールバーで「直接入力」（90ページ）または「半角英数」を選び、Shift（シフト）キーを押しながら ~ キーを押します。

4 作成した文書を保存する

「3文字を入力する」で作成した文書を保存してみましょう。

1 「ワードパッド」のツールバーの（上書き保存）をクリックする。

「名前を付けて保存」ウィンドウが表示されます。

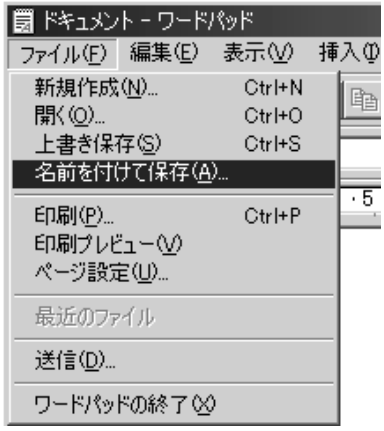
2 作成した文書に名前（ファイル名）をつける。

ファイル名の部分は「ドキュメント」の文字が反転表示されています。
ここでは「VAIO」と名前をつけて保存してみます。
文字が反転した状態のまま「VAIO」と入力します。

文字の入力のしかたについては、「3文字を入力する」（85ページ）をご覧ください。

ちょっと一言

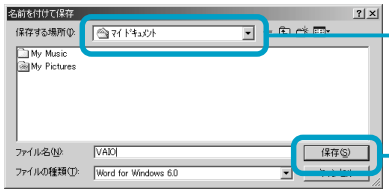
一度名前を付けると、「名前を付けて保存」ウィンドウは表示されず、そのまま上書きされて保存されます。
名前を変えて保存したいときは「ワードパッド」のウィンドウ上部の［ファイル］をクリックし、表示されるメニューから［名前を付けて保存］をクリックします。



次のページへつづく

3 保存場所を確認して 保存(S) をクリックする。

作成した文書が保存されます。
このように保存された文書や画像を「ファイル」と言います。



上の例では、「VAIO」ファイルは「マイドキュメント」に保存されました。このファイルをもう一度見るときはデスクトップ画面上の（マイドキュメント）をダブルクリックし、表示されたウィンドウの中から「VAIO」ファイルをダブルクリックします。

ちょっと一言

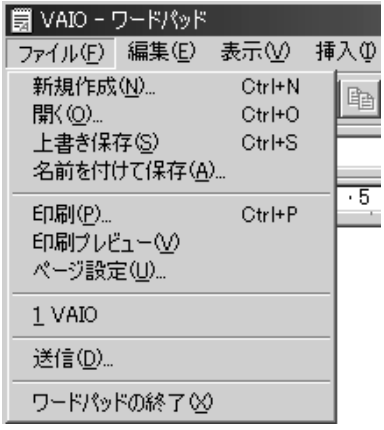
保存先は本機の他の場所やフロッピーディスクなどに変更することもできます。
フロッピーディスクへの保存について詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの使いかた］をクリックして、［基本的な使いかた］→［フロッピーディスクを使う］→［フロッピーディスクにデータをコピーする］の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

5 「ワードパッド」ソフトウェアを終了する

最後に「ワードパッド」ソフトウェアを終了します。

1 [ファイル] にポインタを合わせ、クリックする。

ファイルメニューが表示されます。



2 [ワードパッドの終了] にポインタを合わせ、クリックする。

「ワードパッド」ソフトウェアが終了します。

ちょっと一言

ウィンドウ右上にある ✕ ([閉じる] ボタン) をクリックしても終了できます。

「ワードパッド」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「ワードパッド」のヘルプをご覧ください。

「ワードパッド」のウィンドウ上部の [ヘルプ] をクリックし、表示されるメニューから [トピックの検索] をクリックすると「ワードパッド」のヘルプが表示されます。

ファイルの操作を練習する

ここでは、「文字の入力を練習する（キーボードの使いかた）」の手順4で保存したファイルを、さまざまに操作する練習をしましょう。

ちょっと一言

「ワードパッド」ソフトウェアなどで作成したファイルは、特に指定しない限り、（マイドキュメント）に保存されます。それぞれのファイルは のようにアイコンとして表示されます。

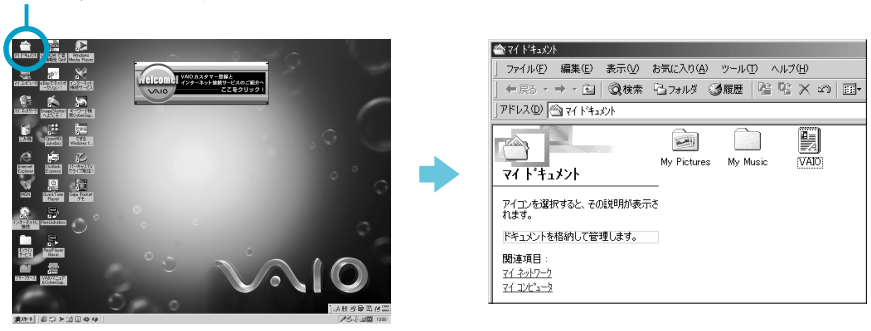
1 ファイルを開く

ためしに「文字入力を練習する」の手順4で保存したファイルを開いてみます。

1 デスクトップ画面左上の（マイドキュメント）にポインタを合わせ、ダブルクリックする。

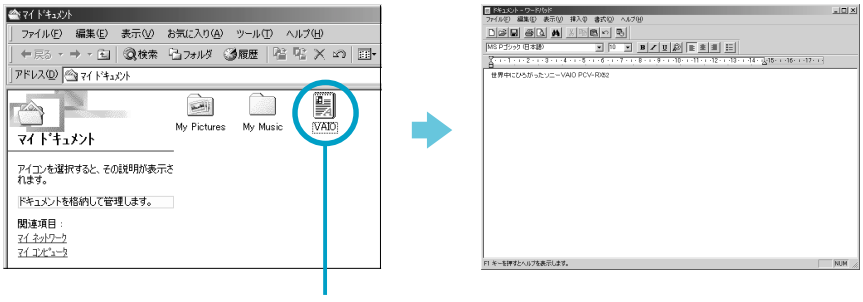
「マイドキュメント」ウィンドウが表示されます。ウィンドウの中に「文字の入力を練習する（キーボードの使いかた）」の手順4で作成した「VAIO」ファイルがアイコンで表示されます。

ここをダブルクリックする。



2 「VAIO」ファイルのアイコンにポインタを合わせ、ダブルクリックする。

「ワードパッド」ソフトウェアが起動し、「VAIO」ファイルのウィンドウが開きます。

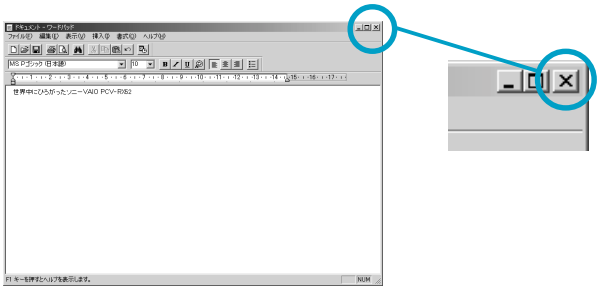


これをダブルクリックする。

ファイルを閉じるには

「VAIO」ファイルのウィンドウ右上の [×] にポインタを合わせ、クリックする。

「VAIO」ファイルのウィンドウが閉じ、「ワードパッド」ソフトウェアが終了します。



ファイルを開いても変更を加えなければ、終了してもファイルは新しく保存されません。

ちょっと一言

- ファイルの内容に変更があるときは、終了する前に、変更内容を保存するか、保存しないで終了するか確認するメッセージが表示されます。
- 「ワードパッド」ソフトウェアの「ファイル」メニューから［ワードパッドの終了］をクリックしても終了できます。

次のページへつづく

2 フォルダを作る

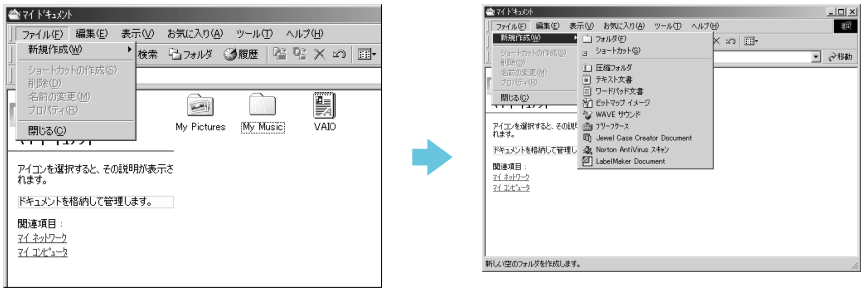
「フォルダ」は作成したファイルやソフトウェアを保存しておく場所です。
例えば、「お絵かき」フォルダや、「手紙」フォルダのように、種類や用途別に名前をつけてフォルダを作ってファイルを保存しておけばわかりやすく整理できます。
ためしに「マイドキュメント」の中にフォルダを作ってみます。

1 デスクトップ画面の「マイドキュメント」ウィンドウのどこかをクリックする。

「マイドキュメント」ウィンドウが最前面に表示されます。

2 「マイドキュメント」ウィンドウの上の［ファイル］をクリックし、表示されるメニューから［新規作成］にポインタを合わせる。

サブメニューが表示されます。

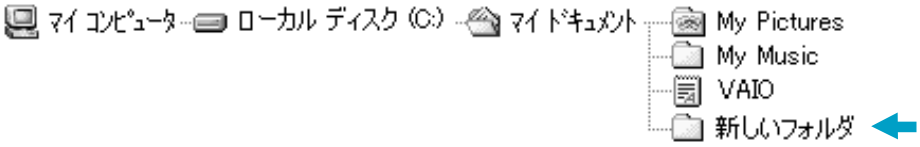


3 サブメニューから［フォルダ］をクリックする。

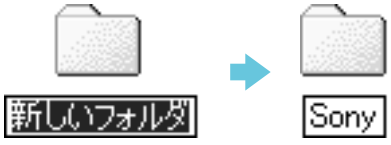
「マイドキュメント」ウィンドウの中に新しいフォルダが作成されます。

ちょっと一言

新しいフォルダは以下のところに作成されます。



4 新しいフォルダに「Sony」と名前を入力する。



ちょっと一言

- デスクトップ画面上でフォルダやファイルを作成すると、すぐ名前が付けられるようフォルダやファイルの名前の部分が黒く反転して表示されます。
  もし入力前にデスクトップ画面上のどこかをクリックすると、反転表示が解除され、再度名前の部分をクリックしないと名前を入力できません。
  反転表示が解除されたときは、次の手順で名前を入力します。
  ① 名前を入れたいフォルダのアイコンをクリックする。
  　アイコンと名前の部分の両方が反転表示されます。
  ② この状態で名前の部分をもう一度クリックする。
  　アイコンの反転表示だけが解除されて名前を入力できるようになります。
- フォルダやファイルの名前はデスクトップ画面上でいつでも変えることができます。

3 ファイルを移動する

ためしに手順2で作った「Sony」フォルダに、「ワードパッド」ソフトウェアで作った「VAIO」ファイルを移動してみましょう。

1 「マイドキュメント」ウィンドウの中にある「VAIO」ファイルにポインタを合わせ、クリックする。

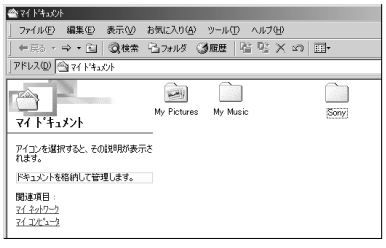
「VAIO」ファイルが選択され、反転表示されます。

2 マウスの左ボタンを押したまま、「VAIO」ファイルを「Sony」フォルダまでマウスを移動（ドラッグ）して重ねる。

「VAIO」ファイルの輪郭もポインタと一緒に移動します。

3 「Sony」フォルダが反転表示されたら、マウスの左ボタンを離す。

「VAIO」ファイルが「Sony」フォルダの中に移動します。



「VAIO」ファイルを見るには、「Sony」フォルダにポインタを合わせ、ダブルクリックします。「Sony」フォルダのウィンドウが開き、移動した「VAIO」ファイルが表示されます。

「マイドキュメント」ウィンドウに戻るには、ウィンドウ上部の 戻る をクリックします。

ここをクリックする。

4 ファイルをコピーする

作成した文書などのファイルはコピーすることができます。
ためしに「マイドキュメント」ウィンドウに別のフォルダを作って「VAIO」ファイルをコピーしてみましょう。

ちょっと一言

ファイルはわざわざ作成した文書を開かなくてもコピーすることができます。

1 「マイドキュメント」ウィンドウの中で右クリックする。

ショートカットメニューが表示されます。

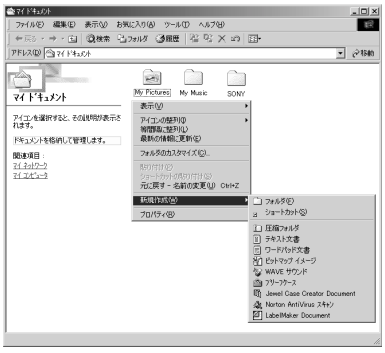
ちょっと一言

ここでは「2フォルダを作る」とは別のやりかたでフォルダを作ってみます。

次のページへつづく

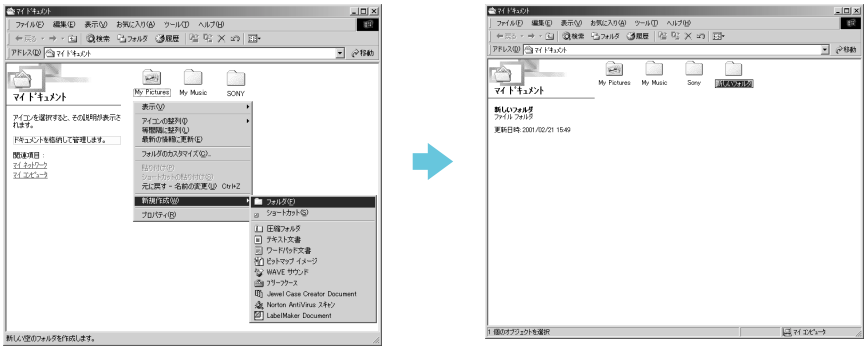
2 ショートカットメニューの［新規作成］にポインタを合わせる。

サブメニューが表示されます。



3 サブメニューの［フォルダ］をクリックする。

新しいフォルダが作成されます。



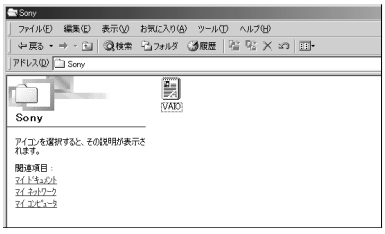
4 新しいフォルダに「太郎」と名前を付ける。

名前の付けかたについて詳しくは、「2フォルダを作る」の手順4（98ページ）をご覧ください。

「マイドキュメント」ウィンドウの中に「太郎」フォルダができます。

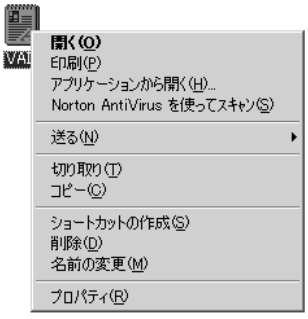
5 「Sony」フォルダをダブルクリックする。

「Sony」フォルダが開きます。



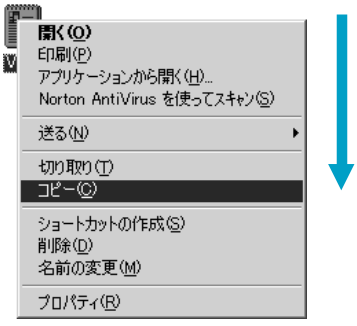
6 「VAIO」ファイルにポインタを合わせ、右クリックする。

ポインタの位置にショートカットメニューが表示されます。



7 [コピー] にポインタを合わせ、クリックする。

「VAIO」ファイルがコピーされます。

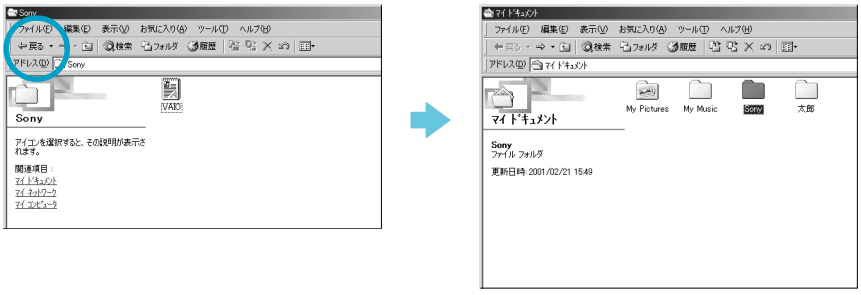


次のページへつづく

ファイルの操作を練習する（つづき）

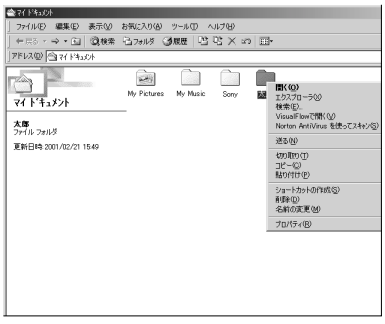
8 戻る をクリックする。

「マイドキュメント」ウィンドウに戻ります。



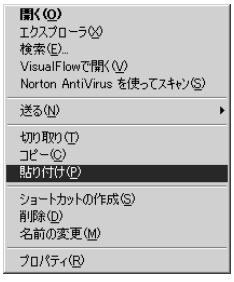
9 新しく作った「太郎」フォルダを右クリックする。

ショートカットメニューが表示されます。

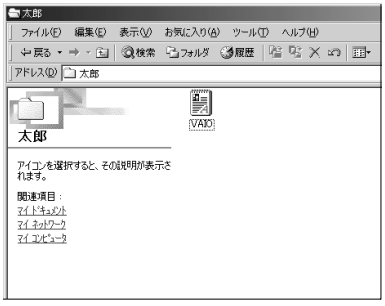


10 [貼り付け] にポインタを合わせ、クリックする。

「太郎」フォルダの中に「VAIO」ファイルが貼り付けられます。



コピーした「VAIO」ファイルを見るには、［太郎］フォルダをダブルクリックします。
「太郎」フォルダが開き、コピーされた「VAIO」ファイルが表示されます。

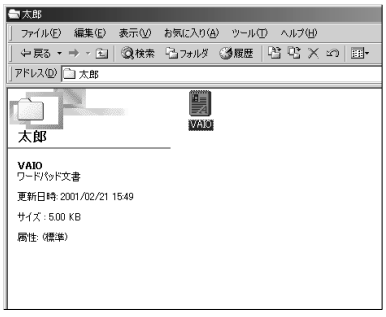


5 ファイルを削除する

いらなくなったファイルは削除することができます。ためしに手順4でコピーした「VAIO」ファイルを削除してみましょう。

1 「VAIO」ファイルにポインタを合わせ、クリックする。

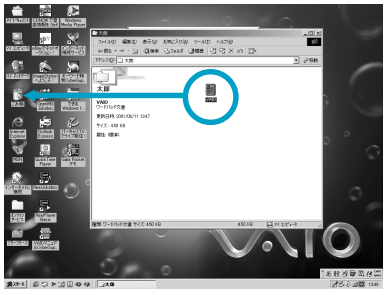
「VAIO」ファイルが選択され、反転表示されます。



次のページへつづく

2 マウスの左ボタンを押したまま、（ごみ箱）までマウスを移動（ドラッグ）し、（ごみ箱）に重ねる。

「VAIO」ファイルの輪郭がポインタと一緒に移動し、ファイルがごみ箱に入ります。



ちょっと一言

ファイルを移動（ドラッグ）中に、手がマウスの左ボタンから離れてしまったときは、そこにファイルが置かれた状態になっています。あわてず、その場所からあらためてファイルにポインタを合わせて、マウスの左ボタンを押して移動（ドラッグ）を続けてください。

ごみ箱を空にするには

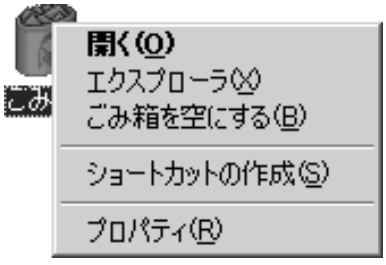
ごみ箱に移動したファイルは、ごみ箱の中から取り出すことができます。
ごみ箱の中のファイルを完全に消すには以下のように操作します。

ご注意

以下の操作を行うと、ファイルは完全に消去され復元することはできません。

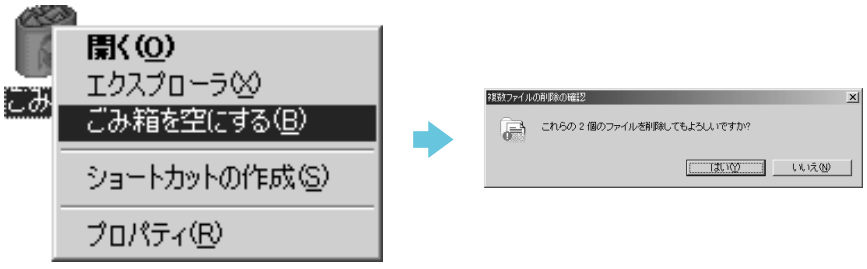
1 （ごみ箱）にポインタを合わせ、右クリックする。

ショートカットメニューが表示されます。



2 [ごみ箱を空にする]にポインタを合わせ、クリックする。

ファイルの削除を確認する画面が表示されます。



3 [はい(Y)]をクリックする。

ファイルが完全に削除されます。

ごみ箱アイコンが から に変わります。(ごみ箱の中の紙くずがなくなります。)

ちょっと一言

ファイルを削除するには、ファイルを右クリックし、ショートカットメニューで[削除]をクリックするという方法もあります。

カスタマー登録する／インターネットに接続する

この章では、オンラインでカスタマー登録する手順とインターネット接続サービスへのオンライン入会手順を説明します。

カスタマー登録する

カスタマー登録は必ず行ってください。
ここでは、オンラインでカスタマー登録する手順を説明します。

VAIOカスタマーご登録について

ソニーは「バイオ」をご所有のお客様へ必要な情報をお知らせし、充実したサポート・サービスをご提供するために、「VAIOカスタマーご登録」を行っていただくことをおすすめしています。ご登録のメリットについては、VAIOホームページ（http://www.vaio.sony.co.jp/）をご覧ください。
また、出荷時点で付属する保証書が提供する製品の保証期間はお買い上げ日から3か月です。ご登録を行っていただくことで、VAIOカスタマー専用デスクから、お買い上げ日より1年間有効な保証書と「VAIOカスタマーID」を記したご登録証「VAIO Customer's Card」をお送りします。（すでに「VAIO Customer's Card」をお持ちの方へはカードの送付は行われません。）なお、保証について詳しくは「保証書とアフターサービス」（256ページ）をご覧ください。

VAIOカスタマーご登録に関するお問い合わせ先
ソニーマーケティング株式会社　VAIOカスタマー専用デスク　　電話番号：03-5977-7255

VAIOカスタマーご登録の方法

電話回線を通じて手軽にご登録が行えます。

ちょっと一言

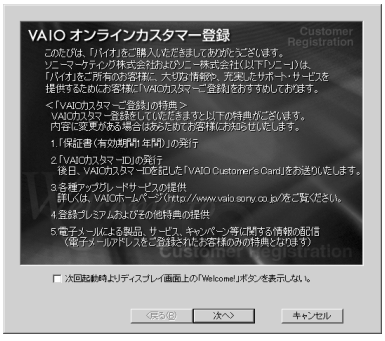
- 付属の「VAIOカスタマー登録、保証書お申込書」にご記入のうえ、郵送いただくことでもご登録を行えます。
- 下記の場合を除き、ソニーがお客様の同意なく登録内容を外部へ開示することはありません。ただし、お客様個人を特定できない統計情報はこの限りではありません。
  （1）お客様が、別途ご案内する「Upgrade Area」および「バイオネットワークサービス」を利用する場合には、これらのサービスの運営会社のソニースタイルドットコム・ジャパン株式会社もお客様の情報を利用いたします。
  （2）VAIOカスタマー登録制度の運営に必要な場合、ソニーは業務を委託する協力会社に開示することがあります。（ソニーは、協力会社に対して、お客様の情報の厳重な管理と使用目的の遵守を徹底します。）
  （3）法的義務を伴う要請を受けた場合、司法機関または行政機関に開示することがあります。
- VAIOカスタマーご登録は、本機の再セットアップをしたあとなどに再び行う必要はありません。住所などのご登録内容の変更を行うときは、VAIOホームページ内（http://www.vaio.sony.co.jp/）のページ上で、変更手続きが行えます。
  また、デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［VAIOソフトウェアはこちら］にポインタを合わせ、［VAIOオンラインカスタマー登録］をクリックして変更手続きを行うこともできます。
- 12才までのお子さまは、ほごしゃの方といっしょにとうろくしてください。

下記の手順を行うには、本機が電話回線につながっている必要があります。「VAIOオンラインカスタマー登録」にご使用いただく電話回線は一般電話回線だけでなく、ISDN回線にも対応しています。ISDN回線をお使いになる場合は、ターミナルアダプタのUSBコネクタと本機後面のUSBコネクタをつないでください。つなぎかたについては「接続する／準備する」の「ISDN回線につなぐときは」（41ページ）をご覧ください。ISDN回線やターミナルアダプタについて詳しくは、NTT（局番なしの116番）またはターミナルアダプタの製造元にお問い合わせください。

1 デスクトップ画面上の をクリックする。

「VAIOオンラインカスタマー登録」の画面が表示されます。

ここをクリックする。

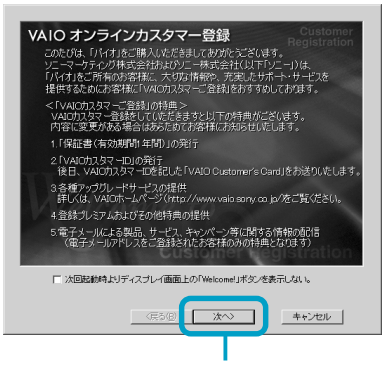


カスタマー登録をしない、または後でするときは

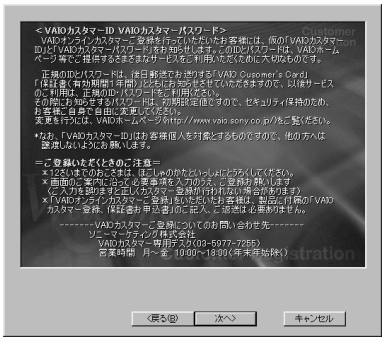
キャンセル をクリックして表示される画面で「インターネット接続サービスのご紹介」画面が表示されます。その後の手順について詳しくは123ページをご覧ください。

2 次へ をクリックする。

右側の画面が表示されます。



ここをクリックする。



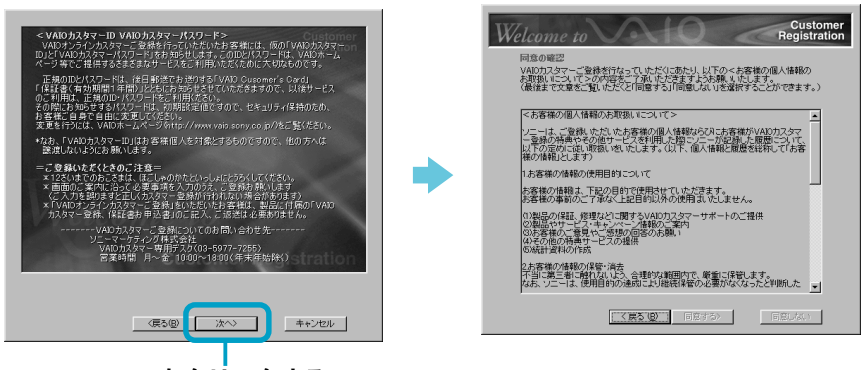
1つ前の画面が見たいときは

＜戻る (B) をクリックします。

次のページへつづく

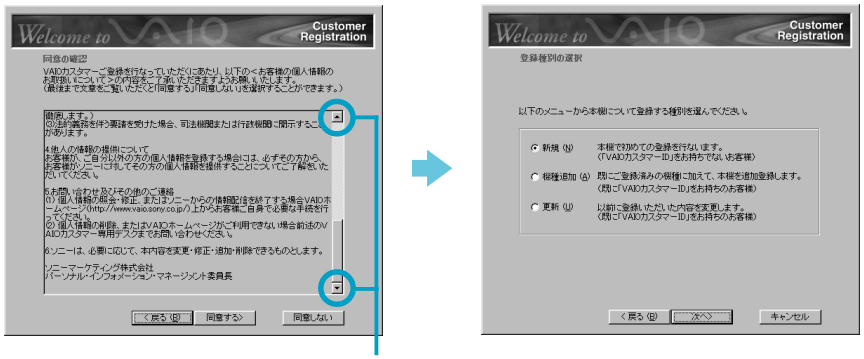
3 次へ> をクリックする。

「同意の確認」画面が表示されます。



4 ▼ または ▲ をクリックして、画面に表示された内容をすべて読み、内容に同意するときは 同意する> をクリックする。

「登録種別の選択」画面が表示されます。

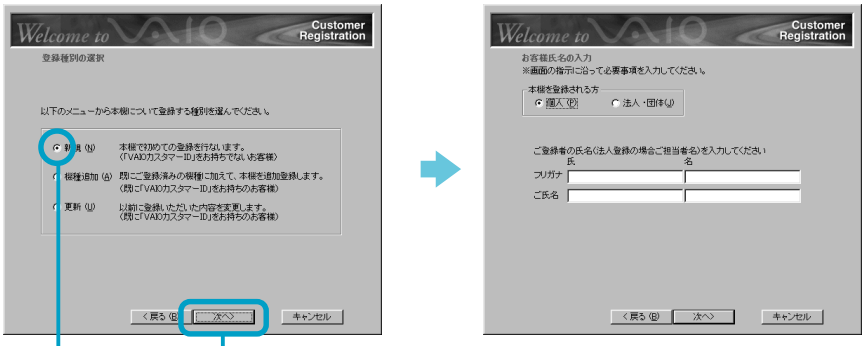


ご注意

同意しない をクリックすると、「ここでこのアプリケーションを終了すると登録が完了しません。」というメッセージが表示されます。終了(E) をクリックすると、「インターネット接続サービスのご紹介」画面が表示されます。

5 「新規」の ○ をクリックして ◉ にし、次へ をクリックする。

「お客様氏名の入力」画面が表示されます。



❷ ここをクリックする。

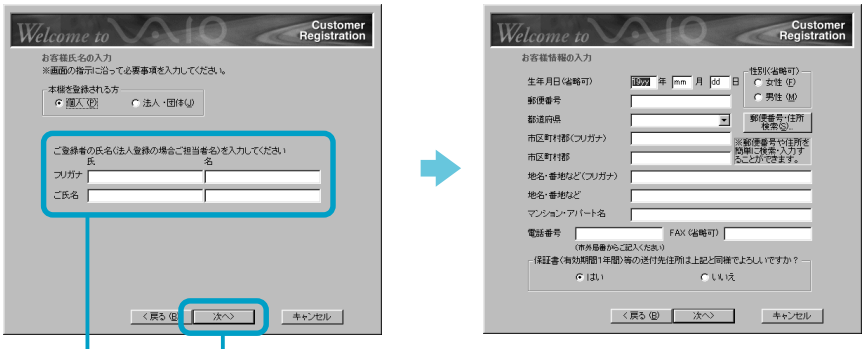
❶ ここをクリックする。

ちょっと一言

- 本機を含めてVAIOをすでに2台以上お持ちの方など、すでにVAIOカスタマーIDをお持ちの方は、「機種追加」を選び、画面の指示に従って操作してください。
- すでにVAIOカスタマーご登録がお済みの方で、住所など、ご登録内容を変更したいときは、「更新」を選び、画面の指示に従って操作してください。

6 お客様のお名前を漢字で、ふりがなをカタカナで入力し、次へ をクリックする。

「お客様情報の入力」画面が表示されます。



❷ ここをクリックする。

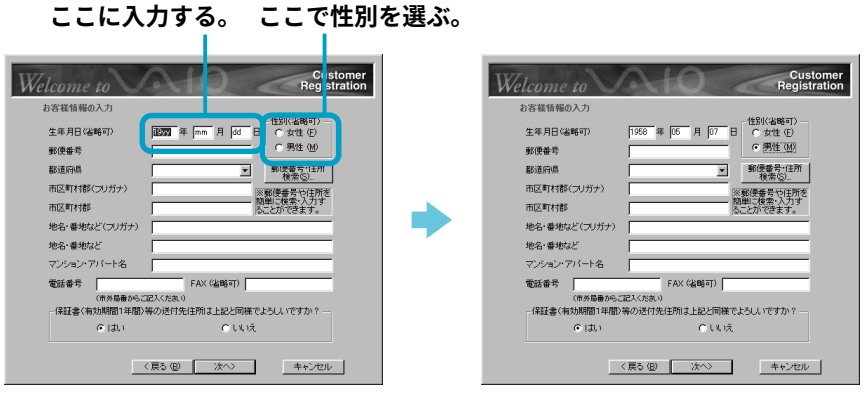
❶ ここに入力する。

ちょっと一言

「お客様氏名の入力」画面の「本機を登録される方」で「法人・団体」を選んだときは、法人、団体用の情報を入力する画面が表示されます。画面の指示に従って情報を入力してから手順12に進んでください。

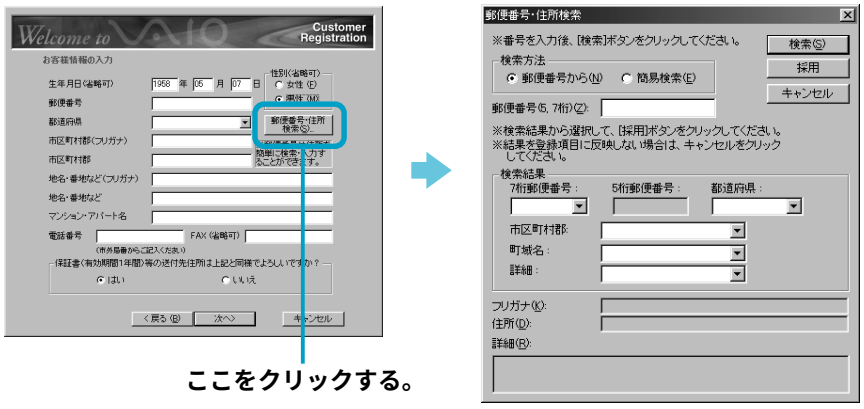
次のページへつづく

7 生年月日（任意）を入力し、性別（任意）を選ぶ。



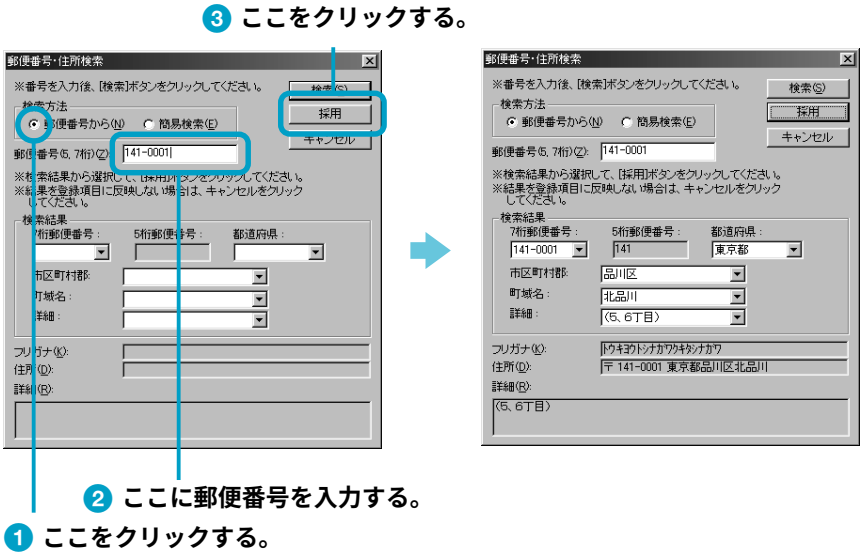
8 郵便番号・住所検索(S)... をクリックする。

「郵便番号・住所検索」画面が表示されます。



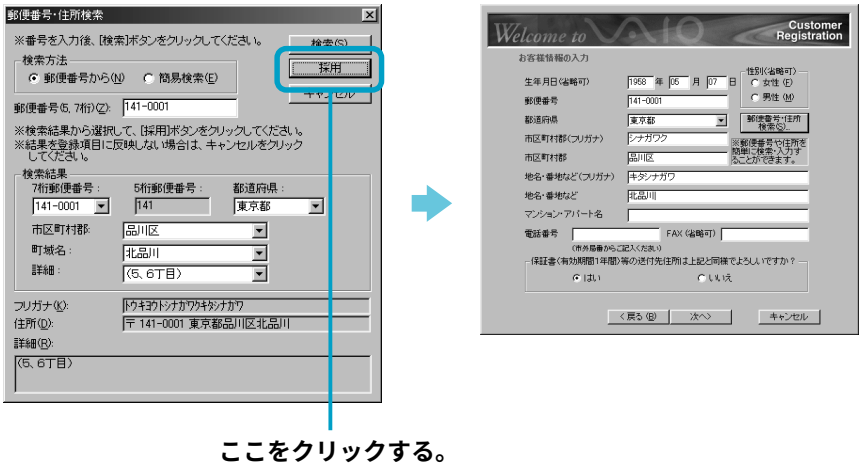
9 郵便番号でお客様の住所を検索する。

［検索方法］で「郵便番号から」の ○ をクリックして ◉ にし、ご自分の郵便番号を入力してから 検索(S) をクリックすると、住所が自動的に入力されます。



10 住所を確認し、正しければ 採用 をクリックする。

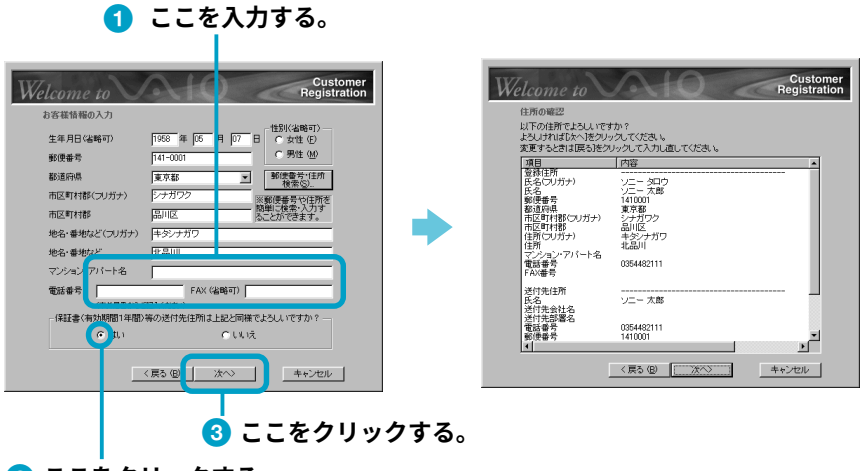
「郵便番号・住所検索」画面が閉じ、郵便番号や住所が自動的に入力されます。



次のページへつづく

11 残りの空欄を入力し、保証書など送付先が入力した住所でよければ「はい」の ○ をクリックして ◉ にし、 次へ をクリックする。

「住所の確認」画面が表示されます。



ご注意

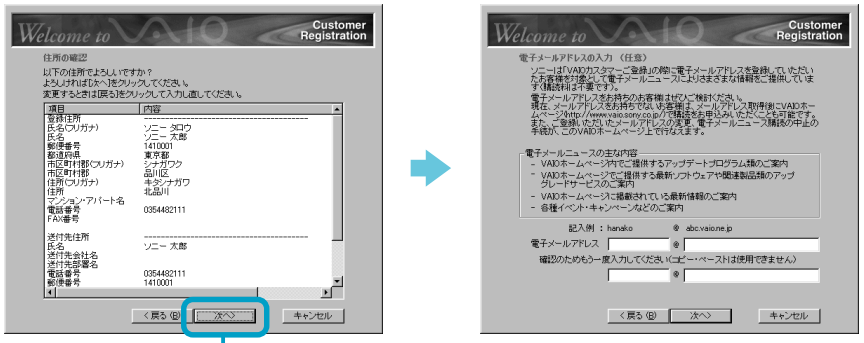
- 郵便番号と電話番号を入力するときは、-（ハイフン）は入力しないでください。
- 地名、番地やマンション、アパートが必要な場合は入力してください。

ちょっと一言

入力した住所とは別の住所に保証書などを送付してほしいときは、「いいえ」の ○ をクリックして ◉ にてください。「保証書の送付先」画面が表示されますので、画面の指示に従って操作してください。

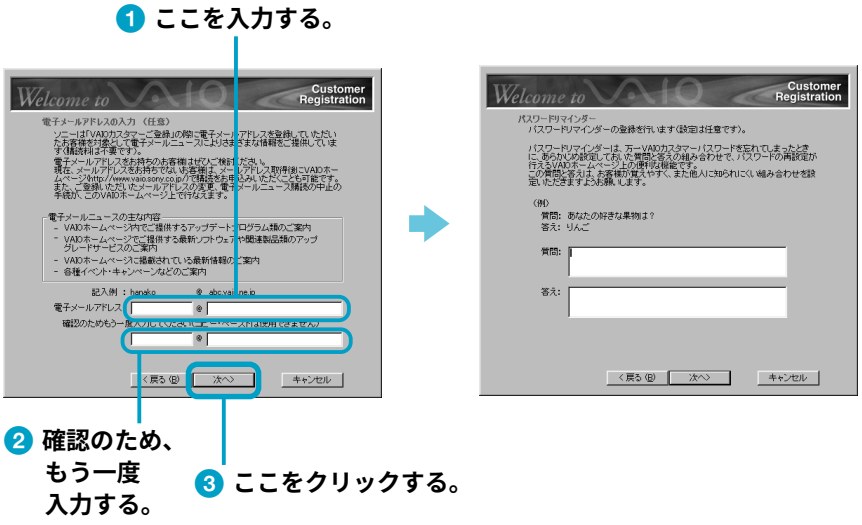
12 住所をご確認の上で、 次へ をクリックする。

「電子メールアドレスの入力（任意）」画面が表示されます。



13 すでに電子メールアドレスをお持ちの方は、電子メールアドレスを入力し、次へ をクリックする。

「パスワードリマインダー（任意）」画面が表示されます。
電子メールアドレスをお持ちでない方や電子メールアドレスを教えたくない方は、何も入力せずに 次へ をクリックしてください。

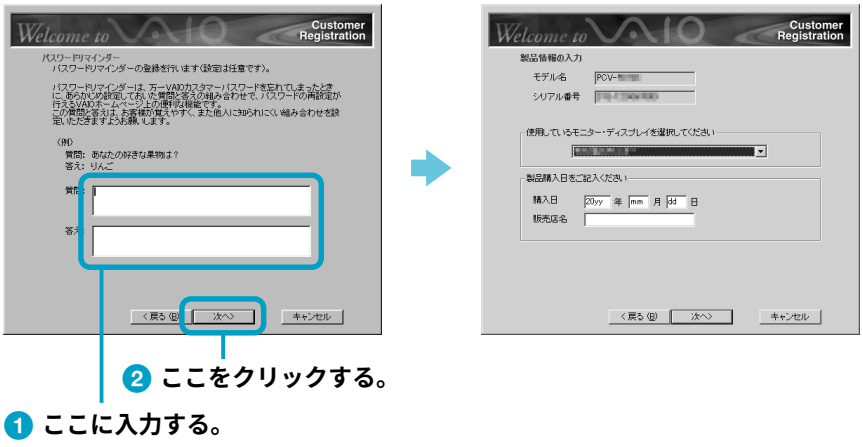


電子メールアドレスとは

インターネットなどのネットワークを使ってコンピュータ同士でメッセージをやりとりするシステムを電子メール（Eメール）といいます。電子メールアドレスとは、アルファベットや数字で表された電子メールの宛先のことで住所と同じ役割をします。

14 質問と答えを入力し、次へ をクリックする。

「製品情報の入力」画面が表示されます。



ちょっと一言

質問と答えは必ずしも入力する必要はありません。必要がない場合は、何も入力せずに 次へ をクリックしてください。

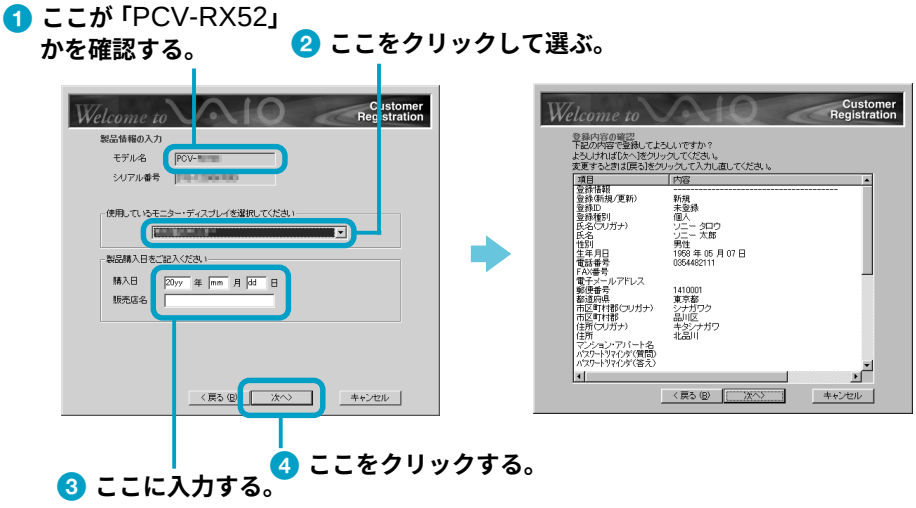
次のページへつづく

パスワードリマインダーとは

パスワードリマインダーは、VAIOカスタマーパスワードを忘れてしまったときに備え、あらかじめ設定しておいた質問と答えを使って、パスワードの初期化と再設定が行える便利な機能です。

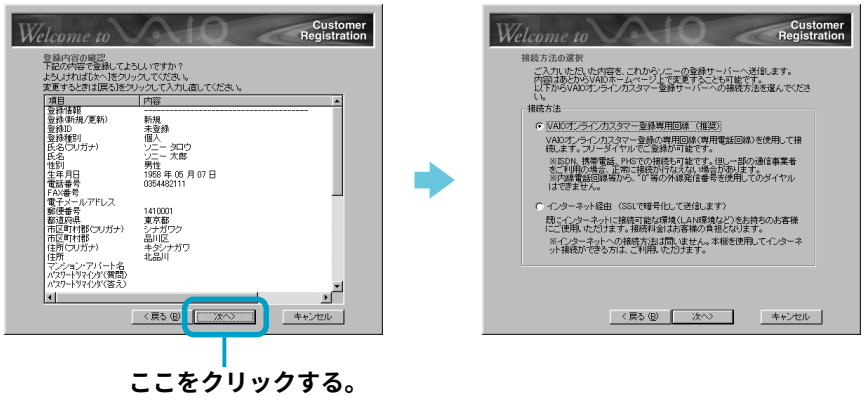
15 本機のモデル名を確認し、使用しているディスプレイを ▼ をクリックして選び、本機の購入日や販売店名を入力し、 次へ をクリックする。

「登録内容の確認」画面が表示されます。



16 ご登録いただく内容をご確認の上で、 次へ をクリックする。

「接続方法の選択」画面が表示されます。

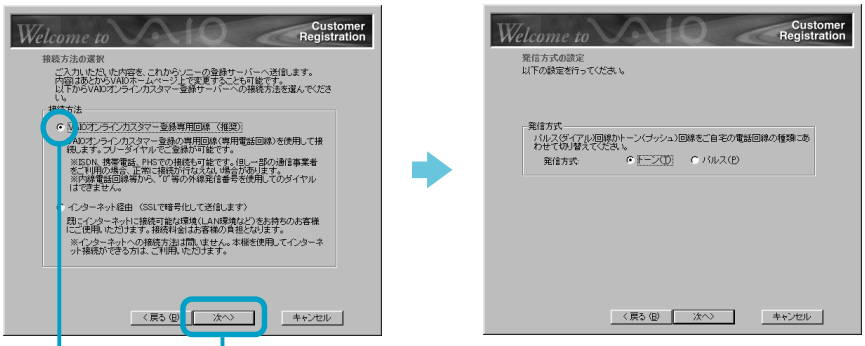


ちょっと一言

登録内容を変更するときは < 戻る (B) をクリックし、変更したい画面まで戻り、入力し直します。

17 「VAIOオンラインカスタマー登録専用回線」の ○ をクリックして ◉ にし、 次へ> をクリックする。

「発信方式の設定」画面が表示されます。



2 ここをクリックする。

1 ここをクリックする。

ご注意

- 外線発信（0発信）はできません。
- 「インターネット経由」を選んでご登録いただく場合、接続料金はお客様の負担となります。
- ターミナルアダプタなど、お使いになる通信機器によっては正しく接続できないことがあります。この場合は、本機後面のLINEジャックと一般電話回線をつなぎ、通信を行ってください。

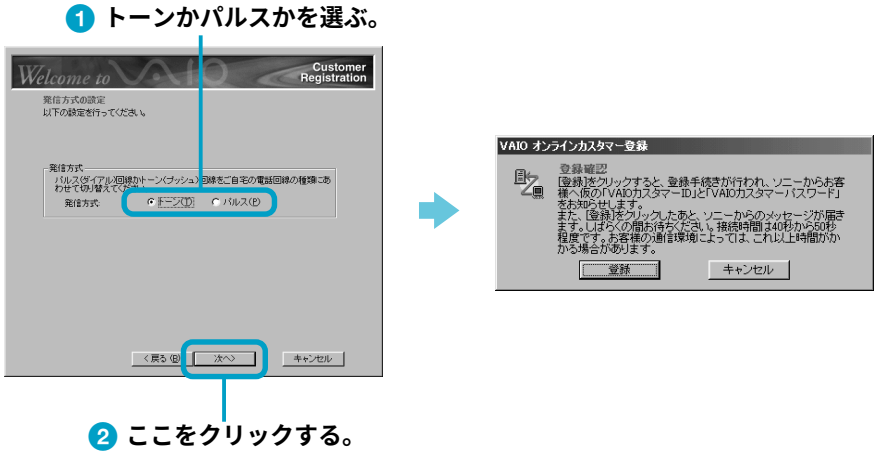
ちょっと一言

- 次へ> をクリックすると、手順18に進む前に「接続デバイスの選択」画面が表示されることがあります。この場合は、通信に使う機器を選び、次へ> をクリックしてください。
- 「インターネット経由」を選んで 次へ> をクリックしたときは、「インターネット経由の接続設定」画面が表示されますので、画面の指示に従って操作して手順19に進んでください。
  また、LANの環境などによっては、「インターネット経由の接続設定」画面でプロキシの設定をする必要があります。プロキシの設定について詳しくは、職場のシステム管理者にお尋ねください。

次のページへつづく

18 お使いの電話回線のダイヤル方法を選び、次へ をクリックする。

「登録確認」画面が表示されます。

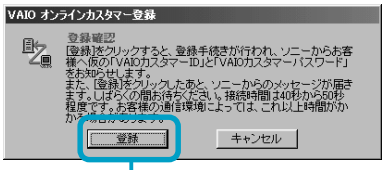


ちょっと一言

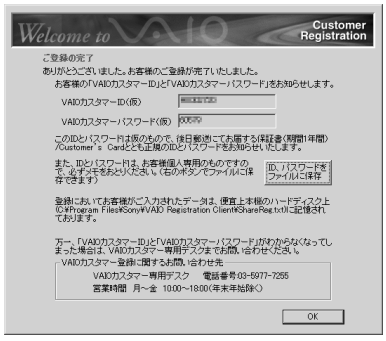
- **トーン式ダイヤルとは**：電話機のダイヤルボタンを押すと「ピポパ」と音がし、「カチカチ」という音がしない電話機のダイヤル方法です。
  パルス式ダイヤルとは：ボタンではなくダイヤルを回す電話機、またはダイヤルボタンを押すたびに「カチカチ」という音がする電話機のダイヤル方法です。
  お使いの電話回線のダイヤル方法がわからない場合は、NTTなどの電話会社から送られてくる請求内訳表をご覧ください。請求内訳表の中に「プッシュ回線使用料」と記載されている場合は「トーン式ダイヤル」です。回線（基本）使用料のみ記載されている場合は「パルス式ダイヤル」です。電話回線のダイヤル方法について詳しくは、NTT（局番なしの116番）などの電話会社にお問い合わせください。
- 本機を一般電話回線につないでいるときのみトーン式／パルス式ダイヤルを選びます。

19 電話回線がつながっていることを確認し、登録 をクリックする。

登録内容が電話回線を通じて送られ、送信が終わると「ご登録の完了」画面が表示されます。



ここをクリックする。



ご注意

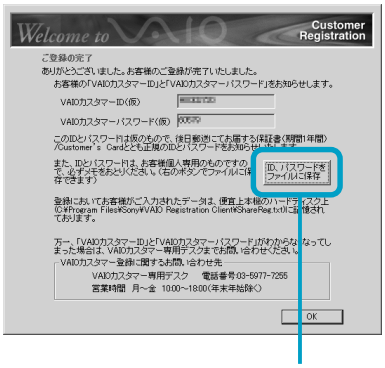
ターミナルアダプタなど、お使いになる通信機器によっては正しく接続できないことがあります。この場合は、本機後面のLINEジャックと一般電話回線をつなぎ、通信を行ってください。

ちょっと一言

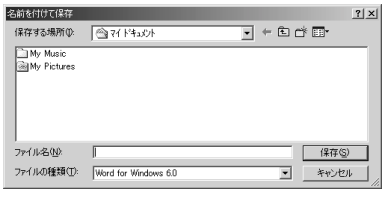
オンラインご登録時にお知らせする「VAIOカスタマーID」と「VAIOカスタマーパスワード」は、正規の「VAIOカスタマーID」と「VAIOカスタマーパスワード」が届くまでの間ご使用いただく仮のIDとパスワードです。正規のIDとパスワードは後日、ソニーより保証書（1年間保証書）とともに郵送でお知らせいたします。また、次の手順20～21の操作を行い、仮の「VAIOカスタマーID」と「VAIOカスタマーパスワード」をデータとして保存しておくことをおすすめします。

20 ID、パスワードをファイルに保存 をクリックする。

「名前を付けて保存」ウィンドウが表示されます。



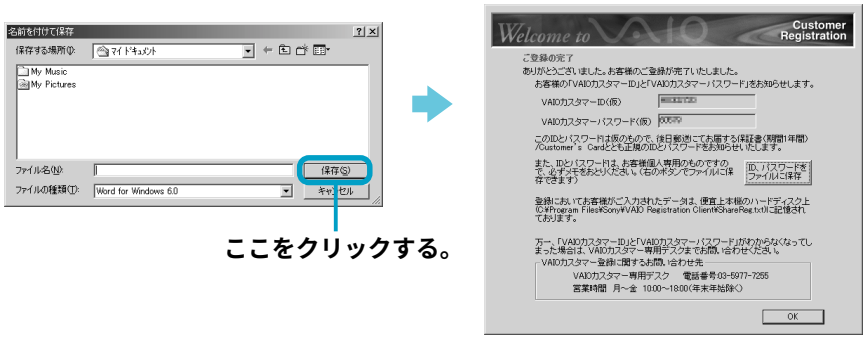
ここをクリックする。



次のページへつづく

21 ファイルに任意の名前を付け、保存(S) をクリックする。

お客様のカスタマーIDとパスワードの情報がファイルとして「マイドキュメント」フォルダの中に保存されます。



ご注意

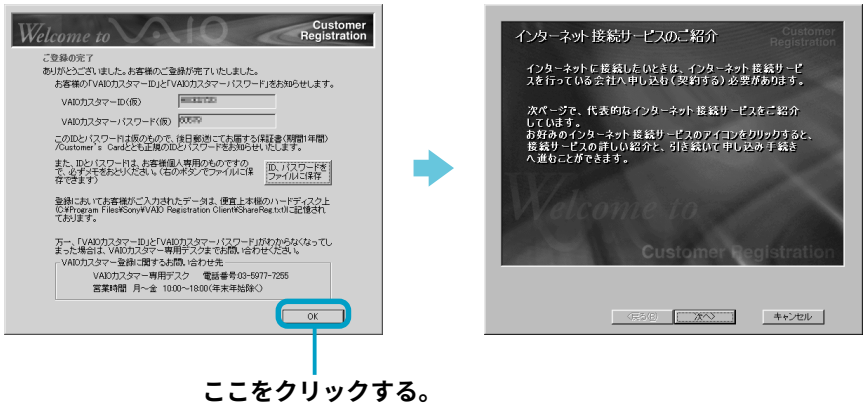
保存されたデータを他人に見られたり、紛失しないようにご注意ください。

ちょっと一言

保存されたファイルは、デスクトップ画面上の（マイドキュメント）をダブルクリックすると表示されます。

22 OK をクリックする。

「インターネット接続サービスのご紹介」画面が表示されます。

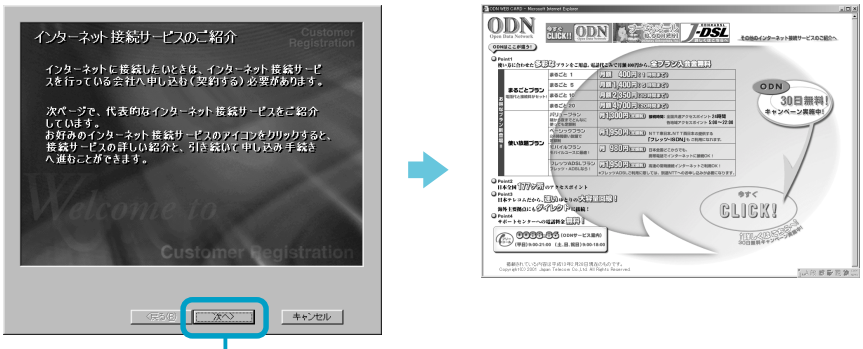


ちょっと一言

- OK をクリックすると、サービス内容などをお知らせする画面が表示されることがあります。この場合は、次へ(N) > をクリックしてください。「インターネット接続サービスのご紹介」画面が表示されます。
- VAIOカスタマーご登録が終わると、デスクトップ画面上に が表示されます。このアイコンをダブルクリックすると、バイオに関するサービス・サポート情報やVAIOホームページのご案内などのお知らせを見ることができます。

23 次へ をクリックする。

インターネット接続サービス「ODN」の説明が表示されます。



ここをクリックする。

インターネットに接続するときは131ページへお進みください。

インターネットを利用しない、または後で入会手続きを行う場合は キャンセル をクリックします。

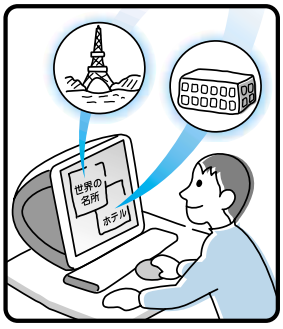
インターネット接続サービスとは

インターネットにつなぐためには、インターネット接続サービスを提供する会社と契約する必要があります。インターネット接続サービスはインターネットとコンピュータとの間を仲介する役割を持っています。インターネット接続サービスを提供する会社と契約すると、インターネットを使っていろいろな情報を記述したホームページを簡単に見たり、電子メールを送受信したりできるようになります。

インターネットを始める

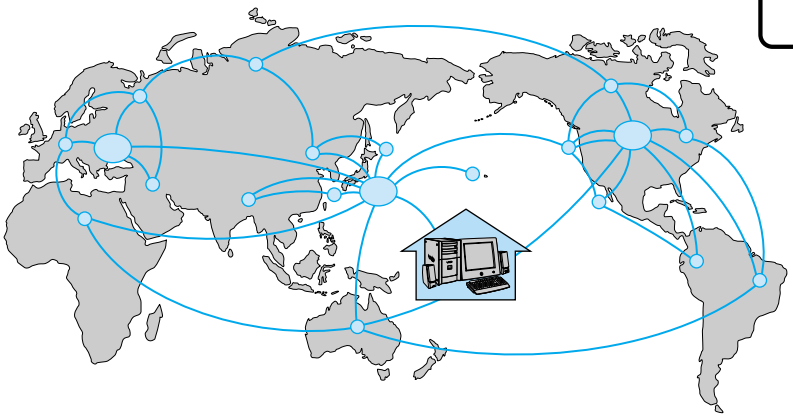
インターネットとは

インターネットとは、世界中のコンピュータがつながった、地球規模のネットワークのことです。ここではインターネットを利用するために必要な準備やホームページの見かた、電子メールのやりとりのしかたを説明します。

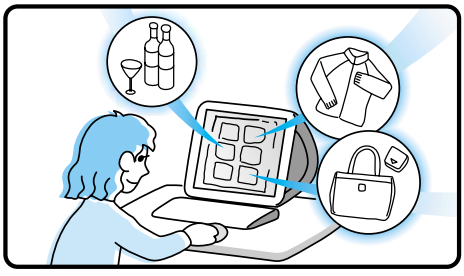


ホームページを見る

世界の景色を見る。
ホテルや乗物の予約をする。
調べたい情報を検索する。
趣味の仲間をさがす。
すべてが地球規模です。



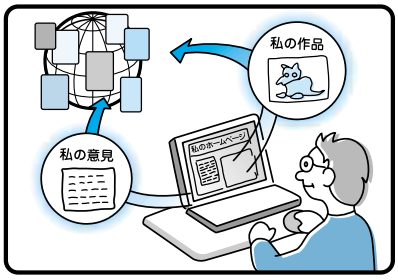
オンラインショッピングをする



食べ物や衣類など、家に居ながら遠く離れた外国でも行きつけのお店の感覚で買い物ができます。

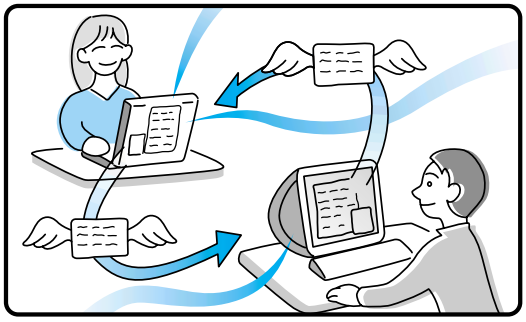
情報を発信する

自分の意見を発言する。
趣味の仲間をつのる。
絵や文芸作品を発表する。
仕事の広告を出す。
世界中が読者です。



電子メールをやりとりする

世界各国に時間を気にすることなく好きなときに、電子メールを送れます。



インターネット接続に必要なものは

世界中の情報に接することのできるインターネットですが、インターネット自体は電話回線のように、ケーブルがつながったものでしかありません。情報を受け取ったり、発信したりするためには専用のソフトウェアが必要になります。
また、電話回線を通してインターネットにつなぐためにインターネット接続サービスを提供する会社と契約する必要があります。
インターネットに接続するために必要なものは以下の通りです。

電話回線

電話回線には一般電話回線とISDN（アイエスディエヌ）回線の2種類があります。電話を使っている回線が一般電話回線です。

ISDNとは

NTTのデジタル通信網を使った回線で、通信速度も速く、1回線で従来の2回線が使えます。
ISDN回線をお使いになる場合はNTT（局番なしの116番）にご相談ください。

ADSLについて

ADSLとは「Asymmetric Digital Subscriber Line」の略で、一般電話回線を利用してインターネットへ高速に常時接続できるサービスのことです。このサービスを利用するには、ADSL接続サービスを提供している接続業者と契約し、申し込むことが必要です。ADSL接続サービスの申し込み方法、料金、必要な機器とその接続方法について詳しくは、契約するADSL接続サービスを提供している接続業者にお問い合わせください。

ターミナルアダプタ

コンピュータや従来の一般電話回線対応の通信機器、電話機をつなぐためのISDN回線用の機器です。ISDN回線を使って本機を使用するためには、本機の他にこの機器が必要になります。ターミナルアダプタについて詳しくは、NTT（局番なしの116番）またはターミナルアダプタの製造元にお問い合わせください。

モデム

電子メールをやりとりしたり、インターネット上のホームページを見るために電話をかける装置です。本機には内蔵されていますので、準備する必要はありません。

ソフトウェア

インターネットに接続してホームページを見るには専用のソフトウェア（「ウェブブラウザ」と言います。）が必要です。また、電子メールをやりとりするにも専用のソフトウェアが必要です。本機には両方の専用ソフトウェアが付属しています。
本機には以下のウェブブラウザおよび電子メールソフトウェアが付属しています。

次のページへつづく

ウェブブラウザ

Microsoft Internet Explorer

電子メールソフトウェア

Outlook Express

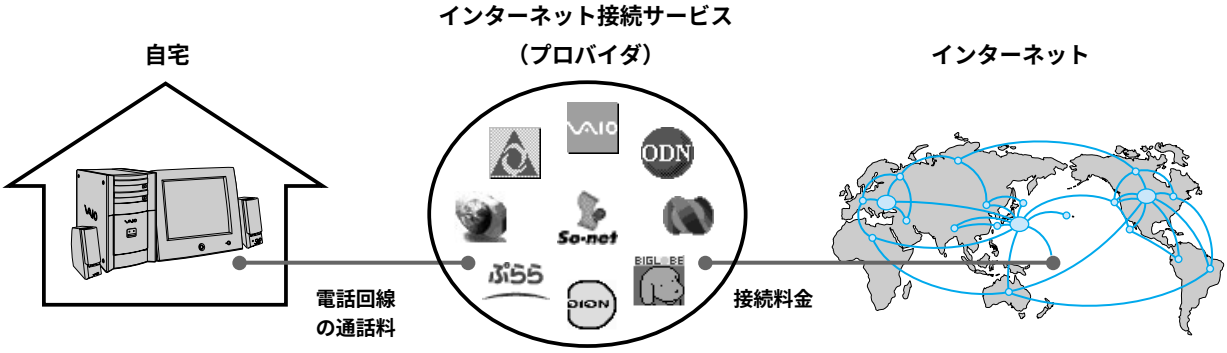
Eudora

PostPet

本書では、「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアと「Outlook Express」ソフトウェアの設定と使いかたを中心に説明していきます。
これらのソフトウェアの特長について詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOを楽しむ］をクリックして、［付属ソフトウェアの一覧］→［コミュニケーション］の順にクリックして表示される各ソフトウェアの情報をご覧ください。

インターネット接続サービス（インターネットサービスプロバイダ）

インターネットにつなぐためには、インターネット接続サービスを提供する会社と契約する必要があります。この会社のことを「インターネットサービスプロバイダ」または単に「プロバイダ」と言います。（以下、「プロバイダ」と記します。）
プロバイダはインターネットと本機との間を仲介する役割を持っています。
プロバイダと契約すると、インターネットを使って、いろいろな情報が載ったホームページを簡単に見ることができます。また、「電子メールアドレス」という、あなたの住所のようなものが契約時に用意されます。電子メールアドレスは、電子メールを送受信するときの宛先になります。これらのサービスの他に、契約するプロバイダによっていろいろなサービスがあります。
プロバイダと契約すると、サービスに応じた接続料金がかかります。また、プロバイダには電話回線を使って接続するので、接続料金とは別に電話回線の通話料がかかります。



ご注意

- 本機および付属ソフトウェアの設定によっては、本機の電源を切っている間でも、自動的にインターネットに接続することがあります。自動接続すると、接続を自動的に終了しないことがあります。この場合、通話料と接続料金が多額になる可能性がありますので、ご注意ください。
- インターネットに接続している間は、電話をかけたり、受けたりできないことがあります。

インターネット上でのトラブルについて

さまざまなサービスを提供しているインターネットですが、普及に伴いトラブルも発生しています。
インターネットは非常に便利なものですが、使いかたを誤ったり、安易な気持ちで使用すると思わぬトラブルにあう可能性があります。

インターネット上の情報について

インターネット上の情報はすべてが正しいとは限りません。
ひぼう・中傷・暴力・わいせつなど情報を受ける側もモラルを持って情報を利用する必要があります。
また、情報を発信する場合もマナーを守って行わないと、気がつかないところで自分が加害者になるおそれもあります。
ユーザー名やパスワードなどは他人に知られないように管理してください。

コンピュータウイルスやチェーンメールなどの被害について

ホームページからダウンロードしたファイルや悪意を持った人たちから突然送られてくる電子メールには、コンピュータウイルス（コンピュータの動作に悪影響を与えるプログラム）が潜んでいたり、チェーンメールなどにより不快な内容の電子メールが送られてくることもあります。
見知らぬ人から電子メールが送られてきた場合は、安易に開いたり、プログラムを実行せずに削除してください。
また、できるだけインターネットサービスプロバイダなどに報告して、自分が加害者にならないようにしましょう。
本機には、コンピュータウイルス検査／除去用のソフトウェアとして「Norton AntiVirus」ソフトウェアがインストールされています。このソフトウェアについて詳しくは、「コンピュータウイルスについて」(294ページ)、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの楽しみかた］をクリックして、［付属ソフトウェアの一覧］→［ユーティリティ］→［Norton AntiVirus 2001］の順にクリックして表示される情報および「Norton AntiVirus」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

次のページへつづく

ヘルプとは

Windows Meやソフトウェアなどの操作についてわからなくなったときに、デスクトップ画面上でその解決方法についての情報を検索して表示する機能のことです。

情報の機密性について

ソフトウェアやOSなどの不具合により、コンピュータの情報などが漏れてしまう可能性があります。悪意の持った人たちの標的になりやすいため対応することが必要です。

ウェブブラウザやOSの各ソフトウェアの情報が、開発元のホームページなどに掲載されていますので、不具合情報をこまめに確認することをおすすめします。

また、電子メールには完全な機密性はありません。送信する内容にはご注意ください。

インターネットショッピングでのトラブル

インターネットショッピングをするときに、むやみにクレジットカードの番号を入力しないようにご注意ください。プライバシー情報がもれる可能性があります。

注文した品物と違う、代金を送金したのに品物が届かないなどのトラブルも発生しています。できるだけ信頼のおけるところを利用するなどの注意が必要です。

その他

インターネット上で無料で公開されているソフトウェアの中には、国際電話やダイヤルQ2などに接続し、課金されている場合がありますのでご注意ください。

- インターネット上での個人情報の公開には細心の注意を払いましょう。
- 社会的に犯罪とされているものはインターネット上でも犯罪です。

インターネットに接続するまでの流れ

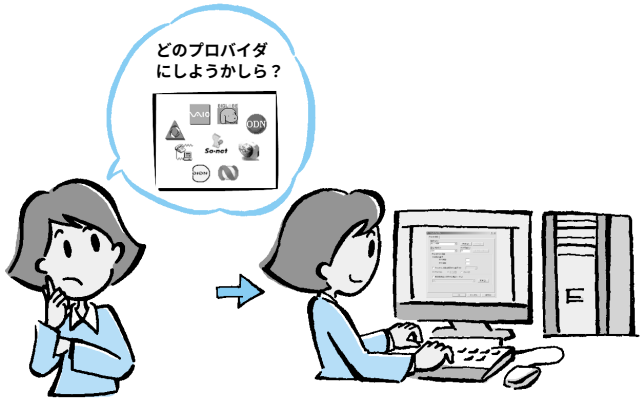
インターネットを利用してホームページを見たり、電子メールをやりとりするには、本機をインターネットに接続する必要があります。
以下のステップに入る前に次の点を確認してください。

- 本機が正しく電話回線につながっているか（38ページ）
- お使いの電話回線がトーン式ダイヤル、パルス式ダイヤルのどちらか（120ページ）

ISDN回線をご利用の場合はNTT（局番なしの116番）にご相談ください。
以下の流れに従ってインターネットに接続します。詳しくは、各手順の参照ページをご覧ください。

1 プロバイダと契約しましょう（131ページ）

プロバイダと契約します。
契約すると、インターネット接続に必要な情報が記載された資料が郵送されてきます。



2 チェックシートを作成しましょう（146ページ）

プロバイダから郵送されてきた資料をもとに、チェックシートを作成します。資料の内容など、インターネット接続の設定の際の不明点については、契約したプロバイダにお問い合わせください（144ページ）。

ご注意

郵送されてくるまでしばらく時間がかかります。

3 接続のための設定をしましょう（153ページ）

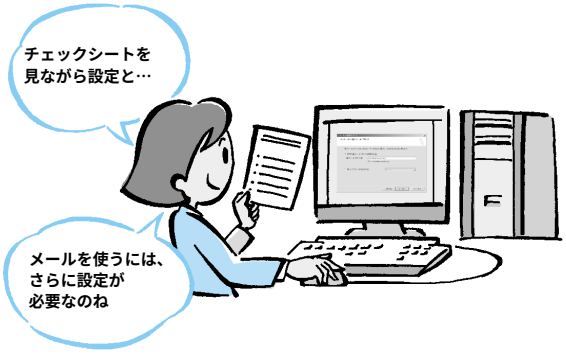
チェックシートをもとに、本機を使ってインターネットに接続するための設定をします。

次のページへつづく

インターネットに接続するまでの流れ（つづき）

4 電子メールソフトウェアの設定をしましょう（163ページ）

電子メールを使うときは電子メールを使うための設定をします。



5 インターネットに接続してみましょう（170ページ）

契約したプロバイダに接続します。

6 ホームページを見てみましょう（174ページ）

ホームページを見る練習をします。

7 電子メールをやりとりしてみましょう（182ページ）

電子メールをやりとりする練習をします。

1 プロバイダと契約する

インターネットに接続するには、インターネット接続サービスを提供する会社「プロバイダ」と契約する必要があります。
数多くのプロバイダがありますので、料金やサービスの内容をご検討の上、ご自分に合ったプロバイダと契約することをおすすめします。料金やサービスの内容について詳しくは、次ページからの手順に従って操作し、手順4のODNの紹介画面や各プロバイダの紹介画面の説明をご覧ください。

ご注意

- 契約時にクレジットカードが必要になるプロバイダもあります。
- 接続料金はプロバイダにより異なります。

プロバイダと契約するには、オンラインサインアップを使うと便利です。

オンラインサインアップとは

電話回線を通じてプロバイダと契約することです。

デスクトップ画面上の （インターネット接続サービス）をダブルクリックし、表示される「インターネット接続サービスご紹介」画面でお好みのプロバイダのアイコンをクリックして、オンラインサインアップを始めてみましょう。
VAIOオンラインカスタマー登録に続いてオンラインサインアップを行う場合は、手順4から始めてください。

ちょっと一言

デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、お好みのプロバイダのフォルダをクリックし、表示されるサインアップソフトウェアをクリックしてオンラインで契約を始めることもできます。

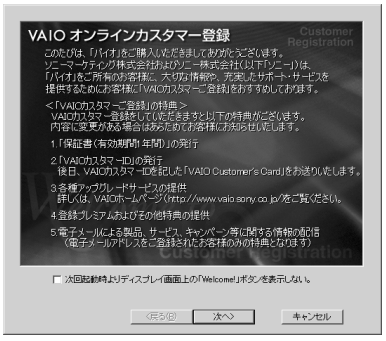
次のページへつづく

インターネットに接続するまでの流れ（つづき）

1 デスクトップ画面上の をクリックする。

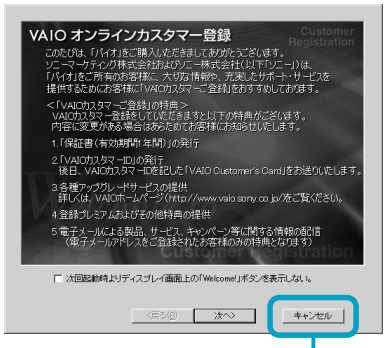
「Welcome」の画面が表示されます。

ここをクリックする。

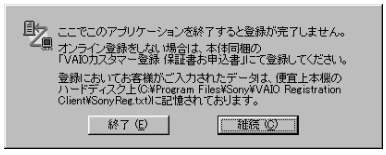


2 キャンセル をクリックする。

右側の画面が表示されます。

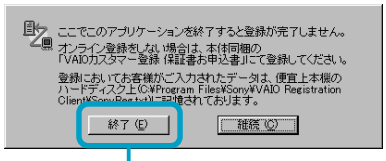


ここをクリックする。



3 終了(E) をクリックする。

「インターネット接続サービスのご紹介」画面が表示されます。

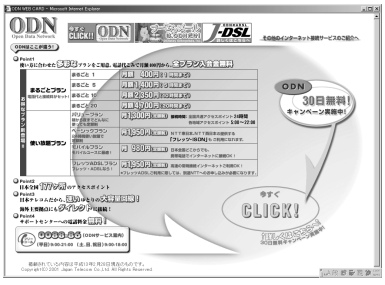


ここをクリックする。

4 次へ をクリックする。

インターネット接続サービス「ODN」の説明が表示されます。

ここをクリックする。



ここからは、入会したいプロバイダに応じて操作してください。

ODNに入会したいときは：

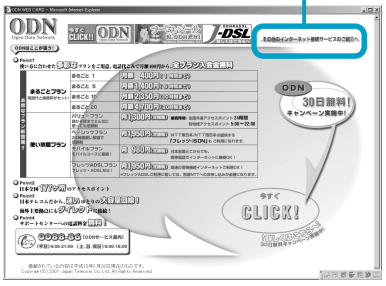
次ページの「ODNにオンラインサインアップするには」をご覧ください。

その他のプロバイダに入会したいときは：

［その他のインターネット接続サービスへ］をクリックしてください。

「インターネット接続サービスご紹介」画面が表示されます。

ここをクリックする。



この後の手順については、「ODN以外のプロバイダにオンラインサインアップするには」（143ページ）をご覧ください。

次のページへつづく

ODNにオンラインサインアップするには

ここでは、実際にODNにオンラインサインアップします。
以下の手順に従って操作してください。

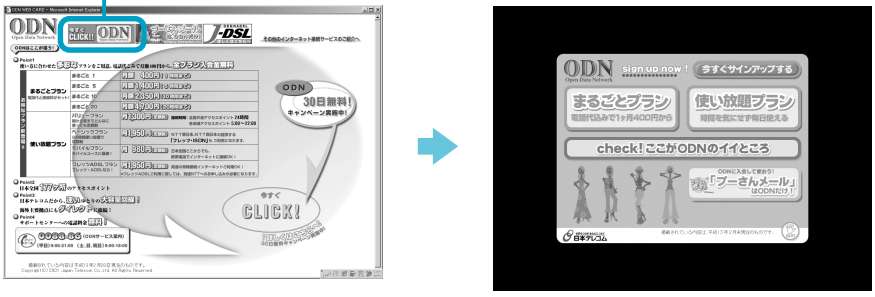
ちょっと一言

下記の画面は、2001年3月31日現在のものです。実際の画面とは異なる場合がありますのでご了承ください。

1 ODNに入会しよう!! をクリックする。

ODNの紹介画面が表示されるので、各プランの内容やその他のサービス内容について確認します。

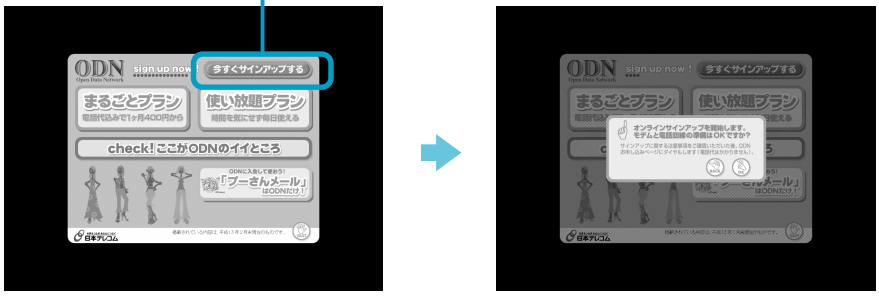
ここをクリックする。



2 ODNの紹介画面の 今すぐサインアップする をクリックする。

「オンラインサインアップを開始します。モデムと電話回線の準備はOKですか？」画面が表示されます。

ここをクリックする。



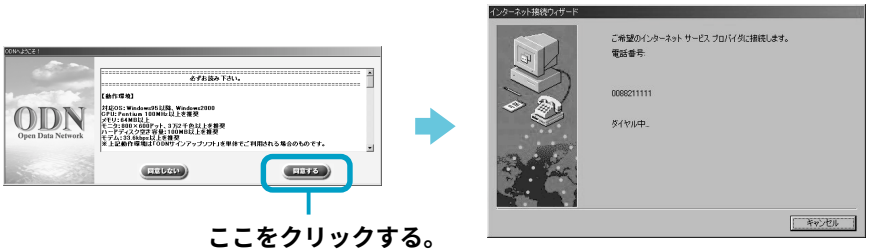
3 本機と電話回線が接続されていることを確認して OK をクリックする。

本機と電話回線の接続について詳しくは、「接続する／準備する」の手順6（38ページ）をご覧ください。
「ODNへようこそ」画面が表示されます。

ここをクリックする。

4 画面の内容を確認の上、同意する をクリックする。

「インターネット接続ウィザード」画面が表示され、ODNへ接続します。

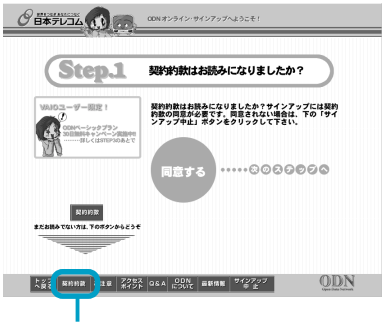


ここをクリックする。

ちょっと一言

同意する をクリックするとモデムの選択画面が表示されることがあります。この場合は、使用するモデムをクリックして選び、［OK］をクリックしてください。

接続されると「Step.1 契約約款はお読みになりましたか？」画面が表示されます。
契約約款はODNを利用するために大切な事項です。必ずお読みください。
契約約款を確認するときは、「Step.1 契約約款はお読みになりましたか？」画面左下の 契約約款 をクリックしてください。



ここをクリックする。

次のページへつづく

5 同意する をクリックする。

「Step.2 サービスプランを決めて下さい。」画面が表示されます。

ここをクリックする。

サービスプランを確認するときは、「Step.2 サービスプランを決めて下さい。」画面左下の ご注意 と ODNについて をクリックしてください。

ここをクリックする。

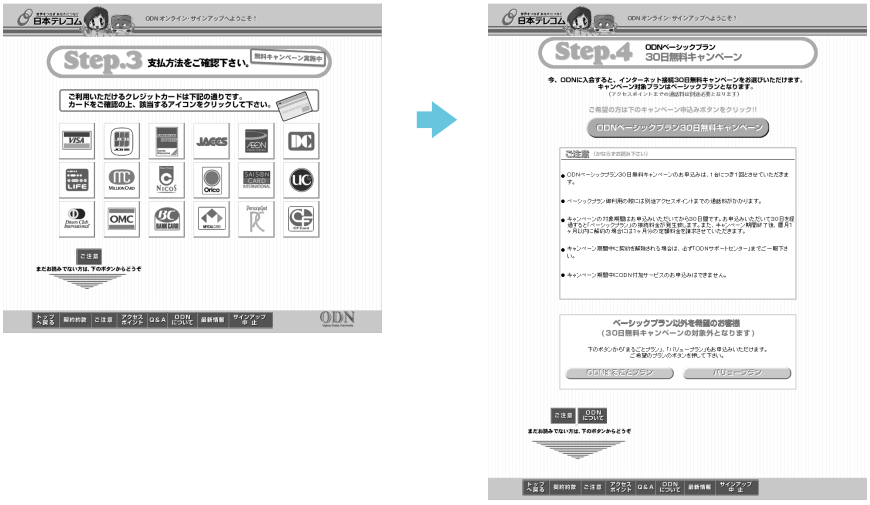
6 次に進む をクリックする。

「Step.3 支払方法をご確認下さい。」画面が表示され、ご利用できるクレジットカードが一覧表示されます。

ここをクリックする。

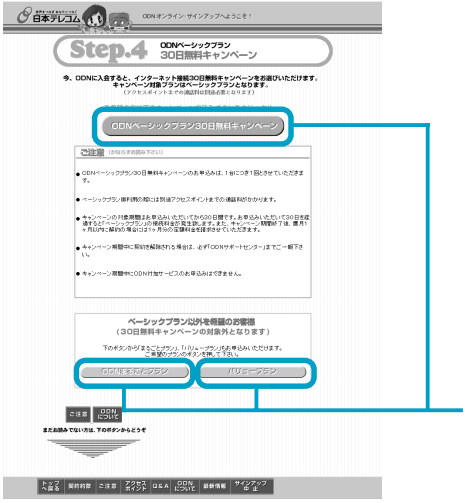
7 ご利用になるクレジットカードのアイコンをクリックする。

「Step.4 ODNベーシックプラン 30日無料キャンペーン」画面が表示されます。



8 プランとアクセスポイントを選択する。

選択するプランによってアクセスポイントの選択方法は異なります。ご自分の選択したプランで操作をしてください。



プランを選び、ボタンをクリックする。

アクセスポイントとは

一般加入電話からインターネットに接続するために、ODNなどのプロバイダが設けている接続地点のことです。通話料が別のプランや全国共通のアクセスポイントを利用しない場合では、インターネットの利用者は接続地点までの電話料金を負担する必要があるので利用地点からより近いアクセスポイントで接続する方が通話料は少なくてすみます。

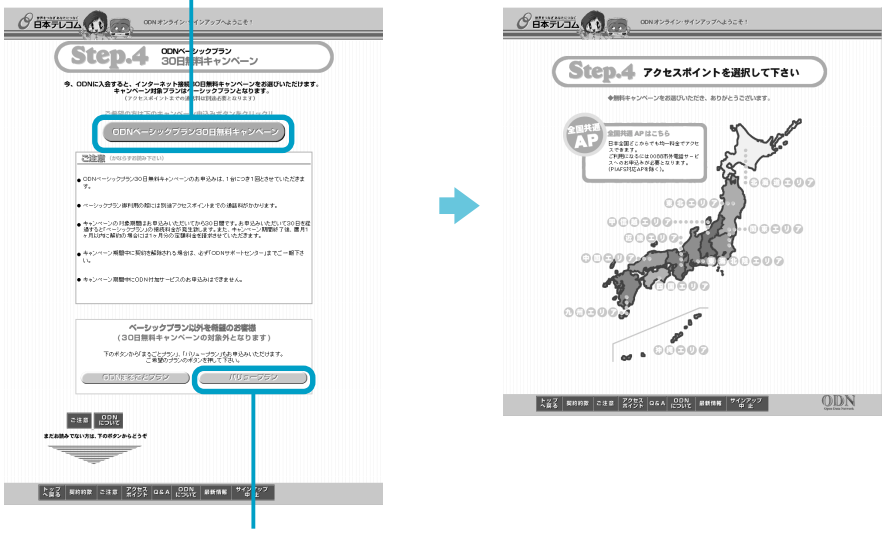
次のページへつづく

ODNベーシックプラン30日無料キャンペーンまたはバリュープランを選ぶ場合は

1 ODNベーシックプラン30日無料キャンペーン **または** バリュープラン **をクリックする。**

「Step.4 アクセスポイントを選択して下さい」画面が表示されます。

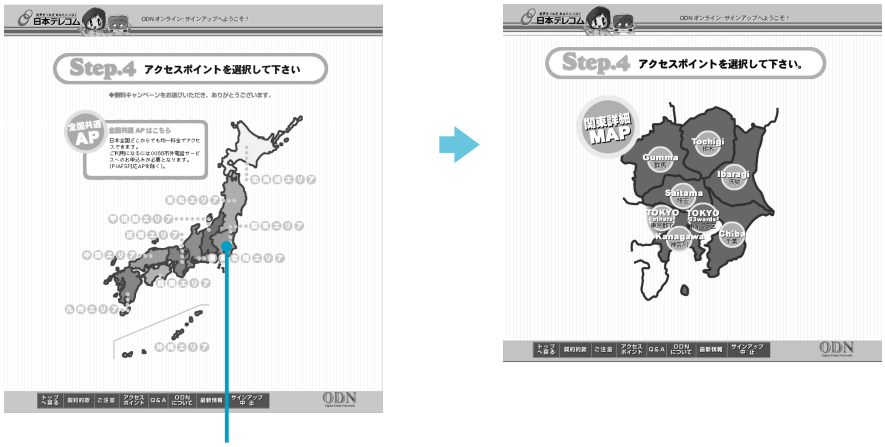
ODN ベーシックプラン30日無料キャンペーンを選択する場合は、ここをクリックする。



バリュープランを選択する場合は、ここをクリックする。

2 **ご自分の利用するエリア、都道府県の地図をクリックする。**

選択した地域の詳しい地図画面が表示されます。



利用するエリア・都道府県の地図をクリックする。

ちょっと一言

画面左上の 全国共通AP をクリックすると、全国どこでも均一料金でアクセスできる「共通アクセスポイント」を選択できます。

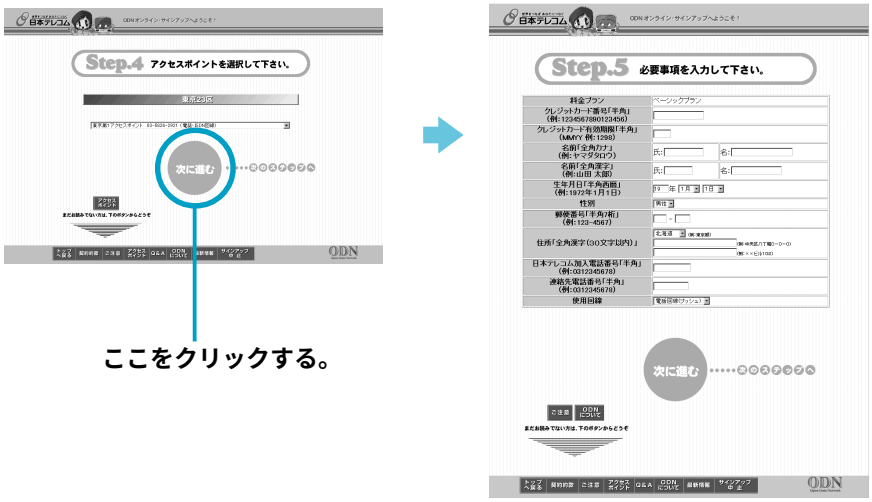
❸ 利用するアクセスポイントをクリックする。

利用するアクセスポイントの電話番号の画面が表示されます。

利用するアクセスポイントをクリックする。

❹ 「Step.4 アクセスポイントを選択して下さい」画面で利用するアクセスポイントの電話番号が表示されたら、次に進む をクリックするクリックする。

「Step.5 必要事項を入力して下さい。」画面が表示されます。



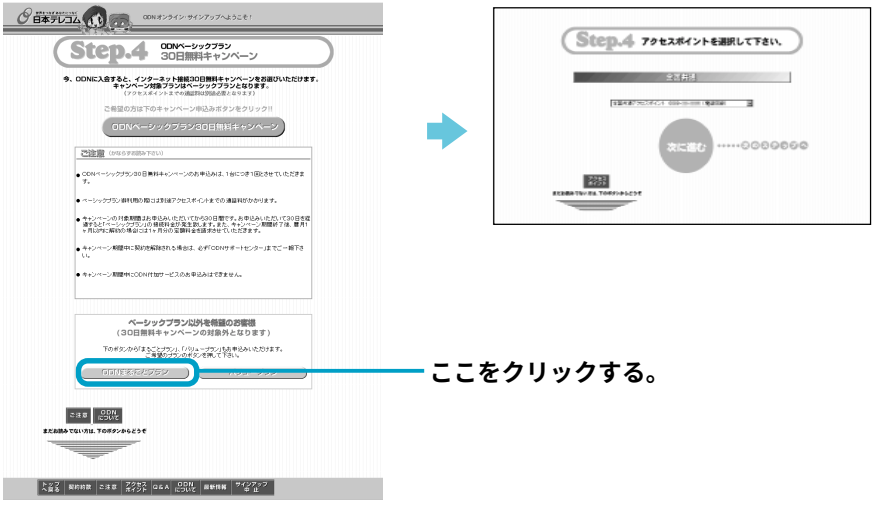
ここをクリックする。

次のページへつづく

ODNまるごとプランを選ぶ場合は

1 ODNまるごとプラン **をクリックする。**

「Step.5 必要事項を入力して下さい」の画面が表示されます。
次の手順9に進んでください。

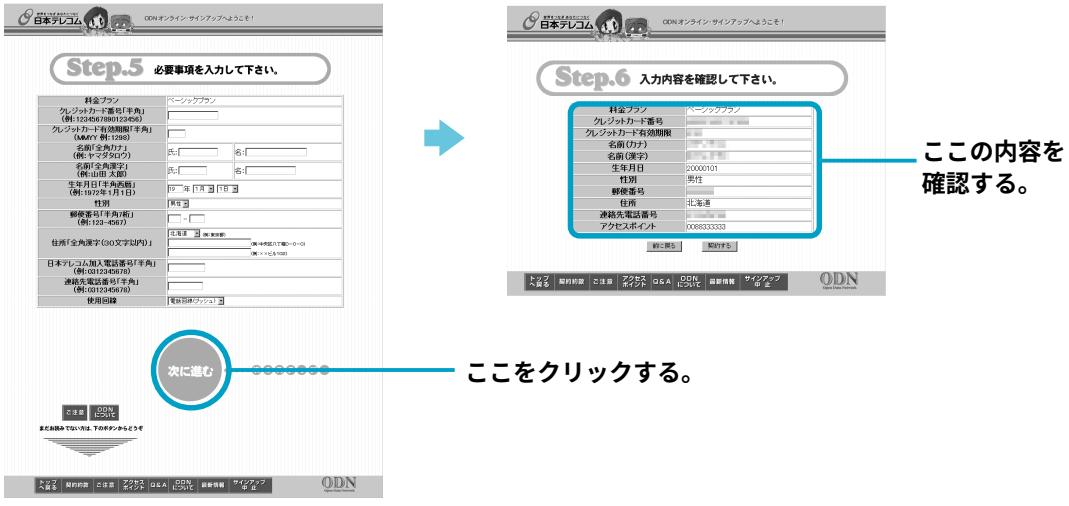


ちょっと一言

ODN まるごとプランのサービスの内容を確認するには、ODN について をクリックしてください。

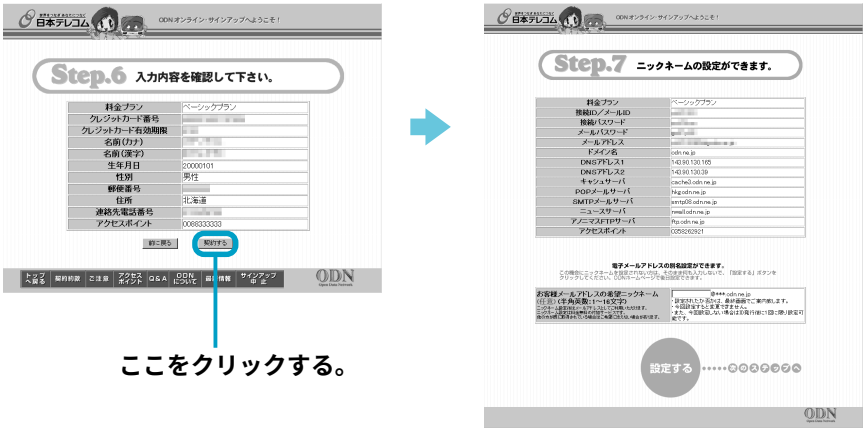
9 入力画面に必要事項を入力し、次に進む をクリックする。

「Step.6 入力内容を確認して下さい。」画面が表示されます。
入力内容に間違いがあるときは、画面下部の 前に戻る をクリックして変更したい画面まで戻って、再入力してください。



10 契約する をクリックする。

「Step.7 ニックネームの設定ができます。」画面が表示されます。

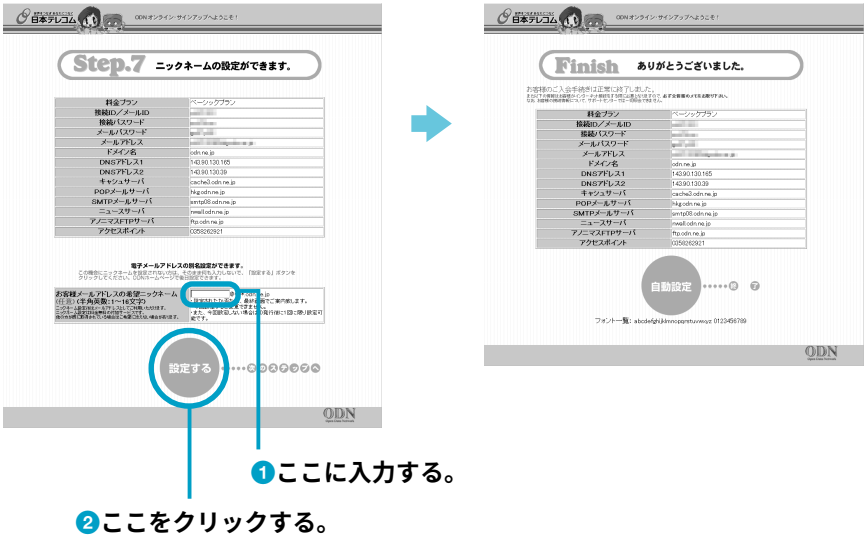


ご注意

契約する を複数回クリックすると複数のIDが発行される場合がありますのでご注意ください。

11 電子メールアドレスの希望名を入力し、設定する をクリックする。

「Finish ありがとうございました。」画面が表示されます。



ご注意

希望名が表示されない場合は、すでに所得されている場合があります。この場合は以下のODNのホームページをご覧になり、希望名を変更してください。

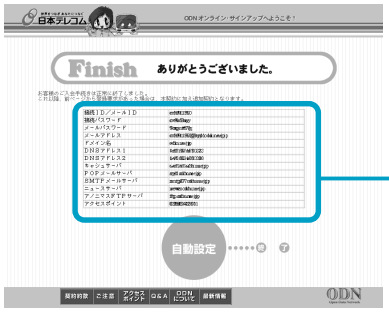
https://olins3.odn.ne.jp/malias/index.html

次のページへつづく

12 表示された「Finish ありがとうございました。」画面の内容をメモに取る。

ご注意

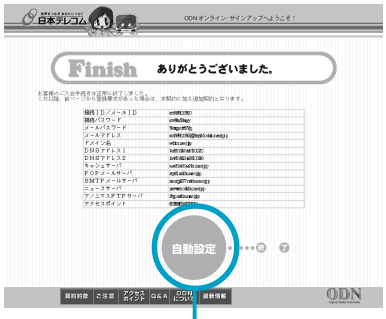
- 「Finish ありがとうございました。」画面の内容は、ODNを利用する際に必要となりますので必ず全情報をメモにお取りください。また、このメモはODNのパスワードが含まれていますので他人に見られたり紛失しないようにご注意ください。
- ODNのサポートセンターでは、お客様の接続情報について、一切照会することができません。



この部分の内容をメモに取る。

13 自動設定 をクリックする。

自動的に設定が行われ、「設定が完了しました」というメッセージが表示されます。



ここをクリックする。

14 OK をクリックする。

これでODNとの契約が完了しました。

ちょっと一言

ご登録後すぐにインターネットをご利用できます。

ODN以外のプロバイダにオンラインサインアップするには

お好みのプロバイダのアイコンをクリックして、入会する手続きを開始します。

画面の指示に従って操作してください。

お好みのプロバイダのアイコンをクリックする。

プロバイダとの契約後にインターネット接続を手動で設定する、またはLAN（ネットワーク）を使って接続するときは

「インターネット接続サービスご紹介」画面右下の［こちらへ］をクリックします。

「インターネット接続ウィザード」画面が表示されるので、郵送されてきた資料の設定情報をご覧になり、画面の指示に従って必要事項を入力してください。

入会手続きをしない、または後でするときは

「インターネット接続サービスご紹介」画面右上の をクリックします。

入会手続きが終わると、インターネットが使えるようになります。

プロバイダと契約したあとは

契約後はプロバイダから契約内容とインターネットに接続するために必要な情報が記載された資料がお手元に郵送されてくるまでお待ちください。
すぐにインターネットに接続したいときは、契約するプロバイダにご相談ください。
各プロバイダについて詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの楽しみかた］をクリックして、［付属ソフトウェアの一覧］→［コミュニケーション］をクリックして表示される情報をご覧いただくか、下記の電話番号へお問い合わせください。

AOL
株式会社ドコモAOL　AOLサポートセンター
電話番号：（03）5331-7400
受付時間：9時～21時（年中無休）
会員サポート・入会問い合わせ：（0120）275-265（フリーダイヤル）
携帯電話および国際電話によるサポート：（03）5331-7400
電子メール：AOLJapanMS@aol.com

BIGLOBE
BIGLOBEカスタマーサポート インフォメーションデスク
電話番号：（0120）86-0962（フリーダイヤル）
（03）3947-0962（携帯）
受付時間：24時間365日

DION
KDDIカスタマーサービスセンター
内容に関するお問い合わせ
電話番号：（0077）7192（無料）
接続・設定などに関するお問い合わせ
電話番号：（0077）20227（有料、全国一律1分10円）
上記番号につながらない場合は
札幌（011）232-7012（有料）
東京（03）5348-3975（有料）

DTI
DTIカスタマーセンター
入会のお問い合わせ・資料請求：（0120）83-0501
受付時間：平日11時～19時
土曜日11時～17時
電子メール：service@dti.ad.jp

@nifty
ニフティ株式会社　@niftyサービスセンター
電話番号：（0120）816-042（フリーダイヤル）
携帯・PHS・国際電話の場合：（03）5753-2374
受付時間：毎日9時～21時
（ビルの電源工事などによりお休みさせていただく場合があります。）

ODN
日本テレコム株式会社　ODNサポートセンター
電話番号：0088-86（無料）

So-net
ソニーコミュニケーションネットワーク株式会社
So-net インフォメーションデスク
電話番号：全国共通（0570）00-1414
携帯・PHSからおかけになる場合は、こちらからおかけください。
札幌（011）711-3765／仙台（022）256-2221／東京（03）3446-7555／
名古屋（052）819-1300／大阪（06）6577-4000／
広島（082）286-1286／福岡（092）624-3910
受付時間：10時～21時 年中無休
ご入会方法、サービス内容のお問い合わせ、各種会員情報の変更方法や課金状況の確認などのお問い合わせは、上記の電話番号のほか、ファックスや電子メールでも承ります。
ファックス番号：（03）3446-7557
電子メール：info@so-net.ne.jp

バイオネットワークサービス
ソニースタイルドットコム・ジャパン（株）　バイオネットワークサービスセンター
電話番号：（03）5783-1133

ぷらら
株式会社ぷららネットワークス「ぷららダイアル」
電話番号：（03）5954-5330

次のページへつづく

2 チェックシートを作成する

プロバイダと契約を結ぶと、通常、インターネットに接続するために必要な情報が記載された資料が郵送されてきます。
その資料をもとにインターネットに接続するための設定をします。
プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になりながら、次ページのチェックシートをあらかじめ作成しておくと、「接続のための設定をする」（153ページ）および「電子メールソフトウェアの設定をする」（163ページ）の手順でインターネットに接続するための設定が簡単になります。
148ページからの説明に従ってチェックシートの各項目をご記入ください。

ご注意

- このチェックシートに書き込む内容は、あなたの個人情報です。取り扱いには充分ご注意ください。
- このチェックシートは、将来、再度設定し直さなければならないときなどにも活用できますので、この説明書は大切に保管しておいてください。
- 他人にご自分のパスワードなどの情報がもれないようにご注意ください。パスワードは、他人に自分の名前を使われたり、電子メールを読まれたりしないようにするためのものです。できるだけ紙に書き留めず、記憶しておくことをおすすめします。
- 「❺パスワード（PPP）」はプロバイダに電話回線を通じて接続できるようにするためのパスワードです。「⓮パスワード（POPアカウントパスワード）」は電子メールを受信できるようにするためのパスワードです。これらのパスワードは両方とも同じでも、別々でもかまいません。これらのパスワードはWindows Meを使用するときのパスワードとは異なります。

ちょっと一言

- 他人に見られることがないように、次ページを複写した上で各項目を記入し、厳重に保管することをおすすめします。
- 複写した紙に記入しておくと、153ページからの設定を行うときに便利です。

設定項目	あなたの設定値	例（So-net の場合）
❶ 市外局番		03
❷ トーン／パルス（電話回線の種類）		
❸ 電話番号（アクセスポイント）		03-5792-9060
❹ ユーザー名（PPP）		ichiro@aa2
❺ パスワード（PPP）		
❻ DNSサーバーアドレス（プライマリDNS）	. . .	202.238.95.24
❼ 別のDNSサーバーアドレス（セカンダリDNS）	. . .	202.238.95.26
❽ ダイヤルアップ接続名		So-net 東京第16
❾ 表示名（差出人フィールドでの表示）		Ichiro Suzuki
❿ 電子メールアドレス	@	ichiro@aa2.so-net.ne.jp
⓫ 受信メール（POP3またはIMAP）サーバー		pop.aa2.so-net.ne.jp
⓬ 送信メール（SMTP）サーバー		mail.aa2.so-net.ne.jp
⓭ POPアカウント名		ichiro
⓮ パスワード（POPアカウントパスワード）		
⓯ インターネットメールアカウント名		ichiro@aa2.so-net.ne.jp

記入内容がわからないときは契約したプロバイダにお問い合わせください。

ちょっと一言

「❻DNSサーバーアドレス（プライマリDNS）」と「❼別のDNSサーバーアドレス（セカンダリDNS）」は、プロバイダによっては設定しなくてよいことがあります。

ODNと契約された方は

「❶市外局番」と「❷トーン／パルス（電話回線の種類）」のみご記入ください。
「❸電話番号（アクセスポイント）」以降は、オンラインサインアップすると自動的に設定されるため、記入する必要はありません。

次のページへつづく

設定項目について

❶ 市外局番

ご自分の電話番号の市外局番をご記入ください。
例：03

❷ トーン／パルス（電話回線の種類）

お使いの電話回線のダイヤル方法がトーン式かパルス式か
確認してご記入ください。

トーン式： 電話機のダイヤルボタンを押すと「ピポパ」と音がし、「カチカチ」と音がしない電話機のダイヤル方法です。

パルス式： ボタンではなくダイヤルを回す電話機、またはダイヤルボタンを押すたびに「カチカチ」と音がする電話機のダイヤル方法です。パルス式ダイヤルの場合、ダイヤルボタンを押すと受話器から電子音が聞こえるものもあります。

お使いの電話回線のダイヤル方法がわからない場合は、NTTなどの電話会社から送られてくる請求内訳表をご覧ください。
請求内訳表の中に「プッシュ回線使用料」と記載されている場合は「トーン式ダイヤル」です。回線（基本）使用料のみ記載されている場合は「パルス式ダイヤル」です。
電話回線のダイヤル方法について詳しくは、NTT（局番なしの116番）などの電話会社にお問い合わせください。

❸ 電話番号（アクセスポイント）

プロバイダから送られてきた資料をご覧になり、プロバイダのアクセスポイントの電話番号（接続先の電話番号）をご記入ください。アクセスポイントは「K56flex」または「V.90」に対応しているものをお選びになると、より高速な通信ができます。
例：03-5792-9060

アクセスポイントとは

一般加入電話からインターネットに接続するために、プロバイダが設けている接続地点のことです。インターネットの利用者は接続地点までの電話料金を負担する必要があるので、利用地点からより近いアクセスポイントで接続する方が通話料は少なくてすみます。

ご注意

- ここで記入する電話番号はご自分の電話番号ではありませんのでご注意ください。
- 電話番号は必ず市外局番からご記入ください。
- ISDN回線をお使いの場合やPHSを使ってインターネットに接続するときは電話番号が異なる場合があります。詳しくは契約したプロバイダにお問い合わせください。

❹ ユーザー名（PPP）

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になり、プロバイダにダイヤルアップ接続するときに使用するユーザー名をご記入ください。

例：ichiro@aa2

ちょっと一言

ユーザー名は「ユーザーID」、「PPPログイン名」、「ネットワークID」、「接続ログイン名」、「アカウント名」、「ログオン名」などともいいます。

PPPとは

「Point to Point Protocol」の略で、ネットワークに接続する方法の1つです。電話による接続が一般的なことからダイヤルアップ接続とも呼ばれています。

❺ パスワード（PPP）

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になり、プロバイダにダイヤルアップ接続するときに使用する、ユーザー名に対するパスワードを記入します。

ちょっと一言

- このパスワードは「PPPパスワード」、「ネットワークパスワード」、「接続パスワード」などとも言います。
- パスワードの入力は、一般的に半角の英数字や記号などを使います。

ダイヤルアップ接続とは

電話回線を通じてインターネットに接続することです。

❻ DNSサーバーアドレス（プライマリDNS）

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になり、ご記入ください。

例：202.238.95.24

ちょっと一言

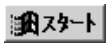
- DNSサーバーは「ネームサーバー」、「プライマリDNSサーバー」、「プライマリネームサーバー」、「ドメインネームサーバー」とも言います。
- この項目が必要ないプロバイダもあります。詳しくは、プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になるか、契約したプロバイダにお問い合わせください。

次のページへつづく

❼ 別のDNSサーバーアドレス（セカンダリDNS）

上記の「❻DNSサーバーアドレス」以外のアドレスがプロバイダから郵送されてきた資料に書かれている場合はご記入ください。
DNSサーバーアドレスは1つだけのプロバイダもあります。この場合は、「❼別のDNSサーバーアドレス」は空欄のままでかまいません。
例：202.238.95.26

❽ ダイヤルアップ接続名

デスクトップ画面左下の  をクリックして［設定］、［ダイヤルアップネットワーク］の順にポインタを合わせ、［ダイヤルアップネットワーク］をダブルクリックして表示される「ダイヤルアップネットワーク」ウィンドウの中にある接続アイコンの名前です。
お好みの名前をご記入ください。
例：So-net 東京第16

ちょっと一言

プロバイダによっては、オンラインサインアップソフトウェアを使って契約すると自動的に接続アイコンが作られ、名前も付けられます。

❾ 表示名（差出人フィールドでの表示）

あなたが送る電子メールの差出人欄に表示する名前をお好みでご記入ください。通常はご自分の名前のフルネームにします。
例：Ichiro Suzuki

ちょっと一言

この表示名は全角の漢字でも良いですが、日本語圏以外の相手に電子メールを送ることが多い方は半角のアルファベットにすることをおすすめします。こうすることによって電子メールを送った相手には「Ichiro Suzuki<ichiro@aa2.so-net.ne.jp>」などと表記されます 。

❿ 電子メールアドレス

電子メールをやりとりするときのあなたの宛先をご記入ください。
プロバイダから郵送されてきた資料には「xxxxx@xxxx.xx.xx」と記載されています。電子メールアドレスは、あなたの住所と同じ役割をします。
例：ichiro@aa2.so-net.ne.jp

ちょっと一言

電子メールアドレスは、「E-Mailアドレス」、「Mailアドレス」、「メールアドレス」などとも言います。

⓫ 受信メール（POP3またはIMAP）サーバー

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になり、電子メールを受け取るサーバーのアドレスをご記入ください。受信メールサーバーは、郵便局のような役割をします。受信メールサーバーからあなたの電子メールアドレスに電子メールが送られます。

例：pop.aa2.so-net.ne.jp

ちょっと一言

受信メールサーバーは、「メールサーバー」、「POPサーバー」、「メール受信サーバー」、「POP3」などとも言います。

⓬ 送信メール（SMTP）サーバー

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になり、電子メールを送信するサーバーのアドレスをご記入ください。送信メールサーバーも郵便局のような役割をします。あなたが送った電子メールを受け取り、送り先の電子メールアドレスに送ります。

例：mail.aa2.so-net.ne.jp

ちょっと一言

送信メールサーバーは「メールサーバー」、「SMTPサーバー」、「メール送信サーバー」、「SMTP」などとも言います。「⓫受信メールサーバー」と同じ場合もあります。

⓭ POPアカウント名

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になり、受信メールサーバーにアクセスするためのアカウント名をご記入ください。「⓾電子メールアドレス」の「@」（アットマーク）より前の部分を記入します。電子メールを見るためには、このアカウント名と「⓮パスワード」の両方が必要になります。

例：「ichiro@aa2.so-net.ne.jp」が電子メールアドレスなら、POPアカウント名は「ichiro」になります。

ちょっと一言

POPアカウント名は「メールアカウント名」、「メールサーバーログイン名」、「メールログイン名」、「POPサーバーアカウント」、「POPサーバーログイン名」とも言います。「❹ユーザー名」と同じ場合もあります。

次のページへつづく

⓮ パスワード（POPアカウントパスワード）

受信メールサーバーにアクセスするためのアカウント名に対する
パスワードを半角の英数字でご記入ください。
電子メールを見るためには、「⓭POPアカウント名」とこのパスワードの
両方が必要になります。

ちょっと一言

このパスワードは、「メールパスワード」、「メールサーバーパスワード」などとも
言います。

⓯ インターネットメールアカウント名

お好みの名前をご記入ください。わかりやすいように電子メールアドレ
スを入れることをおすすめします。
例：ichiro@aa2.so-net.ne.jp

3 接続のための設定をする

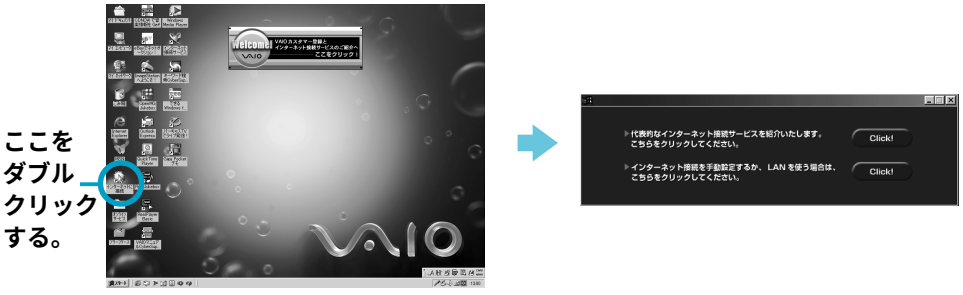
本機をインターネットに接続するための設定を行います。
「チェックシートを作成する」（146ページ）で作成したチェックシートをご覧になりながら、各項目に記入した内容を実際の画面の入力欄にキーボードを使って入力していきます。以下の手順に従って操作してください。

1 本機の電源を入れる。

電源の入れかたについては、「電源を入れる」（44ページ）をご覧ください。

2 デスクトップ画面上にある（インターネットに接続）をダブルクリックする。

右側の画面が表示されます。

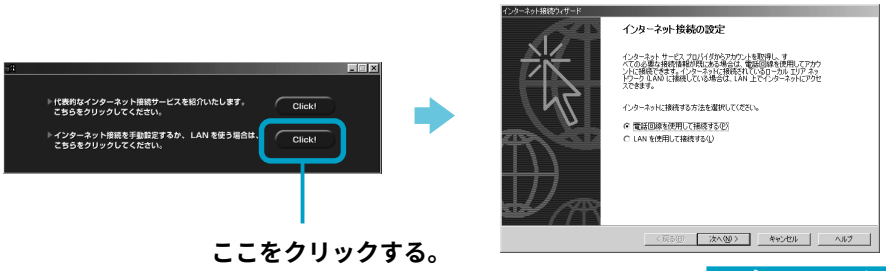


ちょっと一言

接続のための設定が終わると（インターネットに接続）はデスクトップ画面から消えます。もう一度「インターネット接続ウィザード」を表示させたいときは、デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、［プログラム］にポインタを合わせ、［アクセサリ］→［通信］→［インターネット接続ウィザード］の順にクリックします。

3 下の Click! をクリックする。

「インターネット接続の設定」画面が表示されます。



次のページへつづく

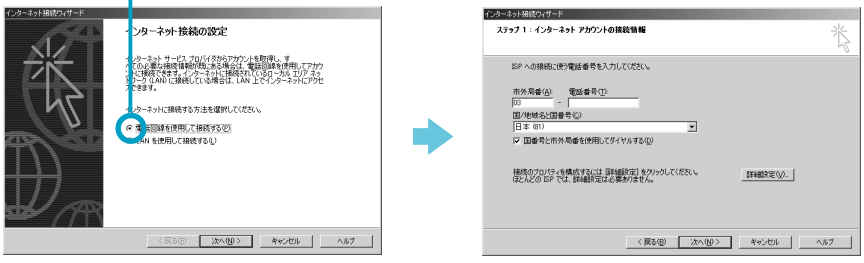
ちょっと一言

この画面は Click! をクリックしたあとも消えません。159ページの手順13まで終了したら、画面右上の ✕ をクリックして終了させてください。

4 ［電話回線を使用して接続する］の ○ をクリックして ◉ にし、次へ(N) > をクリックする。

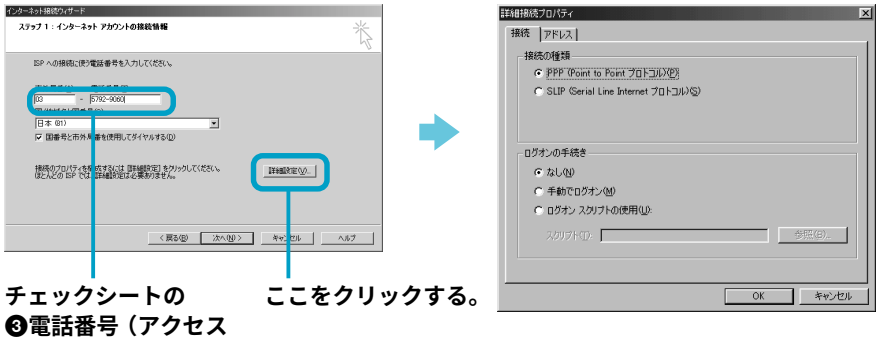
「ステップ1:インターネットアカウントの接続情報」画面が表示されます。

ここをクリックする。



5 アクセスポイントの電話番号を入力し 詳細設定(V)... をクリックする。

「詳細接続プロパティ」画面が表示されます。



チェックシートの❸電話番号（アクセスポイント）を入力する。

ここをクリックする。

ちょっと一言

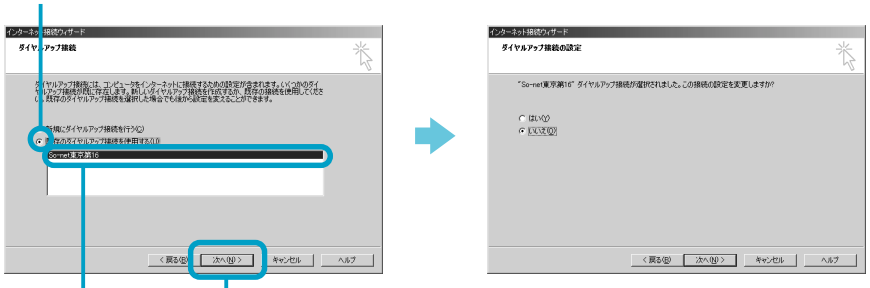
- チェックシートの「❻DNSサーバーアドレス（プライマリDNS）」と「❼別のDNSサーバーアドレス（セカンダリDNS）」が空欄のときは、契約したプロバイダが自動的にDNSサーバーの設定を行います。この場合は、詳細設定を行う必要はありませんので、チェックシートの「❸電話番号（アクセスポイント）」を入力したあと、詳細設定(V)... をクリックせずに、次へ(N) > をクリックして手順11へ進んでください。

- So-netにオンラインサインアップした場合などは、手順4で［次へ(N)＞］をクリックすると、「ダイヤルアップ接続」画面が表示されます。この「ダイヤルアップ接続」画面のリストに接続契約したプロバイダが表示されているときは、［既存のダイヤルアップ接続を使用する］をクリックすると、より簡単に設定を進めることができます。

1 「ダイヤルアップ接続」画面で［既存のダイヤルアップ接続を使用する］の ◯ をクリックして ◉ にし、［次へ(N)＞］をクリックする。

「ダイヤルアップ接続の設定」画面が表示されます。

❶ここをクリックする。

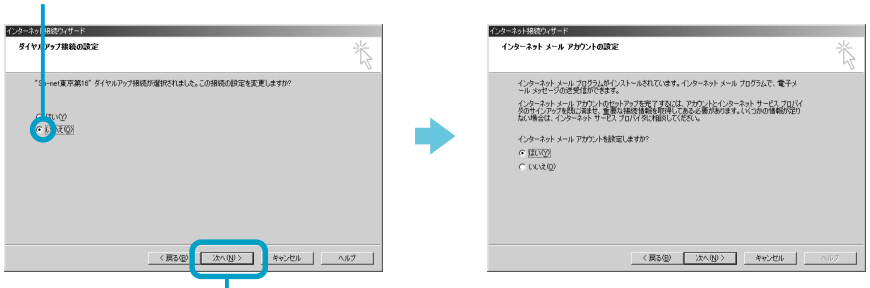


❷ここをクリックして選ぶ。　❸ここをクリックする。

2 「いいえ」の ◯ をクリックして ◉ にし、［次へ(N)＞］をクリックする。

「インターネットメールアカウントの設定」画面が表示されます。

❶ここをクリックする。



❷ここをクリックする。

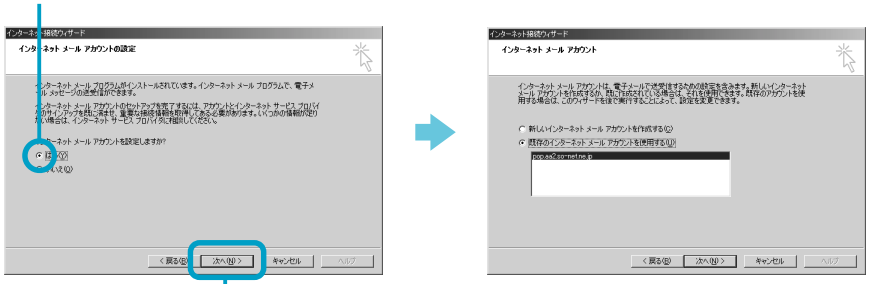
「はい」を選んだときは、手順5（154ページ）の「ステップ1：インターネットアカウントの接続情報」画面が表示されます。手順5以降の手順に従って操作してください。

次のページへつづく

❸「はい」の ◯ をクリックして ◉ にし、次へ(N) > をクリックする。

「インターネットメールアカウント」画面が表示されます。

❶ここをクリックする。

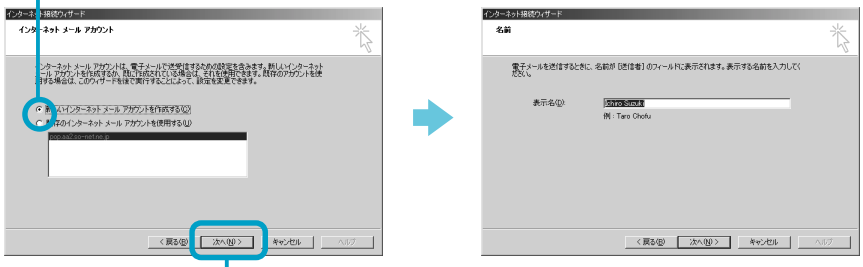


❷ここをクリックする。

❹［新しいインターネットメールアカウントを作成する］の ◯ をクリックして ◉ にし、次へ(N) > をクリックする。

「名前」画面が表示されます。

❶ここをクリックする。

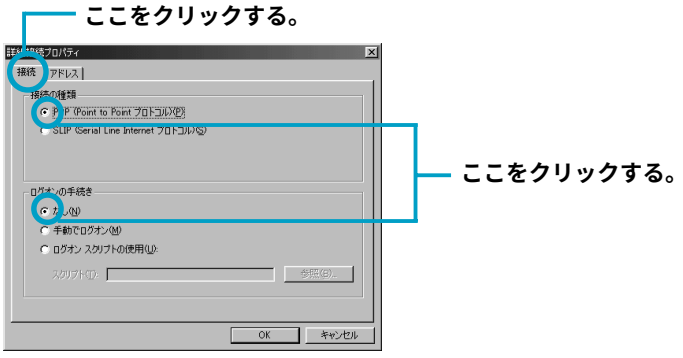


❷ここをクリックする。

これ以降は163ページの手順2以降の手順に従って操作し、電子メールソフトウェアの設定を行ってください。

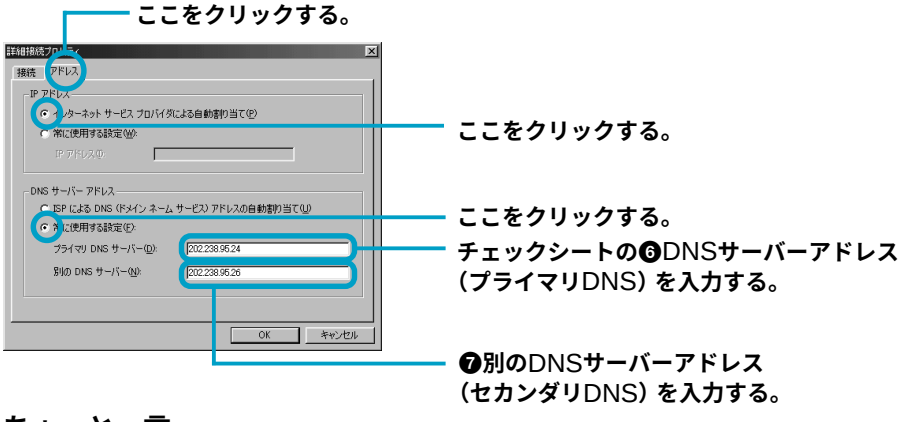
6 [接続] タブをクリックし、各項目を以下のように設定する。

- **接続の種類**：[PPP（Point to Pointプロトコル）] をクリックする。
- **ログオンの手続き**：[なし] をクリックする。



7 [アドレス] タブをクリックし、各項目を以下のように設定する。

- **IPアドレス**：[インターネット サービス プロバイダによる自動割り当て] をクリックする。
- **DNSサーバーアドレス**：[常に使用する設定] をクリックし、DNSサーバーアドレスを入力する。



ちょっと一言

チェックシートの「❻DNSサーバーアドレス（プライマリDNS）」と「❼別のDNSサーバーアドレス（セカンダリDNS）」が空欄のときは、契約したプロバイダが自動的にDNSサーバーの設定を行います。この場合は、[ISPによるDNS（ドメイン ネーム サービス）アドレスの自動割り当て] をクリックしてください。

「❻DNSサーバーアドレス（プライマリDNS）」と「❼別のDNSサーバーアドレス（セカンダリDNS）」は同じ場合があります。このときは「別のDNSサーバー」は入力する必要はありません。

ISPとは

Internet Service Provider（インターネットサービスプロバイダ）の略です。

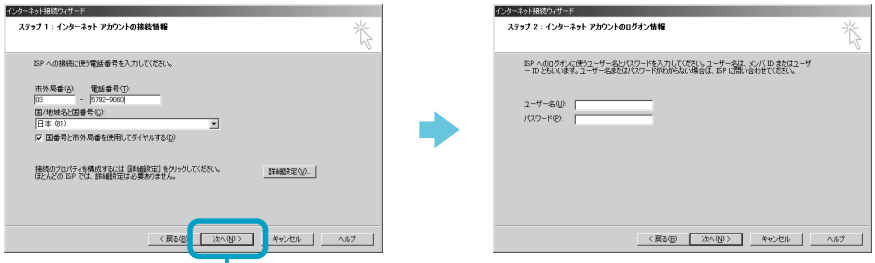
次のページへつづく

8 OK をクリックする。

「詳細接続プロパティ」画面が閉じます。

9 次へ(N) > をクリックする。

「ステップ2：インターネット アカウントのログオン情報」画面が表示されます。

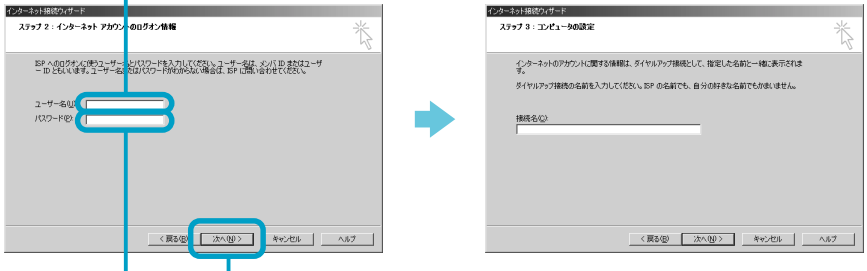


ここをクリックする。

10 ユーザー名とパスワードを入力し、次へ(N) > をクリックする。

「ステップ3：コンピュータの設定」画面が表示されます。

チェックシートの❹ユーザー名（PPP）を入力する。



チェックシートの❺パスワード（PPP）を入力する。

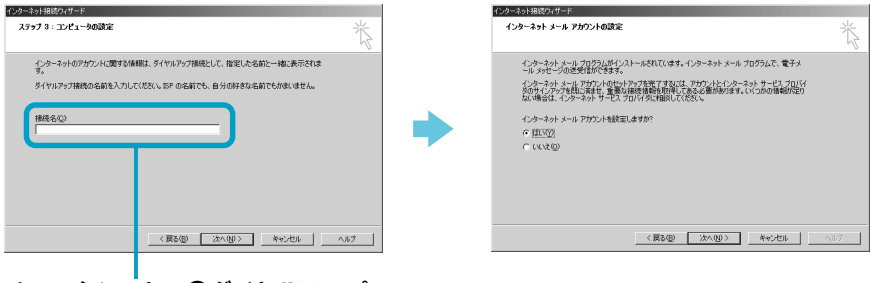
ここをクリックする。

ちょっと一言

「パスワード」はパスワードの文字数と同じ数の「＊」で表示されます。

11 ダイヤルアップ接続名を入力し、次へ(N) > をクリックする。

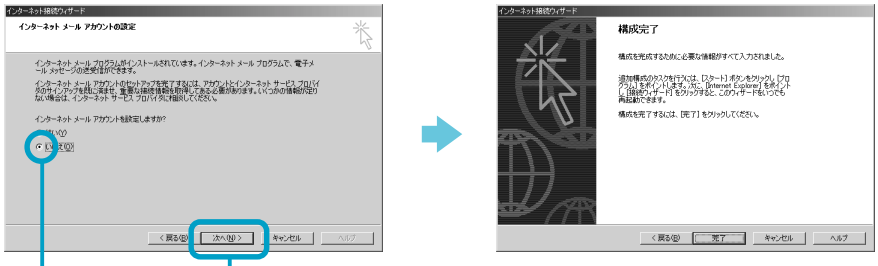
「インターネット メール アカウントの設定」画面が表示されます。



チェックシートの❽ダイヤルアップ接続名を入力する。

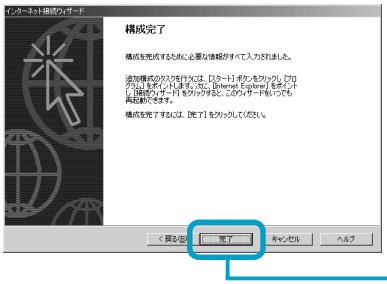
12 [いいえ] の ○ をクリックして ◉ にし、次へ(N) > をクリックする。

「構成完了」画面が表示されます。



ここをクリックする。　ここをクリックする。

13 完了 をクリックする。



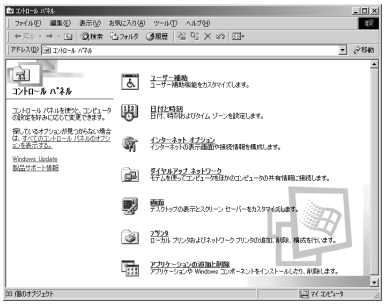
ここをクリックする。

「インターネット接続ウィザード」が終了します。

次のページへつづく

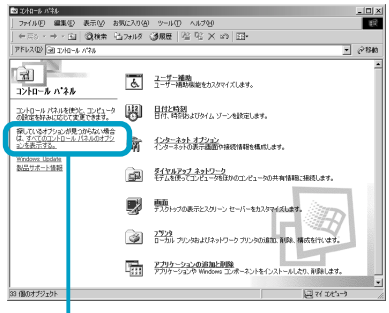
14 デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。



15 ウィンドウ左側の［すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。］をクリックする。

「コントロールパネル」のすべての項目が表示されます。



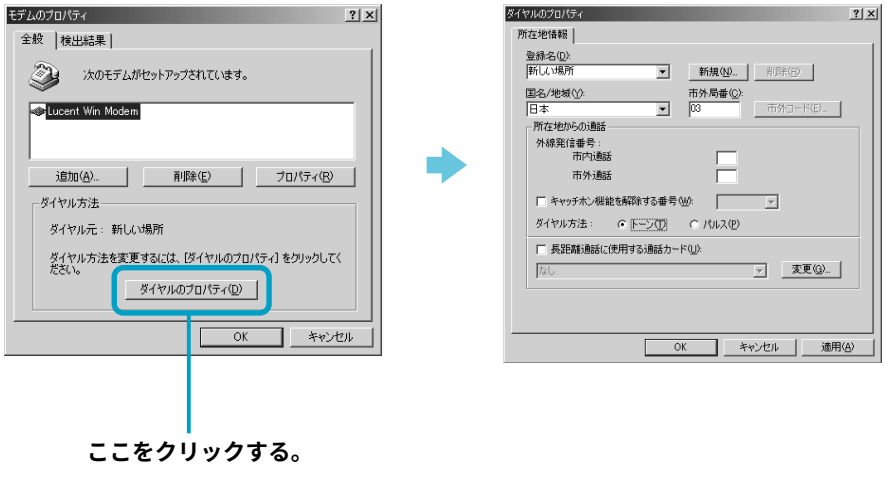
ここをクリックする。

16 （モデム）をダブルクリックする。

「モデムのプロパティ」画面が表示されます。

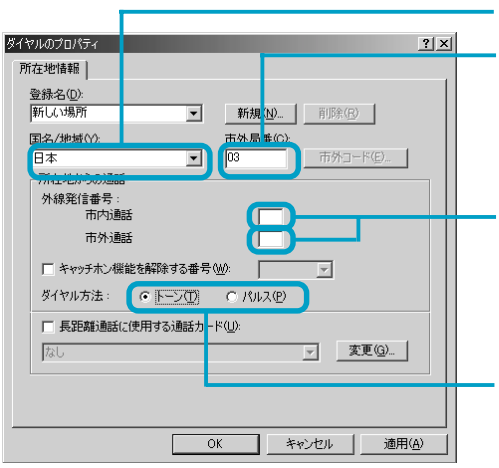
17 ダイヤルのプロパティ(D) をクリックする。

「ダイヤルのプロパティ」画面が表示されます。



次のページへつづく

18 各項目を確認する。



ご注意

- 所在地情報の登録名を設定するときは、新規(N)... をクリックして「新しい場所」と表示させてから「新しい場所」以外の任意の登録名に変更してください。
- 「外線発信番号」には0発信など、相手先の電話番号に番号入力が必要な場合以外、数字を入力しないでください。

19 「ダイヤルのプロパティ」画面の OK をクリックする。

20 「モデムのプロパティ」画面の OK をクリックする。

これでインターネット接続のための設定は終わりです。

4 電子メールソフトウェアの設定をする

電子メールのやりとりを正しく行えるようにするための設定を行います。
ここでは、本機に付属の電子メールソフトウェア「Outlook Express」*を例に電子メールをやりとりするための設定をしていきます。

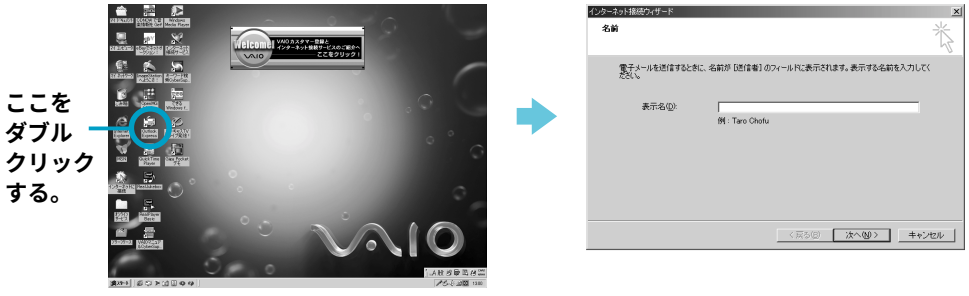
*本書で使われている「Outlook Express」ソフトウェアの画面のイラストは、本機にインストールされているバージョンのイラストです。

ちょっと一言

「Outlook Express」ソフトウェアの設定は一度行えば、2回目以降の起動時には不要です。

1 デスクトップ画面上にある（Outlook Express）をダブルクリックする。

「Outlook Express」ソフトウェアが起動し、インターネット接続ウィザードの「名前」画面が表示されます。

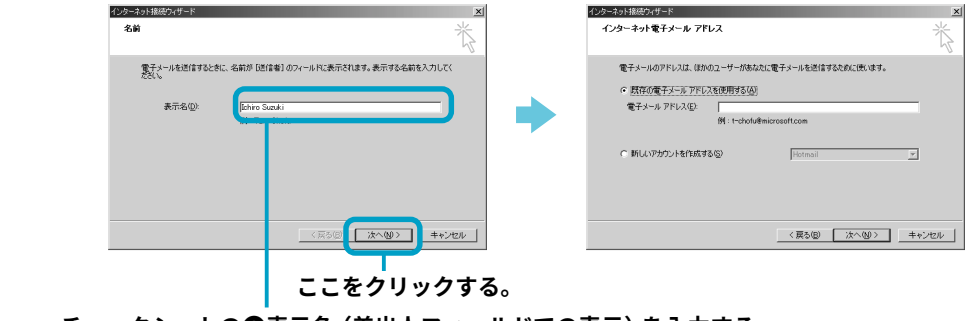


ちょっと一言

デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、［プログラム］にポインタを合わせ、［Outlook Express］をクリックしても「名前」画面が表示されます。

2 表示したい名前を入力し、次へ(N) > をクリックする。

「インターネット電子メール アドレス」画面が表示されます。



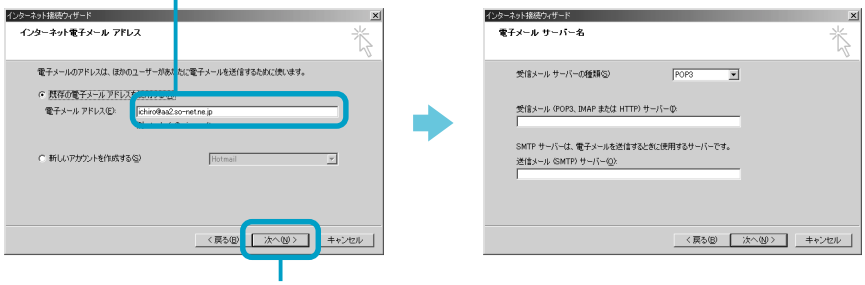
チェックシートの❾表示名（差出人フィールドでの表示）を入力する。

次のページへつづく

3 電子メールアドレスを入力して、次へ(N) > をクリックする。

「電子メール サーバー名」画面が表示されます。

チェックシートの❿電子メールアドレスを入力する。



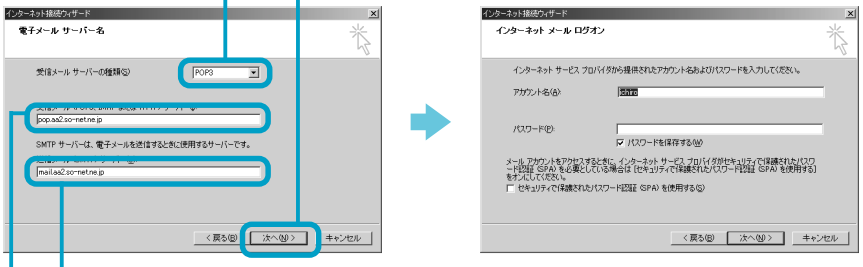
ここをクリックする。

4 受信メールサーバーと送信メールサーバーの名前を入力し、次へ(N) > をクリックする。

「インターネット メール ログオン」画面が表示されます。

通常「POP3」を選ぶ。

ここをクリックする。



チェックシートの❿送信メール（SMTP）サーバーを入力する。

チェックシートの❾受信メール（POP3またはIMAP）サーバーを入力する。

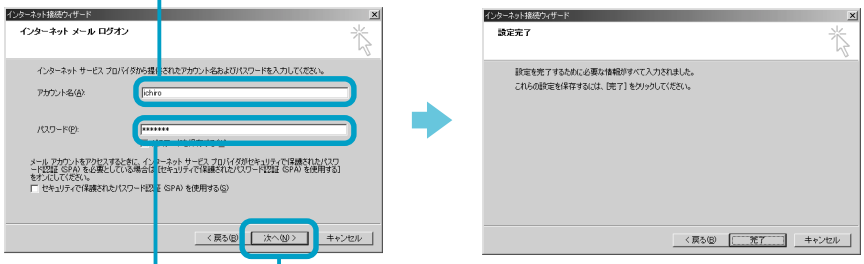
ちょっと一言

「❾受信メール（POP3またはIMAP）サーバー」の名前と「❿送信メール（SMTP）サーバー」の名前は同じ場合があります。

5 POPアカウント名とパスワードを入力し、次へ(N) > をクリックする。

「設定完了」画面が表示されます。

チェックシートの⓭POPアカウント名を入力する。



ここをクリックする。

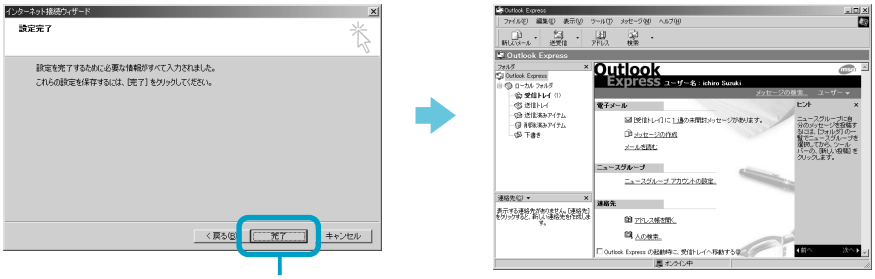
チェックシートの⓮パスワード（POPアカウントパスワード）を入力する。

ちょっと一言

- 「パスワード」は「＊」で表示されます。
- 「パスワードを保存する」の☐をクリックして☑にすると、実際にインターネットに接続するときの「接続」画面（171ページの手順3）でパスワードを入力する手間が省けます。

6 完了 をクリックする。

「Outlook Express」ソフトウェアの設定が完了します。



ここをクリックする。

ご注意

完了 をクリックしたあと、その他の画面が表示されることがあります。この場合は、画面の指示に従って操作してください。

次のページへつづく

ちょっと一言

「Outlook Express」ソフトウェアで作成したメッセージは初期設定でHTML形式になります。HTML形式に対応していない電子メールソフトウェアを使っている相手にHTML形式のメッセージを送ると、相手側が正しく受け取れないことがあります。メッセージはテキスト形式で送ることをおすすめします。

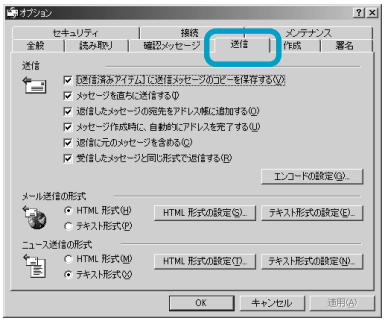
メッセージをテキスト形式で送るように設定するには、以下の手順に従ってください。

1 **「Outlook Express」画面上部の［ツール］をクリックし、表示されるメニューから［オプション］をクリックする。**

「オプション」画面が表示されます。

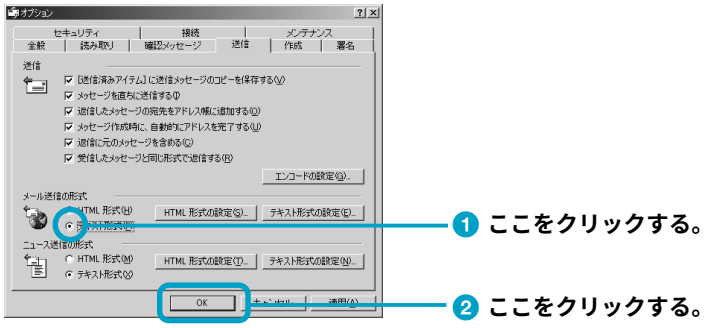
2 **［送信］タブをクリックする。**

「送信」画面が表示されます。



3 **「メール送信の形式」で［テキスト形式］をクリックし、［OK］をクリックする。**

送信するメッセージがテキスト形式になります。



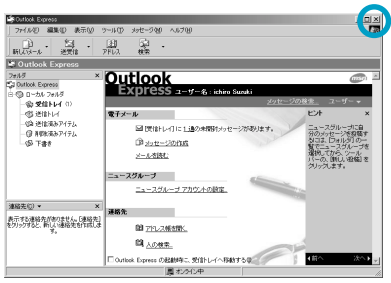
電子メールをテキストのみで送りたいときも同様の設定でお使いください。

HTMLとは

ホームページを作成するためのページ記述言語のことです。

7 画面右上の ×（「閉じる」ボタン）をクリックする。

「Outlook Express」ソフトウェアが終了します。

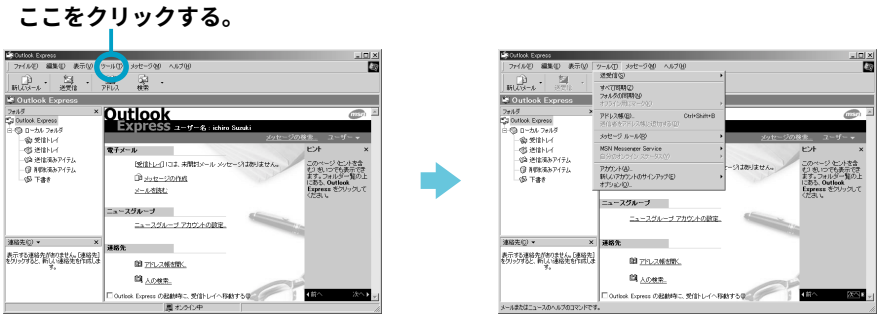


電子メールの設定を変更するには

チェックシートの「⓯インターネットメールアカウント名」は、下記の方法で変更できます。

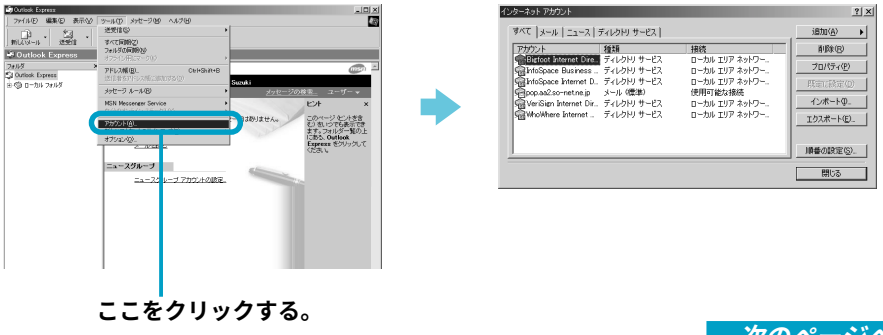
1 「Outlook Express」画面で、［ツール］をクリックする。

「ツール」メニューが表示されます。



2 ［アカウント］をクリックする。

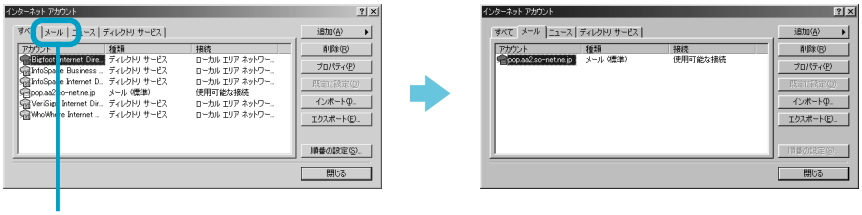
「インターネットアカウント」画面が表示されます。



次のページへつづく

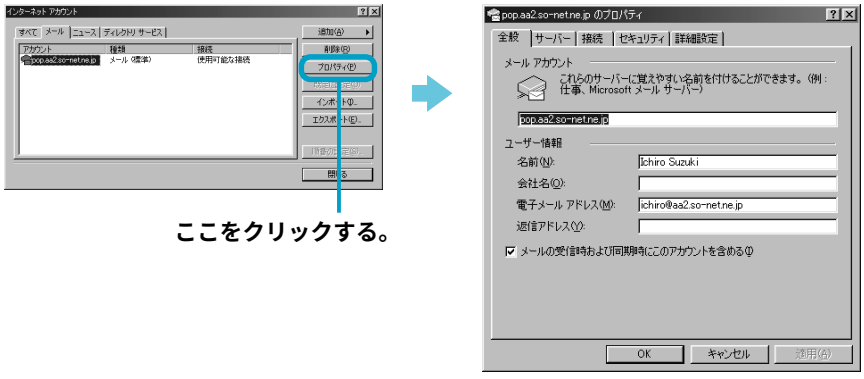
3 [メール] タブをクリックする。

「メール」画面が表示されます。



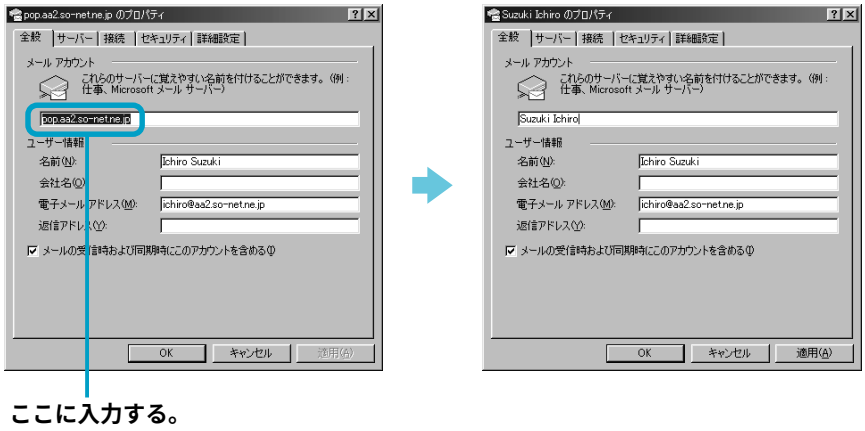
4 プロパティ(P) をクリックする。

「（インターネットメールアカウント名）のプロパティ」画面が表示されます。

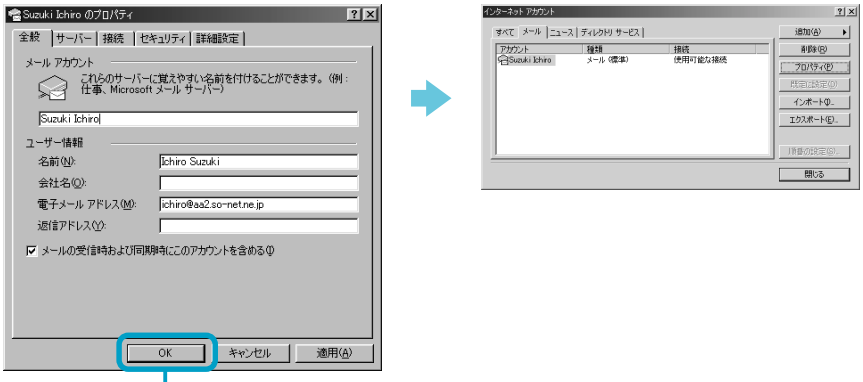


5 「pop.aa2.so-net.ne.jp」と反転表示されている部分を変更する。

ここでは「Suzuki Ichiro」と入力してみます。

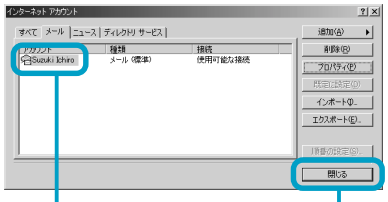


6 OK をクリックする。



ここをクリックする。

7 名前を変更した場合は、変更されているか確認して、閉じる をクリックする。



ここが変更されているかどうか確認する。

ここをクリックする。

8 「Outlook Express」画面右上の ✕（「閉じる」ボタン）をクリックする。

「Outlook Express」ソフトウェアが終了します。

ここをクリックする。

次のページへつづく

5 インターネットに接続する

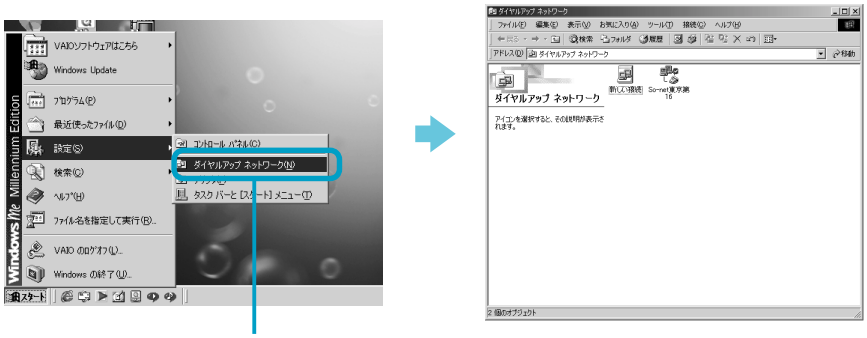
契約したプロバイダのインターネットサーバーに接続するには、以下の手順に従って操作してください。

インターネットサーバーとは

常時インターネットに接続され、アクセス可能なコンピュータのことです。
ホームページ・サーバー、メールサーバーなどがあります。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、[設定]、[ダイヤルアップネットワーク] の順にポインタを合わせ、[ダイヤルアップネットワーク] をクリックする。

「ダイヤルアップネットワーク」ウィンドウが表示されます。

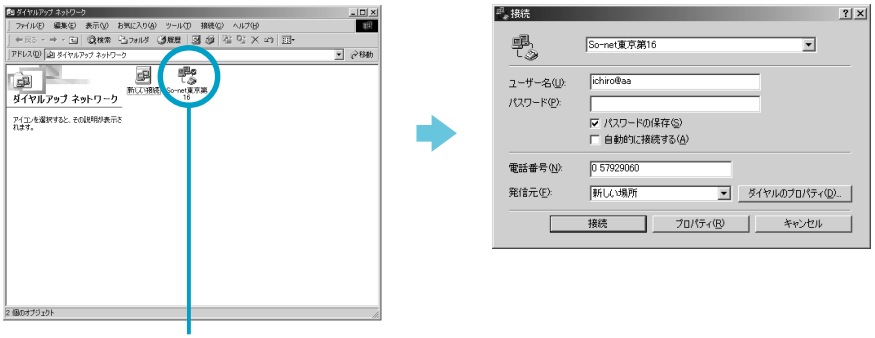


ちょっと一言

デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、[設定] にポインタを合わせ、[コントロールパネル] をクリックすると、「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
このウィンドウの中の [ダイヤルアップネットワーク] をクリックしても「ダイヤルアップネットワーク」ウィンドウが表示されます。

2 ダイヤルアップ接続名（チェックシートの❽）の をダブルクリックする。

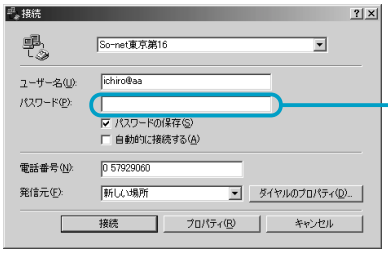
下の例では［So-net東京第16］をダブルクリックします。
「接続」画面が表示されます。



このアイコンをダブルクリックする。

3 「接続」画面の各項目を入力または確認する。

❶ パスワード（チェックシートの❺）を入力する。



チェックシートの❺パスワード（PPP）を入力する。

ご注意

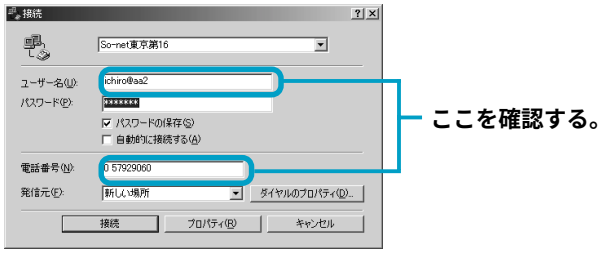
- 「パスワードの保存」の☐をクリックして☑にすると次回からパスワードを入力する手間が省けます。しかし、他人に勝手にインターネットに接続される恐れがありますのでご注意ください。
- Windows Meを起動するときにパスワードを入力する画面で［キャンセル］をクリックしたときは、上記のパスワードの保存はできません。

ちょっと一言

- 「パスワード」（チェックシートの❺パスワード（PPP））は「＊」で表示されます。
- 「パスワード」の入力欄は、「電子メールソフトウェアの設定をする」の手順5（165ページ）で「パスワードを保存する」の☐をクリックして☑にしておくと、入力された状態で表示されます。
- インターネットに接続していないときに、ウェブブラウザでホームページを見ようとしたり、電子メールソフトウェアで電子メールをやりとりしようとした場合、「接続」画面が表示され、そこからインターネットに接続することができます。接続先とユーザー名を確認し、パスワードを入力して［接続］をクリックします。

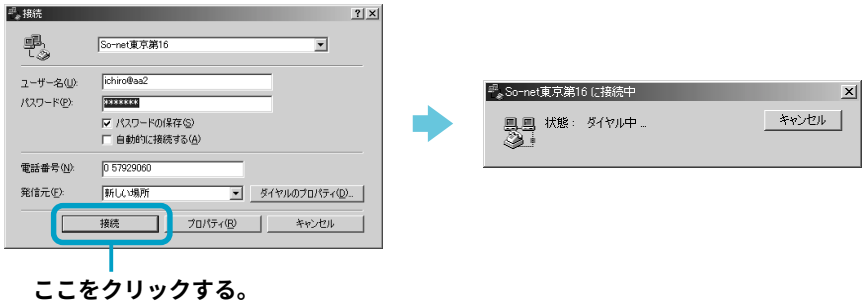
次のページへつづく

❷ ユーザー名（チェックシートの❹）と電話番号（チェックシートの❸）が正しいか確認する。

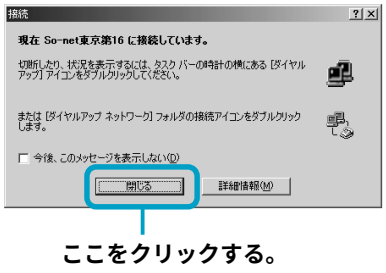


❸ 接続 をクリックする。

プロバイダのインターネットサーバーに接続します。



「現在（ダイヤルアップ接続名）に接続しています。」画面が表示されたときは、閉じる をクリックします。



閉じる をクリックする前に［今後、このメッセージを表示しない］の ☐ をクリックして ☑ にしておけば、次回からこの画面は表示されません。
デスクトップ画面右下のタスクトレイには が表示されます。

これで、接続は完了です。
インターネットに接続しているときは、常にデスクトップ画面右下のタスクトレイに が表示されます。
ホームページを見たり、電子メールをやりとりするには、次ページ以降をご覧ください。
接続を切断するときは：下記の「接続を切断するには」をご覧ください。
接続できなかった場合は：「困ったときは」の「モデム／インターネット」(227ページ) をご覧ください。

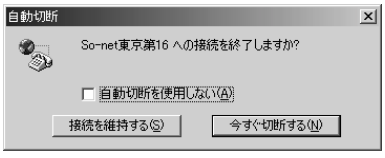
接続を切断するには

インターネットに接続している間は、ホームページを見たり、電子メールをやりとりするなどの操作を行っていないときでも通話料やプロバイダへの接続料金がかかります。また「Microsoft Internet Explorer」や「Outlook Express」ソフトウェアを終了しても、インターネットの接続は解除されません。操作を行わないときや操作が終わったあとなどは、インターネットの接続を切断します。
接続を切断するには、以下の3つの方法があります。

- **デスクトップ画面右下タスクトレイの を右クリックして表示されるメニューから [切断] をクリックする。**

- **デスクトップ画面右下タスクトレイの をダブルクリックして表示される「(ダイヤルアップ接続名) に接続」画面で 切断(C) をクリックする。**

- **「Internet Explorer」ソフトウェアまたは「Outlook Express」ソフトウェアを終了すると表示される「自動切断」画面で 今すぐ切断する(N) をクリックする。**



ちょっと一言

- 電子メールを書いているときや電子メールを受け取った後に読むときは、インターネットの接続を切断しておけば接続料金はかかりません。
- 「自動切断」画面は「自動切断を使用しない」の をクリックして にすると、次回インターネットに接続したときからは表示されません。

次のページへつづく

6 ホームページを見る

インターネット上のホームページを見てみます。ホームページを見るには、「ウェブブラウザ」という専用ソフトウェアが必要です。ここでは、付属の「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを使ってホームページを見てみます。

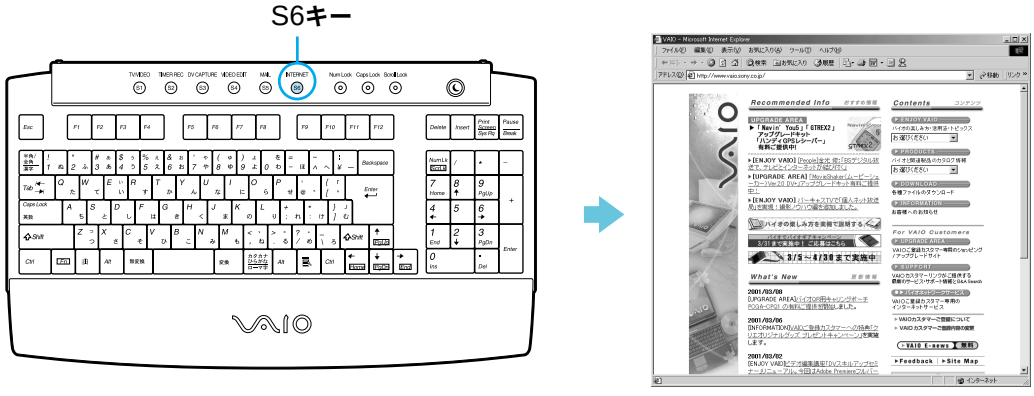
以下の操作をする前に、デスクトップ画面右下のタスクトレイに が表示されていることを確認してください。表示されていれば、インターネットに接続しています。インターネットに接続していない場合は、下記の操作を行うと、「インターネット接続ウィザード」が起動します。「インターネットに接続する」（170ページ）の手順に従い、インターネットに接続し、 を表示させてください。

1 「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを起動する

まず「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを起動します。

キーボードの S6 キーを押す。

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアが起動し、ホームページが表示されます。



ちょっと一言

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを起動するには、デスクトップ画面上の （Internet Explorer）をダブルクリックするか、デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、［プログラム］にポインタを合わせ、［Internet Explorer］をクリックする方法もあります。

ご注意

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを起動したときに表示されるホームページは各自の設定により異なります。上の図は、最初に表示されるホームページをVAIOホームページに設定したときの例です。設定のしかたについては、「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

ホームページが表示されなかった場合は、「困ったときは」の「モデム／インターネット」（227ページ）をご覧ください。

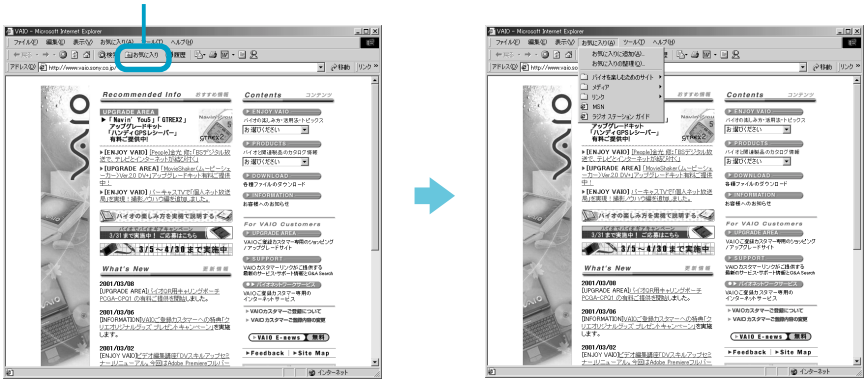
2 「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアにあらかじめ登録されているホームページを見る

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアにあらかじめ登録されているホームページを見ることができます。ここでは、VAIOカスタマーリンクのホームページを見てみましょう。

1 ツールバーの お気に入り をクリックする。

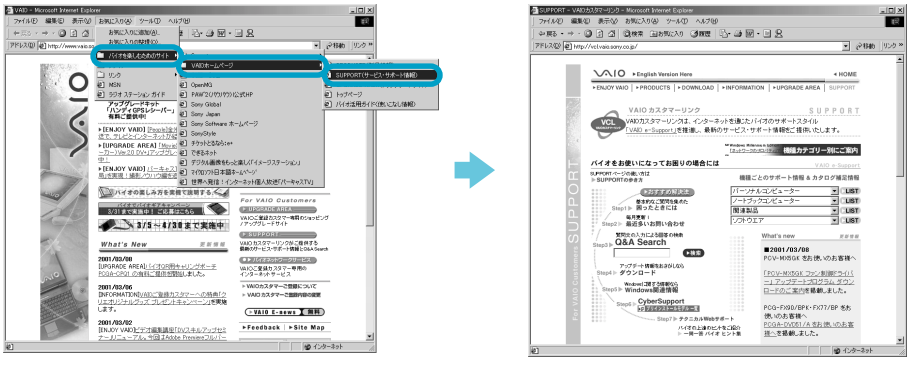
メニューが表示されます。

ここをクリックする。



2 [バイオを楽しむためのサイト]にポインタを合わせ、[VAIOホームページ]→[SUPPORT（サービスサポート情報）]の順にクリックする。

VAIOカスタマーリンクのホームページが表示されます。



次のページへつづく

3 ホームページのURL（ユーアールエル）を入力してホームページを見る

見たいホームページのURLをすでにご存知の場合は、アドレスバーにそのURLを入力します。ここでは、VAIOカスタマーリンクのホームページ（URL：http://vcl.vaio.sony.co.jp/）を見てみます。

URLとは

インターネット上で使われるホームページにはそれぞれ特定の住所があります。この住所のことを「URL」と言います。URLを書き込むことでホームページが見られます。URLの最初には必ず「http://」がつきます。

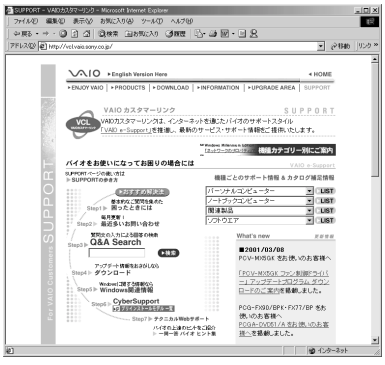
1 アドレスバーに「http://vcl.vaio.sony.co.jp/」と入力する。

「~」（チルダ）を入力するには

インターネットのホームページのアドレスなどによく使われる半角の「~」（チルダ）を入力するには、「直接入力」（90ページ）または「半角英数」を選び、Shift（シフト）キーを押しながら ~ キーを押します。

2 キーボードの Enter（エンター）キーを押す。

VAIOカスタマーリンクのホームページが表示されます。

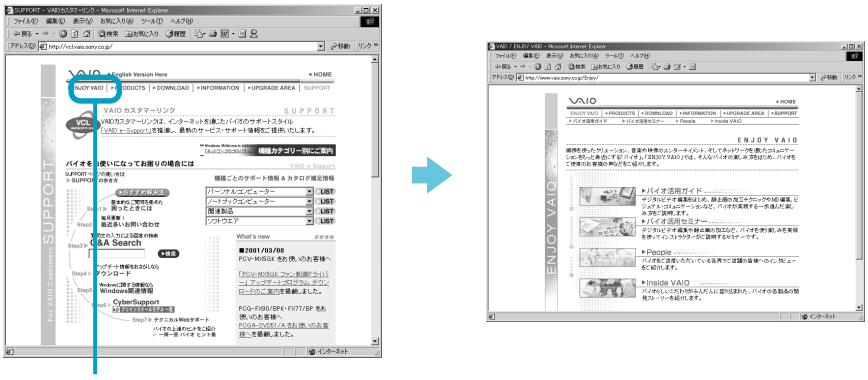


4 リンクをたどる

ホームページから他のホームページにジャンプしたり、データをインターネット上から本機にコピーすることができます。このように、ホームページから、他のページにジャンプしたり、データにジャンプすることを「リンクする」と言います。
ここでは、VAIOカスタマーリンクのホームページから、ENJOY VAIOのホームページにジャンプしてみましょう。

マウスを使って（ポインタ）を［ENJOY VAIO］に移動して、に変わったらクリックする。

ENJOY VAIOのホームページ画面が表示されます。



に変わったらクリックする。

ちょっと一言

ホームページで（ポインタ）がに変わる文字や画像は、リンクが張られているところです。

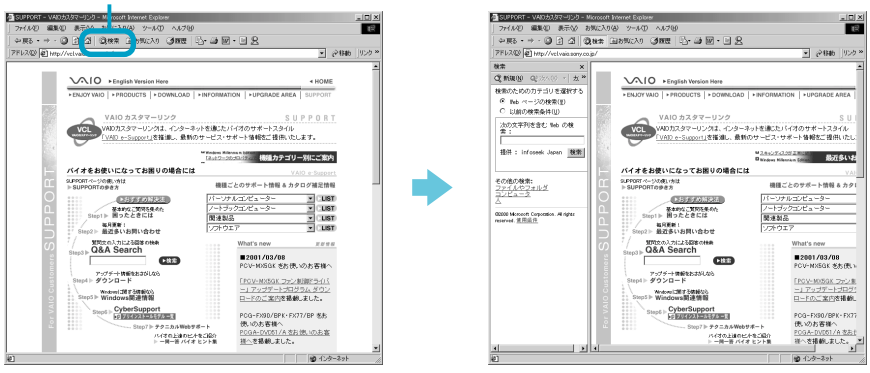
5 目的のホームページを検索して見る

目的のホームページを「検索」メニューで検索することができます。
ここでは「VAIO」を検索してみましょう。

1 ツールバーの 検索 をクリックする。

検索画面が表示されます。

ここをクリックする。



次のページへつづく

インターネットに接続するまでの流れ（つづき）

2 検索画面の中央上にある［　　］の中に「VAIO」と入力する。

3 検索 をクリックする。

該当するホームページの検索結果が一覧表示されます。

ここをクリックする。　　検索結果

4 見たいホームページをクリックする。

クリックしたホームページが表示されます。

6 よく見るホームページを登録する

よく見るホームページを「お気に入り」メニューの中に登録することができます。
ここではSony online Japanのホームページを登録してみましょう。

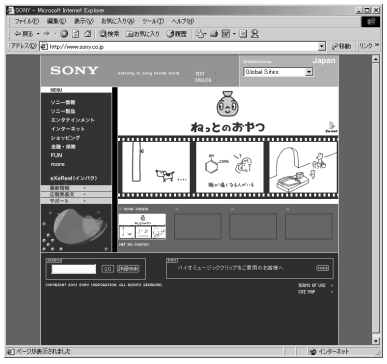
ちょっと一言

Sony online Japanはインターネット上のソニーエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

1 アドレスバーに「http://www.sony.co.jp/」と入力する。

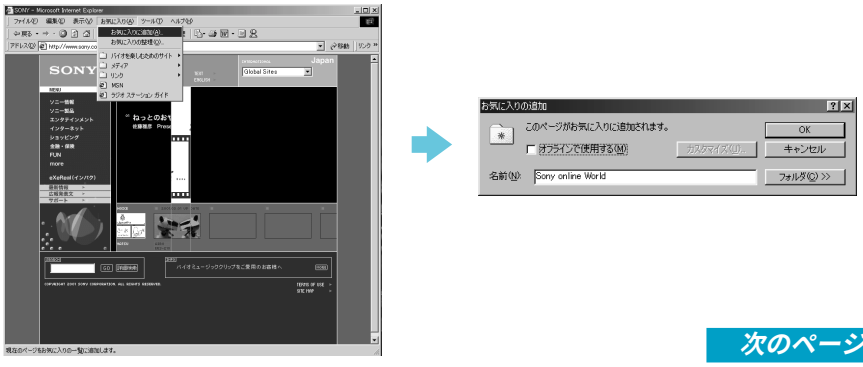
2 キーボードの Enter（エンター）キーを押す。

Sony online Japanのホームページが表示されます。



3 メニューバーの お気に入り(A) をクリックし、次に［お気に入りに追加］をクリックする。

「お気に入りの追加」画面が表示されます。

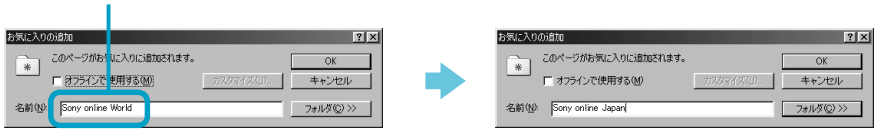


次のページへつづく

4 「名前」に、登録するホームページを示すお好みの名前を入力し、OK をクリックする。

ここでは「Sony online Japan」と入力します。

ここに「Sony online Japan」と入力する。



Sony online Japanホームページが登録され、入力した名前が「お気に入り」メニューの中に表示されるようになります。

7 「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを終了する

最後に「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを終了します。

1 [ファイル] にポインタを合わせ、クリックする。

ファイルメニューが表示されます。

2 [閉じる] にポインタを合わせ、クリックする。

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアが終了します。

3 デスクトップ画面右下のタスクトレイの を右クリックして表示されるメニューから［切断］をクリックする。

インターネットへの接続が切断されます。

ご注意

インターネットに接続している間は、ホームページを見たり、電子メールをやりとりするなどの操作を行っていないときでも、通信料やプロバイダへの接続料金がかかります。また、「Microsoft Internet Explorer」や「Outlook Express」ソフトウェアを終了しても、インターネットへの接続は解除されません。ホームページを見ている間など、操作を行わないときや、操作が終わったあとなどは、インターネットへの接続を切断してください。

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアについて詳しくは、ヘルプをご覧ください。「Microsoft Internet Explorer」のヘルプを見るときは、「Microsoft Internet Explorer」画面上部の［ヘルプ］をクリックしてください。

7 電子メールをやりとりする

インターネットを使って、電子メールをやりとりできます。電子メールをやりとりするには、電子メールソフトウェアが必要です。

ここでは、付属の「Outlook Express」ソフトウェアを使って自分の電子メールアドレスに電子メールを送ったり、受け取ったりしてみます。

ご注意

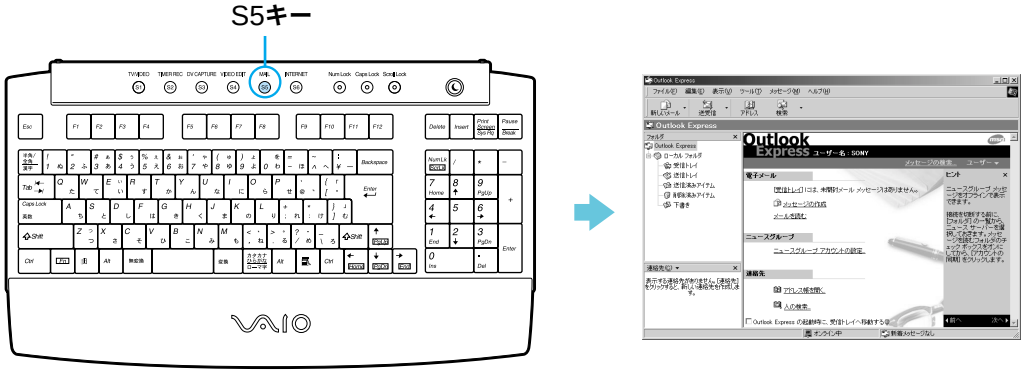
電子メールをやりとりする手順は、インターネットへの接続やソフトウェアの設定によって変わることがあります。

1 「Outlook Express」ソフトウェアを起動する

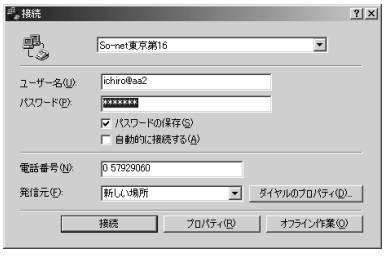
まず「Outlook Express」ソフトウェアを起動します。

キーボードの (S5) キーを押す。

「Outlook Express」ソフトウェアが起動します。



「接続」画面が表示されたときは、 オフライン作業(O) をクリックして画面を閉じてください。



オフライン作業とは

「オフライン作業」とはインターネットに接続していない状態で「Outlook Express」ソフトウェアを使って電子メールを書いたり、読んだりといった作業をすることです。

ちょっと一言

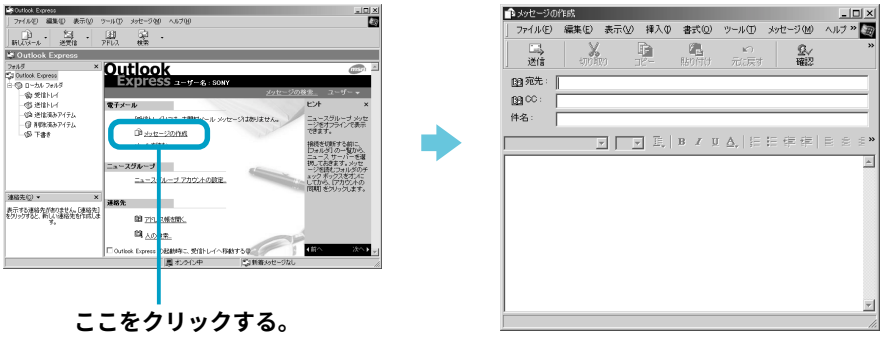
「Outlook Express」ソフトウェアを起動するには、デスクトップ画面上の（Outlook Express）をダブルクリックするか、デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックし、［プログラム］にポインタを合わせて、［Outlook Express］をクリックする方法もあります。

2 電子メールを送信する

ためしに自分のメールアドレス宛に電子メールを送信してみましょう。

1 ［メッセージの作成］をクリックする。

「メッセージの作成」画面が表示されます。

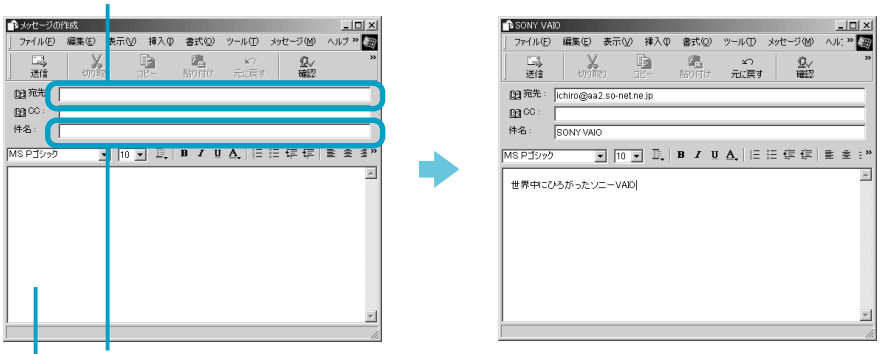


ちょっと一言

電子メールを書くときや電子メールを受け取ったあとに読むときはインターネットに接続していない状態（オフライン作業）で書いた方が接続料金と通話料がかからなくてすみます。

2 メッセージを作成する。

ここでは、メッセージに「世界中にひろがったソニーVAIO」と入れてみます。
タイトルは「SONY VAIO」にしましょう。
文字の入力のしかたについて詳しくは、「文字の入力を練習する（キーボードの使いかた）」（81ページ）をご覧ください。



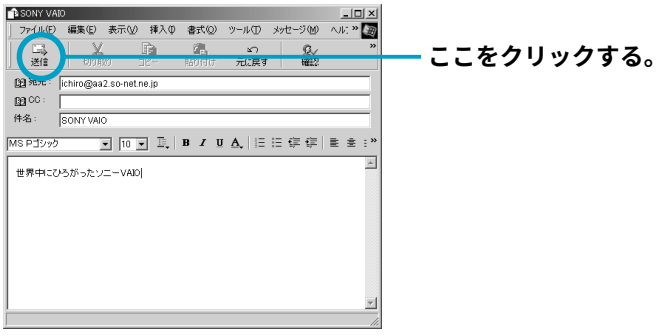
次のページへつづく

3 ［ファイル］をクリックし、［オフライン作業］をクリックする。

「オフライン作業」の前のチェックマークが消えます。

4 ツールバーの［送信］をクリックする。

「（ダイヤルアップ接続名）に接続中」画面が表示され、本機がインターネットに接続し、作成した電子メールが送り先に送られます。



ご注意

オフライン（インターネットに接続していない状態）で［送信］をクリックした場合は、電子メールは送信トレイに保管されます。「Outlook Express」のツールバーの［送受信］をクリックすると、電子メールが送り先へ送られます。

3 電子メールを受信する

手順2で送った自分のメールアドレス宛の電子メールを受信してみましょう。

インターネットに接続した状態で、ツールバーの［送受信］をクリックする。

手順2で送った電子メールが届きます。

ここをクリックする。

メールが届く。

ご注意

オフライン（インターネットに接続していない状態）のときは、「オフラインで作業しています。オンラインに切り替えますか？」というメッセージが表示されます。この場合は、［はい(Y)］をクリックしてください。

ちょっと一言

- 作成した電子メールが送信トレイにある場合は、同時に送り先に送られます。インターネットに接続していない場合は、「接続」画面が表示され、接続を促します。インターネットに接続したあとに電子メールが送受信されます。
- 電子メールの送受信のあと、ホームページを見たりしないときは、インターネットの接続を切断しましょう（173ページ）。

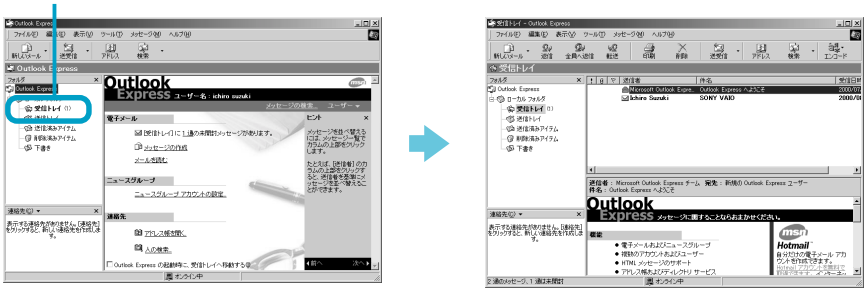
4 受け取った電子メールを見る

手順3で届いた電子メールを見てみます。

1 ［受信トレイ］をクリックする。

受信トレイの中味が表示されます。

ここをクリックする。



次のページへつづく

2 [SONY VAIO] をクリックする。

受け取った電子メールのメッセージが表示されます。

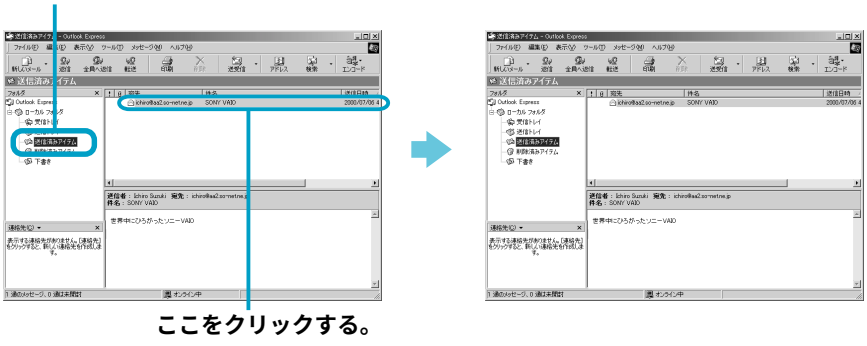
5 送った電子メールを見る

手順2で送った電子メールを見てみます。

[送信済みアイテム] をクリックし、[SONY VAIO] をクリックする。

送った電子メールのメッセージが表示されます。

ここをクリックする。



電子メールをやりとりできなかった場合は、「困ったときは」の「モデム／インターネット」（227ページ）をご覧ください。

6 「Outlook Express」ソフトウェアを終了する

最後に「Outlook Express」ソフトウェアを終了します。

1 [ファイル] にポインタを合わせ、クリックする。

ファイルメニューが表示されます。

2 [終了] にポインタを合わせ、クリックする。

「Outlook Express」ソフトウェアが終了します。

3 デスクトップ画面右下のタスクトレイの を右クリックして表示されるメニューから [切断] をクリックする。

インターネットへの接続が切断されます。

本機の使いかたがわからないときに

この章では、本機の使いかたがわからなくなったときに
読むマニュアルやヘルプの使いかたについて説明します。

どのマニュアルを読む？

本機に付属しているマニュアルの内容を簡単に紹介します。それぞれの目的に合わせてお読みください。
「サイバーサポート」の使いかたについて詳しくは、「「サイバーサポート」の使いかた」（192ページ）をご覧ください。

本機に付属しているマニュアル

❑ 取扱説明書（本書）

本機をお買い上げいただいたあとに最初に行う準備をはじめ、本機の基本的な使いかたや使用上のご注意などについて記載しています。

❑ 付属ソフトウェアの説明書

ソニー製以外のソフトウェアの使いかたを説明しています。

❑ 「Microsoft® Windows® Millennium Edition」クイックスタートガイド

Windows Meの基本的な使いかたを説明しています。

❑ VAIOサービス・サポートのご案内

本機を使っていてトラブルが発生したときの対処方法や、本機が故障したときなどのお問い合わせ先、サービス／サポートの内容について説明しています。

画面で見るマニュアル

❑ サイバーサポート

コンピュータの基礎的な知識をはじめ、本機の使いかたや楽しみかたについて詳しく説明しています。また、本機に付属のソフトウェアの起動方法やお問い合わせ先なども説明しています。本書を読み終わった方は、「Windows Meを準備する」（46ページ）の手順が終わったあと、本機の電源が入っている状態で、デスクトップ画面上の をダブルクリックして必ずこちらもご覧ください。使いかたについて詳しくは、「「サイバーサポート」の使いかた」（192ページ）をご覧ください。

❑ ソニー製のソフトウェアのヘルプ

本機に付属しているソニー製のソフトウェアの基本的な使いかたを説明しています。ソフトウェアの中には電子マニュアルが付属しているものがあります。

電子マニュアルを見るには、デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、［VAIOソフトウェアはこちら］、［VAIOソフトウェアマニュアル］の順にクリックして、見たいソフトウェアの電子マニュアルを選んでください。

- PictureGear（ピクチャーギア）
  本機で静止画や動画を見たり、保管するためのソフトウェア
- Giga Pocket（ギガ　ポケット）
  本機で映像を録画したり、編集したりするためのソフトウェア
  紙の取扱説明書も付属しています。
- DVgate（ディーブイゲート）
  動画／静止画編集用にデジタルビデオカメラレコーダーなどの機器から動画や静止画を取り込むためのソフトウェア
- Navin' You（ナビン　ユー）
  本機で地図を見たり、ルートの検索などが行えるソフトウェア
- Smart Capture（スマート　キャプチャー）
  デジタルビデオカメラレコーダーなどの機器から動画や静止画を取り込むためのソフトウェア
- MovieShaker（ムービーシェイカー）
  本機に取り込んだ動画を編集するためのソフトウェア
- OpenMG Jukebox（オープンエムジー ジュークボックス）
  ソニーが開発した著作権保護技術「OpenMG」を採用し、コンピュータのハードディスクに保存したデジタル音楽コンテンツを楽しむソフトウェア

電子マニュアルとは

本機やソフトウェアの操作説明などをデスクトップ画面上で読めるようにしたマニュアルのことです。

ヘルプとは

Windows Meやソフトウェアなどの操作についてわからなくなったときに、デスクトップ画面上でその解決方法についての情報を検索して表示する機能のことです。

❑ Windows Meのヘルプ

Windows Meの操作のしかたや設定の変更についての情報を検索できます。

Windows Meのヘルプの使いかたについて詳しくは、「Windows Meのヘルプの使いかた」（203ページ）をご覧ください。

「サイバーサポート」の使いかた

「サイバーサポート」ってなに？

「サイバーサポート」はVAIOについての情報の入り口です。VAIOの使いかたを知りたいときや、VAIOを使っていて困ったことがあったときは「サイバーサポート」を開いてください。

デスクトップ画面にあるこのアイコンをダブルクリックする。

VAIOマニュアル「サイバーサポート」は、VAIOの使いかたや楽しみかたをデスクトップ画面上で説明する電子マニュアルです。本書に載っていない情報も、「サイバーサポート」で調べることができます。

こんなときに「サイバーサポート」

目的に合わせて、「サイバーサポート」の情報をご覧ください。

コンピュータを初歩から学びたいときは

→ できるWindows

Windowsの操作方法や文字入力の練習など、コンピュータの基本的な使いかたに関する情報が載っています。

インターネットを楽しみたいときは

→ インターネット

はじめてインターネットを使用するときの設定のしかたや、ホームページの見かた、電子メールのやりとりに関する情報が載っています。

VAIOの基本的な使いかたを知りたいときは

→ VAIOの使いかた

本機の基本的な使いかたの説明を見ることができます。

VAIOに付属しているソフトウェアを活用したいときは

→ VAIOの楽しみかた

本機に付属しているソフトウェアの説明や、楽しみかたの紹介が載っています。

なにかトラブルが起きたら

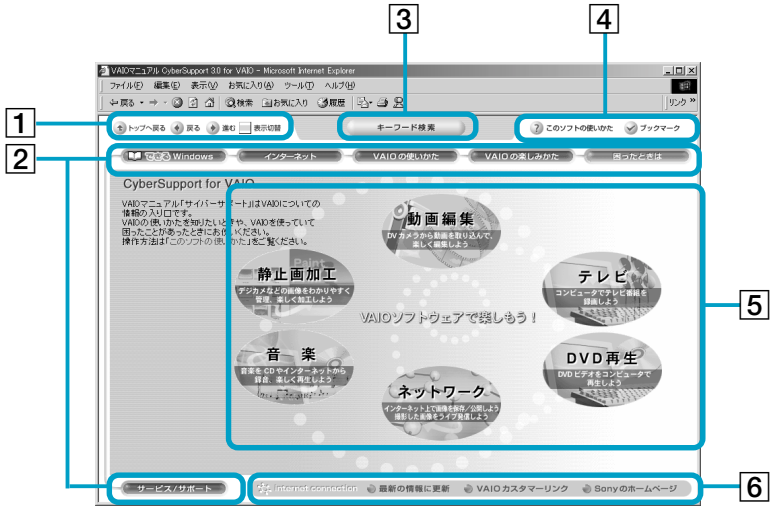
→ 困ったときは

本機を操作していて困ったときの解決方法や、トラブルが発生したときの対処方法の説明を見ることができます。

→ サービス/サポート

VAIOについてのサービスやサポートを受けるための説明を見ることができます。

「サイバーサポート」画面の見かた



1 ナビゲーションボタン	
トップへ戻る	「サイバーサポート」を開いたときに、最初に表示される画面に戻ります。（200ページ）
戻る 進む	前に見ていた画面に戻ったり、また進んだりできます。（200ページ）
表示切替	一部のボタンを隠して、本文ページをより広く表示できるようにします。（201ページ）
2 マニュアル表示ボタン	
できるWindows	Windowsの基本的な使いかたの説明を見ることができます。
インターネット	インターネットに接続して、ホームページや電子メールを楽しむための説明を見ることができます。
VAIOの使いかた	本機の基本的な使いかたの説明を見ることができます。
VAIOの楽しみかた	本機に付属しているソフトウェアの説明を見ることができます。
困ったときは	本機を操作していて困ったときの解決方法や、トラブルが発生したときの対処方法の説明を見ることができます。
サービス/サポート	VAIOについてのサービスやサポートを受けるための説明を見ることができます。
3 キーワード検索ボタン	
キーワード検索	キーワードを入力して情報を探すことができます。（199ページ）

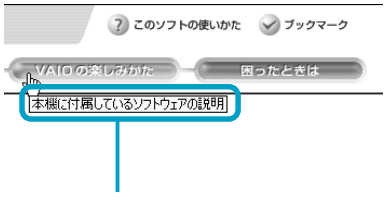
次のページへつづく

「サイバーサポート」の使いかた（つづき）

4	
ブックマーク	よく見るページを登録することができます。登録したページは簡単に呼び出すことができます。
このソフトの使いかた	「サイバーサポート」の使いかたを見ることができます。
5	
本機に付属しているソフトウェアの楽しみかたの紹介です。見たいトピックをクリックしてください。	
6	
最新の情報に更新	「サイバーサポート」で検索できる情報を更新します。（202ページ）
VAIOカスタマーリンク	VAIOカスタマーリンクのホームページを見ることができます。（202ページ）
Sonyのホームページ	ソニーのホームページを見ることができます。

ちょっと一言

「サイバーサポート」画面にある各ボタンにポインタを近づけると、ボタンをクリックしたときに表示される情報の内容が表示されます。



ここに情報が表示される。

「サイバーサポート」を使ってみよう

ご注意

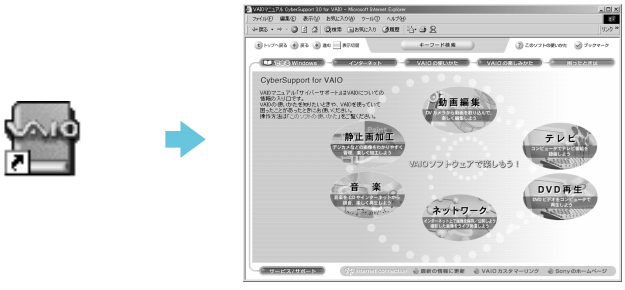
「サイバーサポート」は必ず「Microsoft Internet Explorer Version 5.5」ソフトウェアを使って表示させてください。「Microsoft Internet Explorer Version 5.5」以外のソフトウェアでは正しく表示されないことがあります。

「サイバーサポート」を見るには、「Windows Meを準備する」（46ページ）の手順が終わったあと、本機の電源が入っている状態で、以下のように操作します。

「サイバーサポート」を開く

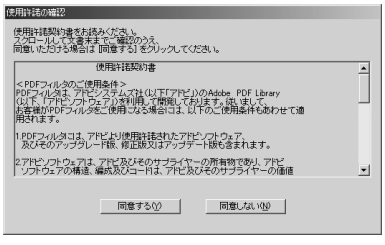
デスクトップ画面上の（VAIOマニュアル CyberSupprt）をダブルクリックする。

「サイバーサポート」画面が表示されます。



ちょっと一言

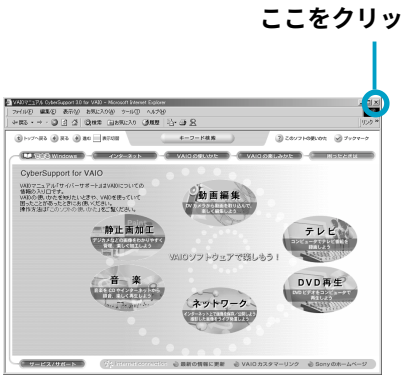
- デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［VAIOソフトウェアはこちら］にポインタを合わせ、［VAIOマニュアル：CyberSupport for VAIO］をクリックしても「サイバーサポート」を表示できます。
- 初めて「サイバーサポート」を開いたときは、「使用許諾の確認」画面が表示されます。画面に表示された内容を読み、内容に同意するときは、［同意する］をクリックしてください。［同意しない］をクリックすると、「サイバーサポート」を開くことができません。



「サイバーサポート」を閉じる

「サイバーサポート」画面右上の ✕ をクリックする。

「サイバーサポート」が終了します。



ちょっと一言

- 「サイバーサポート」画面右上の ＿ （最小化）ボタンを使って、「サイバーサポート」をデスクトップ画面から隠す（最小化する）ことができます。最小化したウィンドウはタスクバーのボタンをクリックすると元のサイズに戻ります。
- このマニュアルをデスクトップ画面上に表示させたまま他のソフトウェアなどを操作することもできます。

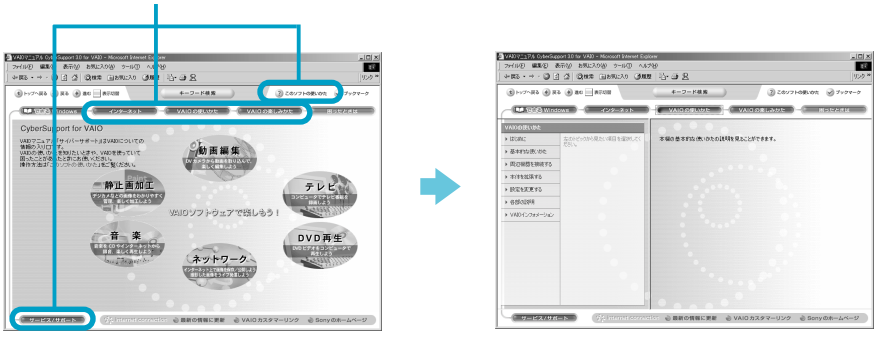
目次から情報を探す

「サイバーサポート」画面上部の［このソフトの使いかた］、［インターネット］、［VAIOの使いかた］、［VAIOの楽しみかた］、画面下部の［サービス／サポート］のボタンをクリックすると、左画面に目次が、右画面に情報が表示されます。左画面の目次から、探したい情報をクリックして選んでください。

1 「サイバーサポート」画面にあるいずれかのボタンをクリックする。

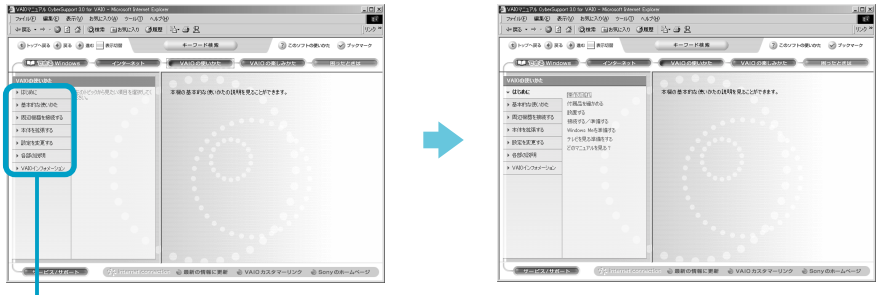
クリックしたボタンに含まれる情報の目次が左画面に表示されます。

いずれかのボタンをクリックする。



2 目次から表示したい項目を選び、クリックする。

項目の最初に ▶ がついている項目をクリックすると、▶ が ▼ になり、さらに詳しい項目が表示されます。

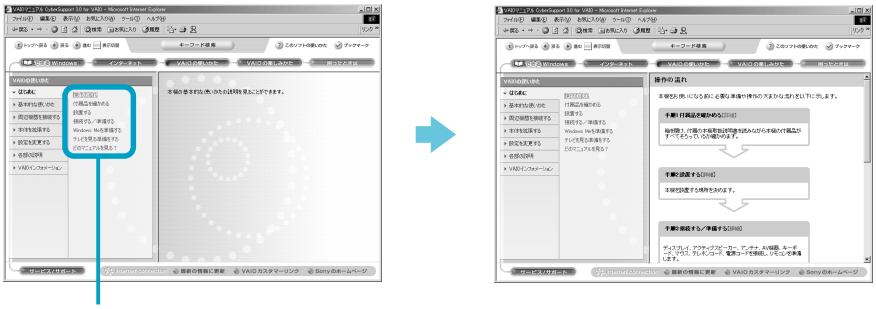


表示したい項目をクリックする。

次のページへつづく

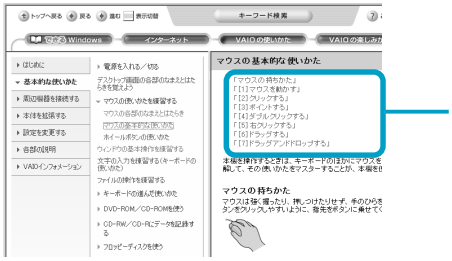
3 知りたい項目をクリックする。

右画面にその情報が表示されます。



ページの見かた

- ページの冒頭に見出しが表示されているときは、見たい内容の見出しをクリックすると、同じページ内の目的の情報が表示されます。



- 本文中の【詳細】をクリックすると、その内容のさらに詳しい説明のあるページが表示されます。
- 「ここにも注目」の見出しをクリックすると、見ているページに関連する項目のあるページが表示されます。
- 本文中、緑色で表示されている言葉（単語）をクリックすると、その言葉の用語解説のページが表示されます。

キーワードで情報を探す

「サイバーサポート」画面上部の キーワード検索 をクリックする。

検索画面が左画面に表示されます。

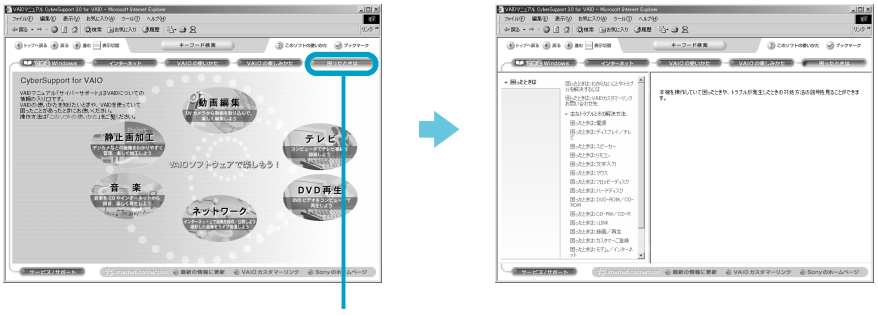
ちょっと一言

キーワード検索 をクリックすると、右画面にキーワード検索のしかたの説明が表示されます。詳しくはそちらの説明をご覧ください。

困ったときの情報の探しかた

1 **「サイバーサポート」画面上部の 困ったときは をクリックする。**

「困ったときは」の目次が表示されます。

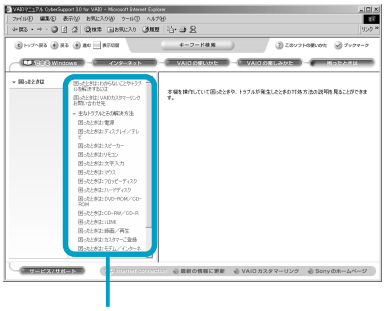


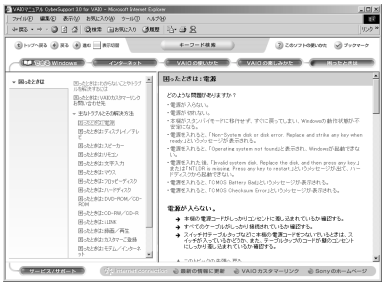
ここをクリックする。

次のページへつづく

2 表示したい項目をクリックする。

右画面にトラブルとその解決方法が表示されます。





表示したい項目をクリックする。

ちょっと一言

キーワード検索の「Q&A一覧」で、上記以外のトラブル解決方法を見ることができます。

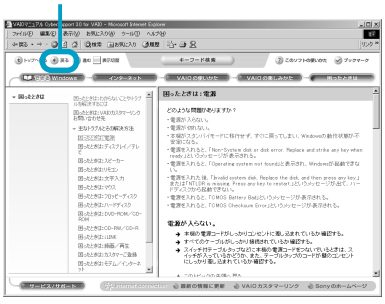
画面上部の キーワード検索 をクリックすると、右画面にキーワード検索のしかたの説明が表示されます。詳しくはそちらをご覧ください。

前に見ていた画面に戻る

戻る をクリックします。

元のページに戻るには、進む をクリックします。

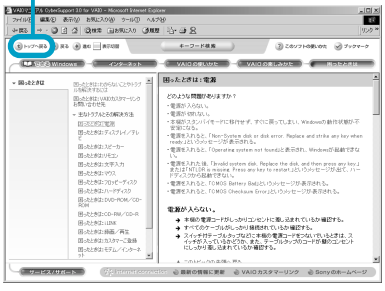
ここをクリックする。



最初の画面に戻る

トップへ戻る をクリックします。

ここをクリックする。



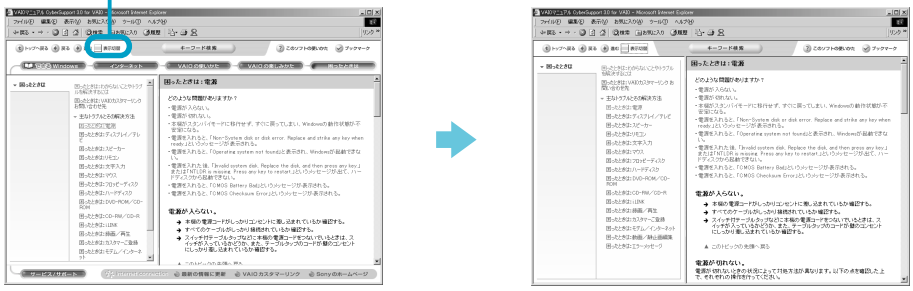
画面の大きさを切り替える

「サイバーサポート」画面上部の 表示切替 をクリックします。

サービス/サポート などの一部のボタンが隠れ、より多くの情報が一度に表示されるようになります。

隠れたボタンを元に戻すには、もう一度 表示切替 をクリックします。

ここをクリックする。



ちょっと一言

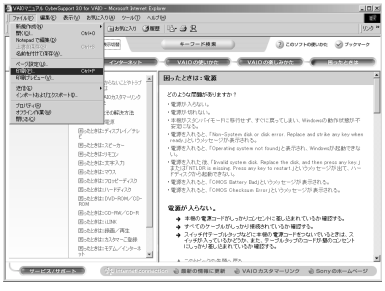
より多くの情報が表示されるように、「Microsoft Internet Explorer」のツールバーの表示を一部消すことができます。

［表示］メニューから［ツールバー］を選んでクリックし、［標準のボタン］などをクリックします。

クリックするたびにツールバーが消えたり表示したりします。

見ている画面を印刷する

［ファイル］メニューから［印刷］を選んでクリックし、プリンタの設定を確認して OK をクリックします。



ちょっと一言

印刷をするにはあらかじめプリンタを接続、設定しておく必要があります。

VAIOについての最新情報を見る

VAIOカスタマーリンクのホームページではお客様の疑問や質問を解決するための各種サービスと、バイオに関するサービスやサポート体制についての最新情報を提供しておりますので定期的にご覧ください。
なおVAIOカスタマーリンクのホームページを見るには、あらかじめインターネットに接続できるよう設定しておく必要があります。インターネット接続について詳しくは、「インターネットを始める」（124ページ）をご覧ください。

VAIOカスタマーリンクのホームページを見るには

「サイバーサポート」画面下部の VAIO カスタマーリンク をクリックすると、VAIOカスタマーリンクのホームページが表示されます。

「サイバーサポート」で検索できる情報を更新するには

VAIOカスタマーリンクのホームページにアクセスし、「サイバーサポート」で検索できる情報を更新することができます。
更新のしかたについて詳しくは、「サイバーサポート」画面下部の 最新の情報に更新 をクリックして表示される画面をご覧ください。
なおVAIOカスタマーリンクのホームページを見るには、あらかじめインターネットに接続できるよう設定しておく必要があります。インターネット接続について詳しくは、「インターネットを始める」（124ページ）をご覧ください。

ご注意

初めて更新するときは、数十分時間がかかることがあります。

Windows Meのヘルプの使いかた

Windows Meの操作のしかたや設定の変更についての情報を検索できます。

Windows Meのヘルプを見るには

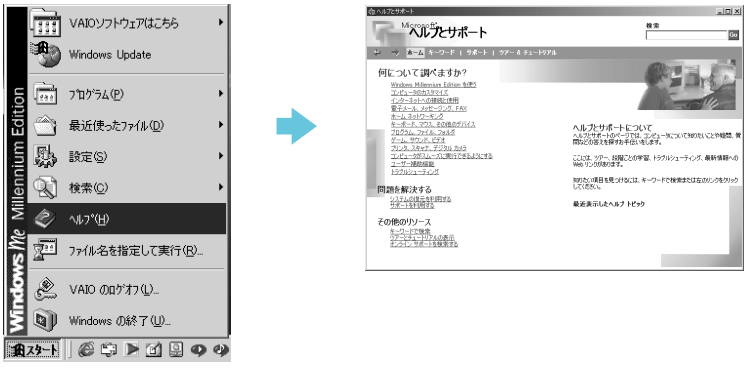
Windows Meのヘルプを見るには、「Windows Meを準備する」（46ページ）の手順が終わったあと、本機の電源が入っている状態で、次のように操作します。

ヘルプとは

Windows Meやソフトウェアなどの操作がわからなくなったときに、デスクトップ画面上でその解決方法についての情報を検索して表示する機能のことです。

デスクトップ画面左下の スタート をクリックして、表示されるメニューから［ヘルプ］をクリックする。

「ヘルプとサポート」画面が表示されます。



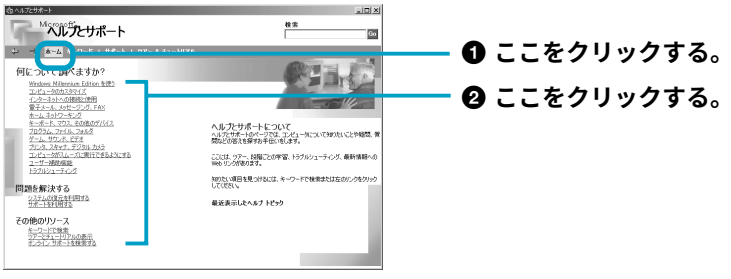
ヘルプの見かた

「ホーム」画面で知りたい情報を選ぶか、「キーワード」画面や「検索」に知りたい情報についてのキーワードを入力して検索します。

「ホーム」で検索するには

ヘルプの目次を通じて、知りたい情報を絞り込んで参照できます。

「ホーム」画面で検索するには、 ホーム をクリックし、表示される項目のリンクをたどって知りたい情報を表示させます。

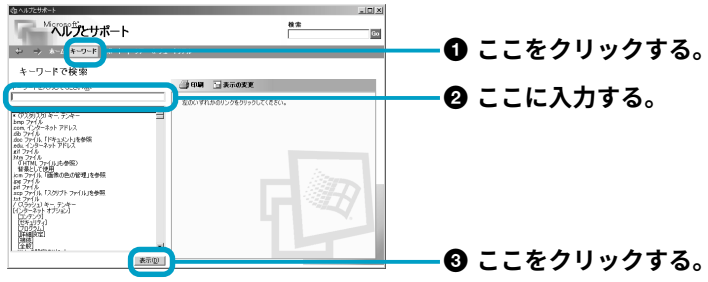


次のページへつづく

「キーワード」で検索するには

入力した語句に該当する項目を表示させます。

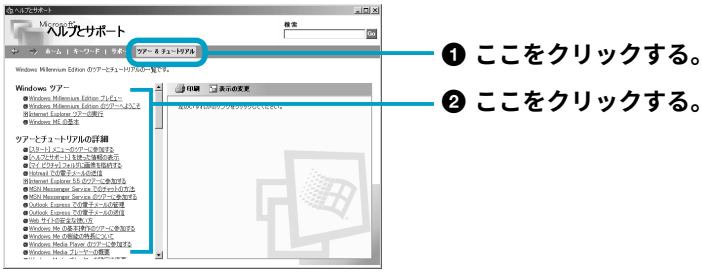
「キーワード」で検索するには、キーワード をクリックし、表示される入力欄に知りたい情報についてのキーワードを入力し、表示(D) を押します。



「ツアー＆チュートリアル」でWindows Meの操作を学習するには

Windows Meの機能の紹介や基本操作などを操作の流れに沿って学習することができます。

「ツアー＆チュートリアル」を体験するには、ツアー & チュートリアル をクリックし、知りたい機能や情報の項目をクリックします。

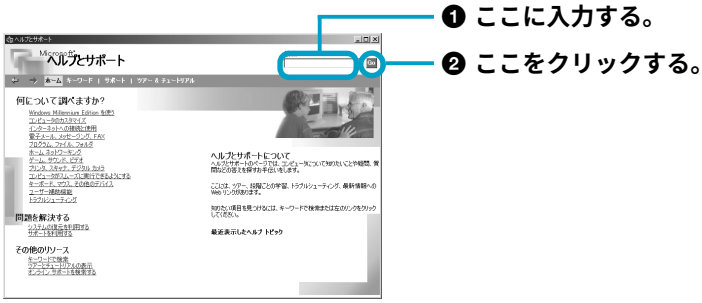


「検索」で検索するには

特定の語句が含まれている項目について幅広く検索できます。

また、複数の語句を組み合わせることにより、より効率良く検索することもできます。

語句で検索するには、画面右上の検索入力欄に検索したい語句を入力し、Go をクリックします。



各ソフトウェアのヘルプを見る

本機に付属しているソフトウェアにもヘルプが添付されています。それぞれのヘルプの使いかたについて詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書や電子マニュアルをご覧ください。

「サイバーサポート」の「付属ソフトウェア」には、ソフトウェアの使いかたがわからなくなったときのために、各ソフトウェアにつき「操作がわからなくなったときは」の項目があります。あわせてご覧ください。

ヘルプとは

Windows Meやソフトウェアなどの操作についてわからなくなったときに、デスクトップ画面上でその解決方法についての情報を検索して表示する機能のことです。

困ったときは

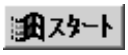
この章では、本機を操作していて困ったことやトラブルの解決方法を説明します。

わからないことやトラブルを解決する

本機を操作していて困ったときは、あわてずに下記の流れに従ってください。また、メッセージなどが表示されている場合は、書きとめておくことをおすすめします。

1 電子マニュアルやヘルプで調べる。

- **本書210ページからの説明をご覧ください。**
- **デスクトップ画面上にある** **（VAIOマニュアル** CyberSupprt**）をクリックして「サイバーサポート」を起動させ、「主なトラブルとその解決方法」や関連する項目（キーワード検索など）をご覧ください。**
  「サイバーサポート」画面上部の

  をクリックしてキーワード検索を行うと、「サイバーサポート」やVAIOカスタマーリンクに寄せられたFAQ（よくある質問とその回答）などから自動的にその解決方法を検索できます。
- **ソフトウェアのヘルプや電子マニュアル**
- Windows Me**のヘルプ**
  デスクトップ画面左下の 

  をクリックし、［ヘルプ］をクリックして、「Windows Meのヘルプ」をご覧ください。

2 VAIOカスタマーリンクのホームページを確認する。

VAIOカスタマーリンクホームページでは、トラブルの解決方法や疑問の解消に役立つ情報やサービスを掲載していますのでご覧ください。

VAIO**カスタマーリンクホームページ** http://vcl.vaio.sony.co.jp/

3 VAIOカスタマーリンクに電話で問い合わせる。

以下のお問い合わせ先にご相談ください。

VAIO**カスタマーリンク**

電話番号

（0466）30-3000

受付時間

平日	10時～20時
土、日、祝日	10時～17時

（年末年始は除く）

一般的にお電話は午前中より午後の方がつながりやすくなっております。

- お電話は音声認識を用いた自動音声のアナウンスに従って、ご希望のメニューをお選びください。各メニューの担当オペレーターが対応いたします。
- 付属のソフトウェアについては、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの楽しみかた］をクリックして、［付属ソフトウェアの一覧］をクリックして表示される情報をご覧になり、各ソフトウェアのお問い合わせ先にお電話ください。

ちょっと一言

VAIOカスタマーリンクのホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）では、製品出荷後の最新情報を提供しています。VAIOカスタマーリンクのホームページにアクセスし、「サイバーサポート」の「キーワード検索」で検索できる情報を更新してください。

更新するには、インターネットに接続した状態で、「サイバーサポート」画面下部の 最新の情報に更新 をクリックします。自動的に、情報が更新されます。最初に更新するときは、数十分時間がかかることがありますので、ご注意ください。

この機能を使うには、あらかじめインターネットに接続していることが必要です。インターネット接続について詳しくは、「インターネットを始める」（124ページ）をご覧ください。

お電話の前に以下の内容をご用意ください。

① お客様のVAIO**カスタマー**ID
② 本機の**型名**：PCV-RX52
③ 本機の**製造番号**（保証書などに記載されている7桁の番号です）
④ カスタマー登録していただいたときの**電話番号**、または登録予定の**電話番号**

ちょっと一言

発信者番号通知でお電話していただくとよりスムーズに担当者につながります。

⑤ 本機に接続している**周辺機器名**（メーカー名と型名）
⑥ 表示された**エラーメッセージ**
⑦ 本機に付属していないソフトウェアを追加した場合は、その**ソフトウェアの名前**とバージョン
⑧ トラブルが発生する前または**直前に行った操作**
⑨ トラブルがどのくらいの**頻度**で再現するか
⑩ その他お気づきの点

修理の場合は

⑪ VAIOカルテ（修理をお申込みになるとき）
⑫ 筆記用具（修理を受付する際にお伝えする修理受付番号を控えるのに必要です）

主なトラブルとその解決方法

ここでは、主なトラブルとその解決方法について説明します。

ご注意

再起動または電源を入れ直す場合は、必ず「電源を切る」(56ページ) の手順に従い、いったん電源を切ってください。他の方法で電源を切ると、作成したファイルが使えなくなることがあります。
接続し直すときは、必ず「電源を切る」(56ページ) の手順に従い、いったん電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

トラブルの内容	参照ページ
電源	211ページ
ディスプレイ／テレビ	214ページ
スピーカー	216ページ
リモコン	217ページ
文字入力	218ページ
マウス	219ページ
フロッピーディスク	220ページ
ハードディスク	221ページ
DVD-ROM／CD-ROM	222ページ
CD-RW／CD-R	224ページ
i.LINK	225ページ
録画、再生	226ページ
カスタマーご登録	227ページ
モデム／インターネット	227ページ
動画／静止画編集	251ページ
エラーメッセージ	252ページ

電源

電源が入らない。

→ 本機の電源コードがしっかりコンセントに差し込まれているか確認する。

→ すべてのケーブルがしっかり接続されているか確認する（30ページ）。

→ スイッチ付テーブルタップなどに本機の電源コードをつないでいるときは、スイッチが入っているかどうか、また、テーブルタップが壁のコンセントにしっかり差し込まれているか確認する。

電源が切れない。

電源が切れないときの状況によって対処方法が異なります。以下の点を確認した上で、それぞれの操作を行ってください。

→ キーボードが正しく接続されているか確認する（36ページ）。

→ プリンタやUSB機器などの周辺機器を接続している場合やネットワークを使用している場合には、それらを使用しない状態にしてから電源を切る操作を行ってください。Windows Meは、周辺機器やネットワークと通信を行っている間は、電源が切れないしくみになっています。

→ 新しくインストールしたソフトウェアやデータ、その操作などを確認してください。

→ 「電源を切る」（56ページ）の操作をしても、「Windowsを終了しています」または「電源を切る準備ができました」と表示されたまま動かない場合は、キーボードの Enter（エンター）キーを押してください。

→ 「スタート」メニューの［Windowsの終了］を選んでも「Windowsの終了」画面が表示されない場合は、Alt（オルト）キーを押しながら F4 キーを数回押して「Windowsの終了」画面を表示させ、▼をクリックして「終了」を選び、［OK］をクリックしてください。
Alt（オルト）キーを押しながら F4 キーを数回押しても「Windowsの終了」画面が表示されない場合は、Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キーを押しながら Delete（デリート）キーを押し、「プログラムの強制終了」画面が表示されたら、［シャットダウン］をクリックしてください。

次のページへつづく

→ 前ページのいずれの操作を行っても電源が切れない場合は、本機前面の ⏻（電源）ボタンを4秒以上押して電源ランプが消灯するか確認してください。ただし、この操作をすると、作成中のファイルや編集中のファイルが使えなくなることがあります。また、本機の電源を入れ直した際、「スキャンディスク」ユーティリティが実行されたり、Safe（セーフ）モードで起動することがあります。その場合は、デスクトップ画面が表示されるまで画面の指示に従って操作し、その後「電源を切る」（56ページ）の手順に従っていったん本機の電源を正しく切ってください。

本機がスタンバイモードへ移行せず、すぐに戻ってしまい、Windowsの動作状態が不安定になる。

→ 使用中のソフトウェアを終了して、本機を再起動してください。
再起動できない場合は、本機前面の ⏻（電源）ボタンを4秒以上押して電源を切ってください。ただし、この操作をすると作成中のファイルや編集中のファイルが使えなくなることがあります。

電源を入れると、「No System disk or disk error. Replace and strike any key when ready.」というメッセージが表示される。

→ フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っているときは、フロッピーディスクイジェクトボタンを押して、取り出す。その後、キーボードのいずれかのキーを押してください。

電源を入れると、「Operating system not found」と表示され、Windowsが起動できない。

→ フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っている場合は、ディスクを取り出してから Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キーを押しながら Delete（デリート）キーを2回押して本機を再起動する。

→ 再起動してもこのメッセージが表示され、Windowsが起動しない場合は、指定された方法以外のやりかたでパーティションサイズを変更している可能性があります。本機に付属のリカバリ CDを使って、パーティションサイズを変更し、本機を再セットアップしてください。
詳しくは、「リカバリ CDで本機を再セットアップする」（299ページ）および「パーティションサイズを変更する」（307ページ）をご覧ください。

電源を入れた後、「Invalid system disk. Replace the disk, and then press any key.」または「NTLDR is missing. Press any key to restart.」というメッセージが出て、ハードディスクから起動できない。

→ フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っているときは、イジェクトボタンを押し、取り出す。その後、Enter（エンター）キーを押す。

電源を入れると、「CMOS Battery Bad」というメッセージが表示される。

→ 本機内のバッテリが消耗しているため、バッテリを交換する必要があります。バッテリの交換については、VAIOカスタマーリンク修理窓口へお問い合わせください。

電源を入れると、「CMOS Checksum Error」というメッセージが表示される。

→ BIOSの設定内容が壊れている。以下の手順に従って操作し、BIOSをお買い上げ時の設定に戻してください。

1 **本機前面の ⏻（電源）ボタンを押し、画面にSonyのロゴが表示されたら、キーボードの F2 キーを押す。**
BIOSセットアップメニューが起動し、「AwardBIOS Setup Utility」画面が表示されます。

2 **F5（Setup Defaults）キーを押す。**
「Load default configuration now?」というメッセージが表示されます。

3 **Home ／ End キーを押して［Yes］を選び、Enter（エンター）キーを押す。**
すべての設定項目がお買い上げ時の設定に戻ります。

4 **F10（Save and Exit）キーを押す。**
「Save configuration changes and exit now?」というメッセージが表示されます。

5 **Home ／ End キーを押して［Yes］を選び、Enter（エンター）キーを押す。**
変更された設定が保存され、BIOSセットアップメニューが終了し、Windows Meが起動します。

→ BIOSをお買い上げ時の設定に戻しても再度メッセージが表示されるときは、本機内のバッテリが消耗しているため、バッテリを交換する必要があります。バッテリの交換についてはVAIOカスタマーリンク修理窓口へお問い合わせください。

次のページへつづく

ディスプレイ／テレビ

画面に何も表示されない。

→ 本機とディスプレイの電源コードがしっかりコンセントに差し込まれているか確認する（43ページ）。

→ 本機とディスプレイを正しく接続する（30ページ）。

→ 本機とディスプレイの電源スイッチが入っているか確認する（44ページ）。

→ ディスプレイの明るさボタンとコントラストボタンで調整する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

→ PCVA-15DX2などをお使いの場合は、ディスプレイに付属のACアダプタを接続しているか確認する。付属のACアダプタ以外で接続していると、正常に画面が表示されないことがあります。

画像が乱れる。

→ ラジオなど、近くに磁気を発生するものや磁気を帯びているものがある場合は、ディスプレイから離す。

画質が悪い。

→ ディスプレイの調整ボタンで画質を調整する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

画像の端が欠ける。

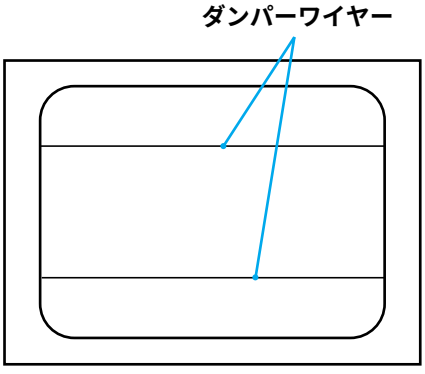
→ ディスプレイの調整ボタンで表示位置を調整する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

表示サイズ、表示位置がおかしい。

→ ディスプレイの調整ボタンで設定する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

画面に細い横線が出る。

→ トリニトロン管内部のアパチャーグリルに取り付けられたダンパーワイヤーの影です。ダンパーワイヤーは、アパチャーグリルの振動を抑える働きをしています。アパチャーグリルは、ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-A200などのトリニトロン管特有の構造です。故障ではありません。



テレビの映像が映らない／チャンネルの映像が映らない。

→ アンテナ接続ケーブルが本機後面のVHF／UHFコネクタと正しく接続されているか確認してください。詳しくは「接続する／準備する」(30ページ)をご覧ください。

→ ご使用のアンテナの受信状況が良好か確認してください。
一般のテレビに接続して受信できるか、分配器を使用している場合は、分岐前のケーブルを接続して受信できるかどうかを確認してください。アンテナを分配すると電波が弱くなり、映像が正常に表示されないことがあります。この場合は、別売りのアンテナブースターをご利用ください。

→ 「Giga Pocket」ソフトウェアの地域設定が正しく設定されているか確認してください。詳しくは「テレビを見る準備をする」(54ページ)をご覧ください。

→ 「Giga Pocket」ソフトウェアのチャンネル設定が正しくされているか確認してください。
設定が正しくない場合は、以下の手順に従って設定を変更してください。また、「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書またはヘルプも合わせてご覧ください。
ここでは、「VAIOテレビ」が「3チャンネル」に設定されているが、ご使用になっている地域では「20チャンネル」で放送されており、「VAIOテレビ」のチャンネル設定を「3チャンネル」から「20チャンネル」に変更する例で、以下の手順を説明します。

1 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［VAIOソフトウェアはこちら］にポインタを合わせ、［テレビを録画・再生：Giga Pocket］を選び、［「見る・録る」Giga ビデオレコーダー］をクリックする。**
「Giga ビデオレコーダー」ソフトウェアが起動します。

2 **［設定］をクリックして、表示されるメニューから［チャンネルの設定］をクリックする。**
「チャンネルの設定」画面が表示されます。

3 **変更するチャンネル名（ここでは「VAIOチャンネル」）を選択し、［変更］をクリックする。**
「チャンネルの追加／変更」画面が表示されます。

4 **「受信チャンネル」から設定したいチャンネル（ここでは「20チャンネル」なので「20」）を選ぶ。**
チャンネル番号がわからない場合は、「受信チャンネル」の ▼ をクリックしてチャンネルを変更していき、設定したいチャンネルが表示されるチャンネル番号を選択してください。

5 OK をクリックする。

以上の手順を繰り返して、映らないチャンネルすべての設定をしてください。

次のページへつづく

DVDビデオの映像がテレビ画面に表示されない。

→ 本機をテレビに正しく接続する。詳しくは、「テレビにつなぐ」（257ページ）をご覧ください。

→ 以下の手順に従って操作し、映像と音声出力をテレビに切り換えてください。

1 **DVDビデオの再生を停止しているときに、デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［VAIOソフトウェアはこちら］にポインタを合わせ、［DVDを再生：Media Bar DVD Player］をクリックする。**

「DVD Player」画面が表示されます。

2 **設定 をクリックする。**

「DVD 設定」画面が表示されます。

3 **［映像・音声出力］タブをクリックする。**

「映像・音声出力」画面が表示されます。

4 **「ソニーMPEG2エンコーダーボード」の ○ をクリックして ◉ にし、OK をクリックする。**

DVDビデオの映像や音声がテレビ画面に表示されるようになります。

スピーカー

スピーカーから音が出ない。

→ アクティブスピーカーを接続している場合は、スピーカーの音声ケーブルが本機にしっかり接続されているか確認する。

→ スピーカー用ACアダプタがしっかりコンセントに差し込まれているか確認する（43ページ）。

→ スイッチ付テーブルタップなどにスピーカー用ACアダプタをつないでいるときは、スイッチが入っているか、また、テーブルタップのコードが壁のコンセントにしっかり差し込まれているか確認する。

→ アクティブスピーカーの電源が入っているか確認する（44ページ）。

→ アクティブスピーカーの音量が最小になっている。音量つまみで音量を上げる（44ページ）。

→ Windowsの音量がミュートまたは最小になっている。デスクトップ画面右下のタスクトレイの （スピーカーアイコン）をダブルクリックして、音量を上げる。

リモコン

リモコンで操作できない。

→ リモコンとリモコン用受光ユニットの間に障害物がある。障害物を取り除く。

→ リモコンと受光ユニットの距離が離れすぎている。近寄って操作する。

→ リモコンの発光部が受光ユニットの方を向いていない。リモコンを受光ユニットに向ける。

→ リモコンの電池が＋／－逆に入っている。正しい方向に入れ直す。

→ リモコンの乾電池が消耗している。電池を交換する。

→ 本機の近くにインバーター方式の蛍光灯がある。本機と蛍光灯を離して設置する。

「Giga Pocket」ソフトウェアを操作できない。

→ テレビ／VAIO切り換えスイッチが「VAIO」になっているか確認する。

テレビを操作できない。

→ テレビ／VAIO切り換えスイッチが「テレビ」になっているか確認する。

→ テレビのメーカー番号の設定を確認する。

次のページへつづく

文字入力

日本語が入力できない。

→ 「文字の入力を練習する（キーボードの使いかた）」（81ページ）をご覧ください。

全角の「～」が入力できない。

→ MS-IMEツールバーで「ひらがな」を選んで、ひらがなで「から」と入力し「～」が選ばれるまで [　　]（スペース）キーを押すか、[Shift]（シフト）キーを押しながら [~ ^] キーを押します。

URLで使われる半角の「~」（チルダ）が入力できない。

→ MS-IMEツールバーで「直接入力」または「半角英数」を選び、[Shift]（シフト）キーを押しながら [~ ^] キーを押します。

入力した文字が表示されない。

→ 本機とキーボードが正しく接続されているか確認する（36ページ）。

→ 文字を入力したいソフトウェアの画面が前面に出ていない（タイトルバー（画面の上の部分）は薄い色になります）。文字を入力したいソフトウェアの画面のどこかをクリックするか、[Alt]（オルト）キーと [Tab]（タブ）キーを同時に押して目的のソフトウェアを前面に出し、使える状態にする（タイトルバーが青い色になります）。

キーボードを使って正しく入力できない。

→ 数字キーで数字を入力できない場合は、キーボード右上のNum Lock（ナム・ロック）ランプが消灯していないか確認してください。消灯している場合は、[Num Lk Scr Lk]（ナム・ロック）キーを押してランプを点灯させてから入力してください。

→ キーボードの項目が「106日本語（A01）キーボード（Ctrl＋英数）」に設定されているか確認してください。異なるキーボードタイプに設定していると、入力したい文字と違う文字が表示されることがあります。

1 デスクトップ画面左下の スタート ボタンをクリックして、［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 ウィンドウ左側の［すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。］をクリックする。

「コントロールパネル」のすべての項目が表示されます。

3 （システム）をダブルクリックする。

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

4 ［デバイスマネージャ］タブをクリックする。

5 キーボードの項目をクリックする。

「106日本語（A01）キーボード（Ctrl＋英数）」と表示されます。

マウス

マウスがマウスパッドの端まで来てしまい、これ以上動かせない。

→ マウスを持ち上げてマウスパッドの中央に戻す。

画面上のポインタが動かない。

→ 本機とマウスが正しく接続されているか確認する（36ページ）。

→ マウスの内部が汚れている場合は、マウスを掃除する（316ページ）。

→ （ウィンドウズ）キーを押して「スタート」メニューを表示させ、（ページアップ）キーまたは（ページダウン）キーを押して［Windowsの終了］を選んで、（エンター）キーを押す。そのあと（ページアップ）キーまたは（ページダウン）キーで［再起動］を選び、（エンター）キーを押して本機を再起動する。

→ （ウィンドウズ）キーを使って電源を切れない場合は、（コントロール）キーと（オルト）キーを押しながら（デリート）キーを2回押して、本機を再起動する。

次のページへつづく

→ DVD-ROM／CD-ROMを再生しているときなどに、ポインタが動かなくなってしまった場合は、Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キーを押しながら Delete（デリート）キーを押し、DVD-ROM／CD-ROMを再生しているソフトウェアを強制的に終わらせ、本機を再起動する。

画面上のすべてのものが動かなくなってしまった。

→ Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キー、Delete（デリート）キーを同時に押して、本機を再起動する。

→ 上記の操作を行っても本機を再起動できない場合は、本機前面の ⏻（電源）ボタンを4秒以上押して、電源をいったん切ってから入れ直す。

スクロールしない。

→ スクロール機能に対応していないソフトウェアを開いている。スクロールの必要のないソフトウェアはスクロールできません。また、ソフトウェアによっては、スクロール機能に対応していないものがあります。

マウスを動かしてもカーソルが動かない。

→ オートスクロール設定になっている。ホイールボタンを押して、オートスクロールの状態を解除してください。

フロッピーディスク

フロッピーディスクが取り出せない。

→ 「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの使いかた］をクリックして、［基本的な使いかた］→［フロッピーディスクを使う］→［フロッピーディスクを入れる／取り出す］→［フロッピーディスクを取り出すには］の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。

→ フロッピーディスクの容量の空きがない。容量の空きが充分にある、別のフロッピーディスクを使って、保存し直す。

「このディスクは書き込み禁止されています。」というメッセージが表示された。

→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの使いかた］をクリックして、［基本的な使いかた］→［フロッピーディスクを使う］→［フロッピーディスクを書き込み禁止にする］の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

フロッピーディスクを初期化しようとしたができない。

→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの使いかた］をクリックして、［基本的な使いかた］→［フロッピーディスクを使う］→［フロッピーディスクを書き込み禁止にする］の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

→ フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにきちんと入っているか確認する。

→ 「アプリケーションが使用中です」というメッセージが出たときは、フロッピーディスクの内容がウィンドウで表示されている。ウィンドウ表示されているときは初期化できないので、フロッピーディスクのウィンドウを閉じる。

ハードディスク

誤ってハードディスクを初期化してしまった。

→ リカバリ CDを使って、本機を再セットアップする必要があります。詳しくは「リカバリ CDで本機を再セットアップする」(299ページ) をご覧ください。

ハードディスクの内容を誤って消してしまった。

→ リカバリ CDを使って、本機を再セットアップする必要があります。詳しくは「リカバリ CDで本機を再セットアップする」(299ページ) をご覧ください。

ハードディスクから起動できない。

→ フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクが入っていないか確認する。

次のページへつづく

→ DVD-ROMドライブまたはCD-RWドライブにリカバリ CDが入っていないか確認する。

→ DVD-ROMドライブまたはCD-RWドライブにブータブルCDが入っていないか確認する。

→ 上記の操作を行っても起動できない場合は、リカバリ CDを使って本機を再セットアップする。詳しくは「リカバリ CDで本機を再セットアップする」（299ページ）をご覧ください。

DVD-ROM／CD-ROM

CD-ROMが再生されない、または音楽CDの再生時、音がとぎれる。

→ CD-ROMをDVD-ROMドライブまたはCD-RWドライブに入れてください。

→ CD-ROMが正しくDVD-ROMドライブまたはCD-RWドライブに入っているか確認する。CD-ROMは文字が書いてある面を上にして入れます。

→ CD-ROMの再生面を柔らかい布できれいにふき、汚れをとる。

→ CDレンズクリーナーでレンズの汚れをとる。

→ 結露している。しばらく待って電源を入れ直してから、もう一度再生してみる。

→ 使用できないディスクの可能性があります。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの使いかた］をクリックして、［VAIOインフォメーション］→［知っ得情報］→［使用できるディスク］の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

DVD-ROMが再生されない、またはDVD再生時の画像または音がとぎれる。

→ DVD-ROMをDVD-ROMドライブに入れてください。

→ DVD-ROMが正しくDVD-ROMドライブに入っているか確認する。DVD-ROMは再生したい面を下に向けて入れます。

→ DVD-ROMをCD-RWドライブに入れている。DVD-ROMはCD-RWドライブでは再生できません。

→ 地域番号（リージョンコード）が違うDVDを入れている。本機では地域番号（リージョンコード）として「2」（日本）または「ALL」が記されていないDVD-ROMは再生できません。

→ DVD-ROMを柔らかい布できれいにふき、汚れをとる。

→ CDレンズクリーナーでレンズの汚れをとる。

→ 結露している。しばらく待って電源を入れ直してから、もう一度再生してみる。

音楽CDをデジタル再生していると、ノイズが聞こえたり、音がとぎれる。

以下の手順に従って設定を変更してください。

1 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックして、［プログラム］にポインタを合わせ、［Windows Media Player 7］をクリックする。**
「Windows Media Player 7」ソフトウェアが起動します。

2 **［ツール］をクリックし、表示されるリストから［オプション］をクリックする。**
「オプション」画面が表示されます。

3 **［CDオーディオ］タブをクリックする。**

4 **［デジタル再生］の ☑ をクリックして、☐にする。**

5 **OK をクリックする。**

6 **デスクトップ画面左上の （マイコンピュータ）を右クリックして、表示されるリストから［プロパティ］をクリックする。**
［システムのプロパティ］画面が表示されます。

7 **［デバイスマネージャー］タブをクリックする。**
「デバイスマネージャー」画面が表示されます。

8 **［DVD-ROM／CD-ROMドライブ］をダブルクリックし、表示されるDVD-ROMドライブ名またはCD-RWドライブ名を右クリックして［プロパティ］をクリックする。**
「（DVD-ROMドライブ名またはCD-RWドライブ名）のプロパティ」画面が表示されます。

9 **［プロパティ］タブをクリックする。**

10 **「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」の ☑ をクリックして、☐ にする。**

11 **OK をクリックする。**

次のページへつづく

エラーメッセージが出て、DVDビデオの再生ができない。

→ ハードウェアアクセラレータが最大になっているか確認してください。

1 **デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 **（画面）をクリックする。**
「画面のプロパティ」画面が表示されます。

3 **［設定］タブをクリックする。**
「設定」画面が表示されます。

4 **［詳細］をクリックする。**

5 **［パフォーマンス］タブをクリックする。**
「パフォーマンス」画面が表示されます。

6 **「ハードウェアアクセラレータ」のスライダを動かし、最大に設定する。**

7 **［OK］をクリックする。**
「設定」画面が表示されます。

8 **「画面のプロパティ」画面で［OK］をクリックする。**

CD-RW／CD-R

CD-Rに書き込めない。

→ CD-Rは一度書き込むと書き換えはできません。

→ CD-Rはディスクがいっぱいになると、一度書き込んだデータを削除しても空き容量は増えません。

CD-RW／CD-Rへの書き込み時にデータの書き損じが起こる。

→ データの書き込み前に準備を行う。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの使いかた］をクリックして、［基本的な使いかた］→［CD-RW／CD-Rにデータを記録する］→［データを記録する前にお読みください］の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

書き込んだCD-RW／CD-Rが他のコンピュータのCD-ROMドライブで読み込めない。

→ 「DirectCD」ソフトウェアで書き込んだCD-RW／CD-Rは、他のコンピュータのCD-ROMドライブで読み込むための設定が必要です。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの使いかた］をクリックして、［基本的な使いかた］→［CD-RW／CD-Rにデータを記録する］→［「DirectCD」ソフトウェアを使ってデータを記録する］の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

CD-RWを使用して作成した音楽CDがCDプレーヤーで再生できない。

→ CD-RWを使用して作成した音楽CDはCD-RWに対応しているドライブでのみ再生できます。

CD-RW／CD-Rが取り出せない。

→ CD-RW／CD-RはCD-RWイジェクトボタンを押しても状態によっては取り出せないことがあります。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの使いかた］をクリックして、［基本的な使いかた］→［CD-RW／CD-Rにデータを記録する］→［「DirectCD」ソフトウェアを使ってデータを記録する］または［「Easy CD Creator」ソフトウェアを使ってデータを記録する］の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

i.LINK

本機と接続したi.LINK対応機器が認識されていない。

→ i.LINK対応機器の電源を切り、いったんi.LINKケーブルを抜き差ししてから、電源を入れ直してください。

「DVgate Motion」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器に映像を録画できない。

→ 他のソフトウェアが起動していないか確認する。他のソフトウェアが起動した「DVgate Motion」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器への録画を繰り返し行うと、録画ができなくなることがあります。この場合は、本機を再起動してください。

次のページへつづく

録画、再生

テレビの映像が映らない／チャンネルの映像が映らない。

→ 215ページをご覧ください。

録画を実行しても何も録画されない。

→ 本機に接続した機器が動作していない。ビデオカメラレコーダーやビデオデッキから録画するときは、電源が入っているか、機器と本機が正しく接続されているか確認してください。

→ ゲーム機器などの映像は、表示や録画ができないことがあります。本機と接続したビデオ機器から映像を入力している場合、一時停止したときの画像、映像が入力されていないときの画面（青い画面など）、本機に接続したビデオ機器が表示するメニュー画面などは表示や録画ができないことがあります。

番組を予約録画できない。

→ 入力設定が間違っている。「Giga Pocket」ソフトウェアの入力設定（TVチューナー、VIDEO1 INPUT（後面）、VIDEO2 INPUT（前面）、i.LINK）を確認してください。

→ 予約マネージャーが起動していない。本機の電源が入っているか確認してください。または予約マネージャーが起動しているか確認してください。

終わりの部分が録画されていない／最初の部分が録画されていない。

→ 録画が始まるまでに10数秒かかることがあります。実際に録画をするときは、10数秒早く［録画］をクリックしてください。

画面の色がきれいに表示されない／ダイアログボックスなどの表示サイズが大きすぎる（小さすぎる）。

→ ディスプレイの設定を「Giga Pocket」ソフト用に設定しないと、正しく表示されません。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの使いかた］をクリックして、［設定を変更する］→［ディスプレイの設定を変更する］→［設定変更のしかた］の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

i.LINKコネクタに映像が出力されている。

→ 「Gigaビデオレコーダー」ソフトウェアの「設定」画面の［i.LINK端子へ出力］にチェックマークが付いていると、i.LINKを入力に選択した場合以外、選択されているテレビやアナログビデオの映像がDV変換され、i.LINKコネクタに出力されます。映像をi.LINKコネクタに出力したくないときは、「Gigaビデオレコーダー」ソフトウェアの「設定」画面の［i.LINK端子へ出力］のチェックマークをはずしてください。

「DVgate」ソフトウェアまたは「Giga Pocket」ソフトウェアを使って録画が正常にできない。

→ 本機につないだ機器が正しく接続されているか確認する。

→ 「DVgate」ソフトウェアまたは「Giga Pocket」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

カスタマーご登録

オンラインでカスタマー登録できない。

→ 本機が電話回線に正しく接続されているか確認する。（38ページ）

→ お使いの電話回線がトーン式ダイヤルかパルス式ダイヤルかを確認し、ダイヤルの種類に合わせて内蔵モデムを設定する。（120、148ページ）
お使いの電話回線のダイヤル方法がわからない場合は、NTTなどの電話会社から送られてくる請求内訳表をご覧ください。請求内訳表の中に「プッシュ回線使用料」と記載されている場合は「トーン式ダイヤル」です。回線（基本）使用料のみ記載されている場合は「パルス式ダイヤル」です。電話回線のダイヤル方法について詳しくは、NTT（局番なしの116番）などの電話会社にお問い合わせください。

→ ISDN回線をお使いの場合は、ターミナルアダプタのUSBコネクタと本機のUSBコネクタをつないでください。（41ページ）

→ ターミナルアダプタなどお使いになる通信機器によっては正しく通信できないことがあります。この場合は、本機後面のLINEジャックと一般電話回線をつなぎ通信を行ってください。（39ページ）

モデム／インターネット

モジュラジャックが取りはずせない。

→ 「接続／準備をする」の手順6の「本機からテレホンコードを取りはずすには」（40ページ）をご覧ください。

次のページへつづく

インターネットに接続できない。

インターネットへの接続から、ホームページの閲覧や電子メールのやりとりは、以下の手順で行われています。

❶ **本機が内蔵モデムやターミナルアダプタ（ISDN回線の場合）を認識する。**

❷ **本機の内蔵モデムやターミナルアダプタがプロバイダに電話をかける。**

❸ **プロバイダのサーバーに接続され、プロバイダと本機の内蔵モデムやターミナルアダプタとの間で必要な信号のやりとりが行われる。**

❹ **プロバイダのサーバーが、ユーザー名やパスワードなど、インターネットへの接続に必要な項目を確認する。**

ここまでで問題がなければ、本機がインターネットに接続します。

❺ **ウェブブラウザ（「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアなど）でホームページを見る。**

❻ **電子メールをやりとりする。**

インターネットに接続できない場合は、上記の各手順で問題があることが考えられます。次ページのチェック項目に従って接続や設定を確認してください。
それでも接続できないときは、VAIOカスタマーリンクにご相談ください。

1 本機が内蔵モデムやターミナルアダプタ（ISDN回線の場合）を認識していない。

以下の点をご確認ください。

チェック項目	ここをご覧ください
☐ 内蔵モデムは認識されていますか？ また、接続した電話回線は内蔵モデムで使用できるものですか？	A-1（231ページ）、A-2（232ページ）
☐ ISDN回線に接続していませんか？	B-1（235ページ）、B-2（236ページ）、B-3（236ページ）
☐ テレホンコードは正しく接続されていますか？	C-1（236ページ）、C-2（236ページ）、C-3（236ページ）

2 本機の内蔵モデムやターミナルアダプタがプロバイダに電話をかけていない。

以下の点をご確認ください。

チェック項目	ここをご覧ください
☐ ダイヤル方法は正しいですか？	D-1（237ページ）、D-2（238ページ）
☐ 接続先（プロバイダのアクセスポイント）の電話番号は間違っていませんか？	E-1（238ページ）
☐ トーンを待ってダイヤルする設定になっていませんか？	F-1（239ページ）
☐ 内蔵モデムやターミナルアダプタが3回以上連続してダイヤルしていませんか？	G-1（240ページ）

3 プロバイダのサーバーと本機の内蔵モデムやターミナルアダプタとの間で必要な信号のやりとりが行われていない。

以下の点をご確認ください。

チェック項目	ここをご覧ください
☐ ネゴシエーションは正しくできていますか？	H-1（240ページ）
☐「ハイパーターミナル」ソフトウェアで時報など、他の電話番号にダイヤルしても接続できませんか？	I-1（241ページ）、I-2（242ページ）

次のページへつづく

4 ユーザー名やパスワードなど、インターネットへの接続に必要な項目がプロバイダのサーバーによって認証されない。

以下の点をご確認ください。

チェック項目	ここをご覧ください
☐ ユーザー名やパスワードは正しく設定されていますか？	J-1（242ページ）
☐ ユーザー名やパスワードを忘れてしまったのですか？	K-1（243ページ）
☐ ダイヤルアップネットワークの設定は正しいですか？	L-1（243ページ）
☐ ネットワークの設定は正しいですか？	M-1（245ページ）
☐ ダイヤルアップアダプタを削除し、ダイヤルアップ接続アイコンを作り直しても接続できませんか？	N-1（246ページ）

5 ウェブブラウザ（「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアなど）でホームページを見ることができない。

以下の点をご確認ください。

チェック項目	ここをご覧ください
☐ ネットワークやダイヤルアップネットワークの設定は正しいですか？	O-1（248ページ）
☐ ホームページのURLをアドレスバーに入力してホームページを見るとき、URLは正しいですか？	P-1（249ページ）

6 電子メールをやりとりできない。

以下の点をご確認ください。

チェック項目	ここをご覧ください
☐ 電子メールソフトウェアの設定は正しいですか？	Q-1（249ページ）、Q-2（250ページ）

A-1 PBXなどの交換機や他の通信機器を経由して接続している。

NTTの一般電話回線と直接接続してください。本機の内蔵モデムは一般電話回線との接続を前提としています。集合住宅などで、PBXなどの交換機を経由する場合は、PBXなどの交換機が一般電話回線用のモデムに対応しているか確認してください。対応していない場合、接続できなかったり、本機の故障や破損の原因となることがあります。また、接続できても途中でとぎれたり、通信速度が遅いことがあります。
PBXなどの交換機を経由して0発信で接続するときは、以下の手順に従って操作し、外線発信番号を「0」(0発信) にしてください。

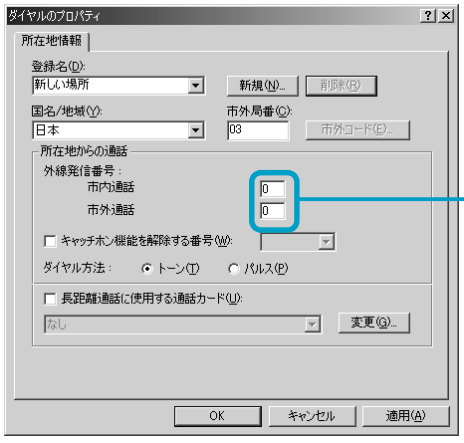
1 デスクトップ画面左下の [スタート] をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 ウィンドウ左側の［すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。］をクリックする。
「コントロールパネル」のすべての項目が表示されます。

3 (モデム) をダブルクリックする。
「モデムのプロパティ」画面が表示されます。

4 [ダイヤルのプロパティ(D)] をクリックする。
「ダイヤルのプロパティ」画面が表示されます。

5 「外線発信番号」の「市内電話」と「市外電話」に半角で「0」(ゼロ) と入力する。



ここに入力する。

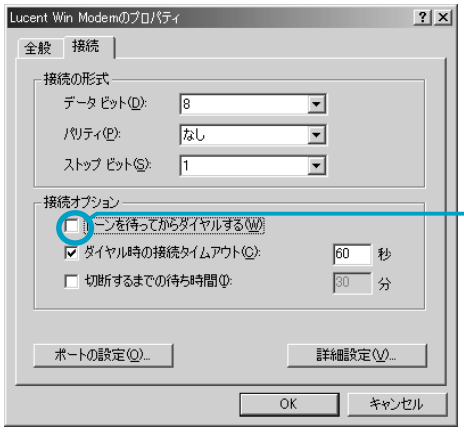
次のページへつづく

6 OK **をクリックする。**

7 **「モデムのプロパティ」画面で** プロパティ(R) **をクリックする。**
内蔵モデムのプロパティ画面が表示されます。

8 **［接続］タブをクリックする。**
「接続」画面が表示されます。

9 **「接続オプション」の「トーンを待ってからダイヤルする」のチェックをはずす。**



10 OK **をクリックする。**

11 **「モデムのプロパティ」画面で** 閉じる **をクリックする。**

A-2 以下の手順に従って操作し、内蔵モデムが正しく認識されているか確認してください。

1 内蔵モデムが本機に認識されているか確認します。

1 **デスクトップ画面左下の** スタート **をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 **ウィンドウ左側の［すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。］をクリックする。**

「コントロールパネル」のすべての項目が表示されます。

3 **（モデム）をダブルクリックする。**

「モデムのプロパティ」画面が表示されます。

4 **［検出結果］タブをクリックする。**

「検出結果」画面が表示されます。

5 **お使いのモデムをクリックして選び、** 詳細(M)... **をクリックする。**

「詳細…」画面が表示されたら、内蔵モデムは正しく認識されています。

「詳細…」画面が表示されない場合は、本機を再起動して手順1～5をもう一度行ってください。

2 内蔵モデムが他のデバイスと競合していないか確認します。

1 **デスクトップ画面左下の** スタート **をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 **ウィンドウ左側の［すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。］をクリックする。**

「コントロールパネル」のすべての項目が表示されます。

次のページへつづく

3 **（システム）をダブルクリックする。**

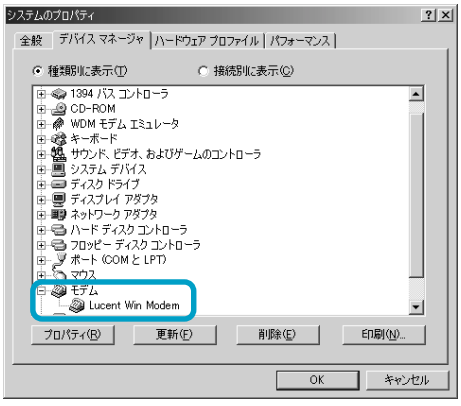
「システムのプロパティ」画面が表示されます。

4 **［デバイスマネージャ］タブをクリックする。**

「デバイスマネージャ」画面が表示されます。

5 **（モデム）をダブルクリックする。**

お使いのモデムのアイコンに「！」がついているものは、他のデバイスと競合を起こしています。



3 内蔵モデムの設定をいったん削除し、もう一度、組み込み直します。

1 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 **ウィンドウ左側の［すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。］をクリックする。**

「コントロールパネル」のすべての項目が表示されます。

3 **（システム）をダブルクリックする。**

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

4 **［デバイスマネージャ］タブをクリックする。**

「デバイスマネージャ」画面が表示されます。

5 **（モデム）をダブルクリックする。**

6 **お使いのモデムをクリックして選び、** 削除(E) **をクリックする。**

「デバイス削除の確認」画面が表示されます。

7 OK **をクリックする。**

内蔵モデムの設定が削除されます。

8 **「システムのプロパティ」画面で** 閉じる **をクリックする。**

「システムのプロパティ」画面が閉じます。

9 **デスクトップ画面左下の** スタート **をクリックし、[Windowsの終了]をクリックして表示される「Windowsの終了」画面で「再起動」を選び、** OK **をクリックする。**

本機が再起動します。再起動時に内蔵モデムが検出され、対応するドライバが自動的に組み込まれます。

B-1 一般電話回線がある場合は、一般電話回線に接続し直してください。

契約するプロバイダによっては、オンラインサインアップソフトウェアがISDN回線に対応していないことがあります。オンラインサインアップソフトウェアのISDN回線への対応状況について詳しくは、各プロバイダにお問い合わせください。

オンラインサインアップ後に、ISDN回線に接続し直してください。

次のページへつづく

B-2 ISDN回線しかない場合は、本機の内蔵モデムをターミナルアダプタのアナログポートに接続するか、または、ターミナルアダプタの設定を行い、内蔵モデムの代わりに使用してください。

ターミナルアダプタの設定について詳しくは、ターミナルアダプタの取扱説明書をご覧ください。
契約するプロバイダによっては、オンラインサインアップソフトウェアがISDN回線に対応していないことがあります。オンラインサインアップソフトウェアのISDN回線への対応状況について詳しくは、各プロバイダにお問い合わせください。
オンラインサインアップ後に、本機のUSBコネクタとターミナルアダプタのUSBコネクタを接続し直してください。

B-3 ISDN回線に接続しているときは、ターミナルアダプタが使える状態になっているか確認してください。

詳しくは、ターミナルアダプタの取扱説明書をご覧ください。

C-1 本機を電話回線に接続するときは、付属のテレホンコードをお使いください。

C-2 「発信音が聞こえません」または「ダイヤル先のコンピュータが応答しません」というメッセージが表示されたときは、本機側および壁側、ターミナルアダプタなどへテレホンコードがしっかりと奥まで接続されているか確認してください。

C-3 電話回線のコンセントと本機の間に付属以外の分配器などの機器をつなげないでください。

D-1 以下の手順に従って操作し、ダイヤル方法（トーン／パルス）が正しく設定されているか確認してください。

1 **デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 **ウィンドウ左側の［すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。］をクリックする。**

「コントロールパネル」のすべての項目が表示されます。

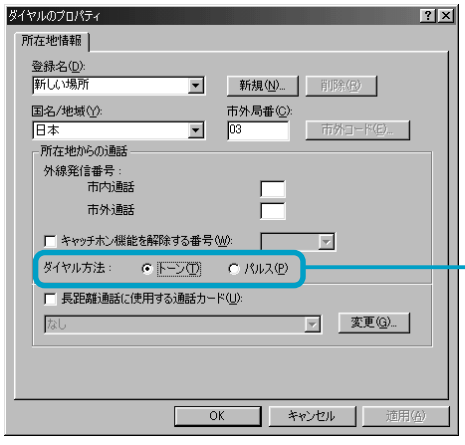
3 **（モデム）をダブルクリックする。**

「モデムのプロパティ」画面が表示されます。

4 **［ダイヤルのプロパティ(D)］をクリックする。**

「ダイヤルのプロパティ」画面が表示されます。

5 **「ダイヤル方法」がチェックシートの❷トーン／パルス（電話回線の種類）と同じか確認する。**



ここを確認する。

6 **［OK］をクリックする。**

7 **「モデムのプロパティ」画面で［OK］をクリックする。**

次のページへつづく

D-2 お使いの電話回線のダイヤル方法がわからない場合は、NTTなど電話会社から送られてくる請求内訳表をご覧ください。請求内訳表の中に「プッシュ回線使用料」と記載されている場合は「トーン式ダイヤル」です。回線（基本）使用料のみ記載されている場合は「パルス式ダイヤル」です。電話回線のダイヤル方法について詳しくは、NTT（局番なしの116番）など電話会社にお問い合わせください。

E-1 以下の手順に従って操作し、接続先の電話番号を確認してください。

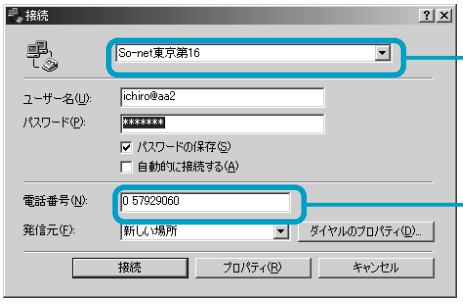
1 **デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックし、［設定］、［ダイヤルアップネットワーク］の順にポインタを合わせ、［ダイヤルアップネットワーク］をダブルクリックする。**

「ダイヤルアップネットワーク」ウィンドウが表示されます。

2 **ダイヤルアップ接続名（チェックシートの❽ダイヤルアップ接続名）のアイコンをダブルクリックする。**

「接続」画面が表示されます。

3 **「電話番号」の入力欄が間違っていないか確認する。**



チェックシートの❽ダイヤルアップ接続名と同じか？

電話番号は半角で入力されているか？使用する電話回線に対応している電話番号か？

ちょっと一言

プロバイダによっては、同じアクセスポイントでも一般電話回線とISDN回線で電話番号をわけていることもあります。使用する電話回線に合った電話番号かは、契約したプロバイダにお問い合わせください。

F-1 以下の手順に従って操作し、トーンを待ってダイヤルする設定を解除します。

1 デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 ウィンドウ左側の［すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。］をクリックする。

「コントロールパネル」のすべての項目が表示されます。

3 （モデム）をダブルクリックする。

「モデムのプロパティ」画面が表示されます。

4 ［プロパティ(R)］をクリックする。

「Lucent Win Modemのプロパティ」画面が表示されます。

5 ［接続］タブをクリックする。

「接続」画面が表示されます。

6 「接続オプション」の「トーンを待ってからダイヤルする」のチェックをはずす。

次のページへつづく

7 OK **をクリックする。**

8 **「モデムのプロパティ」画面で** 閉じる **をクリックする。**

G-1 3分以内に3回以上同じ電話番号にかけた場合は、リダイヤル制限がかかる場合があります。3分以上、時間をおいてからかけ直してください。

H-1 内蔵モデムやターミナルアダプタが発信しているのに、ネゴシエーションが始まらない場合は、以下のような問題が考えられます。

ネゴシエーションとは？

内蔵モデムやターミナルアダプタがプロバイダのサーバーとの間で必要な信号のやりとりを行うことで、接続先につながると、「ピーヒョロロロ…」という音がします。

電話回線の問題

- 電話回線の状態が良くない。
- 電話回線が混み合っている。

この場合は、時間帯をずらして再度、接続してみてください。

接続先（プロバイダのアクセスポイント）の問題

- 接続先の回線の状態が良くない。
- 接続先の回線が混み合っている。
- 接続先のモデムが不調である。

この場合は、時間帯をずらして再度、接続してみるか、アクセスポイントを変更して接続してみてください。

アクセスポイントを変更するには、以下の手順に従って操作します。

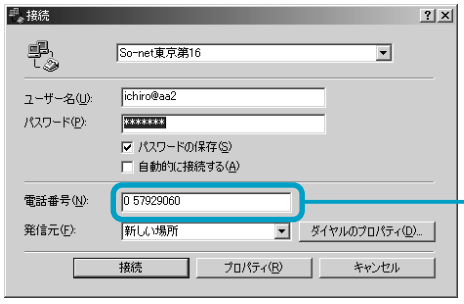
1 **デスクトップ画面左下の** スタート **をクリックして［設定］、［ダイヤルアップネットワーク］の順にポインタを合わせ、［ダイヤルアップネットワーク］をダブルクリックする。**

「ダイヤルアップネットワーク」ウィンドウが表示されます。

2 **ダイヤルアップ接続名（チェックシートの❽ダイヤルアップ接続名）のアイコンをダブルクリックする。**

「接続」画面が表示されます。

3 **「電話番号」の入力欄に別のアクセスポイントの電話番号を半角の数字で入力する。**



ここに入力する。

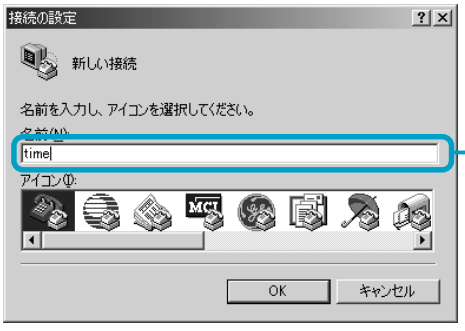
4 **接続** **をクリックする。**

I-1 以下の手順に従って操作し、「ハイパーターミナル」ソフトウェアで時報の電話番号に接続できるか試してください。

1 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［アクセサリ］、［通信］、［ハイパーターミナル］の順にクリックする。**

「ハイパーターミナル」ソフトウェアが起動し、「接続の設定」画面が表示されます。

2 **「名前」に任意の名前を入れ、** **OK** **をクリックする。**



ここに入力する。

3 **「電話番号」に時報の番号を入れ、** **OK** **をクリックする。**

トーン回線をお使いの方は「ATDT117」と入力します。パルス回線をお使いの方は「ATDP117」と入力します。

「接続」画面が表示されます。

次のページへつづく

4 ダイヤル **をクリックする。**

I-2 お使いになっているソフトウェアの設定を確認してください。

J-1 「ダイヤル先のコンピュータから切断されました。接続アイコンをダブルクリックして、やり直してみてください」または「ダイヤル先のコンピュータは、ダイヤルアップネットワーク接続を確立できません。パスワードを確認してからやり直してみてください」というメッセージが表示されたときは、ユーザー名やパスワードを確認してください。

ご注意

上記のメッセージは、ユーザー名やパスワードが正しくないときにのみ表示されるわけではありません。

ユーザー名とパスワードを確認するには、以下の手順に従って操作します。

1 **デスクトップ画面左下の** スタート **をクリックして［設定］、［ダイヤルアップネットワーク］の順にポインタを合わせ、［ダイヤルアップネットワーク］をダブルクリックする。**

「ダイヤルアップネットワーク」ウィンドウが表示されます。

2 **ダイヤルアップ接続名（147ページで作成したチェックシートの❽ダイヤルアップ接続名）のアイコンをダブルクリックする。**

「接続」画面が表示されます。

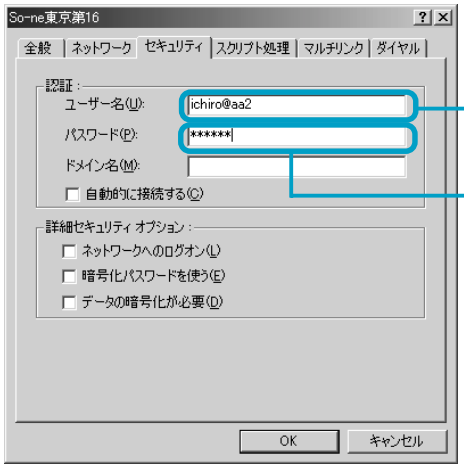
3 プロパティ(R) **をクリックする。**

プロパティ画面が表示されます。

4 **［セキュリティ］タブをクリックする。**

「セキュリティ」画面が表示されます。

5 「認証」の「ユーザー名」や「パスワード」が正しいか確認する。



ここがチェックシートの❹ユーザー名（PPP）と同じか？

チェックシートの❺パスワード（PPP）をもう一度入力してみてください。

K-1 プロバイダから郵送されてきた資料を確認してください。または、契約したプロバイダにお問い合わせください。

L-1 ユーザー名やパスワードを確認して接続してもJ-1（前ページ）で説明したメッセージが表示されるときは、以下の手順に従って、ダイヤルアップネットワークの設定を確認してください。147ページで作成したチェックシートをご覧になりながら、設定内容が正しいか確認していきます。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［設定］、［ダイヤルアップネットワーク］の順にポインタを合わせ、［ダイヤルアップネットワーク］をダブルクリックする。

「ダイヤルアップネットワーク」ウィンドウが表示されます。

2 ダイヤルアップ接続名（147ページで作成したチェックシートの❸ダイヤルアップ接続名）のアイコンをダブルクリックする。

「接続」画面が表示されます。

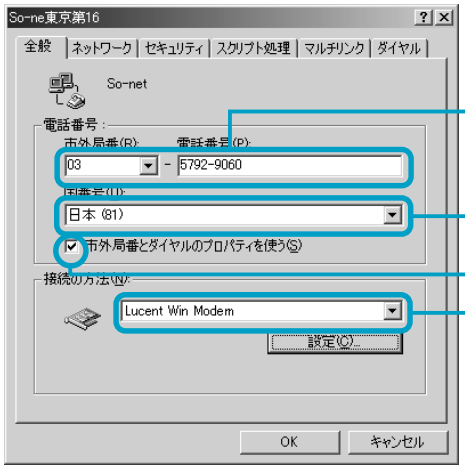
3 プロパティ(R) をクリックする。

プロパティ画面が表示されます。

次のページへつづく

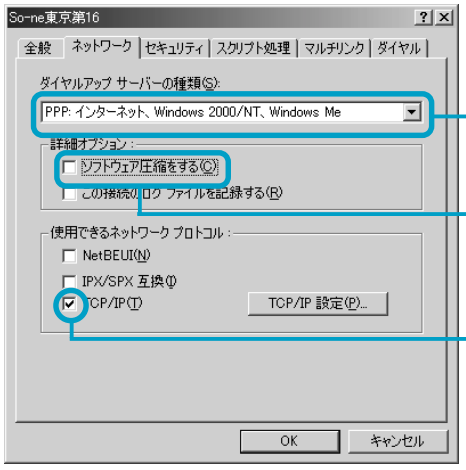
4 各タブをクリックし、各項目がチェックシートどおりに正しく入力されているか確認する。

「全般」タブ



- チェックシートの❸電話番号（アクセスポイント）と同じか？半角で入力されているか？
- 「日本（81）」が選ばれているか？
- ここがチェックされているか？
- 本機内蔵のモデムの名前か？

「ネットワーク」タブ



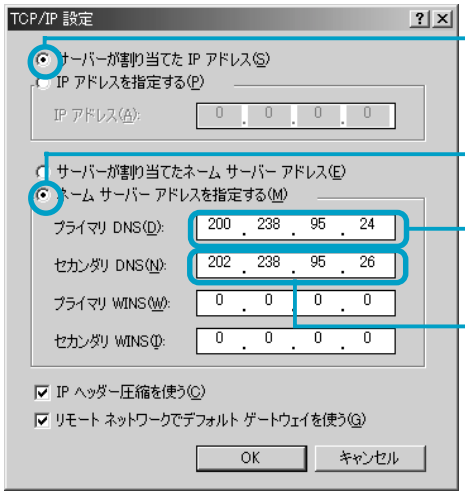
- 「PPP：インターネット、Windows 2000/NT、Windows Me」が選ばれているか？
- ここは通常チェックしない。
- ここがチェックされているか？

ご注意

チェックすべき項目以外はすべてチェックをはずしてください。

「TCP/IP設定」画面

「ネットワーク」タブで TCP/IP 設定(P)... をクリックすると表示されます。



これが選ばれているか？

これが選ばれているか？

チェックシートの❻DNSサーバーアドレス（プライマリDNS）と同じか？

チェックシートの❼別のDNSサーバーアドレス（セカンダリDNS）と同じか？

ご注意

プロバイダからDNSサーバーアドレスを指定されない（自動設定）場合は、［サーバーが割り当てたネームサーバーアドレス］をクリックしてください。

ちょっと一言

DNSサーバーアドレス（プライマリDNSとセカンダリDNS）がチェックシートと違う場合は、［ネームサーバーアドレスを指定する］をクリックしてから、正しいアドレスを入力します。

M-1 以下の手順に従って操作し、ネットワークの設定を確認してください。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 ウィンドウ左側の［すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。］をクリックする。

「コントロールパネル」のすべての項目が表示されます。

次のページへつづく

3 **（ネットワーク）をダブルクリックする。**

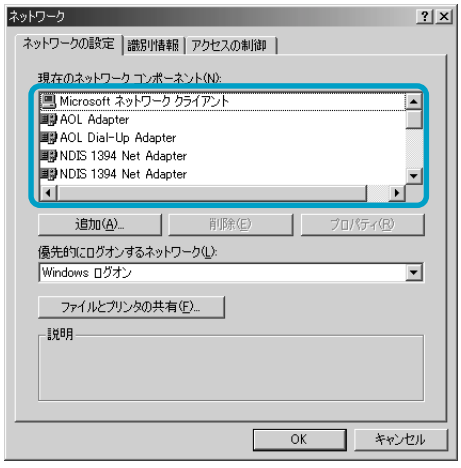
「ネットワーク」画面が表示されます。

4 **「現在のネットワークコンポーネント」に以下の3つがあるか確認する。**

- 「Microsoft ネットワーク クライアント」
- 「ダイヤルアップ アダプタ」
- 「TCP/IP→ダイヤルアップ アダプタ」

どれか1つでもない場合は、追加(A)... をクリックして追加してください。

「ダイヤルアップアダプタ」がない場合は、下記のN-1の手順に従って操作してダイヤルアップ接続アイコンを作り直してください。



N-1 ダイヤルアップアダプタを削除して再度組み直し、ダイヤルアップ接続アイコンを作り直して、接続してみてください。ダイヤルアップ接続アイコンを作り直すには、以下の手順に従って操作します。

1 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

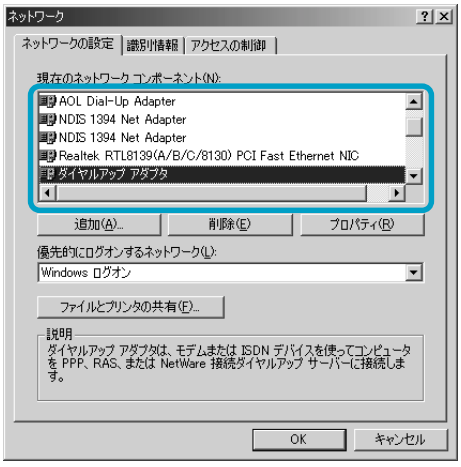
2 **ウィンドウ左側の［すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。］をクリックする。**

「コントロールパネル」のすべての項目が表示されます。

3 **（ネットワーク）をダブルクリックする。**

「ネットワーク」画面が表示されます。

4 **「現在のネットワークコンポーネント」の中の［ダイヤルアップ アダプタ］をクリックして、削除(E)をクリックする。**



5 **OKをクリックする。**

ダイヤルアップアダプタが削除されます。

6 **画面の指示に従って、本機を再起動する。**

7 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［設定］、［ダイヤルアップネットワーク］の順にポインタを合わせ、［ダイヤルアップネットワーク］をダブルクリックする。**

「ダイヤルアップネットワーク」ウィンドウが表示されます。

8 **ダイヤルアップ接続名（147ページで作成したチェックシートの❽ダイヤルアップ接続名）のアイコンをごみ箱にドラッグアンドドロップする。**

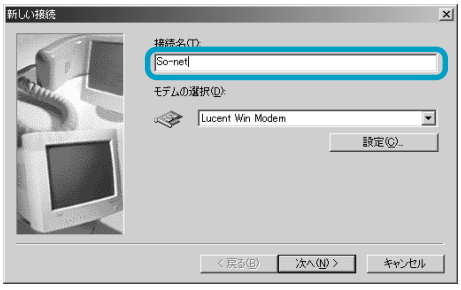
ダイヤルアップ接続アイコンが削除されます。

9 **（新しい接続）をダブルクリックする。**

「新しい接続」画面が表示されます。

次のページへつづく

10 「接続名」に任意のダイヤルアップ接続名を入力し、次へ(N) > をクリックする。



11 電話番号を半角数字で入力し、次へ(N) > をクリックする。

12 完了 をクリックする。

下図のようなメッセージが表示されます。

13 OK をクリックする。

ダイヤルアップアダプタが組み直され、「ダイヤルアップネットワーク」ウィンドウの中に新しいダイヤルアップ接続アイコンができます。

このアイコンをダブルクリックして、接続を試してください。

O-1 L-1（243ページ）やM-1（245ページ）の操作を行い、ネットワークやダイヤルアップネットワークの設定を再度確認してください。

P-1 アドレスバーに入力されている英数字をご確認ください。また、URLは半角で入力してください。

URLの中には「~」（チルダ）という特殊な記号を入力するものもあります。「~」を入力するには、MS-IMEツールバーで「半角英数」または「直接入力」を選び、Shift（シフト）キーを押しながら ~ を押します。

Q-1 「Outlook Express」ソフトウェアをお使いの場合は、以下の手順に従って操作し、電子メールソフトウェアの設定を確認してください。

147ページで作成したチェックシートをご覧になりながら、設定内容が正しいか確認していきます。

1 **デスクトップ画面上の（Outlook Express）をダブルクリックするか、デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［Outlook Express］をクリックする。**

「Outlook Express」ソフトウェアが起動します。

「接続」画面が表示されたときは、オフライン作業(O) をクリックします。

2 **画面上部の［ツール］をクリックし、表示されるメニューから［アカウント］をクリックする。**

「インターネットアカウント」画面が表示されます。

3 **［メール］タブをクリックする。**

「メール」画面が表示されます。

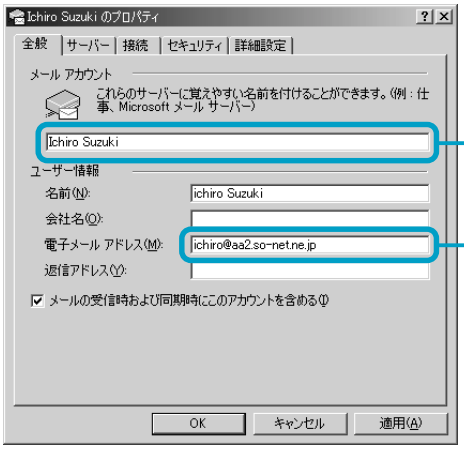
4 **お使いのアカウントをクリックして選び、プロパティ(R) をクリックする。**

お使いのアカウントのプロパティ画面が表示されます。

次のページへつづく

5 各タブをクリックし、各項目がチェックシートどおりに正しく入力されているか確認する。

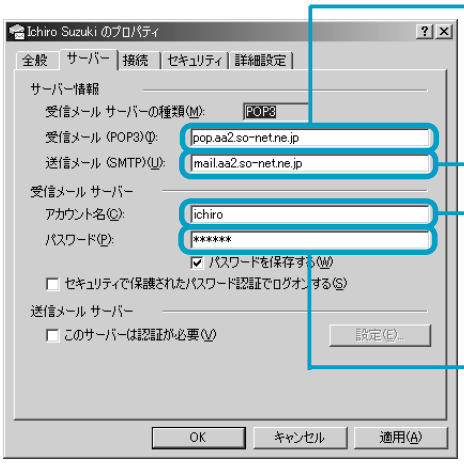
「全般」タブ



チェックシートの⓯インターネットメールアカウント名はお好みの名前を入れる。

チェックシートの⓾電子メールアドレスと同じか？

「サーバー」タブ



チェックシートの⓫受信メール（POP3またはIMAP）サーバーと同じか？

チェックシートの⓬送信メール（SMTP）サーバーと同じか？

チェックシートの⓭POPアカウント名と同じか？

チェックシートの⓮パスワード（POPアカウントパスワード）をもう一度入力してみてください。

ご注意

文字は半角文字で入力してください。全角で入力してあると、電子メールソフトウェアが正しく設定されません。

Q-2 「Outlook Express」以外の電子メールソフトウェアをお使いの場合は、それぞれのソフトウェアのヘルプをご覧になり、147ページで作成したチェックシートの⓾～⓮が正しく入力されているか確認してください。

動画／静止画編集

「DVgate」ソフトウェアを使って動画や静止画の取り込みができない。

→ i.LINK対応機器の認識ができない。「Smart Capture」ソフトウェアが起動している。「Smart Capture」ソフトウェアと「DVgate」ソフトウェアをいったん終了し、「DVgate」ソフトウェアのみを起動してください。

→ i.LINK対応機器の準備ができていない。i.LINK対応機器の電源が入っているか確認してください。

→ 本機とi.LINK対応機器が正しく接続されていない。i.LINKケーブルで本機とi.LINK機器が正しくつながっているか確認してください。

「DVgate」ソフトウェアについて詳しくは、「DVgate」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

「MovieShaker」ソフトウェアを使って動画の取り込みができない。

→ i.LINK対応機器の準備ができていない。i.LINK対応機器の電源が入っているか確認してください。

→ 本機とi.LINK対応機器が正しく接続されていない。i.LINKケーブルで本機とi.LINK機器が正しくつながっているか確認してください。

「MovieShaker」ソフトウェアについて詳しくは、「MovieShaker」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

「Smart Capture」ソフトウェアを使って動画／静止画を電子メールで送れない。

→ 動画が電子メールで送れないときは、撮影時のモードを確認する。ネットムービーモードで撮影した動画のみ、電子メールに添付できます。

→ 電子メールソフトウェアの設定が正しいか確認する。詳しくは「モデム／インターネット」（227ページ）をご覧ください。

「Smart Capture」ソフトウェアについて詳しくは、「Smart Capture」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

次のページへつづく

エラーメッセージ

電源を入れると、「No System disk or disk error. Replace and strike any key when ready.」というメッセージが表示される。

→ 212ページをご覧ください。

電源を入れると、「Operating system not found」と表示され、Windowsが起動できない。

→ 212ページをご覧ください。

「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。

→ 220ページをご覧ください。

「このディスクは書き込み禁止されています。」というメッセージが表示された。

→ 221ページをご覧ください。

電源を入れた後、「Invalid system disk. Replace the disk, and then press any key.」または「NTLDR is missing. Press any key to restart.」というメッセージが出て、ハードディスクから起動できない。

→ 213ページをご覧ください。

電源を入れると、「CMOS Battery Bad」というメッセージが表示される。

→ 213ページをご覧ください。

電源を入れると、「CMOS Checksum Error」というメッセージが表示される。

→ 213ページをご覧ください。

「Windows Me CD-ROMのラベルの付いたディスクを挿入して［OK］をクリックしてください。」というメッセージが表示される。

→ 本機の設定を変更したあとに表示されることがあります。以下の手順に従って操作してください。付属のリカバリ CD-ROMは、DVD-ROMドライブやCD-RWドライブには挿入しないでください。

1 メッセージが表示されたら、［OK］をクリックする。

「ファイルのコピー」画面が表示されます。

2 「ファイルのコピー元」に「C:¥Windows¥options¥cabs」と入力して、［OK］をクリックする。

必要なファイルがコピーされます。

接続／拡張するときは

この章では、本機と周辺機器の接続と本機の拡張について説明します。

AV機器をつなぐ

本機にはいろいろなAV機器をつなぐことができます。ここでは用途別に接続例を紹介します。

こんなことがしたい	本機とビデオカメラレコーダーをつなぎます。
• ビデオデッキの動画を本機につないだディスプレイで見たい。 • ビデオデッキの動画を本機のハードディスクに録画したい。	本機とビデオデッキをつなぎます。 接続のしかたについては下記の「ビデオ機器をつなぐ」をご覧ください。
• ビデオカメラレコーダーで撮影した動画を本機につないだディスレイで見たい。 • ビデオカメラレコーダーで撮影した動画を本機のハードディスクに録画したい。	本機とビデオカメラレコーダーをつなぎます。 接続のしかたについては下記の「ビデオ機器をつなぐ」をご覧ください。
• 「Giga Pocket」ソフトウェアで再生する動画をテレビで見たい。 • 「Media Bar DVD Player」ソフトウェアで再生するDVDビデオの映像をテレビで見たい。	本機とテレビをつなぎます。 接続のしかたについては「テレビにつなぐ」（257ページ）をご覧ください。

ビデオ機器をつなぐ

ビデオデッキやビデオカメラレコーダーを本機につないで、ディスプレイでビデオデッキの動画を見たり、本機のハードディスクドライブに動画を録画することができます。また、本機で再生した動画を外部のビデオデッキで録画することもできます。
Sビデオ接続ケーブル（4ピン ⟷ 4ピン、別売り）とオーディオ接続ケーブル（付属）を使って、本機とビデオデッキまたはビデオカメラレコーダーをつなぎます。本機には前面および後面パネルに映像／音声入力コネクタとS映像入力コネクタがあり、どちらの入力コネクタを使うこともできます。
ビデオデッキまたはビデオカメラレコーダーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

- 本機とビデオデッキまたはビデオカメラレコーダーの電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- 前面パネルの音声入力コネクタを使うときは、別売りのオーディオ接続ケーブルが必要です。

本機とビデオデッキやテレビで同時に1つのアンテナコネクタを使うときは

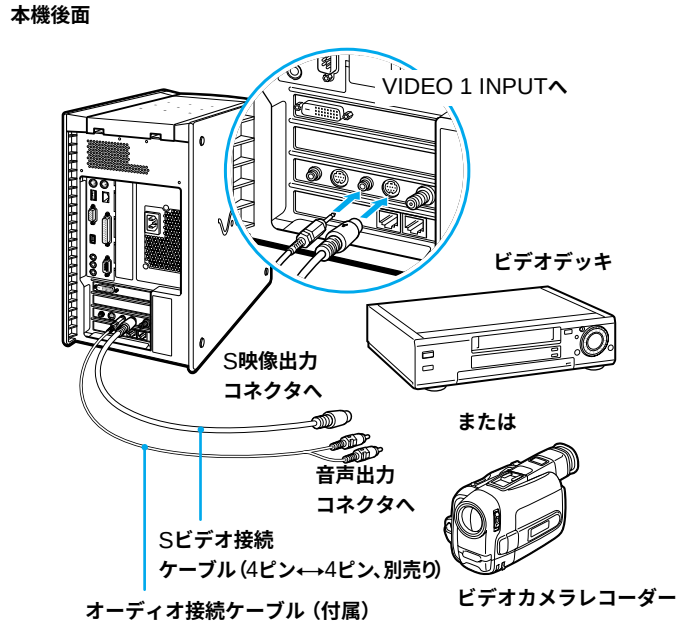
本機とビデオデッキやテレビで同時に1つのアンテナコネクタを使う場合は、アンテナブースターや分配器を使って分配する必要があります。詳しくは、「接続する／準備する」の手順2（32ページ）をご覧ください。

ビデオ機器の動画を見たり録画するには

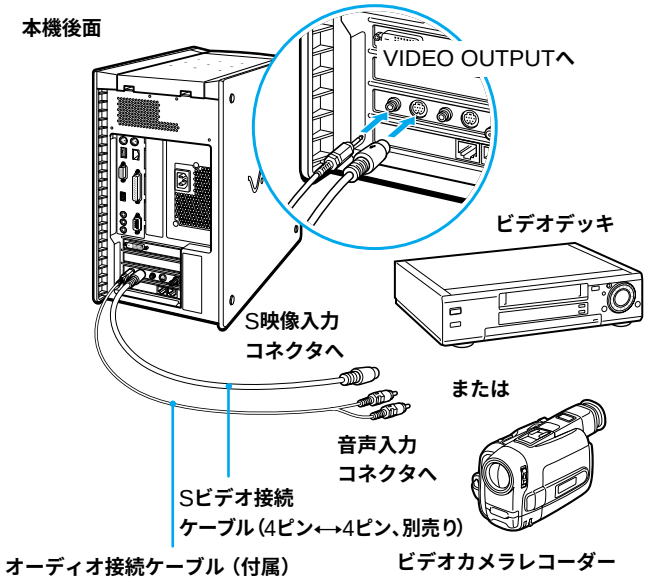
付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使います。ビデオ機器の動画を「Giga Pocket」ソフトウェアで扱う方法については、別冊の「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書またはヘルプをご覧ください。

後面パネルのコネクタを使うとき

- **ビデオデッキやビデオカメラレコーダーの動画を見たり取り込むとき**



- **本機で録画した動画をビデオデッキやビデオカメラレコーダーに録画するとき**



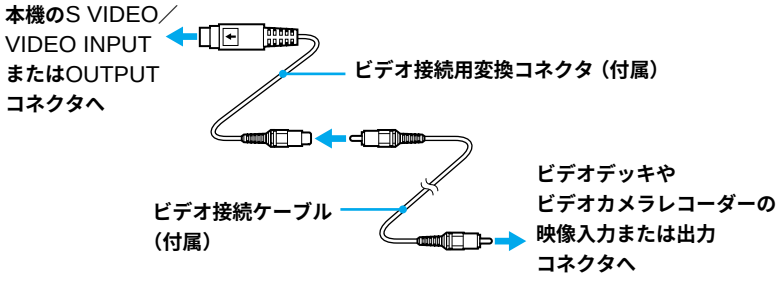
次のページへつづく

ご注意

本機のVIDEO 1 INPUTコネクタとVIDEO OUTPUTコネクタの両方を同一のビデオデッキまたはビデオカメラレコーダーの映像出力コネクタおよび映像入力コネクタにそれぞれつないだとき、ビデオデッキまたはビデオカメラレコーダー側で映像入力を切り換えたり、本機側で「Giga Pocket」ソフトウェアを使って映像入力を切り換えると、雑音が出たり、映像が乱れることがあります。

S映像入力／出力コネクタのないビデオデッキやビデオカメラレコーダーをつなぐときは

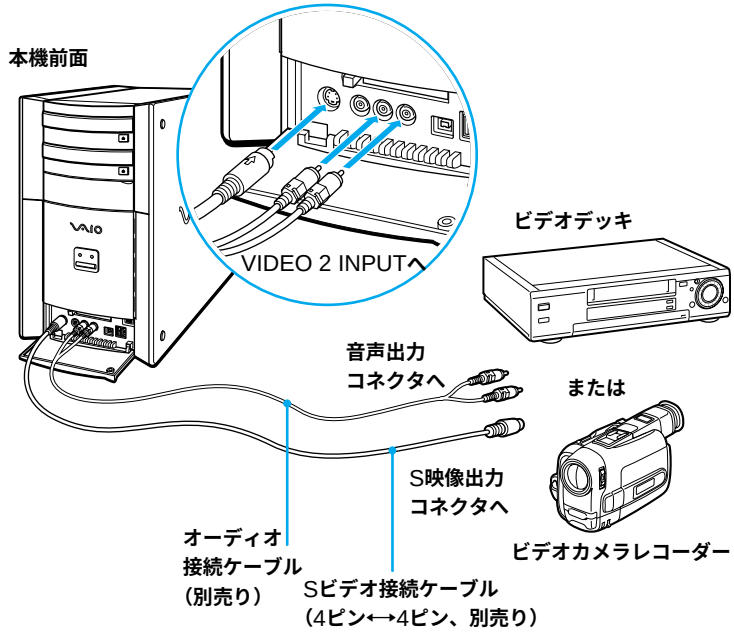
Sビデオ接続ケーブルのかわりにビデオ接続用変換コネクタ（付属）とビデオ接続ケーブル（付属）をつないで使うことができます。



ちょっと一言

別売りのソニー製のSビデオ接続ケーブルにはYC-15Vなどがあります。

前面パネルのコネクタを使うとき



ちょっと一言

- S映像入力コネクタにSビデオ接続ケーブルをつながないときは、ビデオ／オーディオ接続ケーブル（別売り）をつなぐか、ビデオ接続ケーブル（別売り）を映像入力コネクタへ、オーディオ接続ケーブル（別売り）を音声入力コネクタへつないでください。
- 別売りのソニー製のケーブルには以下のようなものがあります。

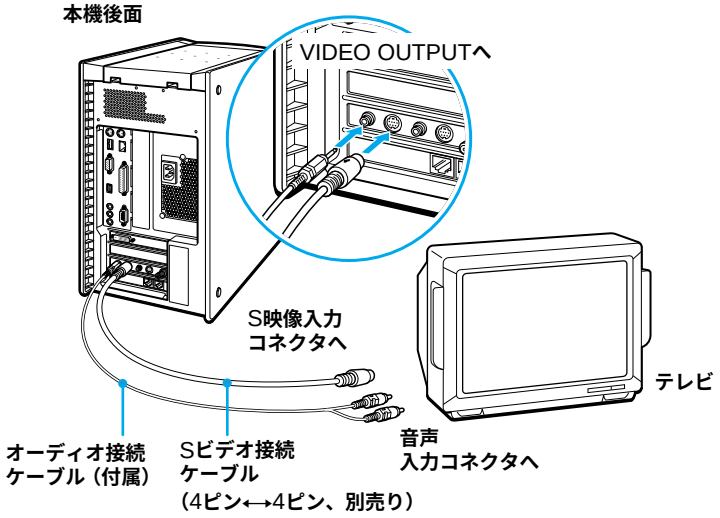
  ビデオ／オーディオ接続ケーブル　：VMC-815Sなど
  ビデオ接続ケーブル　：VMC-15など
  オーディオ接続ケーブル（2ピン⟷2ピン）：RK-C315など
  Sビデオ接続ケーブル　：YC-15Vなど
  なお、ビデオ接続ケーブルは本機に1本付属しています。

テレビにつなぐ

「Giga Pocket」ソフトウェアで再生する映像や「Media Bar DVD Player」ソフトウェアで再生するDVDビデオの映像をテレビでも見ることができます。
Sビデオ接続ケーブル（4ピン ⟷ 4ピン、別売り）とオーディオ接続ケーブル（付属）を使って、本機とテレビをつなぎます。接続してから、テレビの入力切り換えを「ビデオ」に合わせます。

ご注意

- すべての機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- 本機では、ディスプレイとテレビの両方を接続していてもDVDビデオの映像は両方同時に表示できません。Giga Pocket用リモコンの入力切換ボタンでディスプレイまたはテレビに映像入力を切り換えてください。



次のページへつづく

AV機器をつなぐ（つづき）

ビデオデッキをつなぐときは

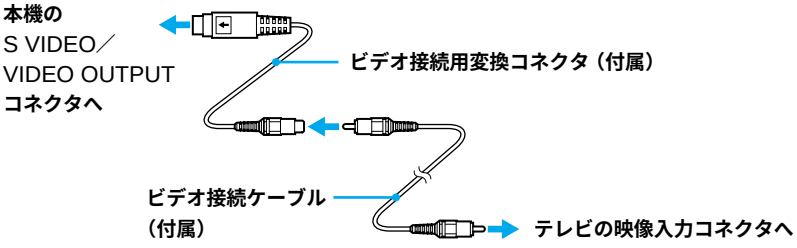
本機のVIDEO OUTPUTコネクタとビデオデッキの映像／音声入力コネクタをつなぎ、ビデオデッキの映像／音声出力コネクタとテレビの映像／音声入力コネクタをつなぎます。

本機とビデオデッキやテレビで同時に1つのアンテナコネクタを使うときは

本機とビデオデッキやテレビで同時に1つのアンテナコネクタを使う場合は、アンテナブースターや分配器を使って分配する必要があります。詳しくは、「接続する／準備する」の手順2（32ページ）をご覧ください。

S映像入力コネクタのないテレビをつなぐときは

Sビデオ接続ケーブルのかわりにビデオ接続用変換コネクタ（付属）とビデオ接続ケーブル（付属）をつないで使うことができます。



ちょっと一言

別売りのソニー製のSビデオ接続ケーブルにはYC-15Vなどがあります。

i.LINK対応機器をつなぐ

デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器を本機につないで、動画や静止画を取り込んだり、本機から動画を送出してテープに録画できます。

ご注意

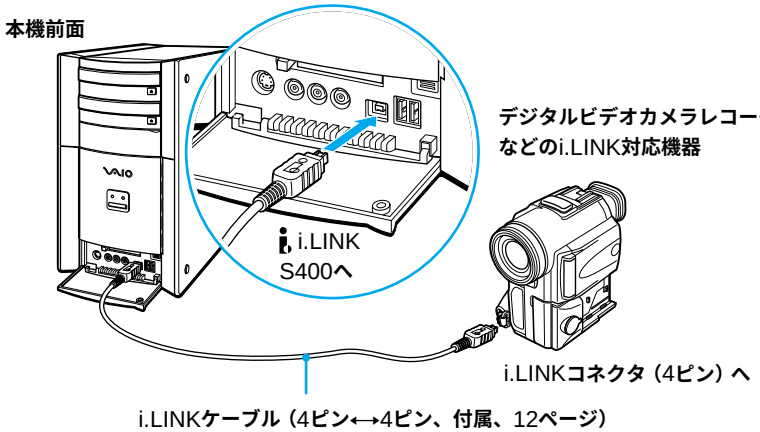
- i.LINKを使った接続や操作には、機器によって異なるものがあります。接続に必要なケーブルや、操作できる機器について詳しくは、「必要なi.LINKケーブル」(262ページ) および「本機で操作できるi.LINK対応機器」(263ページ) をご覧ください。
- デジタルビデオカメラレコーダーを接続するときは一度電源を切ってから接続し、電源を入れ直してください。本機の電源は切る必要はありません。
- 一度に接続できるデジタルビデオカメラレコーダーは1台のみです。同時に2台以上のデジタルビデオカメラレコーダーを接続することはできません。
- 本機のi.LINKコネクタは最大400Mbpsのデータ転送に対応していますが、実際の転送速度は接続したi.LINK対応機器の転送速度により変わります。
- 接続のしかたや画像の取り込みかたは、接続するi.LINK対応機器や使用するソフトウェアによって異なります。詳しくは、i.LINK対応機器の取扱説明書や、本機に付属の「DVgate」などの各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

ちょっと一言

i.LINK対応機器をつないだときに自動的にお好みのソフトウェアが起動するように設定することができます。詳しくは「VAIO Action Setup」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

前面パネルのコネクタ（4ピン）を使うとき

i.LINKケーブル（付属）を使って、本機とi.LINK対応機器をつなぎます。i.LINK対応機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



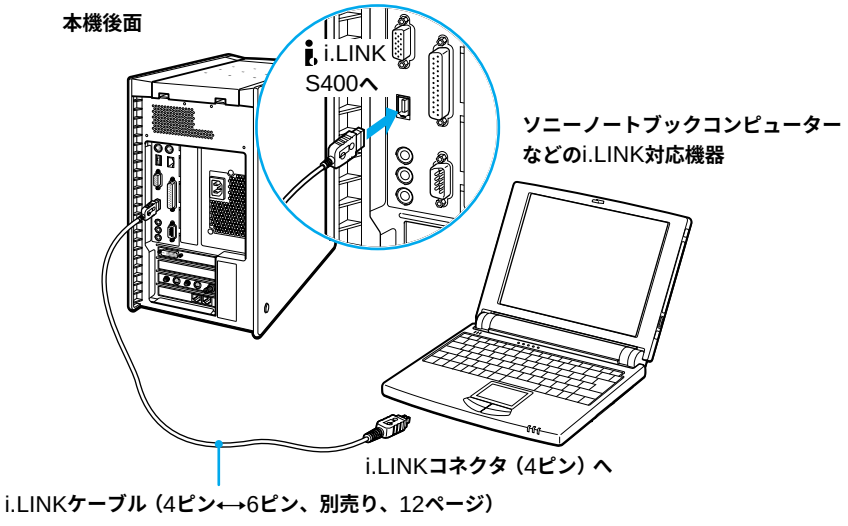
ご注意

接続の際は、付属のi.LINKケーブルをお使いください。

次のページへつづく

後面パネルのコネクタ（6ピン）を使うとき

i.LINKケーブル（4ピン ⟷ 6ピン、別売り、262ページ）を使って、本機とi.LINK対応機器をつなぎます。i.LINK対応機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



i.LINK接続でデータをやりとりする

本機と「Smart Connect Ver.3.0」ソフトウェアに対応したVAIO、またはWindows Meを搭載したVAIOを別売りのi.LINKケーブルで接続すると、お互いのファイルをコピーしたり、削除、編集などを行うことができます。
また、接続先のVAIOにつないだプリンタを使って印刷することもできます。

Windows Meを搭載したVAIOと本機をつなぐ場合

i.LINKケーブルで接続するだけでデータのやりとりができます。

「Smart Connect」ソフトウェアを搭載したVAIOと本機をつなぐ場合

接続先の「Smart Connect」ソフトウェアのバージョンをご確認ください。

- **「Smart Connect Ver.3.0」ソフトウェア以降の場合**

  「Smart Connect Ver.3.0」ソフトウェアの通信モードを「STDモード」にする必要があります。設定方法は、「Smart Connect Ver.3.0」ソフトウェアのヘルプの「通信モードを切り替える」をご覧ください。

- **「Smart Connect Ver.2.2」ソフトウェア以前の場合**

  「サイバーサポート」を使って次ページの手順で検索し、表示される内容に従って操作してください。

1 **デスクトップ画面上の（キーワード検索 CyberSupport）をダブルクリックする。**

「サイバーサポート」ソフトウェアが起動し、キーワード検索をする画面が表示されます。

2 **検索対象のリストボックスから「Smart Connect」を選択する。**

3 文例表示 **をクリックする。**

4 **一覧から「以前のバージョンのSmart Connect 搭載のパソコンとの接続について」という文例をクリックする。**

ご注意

- i.LINKケーブルを接続してから実際にデータをやりとりできるようになるまでにしばらく時間がかかる場合があります。
- i.LINKで接続したVAIOでは、次のような条件のときにデータのやりとりができなくなることがあります。
  ー i.LINKケーブルを接続したまま、どちらかのコンピュータを再起動したとき
  ーデータをやりとりできる状態で本機にPCカードを挿入したとき

データのやりとりができなくならないように、再起動するときは、i.LINKケーブルを抜く、または、PCカードを挿入してから再起動を行ってください。
データのやりとりができなくなったときは、以下の手順に従って操作してください。
データのやりとりができるようになります。

1 **i.LINK ケーブルを抜く。**

2 **接続しているそれぞれのコンピュータを再起動する。**

3 **再度 i.LINK ケーブルを接続する。**

次のページへつづく

ご注意

i.LINKケーブルを再度接続したあとは、接続先のVAIOを認識するのに数分かかることがあります。

接続先のコンピュータを探すには

接続先のコンピュータが、ネットワークコンピュータにすぐには表示されないことがあります。そのときは、デスクトップ画面上の（マイネットワーク）を右クリックして［コンピュータの検索］を選択し、接続先のコンピュータ名を入力して検索してください。

接続先から自分のコンピュータを利用できるようにするには

本機のフォルダや接続しているプリンタを接続先のコンピュータから利用できるようにするには、ネットワーク共有サービスのインストールおよび設定が必要です。

デスクトップ画面上の（マイネットワーク）をダブルクリックし、「ホーム ネットワーク ウィザード」で設定することもできます。

詳しくは、Windows Meのヘルプをご覧ください。

必要なi.LINKケーブル

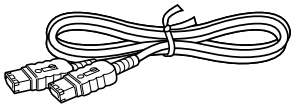
ソニーのi.LINKケーブルをお使いください

i.LINK対応機器の接続には、本機に付属のi.LINKケーブル、本機で操作できるi.LINK対応機器に付属のi.LINKケーブルまたは、下記のソニー製i.LINKケーブル（別売り）をお使いください。

本機には4ピン⟷4ピンのi.LINKケーブル（1.5m）が付属しています。長い4ピン⟷4ピンのi.LINKケーブルが必要な場合は、別売りのVMC-IL4435A（3.5m）をお使いください。

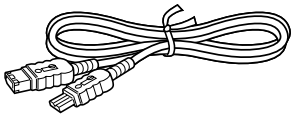
6ピン⟷6ピン

- VMC-IL6615A（1.5 m）
- VMC-IL6635A（3.5 m）



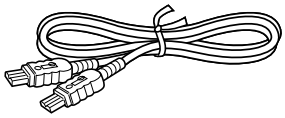
4ピン⟷6ピン

- VMC-IL4615A（1.5 m）
- VMC-IL4635A（3.5 m）



4ピン⟷4ピン

- VMC-IL4408A（80cm）
- VMC-IL4415A（1.5 m）
- VMC-IL4435A（3.5 m）



ご注意

DVケーブルはご使用になれません。

本機で操作できるi.LINK対応機器

本機では、下記のi.LINK対応機器と組み合わせて操作できます。（2001年5月10日現在）

- i.LINKコネクタを持つソニーパーソナルコンピューター
- i.LINKコネクタを持つソニーノートブックコンピューター*

  * 別売りのパワーアップステーションやポートリプリケーターを取り付ける必要があるモデルがあります。取り付けかたについて詳しくは、お使いのノートブックコンピュータの取扱説明書をご覧ください。

- ソニーが2001年4月末日までに日本国内で発売した、DV端子付きの家庭用DV機器（メディアコンバータ、およびDigital 8デジタルビデオカメラレコーダーを含む、ツーリストモデルは除く）

  ただし、ソフトウェアによっては一部のDV機器が動作対象外になる場合があります。詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書、電子マニュアル、ヘルプ、Readmeファイルなどをご覧ください。

- その他、ソニー製のVAIOブランドのi.LINK対応機器の最新情報は、VAIOカスタマーリンク ホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）をご覧ください。

ご注意

- 本機はDTLAコピー・プロテクション技術に対応していないため、デジタルCSチューナーやD-VHSビデオデッキなどのDTLAコピー・プロテクション技術に対応した機器に接続しても操作することができません。
- i.LINKは、すべての機器間での接続動作が保証されているものではありません。i.LINK搭載各機器の動作条件と接続の可否情報をご確認ください。動作の可否は、各機器のソフトウェア（OSを含む）、ハードウェアによって規定されます。
- i.LINKで接続を行うコンピュータ周辺機器（ハードディスクドライブやCD-RWドライブなど）は、OSによっては対応していない場合があります。i.LINK対応機器をご購入の際には、あらかじめ動作環境をご確認ください。

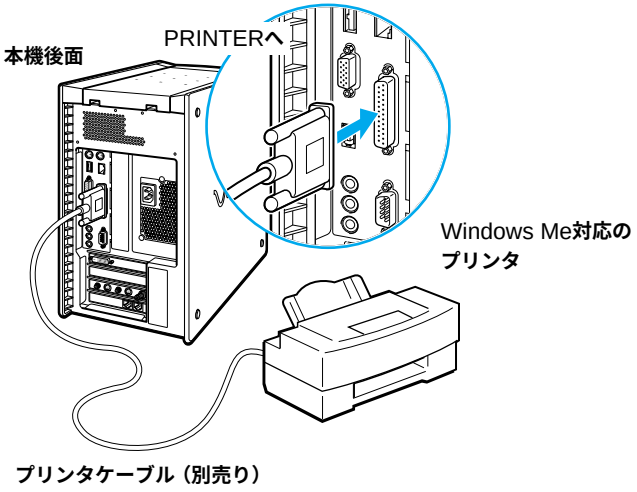
プリンタをつなぐ

Windows Meに対応しているプリンタを本機につないで、「PictureGear」ソフトウェアの「ラベルメーカー」で作成したラベルや、「ワードパッド」ソフトウェアで作成した書類などを印刷できます。

プリンタに付属または別売りのプリンタケーブルを使って本機につなぎます。

ご注意

- すべての機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- Windows Meに対応していないプリンタを本機につないでも、正常に動作しません。



プリンタを使用するには

プリンタを使用するには、プリンタに付属のドライバを本機にインストールする必要があります。

詳しくはプリンタの取扱説明書およびWindows Meのヘルプをご覧ください。

Windows Meのヘルプを見るにはデスクトップ画面左下の スタート をクリックし、表示されるメニューから［ヘルプ］をクリックします。

Windows Meのヘルプの使い方について詳しくは、「Windows Meのヘルプの使いかた」（203ページ）をご覧ください。

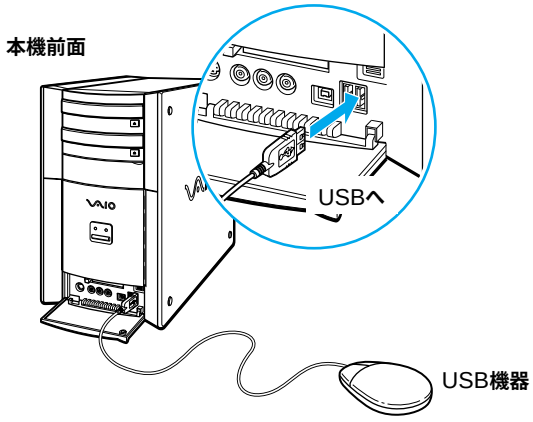
ドライバとは

どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピュータ側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアです。プリンタのドライバを本機にインストールすることにより、本機からプリンタの動作をコントロールできるようになります。

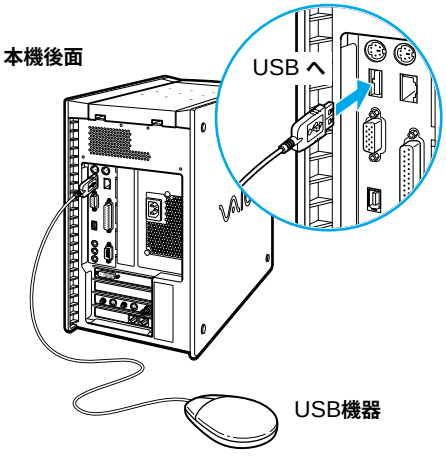
USB機器をつなぐ

本機の前面と後面にあるUSBコネクタを使って、Windows Meに対応しているUSB機器を接続することができます。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

前面パネルのコネクタを使うとき

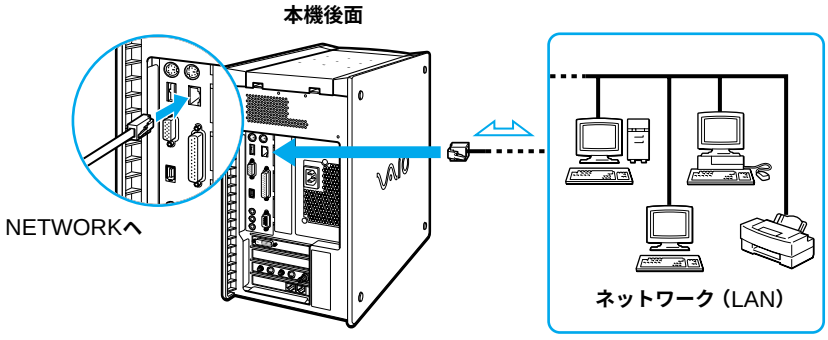


後面パネルのコネクタを使うとき



ネットワーク（LAN）を作る

本機後面のNETWORKコネクタとネットワーク（LAN）を直接接続して、ネットワーク内の他の機器とデータをやりとりできます。
10BASE-Tと100BASE-TXタイプのネットワークに接続できます。



ちょっと一言

本機をネットワークに接続すると、ネットワークに接続されている他のコンピュータから、「Giga Pocket」ソフトウェアのサーバー機能を利用して、録画を予約したり、録画済みの動画を再生したりできます。「Giga Pocket」ソフトウェアのサーバー機能について詳しくは、別冊の「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書またはヘルプをご覧ください。

ご注意

NETWORKコネクタには指定以外のネットワークや電話回線を接続しないでください。
お買い上げ時にはNETWORKコネクタ上に誤って接続しないようにシールが貼られています。NETWORKコネクタを使うときは、シールをはがしてから接続してください。

PCカードを使う

本機にPCカードを装着すると、他のコンピュータとデータをやりとりしたり、さまざまな機能を拡張したりできます。

PCカードとは

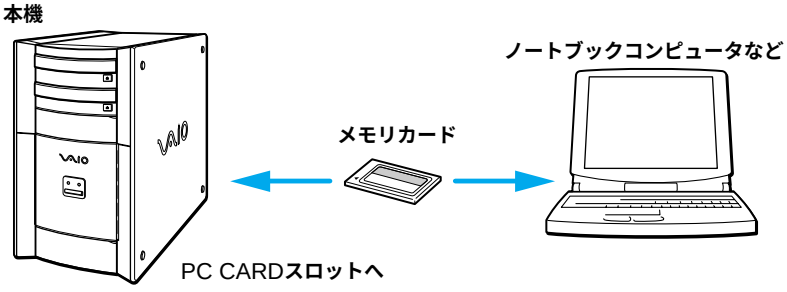
PC Card規格に準拠した、着脱可能な機能拡張デバイスです。形はクレジットカードに似ていますが、やや大きくて厚みがあります。
主なPCカードには以下のような種類があります。

メモリカード

データをフラッシュメモリに保存します。PCカードに対応したデジタルスチルカメラで撮影した画像であれば、PCカードを本機に取り付けてそのまま取り込めます。また、本機やPCカードに対応した機器で作成したデータをメモリカードに保存して、データをやりとりできます。

フラッシュメモリとは

電気的にデータを読み書きする、記憶メディアのひとつです。普通、書き込み可能なメモリは、電源を切ると内容が消えてしまいますが、フラッシュメモリは電源を切っても内容が消えないという特徴をもっています。



SCSIカード

MOドライブやスキャナなどのSCSIデバイスを接続できます。

MOとは

「エム・オー」と読みます。レーザー光線と磁気を利用してデータを読み書きする外部記憶メディアのことです。フロッピーディスクよりも容量が多く、種類により、最大640Mバイトまでデータを記録することができます。

SCSIとは

「スカジー」と読みます。コンピュータと、MOドライブやプリンタなどの周辺機器を接続するための規格のことです。周辺機器などをSCSIで接続すると、本機を含めて最大7台まで数珠つなぎに接続することができます。

次のページへつづく

ネットワークカード

イーサネットなどのネットワークに接続できます。

イーサネットとは

コンピュータ間のデータ通信方式のことで、職場などで複数のコンピュータをネットワーク（LAN）でつないで、データをやりとりするときに使われます。

TA（ターミナルアダプタ）カード

ISDN回線に接続できます。

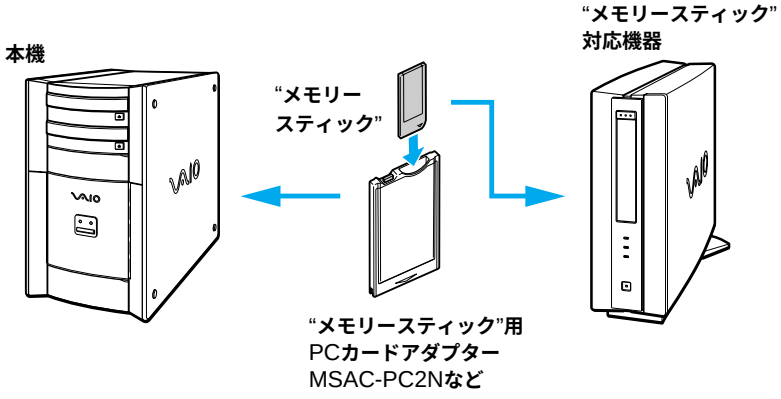
ISDNとは

NTTのデジタル通信網を使った電話回線で、通信速度が速く、1回線で従来の2回線が使えます。

本機には、PC Cardタイプ I とタイプ II に準拠したPCカードを挿入できるPCカードスロットがあります。また、本機のPC CARD（PCカード）スロットは16ビットCardおよびCard Busにも対応しています。
（ZV（Zoomed Video）Portには対応していません。）

ちょっと一言

ソニー製“メモリースティック”用PCカードアダプターMSAC-PC2Nなどを本機のPCカードスロットに取り付けると、“メモリースティック”を使って“メモリースティック”対応機器とデータをやりとりできます。



ご注意

- PCカードによっては本機で使用できないものや、機能が制限されるものがあります。
- PCカードによっては、ドライバを最新のものにすることによって不具合が改善される場合があります。PCカードの製造メーカーから最新のドライバを入手してお使いください。

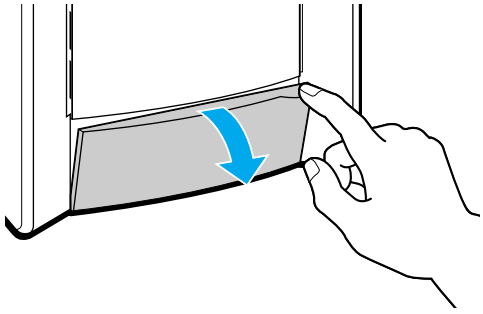
ドライバとは

どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピュータに知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトです。

PCカードを取り付ける

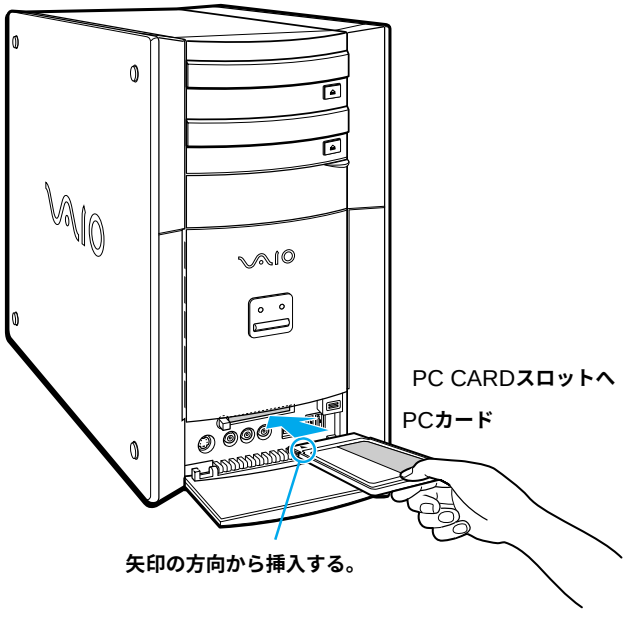
PCカードを取り付けるときに本機の電源を切る必要はありません。

1 本機の前面の下のふたを開ける。



2 カードをPC CARD（PCカード）スロットに挿入する。

スロットの奥にあるコネクタに、カードがしっかりと固定されるまで押し込みます。
カードがうまく入らない場合は、無理にカードを押し込まずに、カードの挿入方向を確認してからもう1度挿入し直してください。



取り付けた後の使いかたについては、PCカードの取扱説明書をご覧ください。

次のページへつづく

ご注意

- お使いのPCカードのメーカーが提供する最新のドライバをお使いください。
- 「コントロールパネル」の中の［システム］をダブルクリックして、「システムのプロパティ」の［デバイスマネージャ］タブでPCカードに「！」が付いている場合は、ドライバを削除し、再度インストールしてください。

PCカードを取り出すには

ご注意

カードを取り出すときは、必ず以下の手順に従ってください。誤った取り出しかたをすると、システムが正常に動作しない可能性があります。

本機の電源が切れているときは、PC CARD（PCカード）スロットのイジェクトボタンを押すだけでPCカードを取り出せます。（手順1～5は不要です。）

本機がスタンバイモードまたは休止状態のときは、本機を通常の動作モードに戻してから手順1～6を行ってください。本機を通常の動作モードに戻すには、キーボードのスペースキーを押すか、本機前面の⏻（電源）ボタンを押します。

1 **デスクトップ画面右下のタスクトレイにある をダブルクリックする。**

「ハードウェアの取り外し」画面が表示されます。

2 **リストから取り出したいPCカードをクリックし、停止(S) をクリックする。**

「ハードウェアデバイスの停止」画面が表示されます。

3 **取りはずすPCカードを確認し、OK をクリックする。**

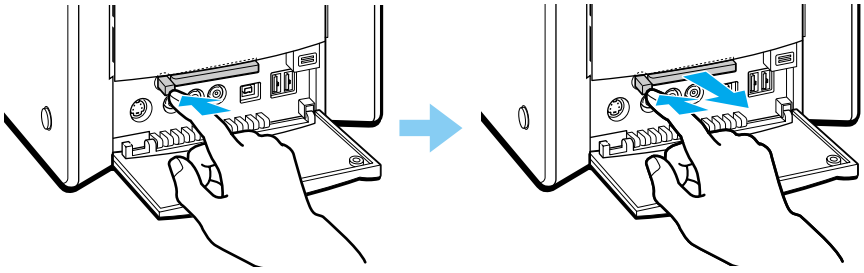
「…は安全に取り外すことができます。」画面が表示されます。

4 **OK をクリックする。**

5 「ハードウェアの取り外し」画面の 閉じる をクリックする。

6 PC CARD（PCカード）スロットのイジェクトボタンを押す。

一度イジェクトボタンを押してボタンを手前に引き出し、出たボタンをもう一度押すとPCカードを取り出すことができます。



カードがコネクタからはずれます。カードの端を持って、スロットから引き抜いてください。

拡張ボードを増設する

本機では「拡張ボード」と呼ばれる別売り品を装着することで、さまざまな機能を拡張し、よりご自分にあった作業環境を構築することができます。

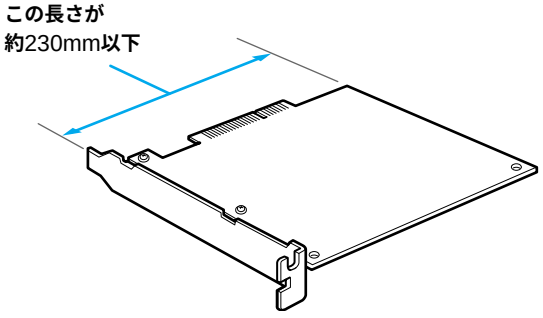
拡張ボードの種類

本機では「PCI」という規格に対応した拡張ボードを取り付けることができます。拡張ボードをお買い求めの際は、Windows MeとPCI規格に対応していることをご確認ください。

本機には空きスロット（拡張ボードを増設できる場所）が1か所あり、PCI拡張ボードを1枚取り付けることができます。

拡張ボードの大きさについて

本機に取り付けられる拡張ボードの長さは、約230mmまでです。



増設できる拡張ボードについて

VAIOカスタマーリンクまたは販売店にお問い合わせください。

VAIOカスタマーリンクのホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）では、増設できる拡張ボードの情報を掲載しています。

プラグアンドプレイについて

「プラグアンドプレイ」とは、拡張ボードを装着するだけで特別な設定をしなくてもすぐに使用できる状態になる機能です。本機に取り付けられるPCI規格の拡張ボードはプラグアンドプレイに対応しています。PCI規格の拡張ボードはボードを取り付けた後、リソースの設定が自動的に行われるので、ご自分で面倒な設定をする必要がありません。

リソースについて

拡張ボードは一般的にそれぞれ専用の割り込み番号（IRQ）、メモリ、I／Oポートなどの「リソース」（資源）を使用します。
PCI規格の拡張ボードではこれらのリソースが自動的に設定されます。

IRQとは

「アイアールキュー」と読みます。ハードウェアからの割り込み信号のことです。キーボードやマウスなどの周辺機器から入力があると、それを受け付けるかどうか判断します。受け付けるときは、その優先度に応じて割り込みした処理を行います。

メモリとは

コンピュータの中にあって、データやプログラムを保存しておくための場所あるいは、装置のことです。メモリには主記憶装置と、補助記憶装置があります。通常は主記憶装置のRAMを示します。

I/Oポートとは

「アイオーポート」と読みます。コンピュータにデータを入れたり（インプット）、出したり（アウトプット）するための接続部、または、コネクタ部の総称です。入力のための機器としてはキーボードやマウス、出力のための機器としてはディスプレイなどがあります。なお、フロッピーディスクドライブや、ハードディスクドライブは入出力のどちらも行える機器です。

リソースとは

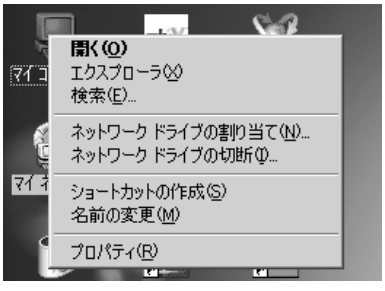
もともとは、「資源」という意味です。コンピュータを使って何か作業を行う場合に、そのコンピュータが稼働するために必要なメモリ、入力装置、出力装置、制御装置などを指します。

リソースを確認するには

「システムのプロパティ」画面で現在使用中のリソースを確認することができます。以下の手順に従って確認します。

1 デスクトップ画面左上の（マイ コンピュータ）を右クリックする。

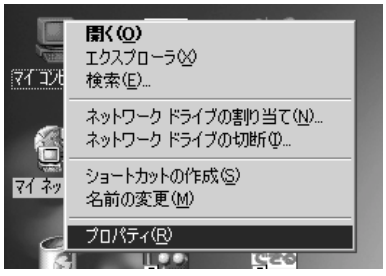
ショートカットメニューが表示されます。



次のページへつづく

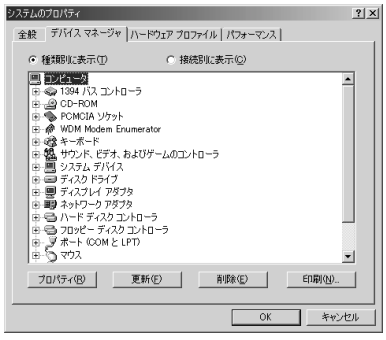
2 [プロパティ] をクリックする。

「システムのプロパティ」画面が表示されます。



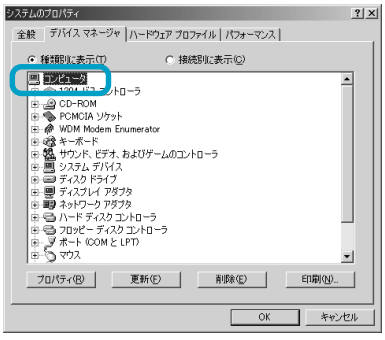
3 [デバイスマネージャ] タブをクリックする。

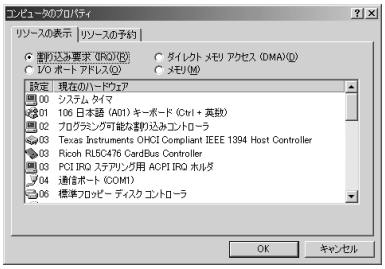
「デバイスマネージャ」画面が表示されます。



4 [コンピュータ] をダブルクリックする。

「コンピュータのプロパティ」画面が表示され、現在使用中のリソースが表示されます。





拡張ボード取り付けの流れ

以下の流れに沿って、拡張ボードを増設します。

1 **本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜く**

電源の切りかたについて詳しくは、「電源を切る」（56 ページ）をご覧ください。

2 **拡張ボードを取り付ける**

拡張ボードの取り付けかたについて詳しくは、次ページの「拡張ボードを取り付ける」をご覧ください。

3 **電源コードをコンセントに差し込み、本機の電源を入れる**

電源の入れかたについて詳しくは、「電源を入れる」（44 ページ）をご覧ください。

4 **ドライバの設定、インストールを行う**

拡張ボードが本機に認識されるとメッセージが表示されるので、拡張ボードの取扱説明書なども参照の上、指示に従って操作してください。

ドライバとは

どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピュータ側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアです。拡張ボードを増設したときには、ドライバのインストールが必要となる場合があります。

次のページへつづく

拡張ボードを取り付ける

以下の手順に従って拡張ボードを取り付けます。

取り付けるときのご注意

拡張ボードの取り付けや取りはずしは、必ず本機および周辺機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、充分時間が経過したあとに行ってください。電源コードを差したまま拡張ボードを取り付けたり取りはずしたりすると、拡張ボードや本機、周辺機器が破損することがあります。

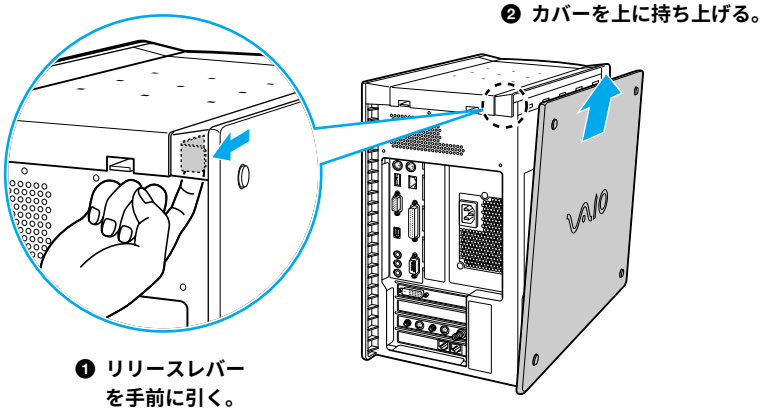
- 拡張ボードの部品には直接手を触れないでください。人体の静電気によって部品が故障することがあります。拡張ボードを触る前には、本機の金属部分などの金属製のものに触れて体内の静電気を放電してください。
- じゅうたんの上など、静電気の発生しやすいところに拡張ボードを放置しないでください。静電気の影響で拡張ボードの部品が壊れてしまうことがあります。
- コネクタ部に直接手を触れないようにご注意ください。
- 拡張ボード内部には精密な電子部品があります。落としたり、強い衝撃を与えないようにご注意ください。
- 拡張ボードを本機から取りはずすときは、必ず本機の拡張ボードの取り扱いかたに従ってください。無理に引き抜くと拡張ボードや本機の故障の原因になります。
- 拡張ボードを水で濡らさないでください。
- 拡張ボード増設の際に異物（ネジなどの金属物など）が本機内部に混入したままの状態で電源を入れると、発煙の恐れがあります。必ず異物を取り除いてカバーを取り付けてから電源を入れてください。

1 本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよび周辺機器を接続しているすべての接続ケーブルを取りはずす。

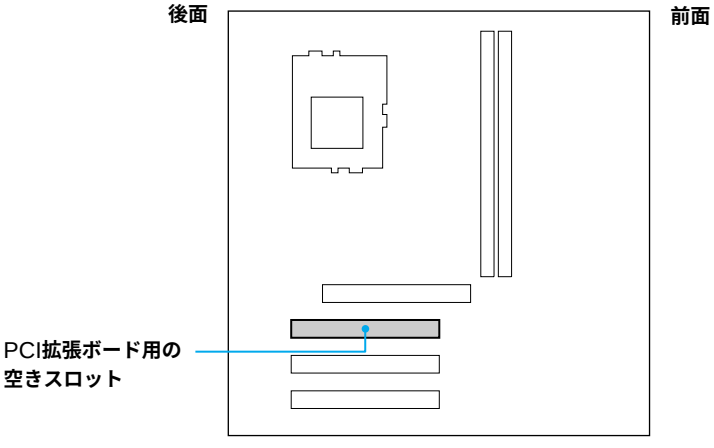
ご注意

電源を切ったあとすぐは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。

2 側面のカバーをはずす。



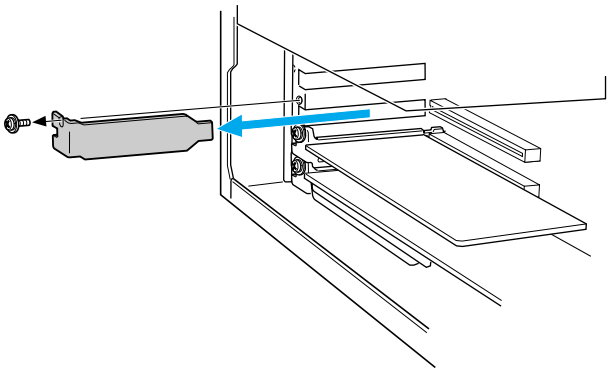
本機の内部基板は下の図のようになっています。



次のページへつづく

3 拡張ボードを取り付けるスロットのカバーを取りはずす。

スロットのカバーを取り付けているネジをはずし、本体の内部からカバーを取りはずします。

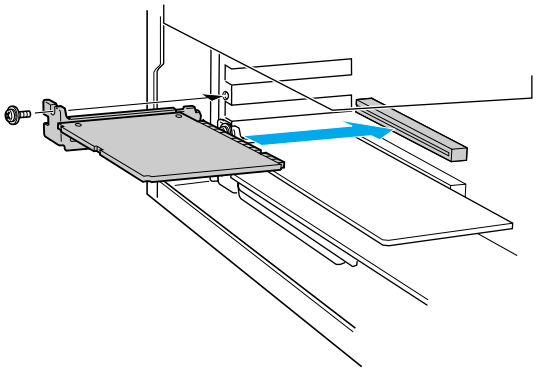


ご注意

内部の基板やケーブル類を傷つけないようにご注意ください。

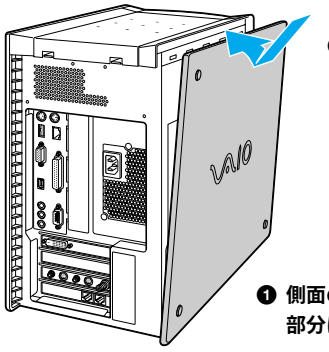
4 拡張ボードを取り付ける。

拡張ボードを空きスロットに合わせて取り付け、ネジで固定します。詳しくは、拡張ボードの取扱説明書をご覧ください。



5 側面のカバーを取り付ける。

側面カバーの下部をはめてから、上部をはめ込みます。



❷ 上部を合わせカチッと音がするまではめ込む。

❶ 側面のカバーを下部のつめの部分に合わせてはめ込む。

6 手順1ではずした周辺機器を接続し、本機の電源を入れる。

Windows Meが起動すると、「新しいハードウェアが検出されました。必要なソフトウェアをインストールしています。」というメッセージが表示されるので、画面の指示とボードの取扱説明書に従って操作します。

拡張ボードを取りはずすには

取り付けとは逆の手順で取りはずします。取りはずしの作業は、本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよび周辺機器を接続しているすべての接続ケーブルを取りはずしてから行ってください。

メモリを増設する

本機内部の拡張メモリスロットにメモリを増設することができます。
メモリを増設すると、データの処理速度や複数のソフトウェアを同時に起動したときの処理速度が向上します。

ご注意

- メモリの増設は注意深く行う必要があります。取り付けかたや取りはずしかたを誤ると、本機の故障の原因になります。電気的な専門知識が必要な作業ですので、販売店などに取り付けを依頼されることをおすすめします。
- メモリの増設についてのご相談やご質問は、VAIOカスタマーリンク修理窓口までご連絡ください。
- メモリ増設の際は、本機内部の部品や基板などの角で手や指をけがしないように注意深く作業してください。
- メモリ増設の際には、本機内部のケーブルに指などを引っかけてはずさないように注意してください。
- メモリ増設の際に異物（ネジなどの金属物など）が本機内部に混入したままの状態で電源を入れると、発煙の恐れがあります。必ず異物を取り除いてカバーを取り付けてから電源を入れてください。
- **メモリモジュールの取り付けや取りはずしは、必ず本機および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いた状態で行ってください。電源コードを差したままメモリモジュールを取り付けたり取りはずしたりすると、メモリモジュールや本機、周辺機器が壊れることがあります。**
- **電源を切ったあとすぐは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。**

メモリモジュールを取り付ける

別売りのメモリモジュールを取り付けることにより、メモリを増設します。
ソニー製のメモリーモジュールは、以下のものが本機に取り付けられます。

容量	メモリーモジュール	同じメモリモジュールを2枚増設すると
128Mバイト	PCVA-MM128S	最大256Mバイトに増設
256Mバイト	PCVA-MM256S	最大512Mバイトに増設

本機にはメモリモジュールを取り付けるスロットが2つあります。
本機は、標準で128Mバイトのメモリモジュールが1枚装着されています。
PCVA-MM128Sを1枚取り付けることにより、256Mバイトまでメモリを増設できます。また、標準で装着されている128Mバイトのメモリモジュールを取りはずし、PCVA-MM256Sを2枚取り付けることにより、最大512Mバイトまでメモリを増設できます。
取り付けの際には、メモリモジュールの取扱説明書もあわせてご覧ください。

メモリモジュールを選ぶときのご注意

- メモリモジュールには、さまざまな種類のものが存在します。市販のメモリモジュールを取り付ける際には、その製品が本機での動作保証を明記していることをご確認ください。
- 市販のメモリモジュールについてのサポートは弊社では行っておりません。ご不明の点はメモリモジュールの販売元にご相談ください。

メモリモジュールを取り付けるときのご注意

メモリモジュールの取り付けや取りはずしは、必ず本機および周辺機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いた状態で行ってください。電源コードを差したままメモリモジュールを取り付けたり取りはずしたりすると、メモリモジュールや本機、周辺機器が壊れることがあります。

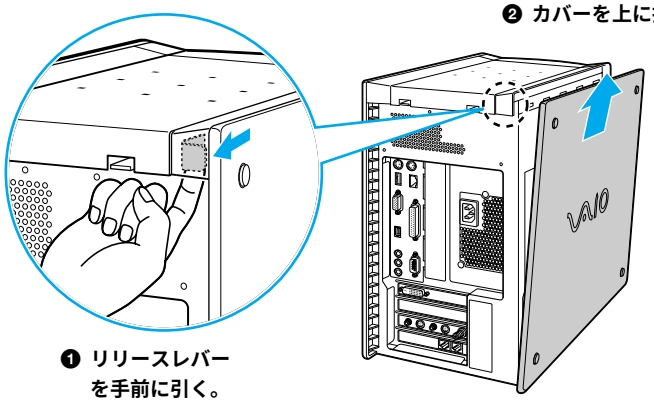
- 静電気でメモリモジュールが破壊しないように、メモリモジュールを取り付けるときは、次のことをお守りください。
  - メモリを増設するときは、静電気の起こりやすい場所（カーペットの上など）では作業しないようにしてください。
  - 静電気を体から逃がすため、本機の金属部に触れてから作業を始めてください。
  - メモリモジュールは静電気防止袋に入っています。取り付け直前まで袋から出さないでください。
- メモリモジュールを持つときは半導体やコネクタに触れないようにしてください。
- メモリモジュールを保管するときは、静電気防止袋またはアルミホイルで覆ってください。

1 本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよび周辺機器を接続しているすべての接続ケーブルを取りはずす。

ご注意

電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。

2 側面のカバーを取りはずす。



次のページへつづく

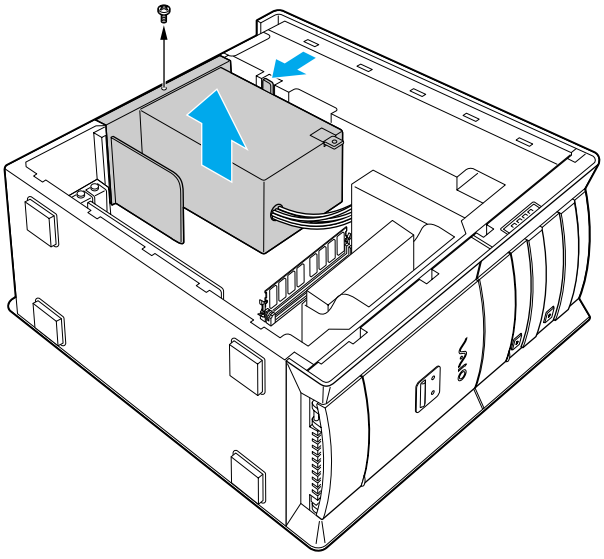
3 メモリモジュールを梱包から取り出す。

本機の金属部分に触れて体の静電気を逃がしてから、メモリモジュールを静電気防止袋から取り出します。

4 本機を横に倒して置く。

本機の右側面が下になるように置くと、メモリモジュールを取り付けやすくなります。

5 電源ユニットと本機を留めているネジをはずし、電源ユニットを取り出す。



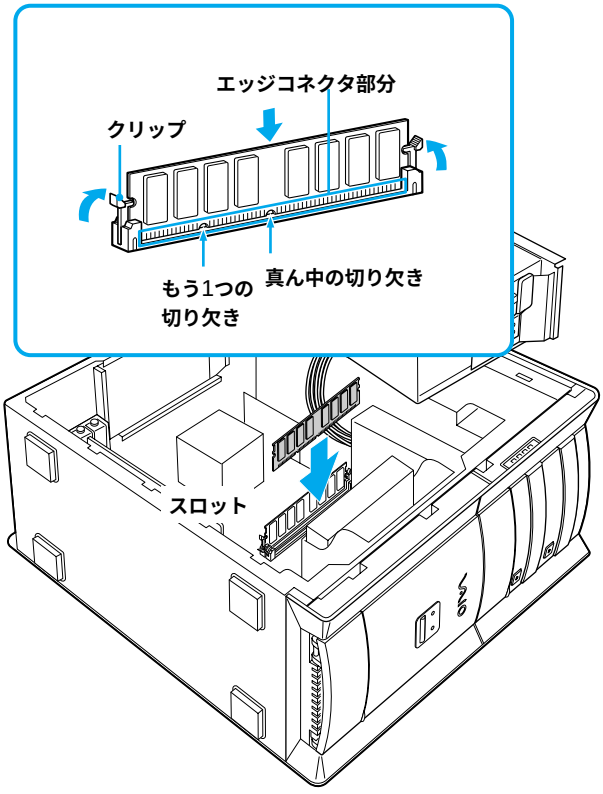
ご注意

取りはずしたネジは電源ユニットを取り付けるときに必要となります。紛失しないようご注意ください。

6 メモリーモジュールを取り付ける。

メモリモジュールにはエッジコネクタ部分の真ん中に切り欠きがあり、その切り欠きによって分けられたエッジの片方にだけもう1つ切り欠きがあります。

❶ メモリモジュールのエッジコネクタ部分のもう1つの切り欠きがある方を本機の底面にしてスロットに合わせる。
❷ クリップが起き上がり、固定されるまでメモリモジュールを垂直にスロットへ押し込む。



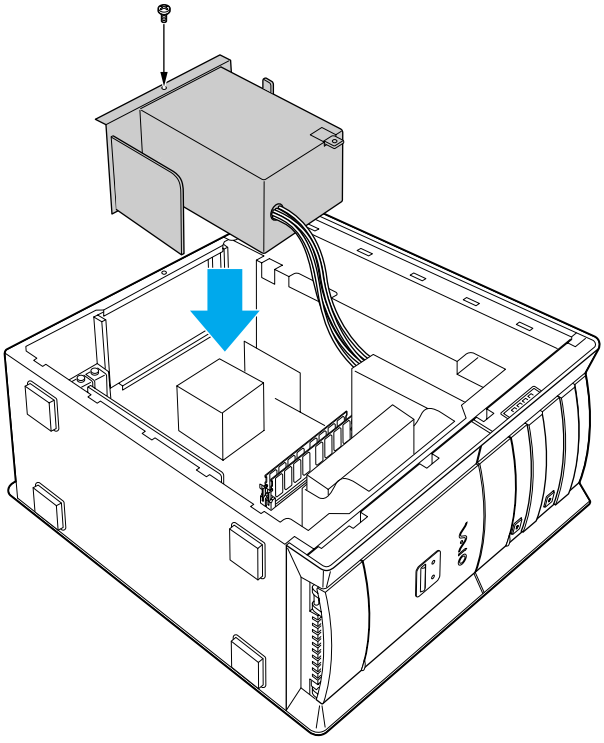
ご注意

電源を切ったあとすぐは、メモリモジュールが熱くなっており、やけどをする可能性があります。充分時間をおいてメモリモジュールが冷えるのを待ってから作業を行ってください。

メモリモジュールの取り付けについて詳しくは、VAIOカスタマーリンクまたは販売店にお問い合わせください。

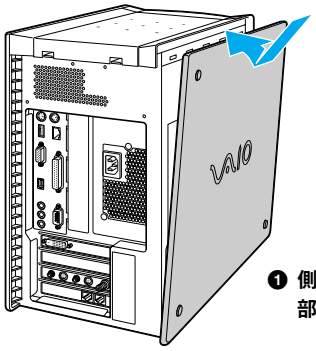
次のページへつづく

7 手順5で取りはずした電源ユニットを本機に取り付け、ネジをしめる。



8 側面のカバーを取り付ける。

側面カバーの下部をはめてから、上部をはめ込みます。



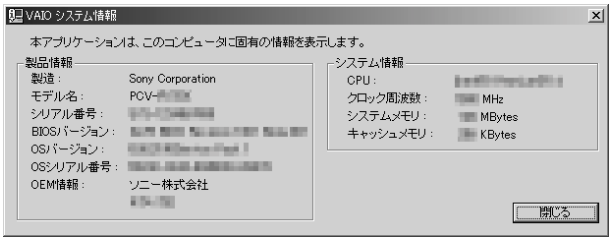
❷ 上部を合わせカチッと音がするまではめ込む。

❶ 側面のカバーを下部のつめの部分に合わせてはめ込む。

9 手順1ではずした周辺機器を接続し、本機の電源を入れる。

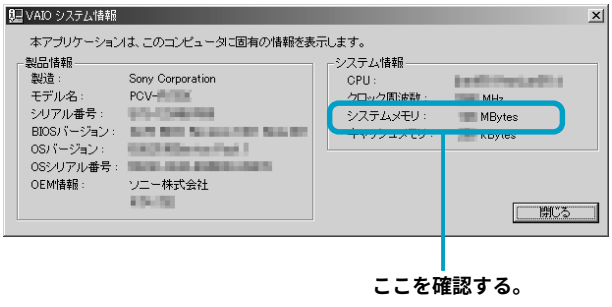
10 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［VAIOソフトウェアはこちら］にポインタを合わせ、［ユーティリティ］、［VAIOシステム情報］の順にをクリックする。

「VAIO システム情報」画面が表示されます。



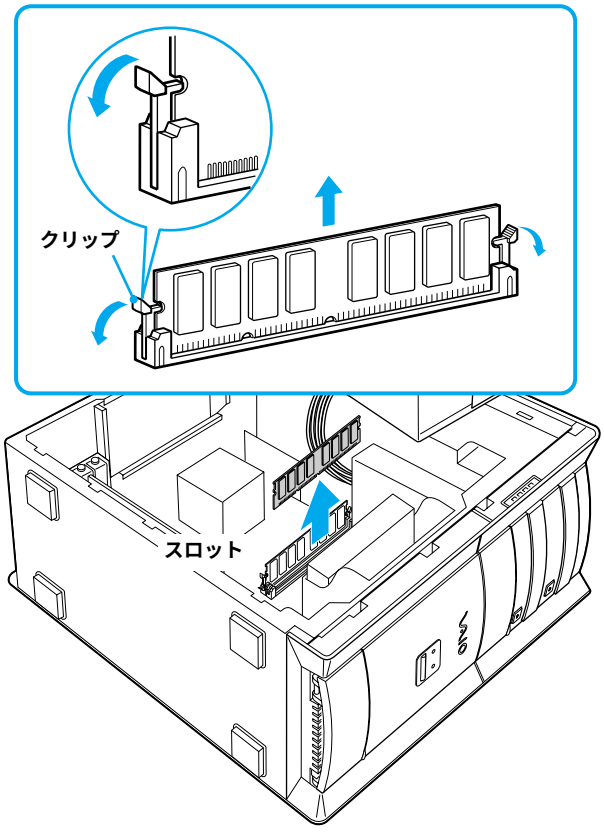
11 「システムメモリ」の項目が増設後のメモリ容量になっていることを確認する。

メモリの容量が正しければ、メモリの増設は完了しました。
メモリの容量が増えていないときは、本機の電源を切っていったんメモリモジュールを取りはずし、もう1度正しく増設の手順を繰り返してください。



メモリモジュールを取りはずすには

本機の金属部分に触れて体の静電気を逃がしてから、メモリスロットの両端のクリップを外側に押し、メモリモジュールをはずし、スロットからゆっくり抜き取ります。



ハードディスクドライブを増設する

本機内部のハードディスクドライブベイにハードディスクドライブを1つ増設することができます。

ご注意

- ハードディスクドライブの増設は注意深く行う必要があります。取り付けかたや取りはずしかたを誤ると、本機の故障の原因になります。
- ハードディスクドライブの増設についてのご相談やご質問は、VAIOカスタマーリンクまでご連絡ください。
- ハードディスクドライブ増設の際には、本機内部のケーブルに指などを引っかけてはずさないように注意してください。
- ハードディスクドライブ増設の際は、本機内部の部品や基板などの角で手や指をけがしないように注意深く作業してください。
- ハードディスクドライブ増設の際に異物（ネジなどの金属物など）が本機内部に混入したままの状態で電源を入れると、発煙の恐れがあります。必ず異物を取り除いてカバーを取り付けてから電源を入れてください。
- ドライブベイは3.5インチサイズです。
- 増設するハードディスクドライブによっては本機で動作しないものがあります。増設について詳しくは、増設機器メーカーにお問い合わせください。
- 増設するハードディスクドライブによってはi.LINK対応機器から動画を取り込む際に制限が生じる場合があります。
- 増設するハードディスクドライブは、SLAVE（スレーブ）に設定してください。設定方法については、増設するハードディスクドライブの取扱説明書をご覧ください。
- **ハードディスクドライブの取り付けや取りはずしは、必ず本機および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いた状態で行ってください。電源コードを差したまま、ハードディスクドライブを取り付けたり取りはずしたりすると、ハードディスクドライブや本機、周辺機器が壊れることがあります。**
- **電源を切ったすぐ後は、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。**

ハードディスクドライブを取り付ける

ハードディスクドライブを取り付ける際には、本機のカバーを取りはずす必要があります。以下の手順に従ってハードディスクドライブを取り付けます。
増設するハードディスクドライブの取扱説明書もあわせてご覧ください。

次のページへつづく

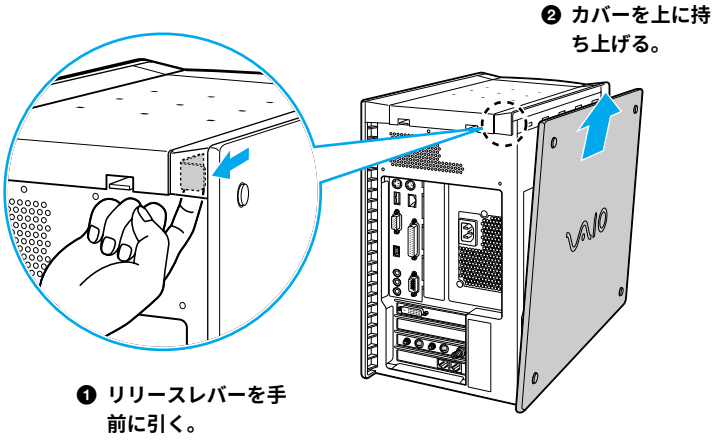
ハードディスクドライブを増設する（つづき）

1 本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよび周辺機器を接続しているすべてのケーブルを取りはずす。

ご注意

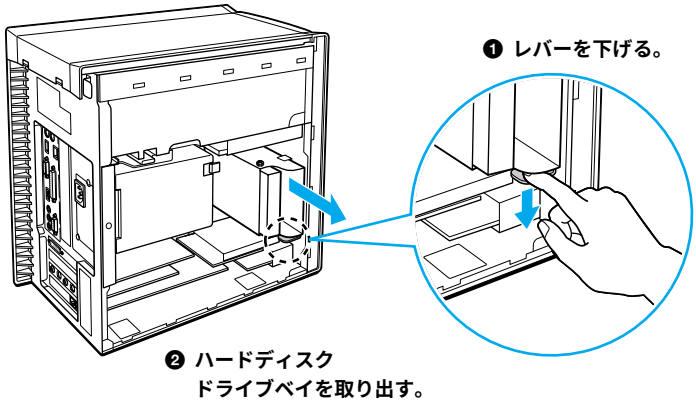
電源を切ったすぐ後は、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。

2 側面のカバーを取りはずす。



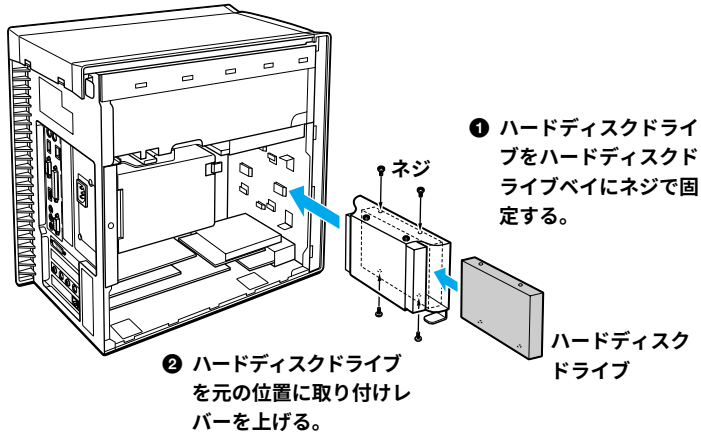
3 ハードディスクドライブベイを取り出す。

お買い上げ時に搭載のハードディスクドライブに接続されているケーブル類を取りはずし、ハードディスクドライブベイを取り出します。



4 ハードディスクドライブベイに増設するハードディスクドライブを取り付ける。

増設するハードディスクドライブをハードディスクドライブベイにネジで固定し、ハードディスクドライブベイを元の位置に取り付けます。手順3で取りはずしたケーブル類を、お買い上げ時に搭載のハードディスクドライブおよび増設したハードディスクドライブの両方に接続します。

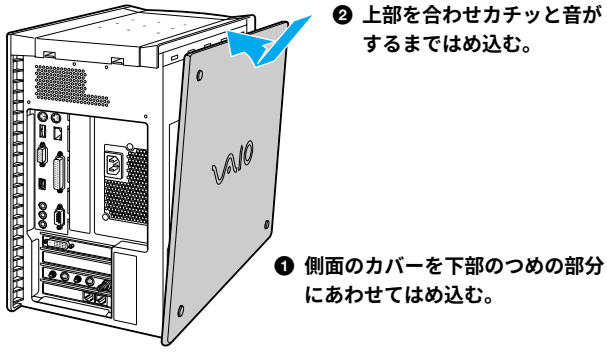


ちょっと一言

増設するハードディスクドライブは、SLAVE（スレーブ）に設定してください。設定方法については、増設するハードディスクドライブの取扱説明書をご覧ください。ハードディスクドライブの取り付けについて詳しくは、VAIOカスタマーリンクにお問い合わせください。

5 側面のカバーを取り付ける。

側面カバーの下部をはめてから、上部をはめ込みます。



ご注意

「コントロールパネル」ウィンドウの（電源の管理）をダブルクリックして表示される「電源の管理のプロパティ」画面で「ハードディスクドライブの電源を切る」を「なし」に設定してください。「なし」以外に設定すると、「Giga Pocket」ソフトウェアを使って録画を行うとき、録画に失敗することがあります。

ハードディスクドライブを取りはずすには

取り付けとは逆の手順で取りはずします。取りはずしの作業は、本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよび周辺機器を接続しているすべてのケーブルを取りはずしてから行ってください。

ご注意

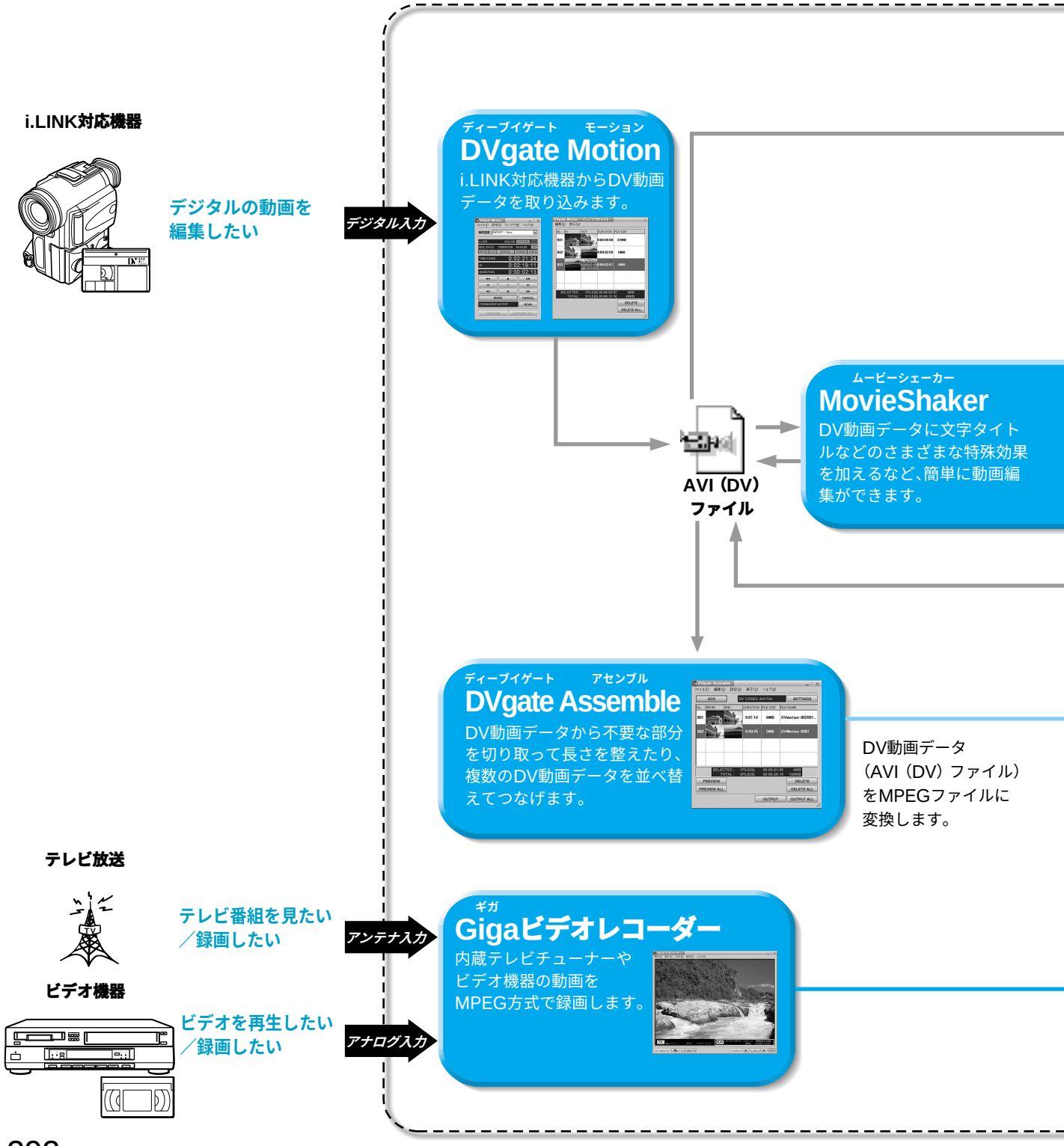
電源を切ったすぐ後は、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。

その他

本機をお使いになる際のご注意やお手入れのしかたなど
について説明します。

動画系ソフトウェアの操作の流れ

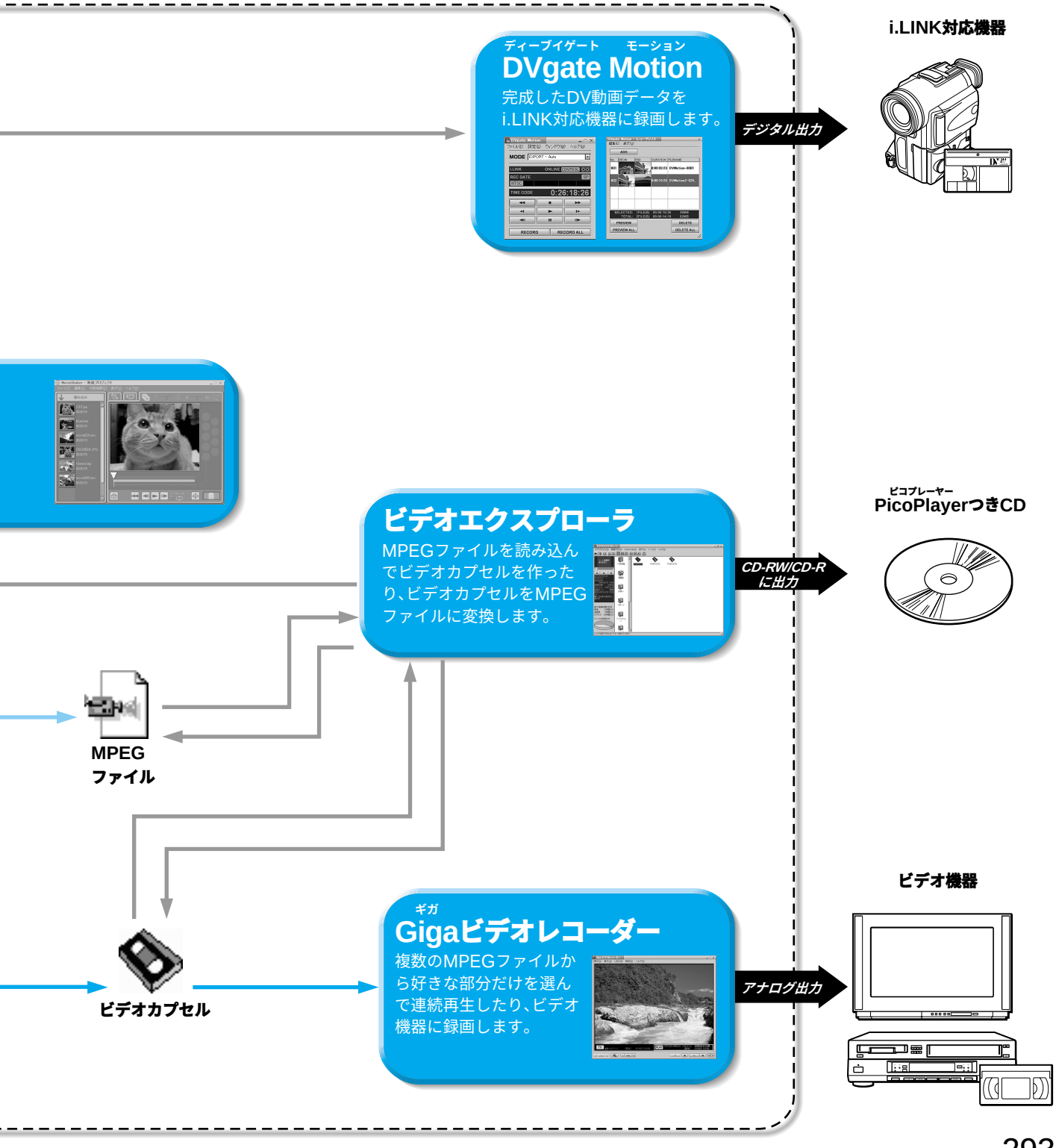
本機には動画を扱うソフトウェアが数多く付属しています。それぞれのソフトウェアの役割と操作の流れを簡単に紹介します。それぞれのソフトウェアの使いかたについて詳しくは、各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。本機とAV機器やi.LINK対応機器のつなぎかたについては、「接続する／準備する」（30ページ）、「AV機器をつなぐ」（254ページ）または「i.LINK対応機器をつなぐ」（259ページ）をご覧ください。



エーブイアイ（ディーブイ）
AVI（DV）：Windowsで動画や音声を再生するために米マイクロソフト社が作ったファイル形式です。
「DVgate Motion」ソフトウェアではDV形式で圧縮されたAVIファイルのみを扱っています。

エムペグ
MPEG：動画データの圧縮方式です。

ビデオカプセル：「Giga Pocket」ソフトウェアでは、MPEGの動画ファイルと各種の付加情報を1つにまとめて「ビデオカプセル」と呼びます。



コンピュータウイルスについて

コンピュータウイルスとは、コンピュータの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。ほとんどがいたずら半分で作成されたものですが、下記の「コンピュータウイルスに侵入されると...」に見られるような被害が起きてしまいます。
コンピュータウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピュータにも悪影響を及ぼしていきます。

コンピュータウイルスに侵入されると...

- 意味不明なメッセージや、ウイルスが侵入したことを知らせるメッセージが画面上に表示される。
- ファイルが勝手に消去される。
- ハードディスク上の情報が意味のないものに書き換えられる。
- 画面上に意味のないものが表示される。
- ハードディスク上の空き容量が急に小さくなる。

本機には、コンピュータウイルス検査・ウイルス除去用ソフトウェアとして「Norton AntiVirus」ソフトウェアがインストールされています。本機をコンピュータウイルスから守るため、定期的なウイルスチェックをおすすめします。
本機のお買い上げ時の設定では、システムを自動監視する「Auto-Protect」機能とインターネット経由で届く電子メールの添付ファイルをスキャンする「電子メールスキャン」機能が働かないよう設定されています。これらの機能をご利用になるには、次ページからの手順に従って操作してください。
「Norton AntiVirus」ソフトウェアの操作方法について詳しくは、「Norton AntiVirus」ソフトウェアのヘルプをご覧になるか、下記にお問い合わせください。

シマンテック テクニカルサポートセンター
電話番号：(03) 3476-1118　　ファックス：(03) 3477-1118
電話受付時間：月～金　10時～12時、13時～17時(土・日・祝日・年末年始を除く)
なお、シマンテック テクニカルサポートセンターをご利用いただくためには以下のシマンテックホームページにて、カスタマーIDの取得が必要です。
http://www.symantec.com/region/jp/oem/sony/
カスタマーID取得については、下記にお問い合わせください。
シマンテック カスタマーサービスセンター
電話番号：(03) 3476-1156　ファックス：(03) 3476-1159
電話受付時間：月～金　10時～12時、13時～17時 (土・日・祝日・年末年始を除く)

ちょっと一言

「Norton AntiVirus」ソフトウェアは、本機初回起動時より180日間無償でウィルス定義ファイル（ワクチンファイル）のアップデートができます。それ以降は、ウィルス定義ファイルのアップデートは有償になります。新種のウイルスに対応するため、ウイルス定義ファイルは常に更新することをおすすめします。

また、テクニカルサポート提供期間は、ウイルス定義ファイル無償更新期間と同じく、180日間となります。ただし、有償アップデートのお申し込みを頂くとテクニカルサポートの提供期間も延長されます。

ウイルス定義ファイルの有償アップデートについて詳しくは、以下のシマンテックホームページをご覧になり、お申し込みください。

http://www.symantec.com/region/jp/oem/sony/

ウイルス定義ファイルの有償アップデートのお申し込みについては、下記にお問い合わせください。

ショップシマンテック

電話番号：(03) 3476-1192　ファックス：(03) 3780-9988

電話受付時間：月～金　10時～12時、13時～17時（土・日・祝日・年末年始を除く）

ウイルスが侵入して被害を受けてしまったときに備えて、日頃から作成した文書のバックアップをとる習慣をつけましょう。

Auto-Protect機能を有効にするには

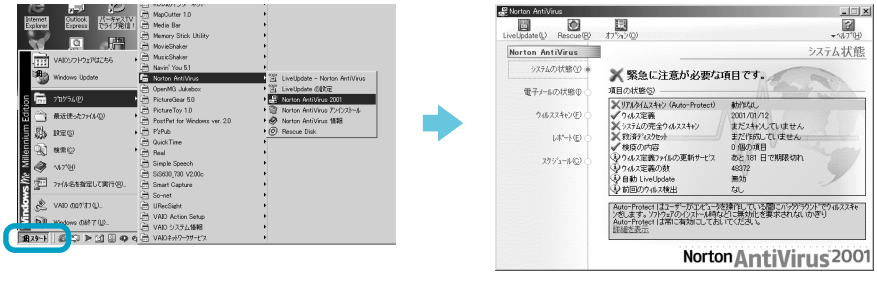
「Norton AntiVirus」ソフトウェアを起動するときは、以下の手順に従ってAuto-Protect機能を有効にします。

ご注意

Auto-Protect機能を有効にすると、次回起動時から がデスクトップ画面右下のタスクトレイに常駐します。それにより、Windowsの起動時間が長くなる場合があります。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［Norton AntiVirus］、［Norton AntiVirus 2001］の順にクリックする。

「Norton AntiVirus」画面が表示されます。



初めて起動するときは、使用許諾契約画面*などが表示されますので、画面の指示に従って操作してください。

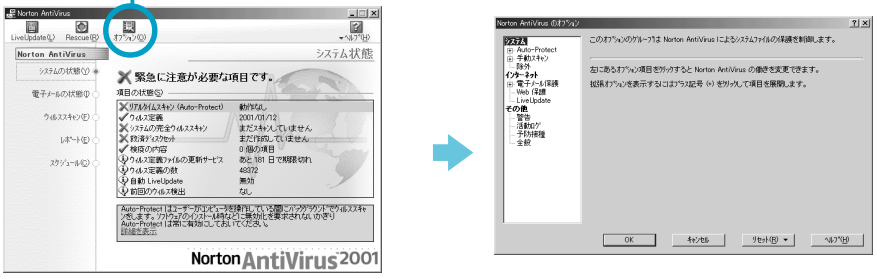
*使用許諾契約画面は、本機の2回目の起動時か「Norton AntiVirus」ソフトウェアを初めて起動したときに表示されます。

次のページへつづく

2 画面上部の（オプション）をクリックする。

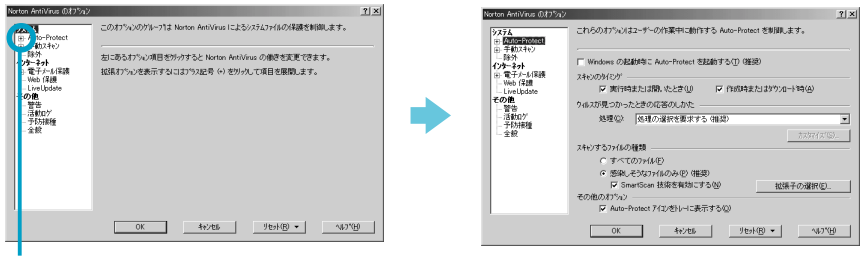
「Norton AntiVirusのオプション」画面が表示されます。

ここをクリックする。



3 画面左側の［Auto-Protect］をクリックする。

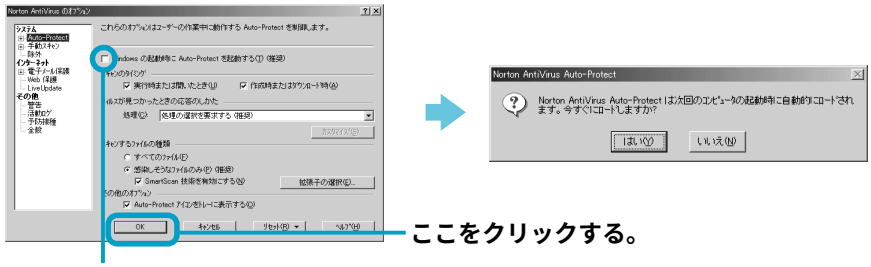
画面右側にAuto-Protect機能の設定画面が表示されます。



ここをクリックする。

4 「Windowsの起動時にAuto-Protectを起動する」の☐をクリックして☑にし、OKをクリックする。

確認画面が表示されます。

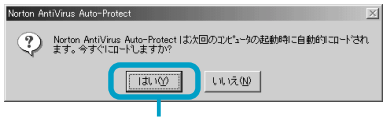


ここをクリックする。

ここをクリックする。

5 はい(Y) をクリックする。

画面右下のタスクトレイに が表示されます。



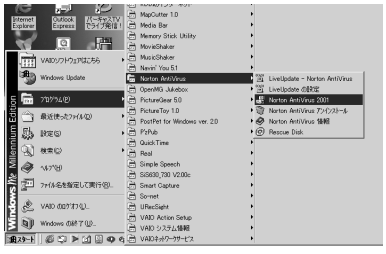
ここをクリックする。

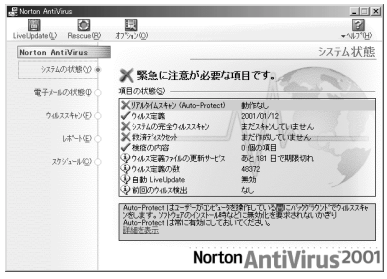
電子メールスキャン機能を有効にするには

「Norton AntiVirus」ソフトウェアを起動するときは、以下の手順に従って電子メールスキャン機能を有効にします。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［Norton AntiVirus］、［Norton AntiVirus 2001］の順にクリックする。

「Norton AntiVirus」画面が表示されます。





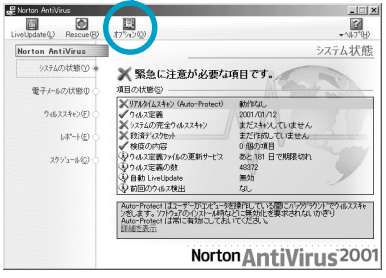
初めて起動するときは、使用許諾契約画面*などが表示されますので、画面の指示に従って操作してください。

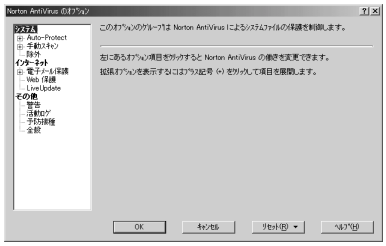
*使用許諾契約画面は、本機の2回目の起動時か「Norton AntiVirus」ソフトウェアを初めて起動したときに表示されます。

2 画面上部の （オプション）をクリックする。

「Norton AntiVirusのオプション」画面が表示されます。

ここをクリックする。

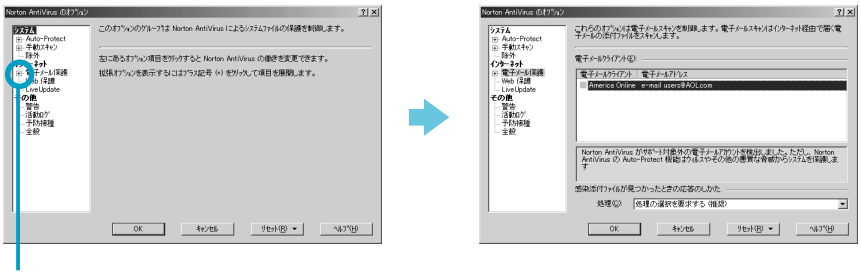




次のページへつづく

3 画面左側の「電子メール保護」をクリックする。

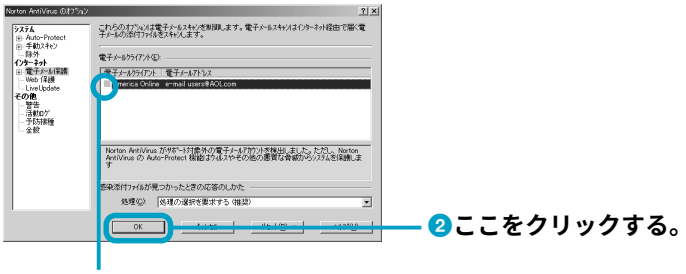
画面右側に電子メールスキャン機能の設定画面が表示されます。



ここをクリックする。

4 使用する電子メールクライアントの ☐ をクリックして ☑ にし、OK をクリックする。

使用したい電子メールクライアントが表示されていない場合は、「Norton AntiVirus」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。



❷ここをクリックする。

❶ここをクリックして
チェックをつける。

リカバリ CDで本機を再セットアップする

ここでは付属のリカバリ CD-ROM（以降、リカバリ CDと略します）を使って、本機を再セットアップする方法を説明します。

リカバリ CDとは

付属のリカバリ CDには「システム リカバリ CD-ROM」と「アプリケーション リカバリ CD-ROM」の 2種類があり、お買い上げ時のハードディスク内のすべてのファイルが保存されています。誤ってハードディスクを初期化してしまったり、あらかじめインストールされているソフトウェアを消してしまった場合には、「システム リカバリ CD-ROM」と「アプリケーション リカバリ CD-ROM」の両方のリカバリ CDを使ってハードディスクの内容をお買い上げ時の状態に戻すことができます。

リカバリ CDを使うと、次のことができます。

- ハードディスクを初期化した上で、すべてのファイルを復元する（お買い上げ時の状態に戻る）。
- ハードディスクのパーティションのサイズを変更する。
  詳しくは「パーティションサイズを変更する」（307ページ）をご覧ください。

ご注意

- 付属のリカバリ CDは本機でのみ使用できます。他の製品では動作しません。
- 付属のリカバリ CDで再セットアップできるのは、本機に標準で付属されているソフトウェアのみです。ご自分でインストールしたソフトウェアや作成したデータを復元することはできません。また、Windows Meだけを復元することもできません。
- ご自分で変更された設定は、再セットアップ後はすべて初期値に戻ります。再セットアップ後に、もう一度設定し直してください。
- 再セットアップする際は、必ず「システム リカバリ CD-ROM」と「アプリケーション リカバリ CD-ROM」の両方のリカバリ CDを使ってください。「アプリケーション リカバリ CD-ROM」を使わずに再セットアップを完了すると、本機の動作が不安定になる場合があります。
- BIOSの設定を変えた場合は、お買い上げ時の設定に戻してから再セットアップしてください。

BIOSとは

「バイオス」と読みます。コンピュータの基本的な設定をするためのプログラムの集まりで、電源を入れると最初にBIOSの読み込みが始まります。もし、BIOSが正しく働かないと、コンピュータは起動しなくなります。

再セットアップする前に

本機を再セットアップする前に、大切なデータは必ずバックアップをとってください。
バックアップをとるには、次の方法があります。

- フロッピーディスクにコピーする。
- CD-RW／CD-Rにコピーする。
- D:ドライブにデータを残して、再セットアップを行う。

本機のハードディスクは、C:ドライブとD:ドライブの2つのパーティションに分かれています。「再セットアップする」の手順7で「フォーマットしてリカバリ」を選んだ場合、C:ドライブのファイルはすべて消えてしまいますが、D:ドライブにあるファイルは残ります。

ご注意

「再セットアップする」の手順7で「パーティションサイズを変更してリカバリ」または「出荷時状態へリカバリ」を選んだ場合は、それ以前にハードディスク上にあったファイルは、C:ドライブだけでなくD:ドライブのものも含めてすべて消えてしまいます。パーティションサイズを変更したり、お買い上げ時の状態に戻す前に、大切なデータはフロッピーディスクやCD-RW／CD-Rに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

再セットアップする

再セットアップする前に、以下の点を確認してください。

- 本機に接続しているすべての周辺機器を取りはずしてください。周辺機器は、再セットアップが終わったあとに再び接続してください。
- 大切なデータはバックアップをとったか確認してください。
- フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っていないか確認してください。

Windows Meが完全に起動できない場合などに本機を再セットアップするときは、「Windows Meが完全に起動しない状態で本機を再セットアップするには」（304ページ）をご覧ください。
パーティションサイズを変更するときは、「パーティションサイズを変更する」（307ページ）をご覧ください。

ご注意

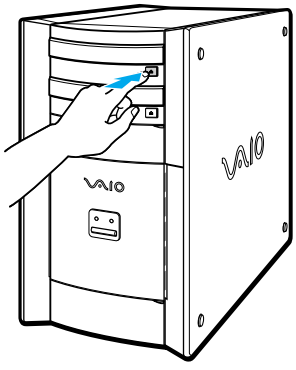
再セットアップした場合、それ以前にハードディスク上にあったファイルはすべて消えてしまいます。再セットアップする前に、大切なデータはフロッピーディスクやCD-RW／CD-Rに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

1 **本機の電源を入れる。**

電源の入れかたについて詳しくは、「電源を入れる」（44ページ）をご覧ください。

2 **DVD-ROMイジェクトボタンを押す。**

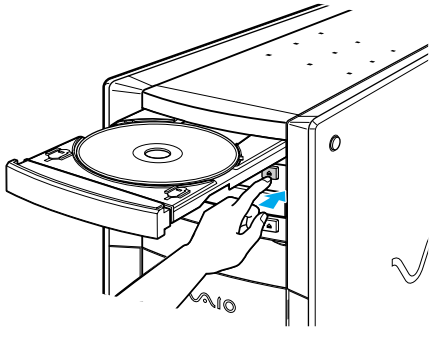
ディスクトレイが自動的に引き出されます。



3 **付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol.1 of 2」を、レーベル面（文字が書いてある面）を上にしてディスクトレイの中央に置く。**

4 **DVD-ROMイジェクトボタンを押して、トレイを閉める。**

自動的に「VAIO System Recovery Utility」が起動し、「はじめに」画面が表示されます。



5 **内容をよく読み、** 次へ(N) > **をクリックする。**

次のページへつづく

6 引き続き内容をよく読んでから「同意する」の ○ をクリックして ◉ にし、次へ(N) > をクリックする。

「メニュー選択」画面が表示されます。

ちょっと一言

「同意しない」をクリックすると、再セットアップ作業を続けることはできません。

7 再セットアップの方法を選んで、○ をクリックして ◉ にし、次へ(N) > をクリックする。

次の中から再セットアップの方法を選びます。

「フォーマットしてリカバリ」：Cドライブにあるファイルをすべて削除して、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。

「パーティションサイズを変更してリカバリ」：CドライブとDドライブのサイズを変更してから、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。

「出荷時状態へリカバリ」：パーティションをお買い上げ時の状態に戻してから、ソフトウェアを復元します。

8 画面の指示に従って操作し、「再起動してリカバリを開始します」画面が表示されたら、「リカバリを開始する」の ☐ をクリックして ☑ にし、完了 をクリックする。

自動的に本機が再起動し、再セットアップが始まります。

再セットアップを中止するときは、キャンセル をクリックします。

9 「2枚目のディスクをいれてください。何かキーを押すとリカバリ処理を続行します。」というメッセージが表示されたら、付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol.2 of 2」をDVD-ROMドライブに入れ、何かキーボード上のキーを押す。

再セットアップの続きが始まります。

10 **セットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って「システム リカバリ CD-ROM Vol.2 of 2」を取り出してから、何かキーボード上のキーを押し、本機を再起動する。**

11 **「新しいハードウェアの設定を完了するには、コンピュータを再起動してください。今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されたら、そのまま長時間放置せずに** はい(Y) **をクリックして本機を再起動する。**

12 **「Windows Meを準備する」（46ページ）の手順に従って、Windows Meをセットアップする。**

13 **Windows Meのセットアップが終了したら、付属の「アプリケーション リカバリ CD-ROM」をDVD-ROMドライブに入れる。**

「アプリケーションのインストールを開始します。」というメッセージが表示されたら OK をクリックする。自動的にソフトウェアのセットアップが始まります。
ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、
OK をクリックしてください。

14 **本機を再セットアップする前にインターネットに接続していた場合は、「インターネットを始める」（124ページ）の手順に従ってインターネットへの接続の設定を行う。**

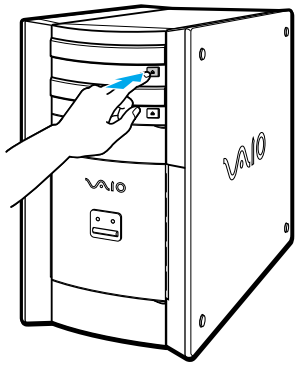
Windows Meが完全に起動しない状態で本機を再セットアップするには

1 **本機の電源を入れる。**

電源の入れかたについて詳しくは、「電源を入れる」（44ページ）をご覧ください。

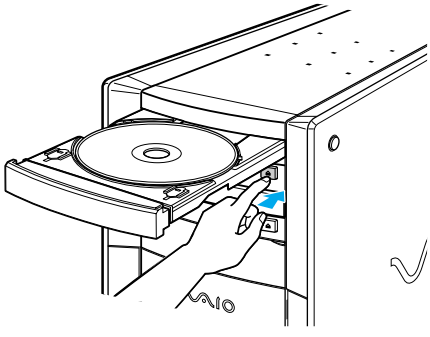
2 **DVD-ROMイジェクトボタンを押す。**

ディスクトレイが自動的に引き出されます。



3 **付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol.1 of 2」を、レーベル面（文字が書いてある面）を上にしてディスクトレイの中央に置く。**

4 **DVD-ROMイジェクトボタンを押して、トレイを閉める。**



5 **Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キーを押しながら Delete（デリート）キーを2回押し、本機を再起動する。**

リカバリ CDから本機が再起動します。

6 「何かキーを押してください。」というメッセージが表示されたら、何かキーボード上のキーを押す。

メニュー画面が表示されます。

7 再セットアップの方法を選び、Enter（エンター）キーを押す。

次の中から再セットアップの方法を選びます。再セットアップを中止するときは4を選びます。

「1.フォーマットしてリカバリ...」：Cドライブにあるファイルをすべて削除して、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。

「2.パーティションサイズの変更...」：CドライブとDドライブのサイズを変更してから、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。

「3.出荷時状態へリカバリ...」：パーティションをお買い上げ時の状態に戻してから、ソフトウェアを復元します。

「4.システム リカバリ CD-ROMを終了する...」：再セットアップを中止します。

8 画面の指示に従って操作する。

操作を続けるかどうか聞かれたときは、Y キーを押し、Enter（エンター）キーを押してください。

9 「2枚目のディスクをいれてください。何かキーを押すとリカバリ処理を続行します。」というメッセージが表示されたら、付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol.2 of 2」をDVD-ROMドライブに入れ、何かキーボード上のキーを押す。

再セットアップの続きが始まります。

10 セットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って「システム リカバリ CD-ROM Vol.2 of 2」を取り出してから、何かキーボード上のキーを押し、本機を再起動する。

次のページへつづく

リカバリ CDで本機を再セットアップする（つづき）

11 「新しいハードウェアの設定を完了するには、コンピュータを再起動してください。今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されたら、そのまま長時間放置せずに［はい(Y)］をクリックして本機を再起動する。

12 「Windows Meを準備する」（46ページ）の手順に従って、Windows Meをセットアップする。

13 Windows Meのセットアップが終了したら、付属の「アプリケーション リカバリ CD-ROM」をDVD-ROMドライブに入れる。

「アプリケーションのインストールを開始します。」というメッセージが表示されたら［OK］をクリックする。自動的にソフトウェアのセットアップが始まります。

ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、［OK］をクリックしてください。

14 本機を再セットアップする前にインターネットに接続していた場合は、「インターネットを始める」（124ページ）の手順に従ってインターネットへの接続の設定を行う。

ご注意

BIOSの設定状態によっては、リカバリ CDが起動しないことがあります。この場合は、BIOSをお買い上げ時の設定に戻す必要があります。BIOSをお買い上げ時の設定に戻すには、以下のように操作します。

1 **本機前面の ⏻（電源）ボタンを押し、画面にSonyのロゴが表示されたら、キーボードの F2 キーを押す。**
BIOSセットアップメニューが起動し、「AwardBIOS Setup Utility」画面が表示されます。

2 **F5 (Setup Defaults) キーを押す。**
「Load default configuration now?」というメッセージが表示されます。

3 **Home ／ End キーを押して［Yes］を選び、Enter（エンター）キーを押す。**
すべての設定項目がお買い上げ時の設定に戻ります。

4 **F10 (Save and Exit) キーを押す。**
「Save configuration changes and exit now?」というメッセージが表示されます。

5 **Home ／ End キーを押して［Yes］を選び、Enter（エンター）キーを押す。**
変更された設定が保存され、BIOSセットアップメニューが終了し、Windows Meが起動します。

パーティションサイズを変更する

本機のハードディスクはC:ドライブとD:ドライブの2つのパーティションに分かれており、D:ドライブは、「DVgate」ソフトウェアや「Giga Pocket」ソフトウェアなどで取り込んだ動画などの容量が大きいデータを保存したり、操作したりするための領域（データスペース）として使えるように設定されています（お買い上げ時）。付属のリカバリ CDを使ってパーティションサイズを変更できます。
動画の取り込みや書き出しを行う場合は、大容量のデータを高速で読み書きするため、ハードディスクの断片化が起こり、フレーム落ちの原因となります。そのため、データスペースとしてお使いになるパーティションは、ハードディスクの空き容量が常に連続になるよう、最適化（デフラグ）またはフォーマットを行ってください。
パーティションを区切ると、Windows MeはC:ドライブにインストールされます。C:ドライブを最適化するのに非常に時間がかかる場合がありますので、D:ドライブをデータスペースとしてお使いになることをおすすめします。

パーティションとは

ハードディスクなどの大容量補助記憶装置の領域を分割することです。分割することで、1台のハードディスクが複数台のハードディスクと同じように使えるため、ファイルや、ソフトウェアの格納場所を分けるといったような使い分けができます。

断片化とは

「フラグメンテーション」とも言います。ディスクに記録するファイルが連続した領域に収まらずに、あちこちに散らばって記録された状態のことです。通常は大きな問題になりませんが、データの記録や読み出しに時間がかかるなどの症状があらわれます。長期間にわたって断片化を放置すると、断片化した場所が大きくなり、エラーが頻発する原因になることもあります。

デフラグ（最適化）とは

ディスク中の断片化したデータをきれいにまとめることです。デフラグ（最適化）により、データの読み出し書き込みが速くなったり、エラーが起きる可能性が低くなったりします。

ご注意

ハードディスクのパーティションサイズを変更すると、それ以前にハードディスク上にあったファイルは、C:ドライブだけでなくD:ドライブのものも含めてすべて消えてしまいます。パーティションサイズを変更する前に、大切なデータはフロッピーディスクやCD-RW／CD-Rなどに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

次のページへつづく

パーティションサイズを変更する（つづき）

1 **「再セットアップする」（300ページ）の手順1～6を行う。**

2 **再セットアップの方法の中から、「パーティションサイズを変更してリカバリ」の ○ をクリックして ◉ にし、次へ(N) > をクリックする。**

「パーティションサイズを変更してリカバリ」画面が表示されます。

詳細情報 をクリックすると、現在のパーティションサイズを確認できます。

3 **一覧からパーティションサイズを選び、次へ(N) > をクリックする。**

4 **画面の指示に従って操作し、「再起動してリカバリを開始します」画面が表示されたら、「リカバリを開始する」の ☐ をクリックして ☑ にし、完了 をクリックする。**

再セットアップを中止するときは、キャンセル をクリックします。

パーティションサイズが変更され、自動的に本機が再起動します。再起動後、各ドライブが初期化され、再セットアップが始まります。

5 **「2枚目のディスクをいれてください。何かキーを押すとリカバリ処理を続行します。」というメッセージが表示されたら、付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol.2 of 2」をDVD-ROMドライブに入れ、何かキーボード上のキーを押す。**

再セットアップの続きが始まります。

6 **セットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って「システム リカバリ CD-ROM Vol.2 of 2」を取り出してから、何かキーボード上のキーを押し、本機を再起動する。**

7 **「新しいハードウェアの設定を完了するには、コンピュータを再起動してください。今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されたら、そのまま長時間放置せずに** はい(Y) **をクリックして本機を再起動する。**

8 **「Windows Meを準備する」（46ページ）の手順に従って、Windows Meをセットアップする。**

9 **Windows Meのセットアップが終了したら、付属の「アプリケーション リカバリ CD-ROM」をDVD-ROMドライブに入れる。**

「アプリケーションのインストールを開始します。」というメッセージが表示されたら OK をクリックする。自動的にソフトウェアのセットアップが始まります。
ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、
OK をクリックしてください。

10 **本機を再セットアップする前にインターネットに接続していた場合は、「インターネットを始める」（124ページ）の手順に従ってインターネットへの接続の設定を行う。**

Windows Meが完全に起動しない状態で本機のパーティションサイズを変更するには

1 **「Windows Meが完全に起動しない状態で本機を再セットアップするには」（304ページ）の手順1～6を行う。**

2 **メニュー画面が表示されたら、「2.パーティションサイズの変更...」を選び、Enter（エンター）キーを押す。**

パーティションサイズの選択画面が表示されます。
Esc（エスケープ）キーを押すと、現在のパーティションサイズを確認できます。

3 **パーティションサイズを選び、Enter（エンター）キーを押す。**

サイズの変更を中止する場合は、N キーを押してから Enter（エンター）キーを押すと手順2の画面に戻ります。

4 **画面の指示に従って操作する。**

操作を続けるかどうかを聞かれたときは Y キーを押し、Enter（エンター）キーを押してください。
パーティションサイズが変更され、自動的に本機が再起動します。再起動後、各ドライブが初期化され、再セットアップが始まります。

5 **「2枚目のディスクをいれてください。何かキーを押すとリカバリ処理を続行します。」というメッセージが表示されたら、付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol.2 of 2」をDVD-ROMドライブに入れ、何かキーボード上のキーを押す。**

再セットアップの続きが始まります。

6 **セットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って「システム リカバリ CD-ROM Vol.2 of 2」を取り出してから、何かキーボード上のキーを押し、本機を再起動する。**

7 **「新しいハードウェアの設定を完了するには、コンピュータを再起動してください。今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されたら、そのまま長時間放置せずに** はい(Y) **をクリックして本機を再起動する。**

8 **「Windows Meを準備する」（46ページ）の手順に従って、Windows Meをセットアップする。**

9 **Windows Meのセットアップが終了したら、付属の「アプリケーション リカバリ CD-ROM」をDVD-ROMドライブに入れる。**

「アプリケーションのインストールを開始します。」というメッセージが表示されたら OK をクリックする。自動的にソフトウェアのセットアップが始まります。

ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、OK をクリックしてください。

10 **本機を再セットアップする前にインターネットに接続していた場合は、「インターネットを始める」（124ページ）の手順に従ってインターネットへの接続の設定を行う。**

使用上のご注意

本機の取り扱いについて

- 衝撃を加えたり、落としたりしないでください。記録したデータが消失したり、本機の故障の原因となります。
- CD-RW／CD-Rにデータを記録中に振動や衝撃を与えないでください。
- 直射日光が当たる場所、暖房器具の近くなど、異常な高温になる場所には置かないでください。故障の原因となることがあります。
- クリップなどの金属物を本機の中に入れないでください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- ほこりが多い場所では使用しないでください。
- 湿気が多い場所では使用しないでください。
- 風通しが悪い場所では使用しないでください。

結露について

結露とは空気中の水分が金属の板などに付着し、水滴となる現象です。本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋などで、本機の表面や内部に結露が起こることがあります。そのままご使用になると故障の原因となります。結露が起きたときは、結露がなくなるまで電源を入れずに放置してください。

ハードディスクの取り扱いについて

ハードディスクは、フロッピーディスクに比べて記憶密度が高く、データの書き込みや読み出しに要する時間も短いという特長があります。その一方、本来はほこりや振動に弱い装置でもあります。また、フロッピーディスク同様に磁気を帯びた物に近い場所での使用は避けなければなりません。
ハードディスクにはほこりや振動からデータを守るための安全機構が組み込まれていますが、記憶したデータを失ってしまうことのないよう、次の点に特にご注意ください。

- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- 電源を入れたまま、本機を動かさないでください。
- 振動や衝撃を与えないでください。
- データの書き込み中や読み込み中は、電源を切ったり再起動したりしないでください。
- 急激な温度変化（毎時10℃以上の変化）のある場所では使用しないでください。

何らかの原因でハードディスクが故障した場合、データの修復はできませんのでご注意ください。

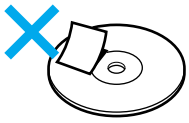
バックアップをとる

ハードディスクは非常に多くのデータを保存することができますが、その反面、ひとたび事故で故障すると多量のデータが失われ、取り返しのつかないことになります。万一のためにも、ハードディスクの内容は定期的にバックアップをとることをおすすめします。ソフトウェアはオリジナルがCD-ROMやフロッピーディスクにありますので、バックアップが必要なのはデータなどです。ハードディスクのバックアップ、バックアップの内容の戻しかたについて詳しくは、Windows Meのヘルプをお読みください。

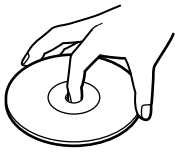
DVD-ROM／CD-ROM／CD-RW／CD-Rの取り扱いについて

DVD-ROM／CD-ROM／CD-RW／CD-Rに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- 紙などを貼ったり、傷つけたりしないでください。



- ディスクは外縁を支えるようにして持ちます。CD-RW／CD-Rは記録面が汚れると、データの書き込みができなくなります。記録面には触れないでください。

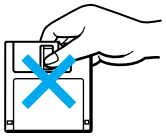


- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房器具の近く、湿気の多いところには保管しないでください。
- 直射日光が当たって高温になった自動車の中に長時間放置しないでください。
- ディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、ディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。
- CD-RWやCD-Rのレーベル面に文字などを書くときは、油性のフェルトペンをお使いください。ボールペンなどで文字を書くと、記録面を傷つけ、データの書き込みができなくなることがあります。

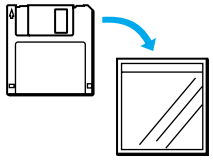
フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものに近づけないでください。フロッピーディスクに記録されているデータが消えてしまうことがあります。
- 直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。フロッピーディスクが変形し、使用できなくなります。
- 手でシャッターを開けてディスクの表面に触れないでください。フロッピーディスクの表面の汚れや傷により、データの読み書きができなくなることがあります。



- フロッピーディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、フロッピーディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。



コンピュータウイルスについて

コンピュータウイルスとは、コンピュータの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。ほとんどがいたずら半分で作成されたものですが、下記の「コンピュータウイルスに侵入されると...」に見られるような被害が起きてしまいます。
コンピュータウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピュータにも悪影響を及ぼしていきます。

コンピュータウイルスに侵入されると...

- 意味不明なメッセージや、ウイルスが侵入したことを知らせるメッセージが画面上に表示される。
- ファイルが勝手に消去される。
- ハードディスク上の情報が意味のないものに書き換えられる。
- 画面上に意味のないものが表示される。
- ハードディスク上の空き容量が急に小さくなる。

コンピュータウイルスを侵入させないためには

- 見知らぬ人から送られてきた、またはネットワーク経由で入手した文書は必ずウイルスチェックをしてください。
- 本機にはコンピュータウイルス検査／ウイルス除去用ソフトウェアとして、「Norton AntiVirus」ソフトウェアがインストールされています。本機をコンピュータウイルスから守るため、定期的なウイルスチェックをおすすめします。
  なお、本機のお買い上げ時の設定では、システムを自動監視する「Auto-Protect」機能とインターネット経由で届く電子メールの添付ファイルをスキャンする「電子メールスキャン」機能が働かないように設定されています。
  この機能を有効にするには「コンピュータウイルスについて」（294ページ）の手順に従って「Auto-Protect」機能と「電子メールスキャン」機能を有効にする必要があります。
- コンピュータウイルスはフロッピーディスクなどを介して広がることがありますので、他人のフロッピーディスクなどを使うときはご注意ください。フロッピーディスクなどのデータを共有する場合は、共有する人を限定してください。
- 「Norton AntiVirus」ソフトウェアについて詳しくは、「Norton AntiVirus」ソフトウェアのヘルプをご覧になるか、下記にお問い合わせください。

  シマンテック テクニカルサポートセンター

  電話番号：(03) 3476-1118
  ファックス：(03) 3477-1118

  電話受付時間：
  月～金　10時～12時、13時～17時
  （土・日・祝日・年末年始を除く）

  なお、シマンテック テクニカルサポートセンターをご利用いただくためには以下のシマンテックホームページにて、カスタマーIDの取得が必要です。

  http://www.symantec.com/region/jp/oem/sony/

  カスタマーID取得については、下記にお問い合わせください。

  シマンテック カスタマーサービスセンター

  電話番号：(03) 3476-1156
  ファックス：(03) 3476-1159

  電話受付時間：月～金　10時～12時、13時～17時（土・日・祝日・年末年始を除く）

- 「Norton AntiVirus」ソフトウェアは、本機初回起動時より180日間無償でウイルス定義ファイル（ワクチンファイル）のアップデートができます。それ以降は、ウイルス定義ファイルのアップデートは有償になります。新種のウイルスに対応するため、ウイルス定義ファイルは常に更新することをおすすめします。

  また、テクニカルサポート提供期間は、ウイルス定義ファイル無償更新期間と同じく、180日間となります。ただし、有償アップデートのお申し込みを頂くとテクニカルサポートの提供期間も延長されます。

  ウイルス定義ファイルの有償アップデートについて詳しくは、以下のシマンテックホームページをご覧になり、お申し込みください。

  http://www.symantec.com/region/jp/oem/sony/

  ウイルス定義ファイルの有償アップデートのお申し込みについては、下記にお問い合わせください。

  ショップシマンテック

  電話番号：(03) 3476-1192

  ファックス：(03) 3780-9988

  電話受付時間：月～金　10時～12時、13時～17時（土・日・祝日・年末年始を除く）

ウイルスが侵入して被害を受けてしまったときに備えて、日頃から作成した文書の控えをとる習慣をつけましょう。

ソフトウェアの不正コピー禁止について

本機に付属のソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。これらのソフトウェアを不正にコピーすることは法律で禁止されています。

また、店頭で購入したソフトウェアを人に貸したり、人からソフトウェアを借りてコピーして使うことは原則として禁じられています。ソフトウェアの使用許諾契約書をよくお読みのうえ、お使いください。

DVD-ROMドライブの地域番号（リージョンコード）書き換えについて

お買い上げ時、本機のDVD-ROMドライブの地域番号は「2」（日本）に設定されています。一部のソフトウェアにはこの地域番号を書き換える機能がありますが、お使いにならないでください。この機能をお使いになった結果生じた不具合につきましては、保証期間内でも有償修理とさせていただきます。

データのバックアップについて

ハードディスクドライブに保存している文書などのデータは、定期的にバックアップをとるようおすすめします。データの損失については、一切責任を負いかねます。

ソフトウェアと周辺機器の動作について

一般的にWindows Me用、DOS/V用、PC/AT互換機用などと表記している市販ソフトウェアや周辺機器の中には、本機で使用できないものがあります。

ご購入に際しては、販売店または各ソフトウェアおよび周辺機器の販売元にご確認ください。

市販ソフトウェアおよび周辺機器を使用された場合の不具合や、その結果生じた損失については、一切責任を負いかねます。

お手入れ

本機やディスプレイのお手入れ

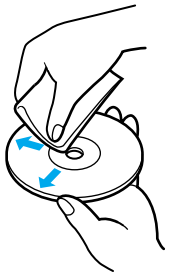
本機やディスプレイについたゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。

ご注意

- 本機やディスプレイの電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてからお手入れをしてください。
- 濡れたもので本機やディスプレイを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときはその注意書に従ってください。

DVD-ROM／CD-ROMのお手入れ

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、読み取りエラーの原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭きます。



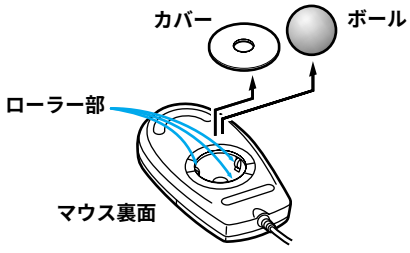
- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

CD-RW／CD-Rのお手入れ

- CD-RW／CD-Rは、データを記録する前には絶対にクリーナーで拭かないでください。ほこりなどの汚れは、ブロワーを使って吹き飛ばしてください。
- ベンジンやシンナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。
- CD-RW／CD-Rの未記録部分にキズやほこりがあると正しいデータが記録できないことがあります。取り扱いには充分ご注意ください。
- CD-RW／CD-Rは直射日光を避けて保存してください。

マウスを掃除する

マウスは長く使っていると、内部にゴミやほこりなどがたまり、画面上のポインタが思うように動かなくなります。この場合は、マウスの裏面のカバーを取りはずし、ボールを取り出して内部を掃除します。



- 乾いた布で内部のゴミやほこりなどを取り除いてから綿棒でローラー部のゴミをこすり取ってください。
- 表面のゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。

ご注意

- 本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、マウスを本機から取りはずしてからマウスを掃除してください。
- 濡れたものでマウスを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときはその注意書に従ってください。

キーボードを掃除する

キーボードは長く使っていると、キーが汚れたり、キーの間にゴミやほこりがたまります。キーの間にゴミやほこりがたまると、キーを押しても目的の文字を入力できなくなったり、押したキーがへこんだまま元に戻らなくなることがあります。この場合は、キーボードを掃除します。

- 表面のゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。
- キーの側面は、綿棒でこすり取ってください。
- キーの間は、エア・スプレーなどでゴミやほこりを散らしてください。

ご注意

- 本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、キーボードを本機から取りはずしてからキーボードを掃除してください。
- 濡れたものでキーボードを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書に従ってください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より3か月間です。カスタマー登録していただいたお客様は1年間になります。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この取扱説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはVAIOカスタマーリンクへご連絡ください

VAIOカスタマーリンクについては、別冊の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
ただし、故障の原因が不当な分解や改造であると判明した場合は、保証期間内であっても、有償修理とさせていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

修理について

当社ではパーソナルコンピュータの修理は引取修理を行っています。
当社指定業者がお客様宅に修理機器をお引き取りにうかがい、修理完了後にお届けします。詳しくは別冊の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

データのバックアップのお願い

修理に出すまえに、ハードディスクなどの記録媒体のプログラムおよびデータは、お客様にてバックアップされますようお願いいたします。弊社の修理により、ハードディスクなどのプログラムおよびデータが万一消去あるいは変更された場合に関しても、弊社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
なお、ハードディスクなどの記録媒体そのものの故障の場合には、プログラムおよびデータの修復はできません。

部品の保有期間について

当社ではパーソナルコンピュータの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、VAIOカスタマーリンク修理窓口にご相談ください。
ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- お客様のカスタマーID
- 型名：PCV-RX52
- 製造番号：
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：

部品の交換について

この製品は修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

索引

五十音順

ア

アイコン 59
アクセスポイント ..... 137、148
アクティブスピーカー ..... 22、30
アクティブなウィンドウ 72
アドレス 150
アドレスバー 71
アンテナコネクタ ..... 26、32、34
インターネット ..... 124、227
インターネットサーバー 170
インターネットサービスプロバイダ 126
インターネット接続サービス ..... 123、126
ウイルス ..... 52、127、294、314
ウィンドウ
　ウィンドウ ..... 59、70
　動かす 76
　最小化 75
　サイズを変える 77
　最大化 73
　スクロールする 79
　閉じる 80
　開く 70
ウェブブラウザ 126
エラーメッセージ 252
映像入力／出力コネクタ ..... 25、26、35、256
オフライン作業 182
オンラインサインアップ 131

カ

拡張ボード
　種類 272
　増設する 272
　取り付ける 276
　取りはずす 279
　プラグアンドプレイ 272
　メモリ 273
　リソース 273
　PCI拡張ボード 272
　I/Oポート 273
　IRQ 273
各部のなまえ 25
カスタマーご登録 ..... 110、227
カタカナ入力 88
かな入力 84
漢字入力 85
キーボード
　お手入れ 317
　接続 36
　トラブル 218
　文字入力 81
クイック起動バー 59
クリック
　クリックする ..... 46、62
　ダブルクリックする 64
　右クリックする 65
結露 312
検索 ..... 59、199
ごみ箱 59
コンピュータウイルス ..... 52、127、294、314

サ

再セットアップ 299
サイバーサポート ..... 5、192
周辺機器 264
シリアルコネクタ 26
受光ユニット 37
受信メールサーバー 151
ショートカットメニュー 66
スクロールバー 71
スタートボタン ..... 58、59
ステータスバー 71
接続
　アクティブスピーカー ..... 30、43
　アンテナ ..... 32、34
　キーボード 36
　受光ユニット 37
　ディスプレイ 30
　デジタルビデオカメラレコーダー 259
　テレビ ..... 54、257
　電源コード 43
　電話回線 38
　ビデオカメラレコーダー 255
　ビデオデッキ ..... 35、255
　プリンタ 264
　マウス 33
　i.LINK対応機器 259
　ISDN回線 ..... 41、37
　USB機器 265
設置 28
送信メールサーバー 151
ソフトウェアの不正コピー禁止 315

タ

タイトルバー 71
ダイヤルアップ接続 149
タスクトレイ 59
タスクバー 59
ダブルクリック 64
ターミナルアダプタ ..... 41、125
断片化 307
直接入力 90
チルダ 92
ツールバー 71
ディスプレイ
　お手入れ 316
　接続 30
　トラブル 214
デジタルビデオカメラレコーダー 259
デスクトップ 58
デフラグ（最適化） 307
テレビ
　テレビにつなぐ 257
　テレビを見る準備をする 54
電源
　電源を入れる 44
　電源を切る 56
　電源ボタン ..... 25、44
　電源ランプ ..... 25、44
　トラブル 211
電子マニュアル ..... 24、191、208
電子メール
　電子メールアドレス ..... 117、126、150
　電子メールソフトウェア ..... 126、163、182
　トラブル 228
　やりとりする 182
電話回線
　接続 38
　電話回線ジャック ..... 26、39
　電話機ジャック ..... 26、38
トーン式ダイヤル ..... 120、148
ドライバ 264
ドラッグする 68
ドラッグアンドドロップする 69
トラブルの解決方法 210

ナ

ネゴシエーション 240

ハ

パーティション 307
ハードディスク
　トラブル 221
　取り扱いについて 312
　バックアップをとる 312
ハードディスクアクセスランプ 25
パームレスト ..... 28、36
パルス式ダイヤル ..... 120、148

ビデオカメラレコーダー 254
ビデオデッキ ..... 35、254
ひらがな入力 87
ファイル
　移動する 100
　コピーする 101
　削除する 105
　ファイルを開く 96
　フォルダを作る 98
フォルダ ..... 67、98
付属品 22
プラグアンドプレイ 272
プリンタ 264
フロッピーディスク
　アクセスランプ 25
　イジェクトボタン 25
　トラブル 220
　取り扱いについて 313
フロッピーディスクドライブ 25
プロバイダ ..... 126、131、144
ヘッドホンコネクタ ..... 26、30
ヘルプ ..... 58、203、205
ポインタ ..... 46、61
ポイントする 63
ホームページ 174

マ

マイクロホンコネクタ ..... 26、30
マイコンピュータ ..... 59、71
マイドキュメント ..... 59、96
マウス
　接続 36
　トラブル 219
　ホイールボタン 60
　マウスコネクタ ..... 26、36
　マウスを掃除する 316
　マウスを使う ..... 46、61
　右クリック 65
メニューバー 71
メモリ
　メモリモジュール 280
　増設する 280
文字入力 81
モデム ..... 125、227
モニタコネクタ ..... 26、30

ラ

ライン入力コネクタ 26
リカバリ CD 299
リソース 273
リモコン ..... 27、42、217
ローマ字入力 84

ワ

ワードパッド 81

アルファベット順

A

AC電源入力プラグ ..... 26、43
ADSL ..... 41、125
AV機器
　デジタルビデオカメラレコーダー 259
　テレビ ..... 54、257
　ビデオカメラレコーダー 254
　ビデオデッキ ..... 35、254

B

BIOS ..... 299、306

C

CD-R
　お手入れ 316
　トラブル 224
　取り扱いについて 313
CD-ROM
　お手入れ 316
　トラブル 222
　取り扱いについて 313
CD-RW
　お手入れ 316
　トラブル 224
　取り扱いについて 313
CD-RWドライブ 25
CyberSupport for VAIO 5

D

DVD-ROM
　お手入れ 316
　トラブル 222
　取り扱いについて 313
DVD-ROMドライブ ..... 25、301

H

HTML 166

I

i.LINK
　i.LINKケーブル 262
　i.LINKコネクタ ..... 25、26、260
　i.LINK対応機器 263
　つなぐ 259
　データをやりとりする 260
I/Oポート 273
IRQ 273
ISDN回線 ..... 41、125
ISP 157

L

LAN 266

M

Microsoft Internet Explorer ..... 126、174
MS-IME 83

N

Norton Antivirus 294

O

OS 52
Outlook Express ..... 126、163、182

P

PCカード 267
PCカードスロット ..... 25、269
PPP 149

U

URL 176
USB機器 265
USBコネクタ ..... 25、26、41、265

V

VAIOカスタマーご登録 ..... 110、227
VAIOカスタマーリンク 208

W

Windows Me
　ヘルプの使いかた 203
　準備する 46

MEMO

本機をお使いになる前に、必ずお買い上げのコンピュータに添付のソフトウェア使用許諾契約書をお読みください。

商標について

- VAIO はソニー株式会社の商標です。
- OpenMGはソニー株式会社の商標です。
- i.LINKは、IEEE1394-1995およびその拡張仕様を示す呼称です。i.LINKとi.LINKロゴ" i. " は商標です。
- CyberCodeはソニー株式会社の商標です。
- " Memory Stick "(" メモリースティック ") および MEMORY STICK™ は、ソニー株式会社の商標です。
- So-net、ソネットおよびSo-netロゴはソニー株式会社の登録商標です。
- Microsoft、MS-DOS、Windows Media、WindowsおよびOutlookは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- 「できる」は株式会社インプレスの登録商標です。
- 2000 AMERICA ONLINE. INC. All Rights Reserved.
- BIGLOBEは日本電気株式会社の登録商標です。
- DIONはKDDI株式会社の登録商標です。
- 2001 Dream Train Internet Inc. All rights reserved.
- Copyright© 1991-2001 QUALCOMM, Incorporated.
  Copyright© 1995-2001 株式会社クニリサーチインターナショナル
- @niftyはニフティ株式会社の商標です。
- ODNは日本テレコム株式会社の商標です。
- PostPetはソニーコミュニケーションネットワーク株式会社の登録商標です。
- 「ぷらら」は株式会社ぷららネットワークスの登録商標です。
- 「ConceptBase」「ConceptBase Search」「CBSearch」は株式会社ジャストシステムの登録商標です。
  Portion Copyright 2000 株式会社ジャストシステム
  Portion Copyright 1981-1998 Microsoft Corporation
- Symantec、Symantecロゴ、Norton AntiVirusはSymantec Corporationの登録商標です。
  2001 Symantec Corporation、All Rights Reserved.
- IBMおよびPC/AT、PS/2は、米国International Business Machines Corporationの商標および登録商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。
  なお、本文中では™、®マークは明記していません。

VAIOホームページ
VAIOを楽しく使っていただくための情報をご案内します。
● http://www.vaio.sony.co.jp/

VAIOカスタマーリンク ホームページ
VAIOの最新サポート情報をご案内します。
● http://vcl.vaio.sony.co.jp/

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川6-7-35
http://www.sony.co.jp/

Printed in Japan